京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成 29 年度

2018 年 3 月

京　都　市　文　化　市　民　局

京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成 29 年度

2018 年 3 月

京　都　市　文　化　市　民　局

周山城跡（16A011） 赤色立体地図

例　言

1．本書は京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した平成 29 年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。平成 29 年 1 月から 12 月まで実施した詳細分布調査のうち，重要な成果のあったものについて本文で報告している。

2．本文の執筆分担は，本文の末尾に記している。

3．本書報告の調査のうち，基準点測量した調査の方位および座標は，世界測地系平面直角座標系Ⅵによる。標高は T. P.（東京湾平均海面高度）による。またこれ以外の場合は，既存公共物などを仮基準点（KBM）として用いている。

4．本書で使用した調査位置図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺 1／2,500）を調整し，作成したものである。このほか，図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版 1 ～ 13　1／8,000　　図版 14 ～ 31　1／10,000

5．本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は，一部を除き，小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第 3 号，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1996 年に準拠する。

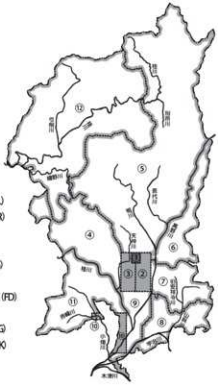
6．本書で使用した土色名は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』2016 年度版に準じた。

7．調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており，調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は，平安宮跡，平安京跡，長岡京跡については，官衙・条坊を優先して記載した。

8．一覧表の地区分けについては，右の地区設定概念図にもとづいている。

9．遺物整理にあたっては，上茶谷美保，上別府亜紀，熊代信吾，中村春美，早川仁志，義井良作，吉本健吾，山﨑千裕の協力を得た。

10．調査及び本書作成は，京都市文化市民局文化芸術都市推進室　文化財保護課が担当し，（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。



地区設定概念図

目　次

巻頭図版
例　言

Ⅰ　調査概要 …… 1

Ⅱ　平安京左京 …… 6
1　平安京左京三条三坊十三町跡・烏丸御池遺跡（17H035） …… 6
2　平安京左京五条四坊一町跡・烏丸綾小路遺跡（16H734） …… 10
3　平安京左京七条一坊一町跡（17H466） …… 14
4　平安京左京七条二坊六町跡・東市跡・名勝滴翠園・史跡本願寺境内（16A010） …… 16
5　平安京左京八条四坊三町跡・御土居跡（15H008） …… 21

Ⅲ　平安京右京 …… 24
1　平安京右京三条一坊十五町跡（16H542） …… 24
2　平安京右京三条二坊十町跡・西ノ京遺跡（16H667） …… 27
3　平安京右京七条一坊七町跡（16H525） …… 29

Ⅳ　その他の遺跡 …… 31
1　八幡古墳群（16S652） …… 31
2　史跡岩倉具視幽棲旧宅・大雲寺跡（16A013） …… 34
3　浄土寺七廻り町遺跡（16A002） …… 38
4　法観寺旧境内（16S203） …… 41
5　旧琵琶湖疏水（16A012） …… 47
6　伏見城跡（16F039） …… 50
7　伏見城跡・指月城跡（16F158） …… 53
8　周山城跡（16A011） …… 57
9　八瀬近衛町出土銭（16A004） …… 70

Ⅴ　調査一覧 …… 90
報告書抄録

挿 図 目 次

地区設定概念図 …… i

Ⅰ 調査概要

図1 詳細分布調査件数の年間推移 …… 3

図2 都心部における詳細分布調査の内容 …… 3

Ⅱ-1 平安京左京三条三坊十三町跡・烏丸御池遺跡（17H035）

図3 調査位置図 …… 6

図4 調査区位置図 …… 6

図5 調査地点断面図 …… 7

図6 調査地点断面図 …… 8

Ⅱ-2 平安京左京五条四坊一町跡・烏丸綾小路遺跡（16H734）

図7 調査位置図 …… 10

図8 遺構位置図 …… 10

図9 土坑平面断面図 …… 10

図10 №1地点 西壁断面図 …… 11

図11 №2地点 南壁断面図 …… 11

図12 土坑出土遺物実測図 …… 12

図13 出土遺物実測図 …… 12

Ⅱ-3 平安京左京七条一坊一町跡（16H466）

図14 調査位置図 …… 14

図15 遺構位置図 …… 14

図16 №1地点 溝1平面断面図 …… 15

図17 №2地点 東壁断面図 …… 17

Ⅱ-4 平安京左京七条二坊六町跡・東市跡・名勝滴翠園・史跡本願寺境内（16A010）

図18 調査位置図 …… 16

図19 名勝滴翠園と調査区配置図 …… 17

図20 調査区実測図 …… 18

図21 樋門調査区（東から） …… 19

図22 西池調査区（南西から） …… 19

Ⅱ-5 平安京左京八条四坊三町跡・御土居跡（15H008）

図23 調査位置図 …… 21

図24 調査区配置図 …… 21

図25 A-A′断面図 …… 22

図 26 B-B' 断面図 …… 22
Ⅲ -1 平安京右京三条一坊十五町跡（16H542）
図 27 調査地位置図 …… 24
図 28 遺構位置図 …… 24
図 29 調査地点断面図 …… 25
図 30 西大宮大路復原図 …… 25
Ⅲ -2 平安京右京北辺四坊四町跡・西ノ京遺跡（16H667）
図 31 調査位置図 …… 27
図 32 調査区配置図 …… 27
図 33 A-A' 断面図 …… 27
図 34 出土遺物実測図 …… 28
図 35 北壁土層断面（南から）…… 28
図 36 周辺調査での野寺小路検出状況 …… 28
Ⅲ -3 平安京右京七条一坊七町跡（16H525）
図 37 調査位置図 …… 29
図 38 調査地配置図 …… 29
図 39 北壁断面図 …… 30
図 40 北壁断面（南から）…… 30
Ⅳ -1 八幡古墳群（16S652）
図 41 調査位置図 …… 31
図 42 2 号墳石室現況（西から）…… 31
図 43 遺構断面図 …… 31
図 44 周辺地形測量図と今回調査地 …… 32
図 45 西壁および北壁（南から）…… 33
Ⅳ -2 史跡岩倉具視幽棲旧宅・大雲寺跡（16A013）
図 46 調査位置図 …… 34
図 47 史跡岩倉具視幽棲旧宅と調査地 …… 34
図 48 遺構配置図 …… 35
図 49 遺構実測図 …… 35
図 50 木枠構造物全景 …… 36
図 51「岩倉村御別館御絵図面」…… 37
Ⅳ -3 浄土寺七廻り町遺跡（16A002）
図 52 調査位置図 …… 38
図 53 遺構略測図 …… 39
図 54 出土遺物実測図 …… 40

Ⅳ-4　法観寺旧境内（16S203）

図 55　調査位置図 …… 41
図 56　調査区平面断面図 …… 41
図 57　法観寺旧境内の主な調査地点 …… 42
図 58　軒丸瓦実測・拓影 …… 43
図 59　平瓦実測・拓影 …… 44
図 60　平瓦実測・拓影２ …… 45

Ⅳ-5　旧琵琶湖疏水（16A012）

図 61　調査位置図 …… 47
図 62　平面図 …… 48
図 63　西壁断面図 …… 48
図 64　疏水新旧流路 …… 49
図 65　護岸検出状況（北東から）…… 49
図 66　西壁断面（北東から）…… 49

Ⅳ-6　伏見城跡（16F039）

図 67　調査位置図 …… 50
図 68　調査地配置図 …… 50
図 69　調査区平面図 …… 51
図 70　A-A' 断面図 …… 51
図 71　調査区全景（北から）…… 52
図 72　石Ａ検出状況（北東から）…… 52

Ⅳ-7　伏見城跡・指月城跡（16F158）

図 73　調査位置図 …… 53
図 74　調査地配置図 …… 53
図 75　№１北壁全景（南西から）…… 54
図 76　№１北壁断面図 …… 54
図 77　№１石垣検出状況（東から）…… 55
図 78　№１石垣検出状況（南から）…… 55
図 79　№２西壁断面図 …… 55

Ⅳ-8　周山城跡（16A011）

図 80　周山城跡周辺遺跡分布図 …… 58
図 81　周山城跡縄張図 …… 59
図 82　周山城跡中心部 …… 60
図 83　周山城跡北尾根 …… 61
図 84　周山城跡北北東尾根 …… 62

図 85　周山城跡北東尾根 …… 63
図 86　周山城跡東尾根郭３及び南南東尾根 …… 64
図 87　周山城跡南東尾根 …… 65
図 88　周山城跡南尾根 …… 66
図 89　周山城跡西尾根掘切部分 …… 66
図 90　周山城跡西尾根掘切部分　断面図 …… 67
図 91　周山城跡西城 …… 67
Ⅳ -9　八瀬近衛町出土銭（16A007）
図 92　調査位置図 …… 70
図 93　埋納容器実測図 …… 71
図 94　数量グラフ …… 72
図 95　計量箇所模式図 …… 73
図 96　出土銭拓本１ …… 74
図 97　出土銭拓本２ …… 75
図 98　出土銭拓本３ …… 76

図　版　目　次

巻頭カラー　周山城跡（16A011）赤色立体地図
図版１～ 31　詳細分布調査位置図

表　目　次

表１　平成 29 年の詳細分布調査件数 …… 1
表２　遺物概要表 …… 3
表３　八条坊門小路関連発掘調査一覧 …… 23
表４　銭貨一覧表１ …… 77
表５　銭貨一覧表２ …… 78
表６　銭貨一覧表３ …… 79
表７　銭貨一覧表４ …… 80
表８　銭貨一覧表５ …… 81

表9　銭貨一覧表1 …… 82
表10 銭貨一覧表1 …… 83
表11 銭貨一覧表1 …… 84
表12 銭貨一覧表1 …… 85
表13 銭貨一覧表1 …… 86
表14 銭貨一覧表1 …… 87
表15 銭貨一覧表1 …… 88
表16 銭貨一覧表1 …… 89

Ⅰ 調 査 概 要

本書は，文化庁国庫補助事業に伴う平成29年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本書では，平成29年1月4日から3月31日までの平成28年度分191件，平成29年4月3日から12月28日までの平成29年度分461件をあわせて報告する。

詳細分布調査の総件数は652件で，昨年度に比べて36件増加した（図1）。この件数は過去10年間でもっとも多く，10年前（平成20年度）の件数429件と比較すると，実に1.5倍となる。地区ごとの増加傾向をみると，都心部である平安京内（平安宮・左京・右京地区）は前年比43件増であり，その主な要因は宿泊施設建設（大型ホテル，簡易宿所，ゲストハウス，旅館等）の増加にある。平成26年は10件，平成27年は9件であったものが，平成28年には42件となり，今年に至っては80件と増加した（図2）。この動きは，2年後に迫ったオリンピックの開催を視野に入れたものと見られるが，オリンピックの後には万国博覧会開催の計画もあり，今後もこの傾向が続く可能性が高い。

以下，地区ごとの概要を述べる。

①平安宮地区（HQ）

平安宮地区では，平安宮跡，鳳瑞遺跡，聚楽遺跡，聚楽第跡，二条城北遺跡，史跡旧二条離宮（二条城）の6遺跡で調査を行った。個人住宅の建て替えのほか，上述のとおり，小規模なゲストハウス等の建設に伴う調査が目立つ。今年度は，右近衛府跡・鳳瑞遺跡（17K021），典薬寮跡・鳳瑞遺跡（16K724）の2箇所において，平安時代の遺物包含層を確認した。

②平安京左京地区（HL）

左京地区では，平安京跡，上京遺跡，公家町遺跡，内膳町遺跡，二条城北遺跡，烏丸丸太町遺跡，堀川御池遺跡，史跡旧二条離宮（二条城），烏丸御池遺跡，烏丸綾小路遺跡，本能寺跡，妙満寺の構え跡，本國寺城跡，名勝滴翠園，史跡本願寺境内，東市跡，東本願寺前古墓群，御土居跡，教王護国寺旧境内，烏丸町遺跡の20遺跡で調査を行った。大規模なホテルやマンションの建設計画があり，試掘調査を行った後に施工時の立会を行ったものも多い。特に今年度は宿泊施設の割合が

表1　平成29年の詳細分布調査件数

地　　区	1～3月（平成28年度）	4～12月（平成29年度）	小計	地　　区	1～3月（平成28年度）	4～12月（平成29年度）	小計
①平安宮（HQ）	18	50	68	⑦洛東地区（RT）	17	39	56
②平安京左京（HL）	43	101	144	⑧伏見・醍醐地区（FD）	10	38	48
③平安京右京（HR）	30	72	102	⑨鳥羽地区（TB）	9	21	30
④太秦地区（UZ	12	31	43	⑩長岡京地区（NG）	8	20	28
⑤洛北地区（RH）	24	40	64	⑪南桂川地区（MK）	15	30	45
⑥北白川地区（KS）	4	18	22	⑫京北地区（UH）	1	1	2
				合　　計	191	461	652

43％となり，共同住宅（マンション，長屋を含む）の17％を凌駕している。また，例年に比べて都心部における保育所建設が多いことも特徴として挙げられる。

本書では，三条三坊十三町跡・烏丸御池遺跡（17H035），五条四坊一町跡・烏丸綾小路遺跡（16H734），七条一坊一町跡（17H466），七条二坊六町跡・東市跡・名勝滴翠園・史跡本願寺境内（16A010），八条四坊三町跡・御土居跡（15H008）の調査成果を報告する。

また，五条四坊十一町跡（17H187）では，試掘調査後の施工時立会において，平安～室町時代の遺構群を検出したため『京都市内遺跡試掘調査報告 平成29年度』にその詳細を報告した。このほか，九条三坊十一町跡・烏丸町遺跡（16H607）では，烏丸小路西側築地内溝と考えられる埋土を検出した。

③平安京右京地区（ＨＲ）

右京地区では，平安京跡，史跡妙心寺境内，史跡・名勝妙心寺庭園，御土居跡，安井馬塚古墳群，西ノ京遺跡，壬生遺跡，山ノ内遺跡，西院遺跡，西院城跡（小泉城），西京極遺跡，西市跡，衣田町遺跡，梅小路城跡，西寺跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡の17遺跡で調査を行った。右京地区では，比較的大規模な共同住宅の建設が堅調で，店舗や工場，企業の事務所建設等がこれに続く。

本書では，三条一坊十五町跡（16H542），三条二坊十町跡・西ノ京遺跡（16H667），七条一坊七町跡（16H525）の概要を報告する。また，九条一坊九町跡・西寺跡・唐橋遺跡（16H109・16H114・16H117）では，試掘調査後に施工時立会を行ったため，『京都市内遺跡試掘調査報告 平成29年度』に詳細をあわせて報告する。このほか，北辺二坊一町跡（17H015）では一条大路北側築地内溝と考えられる東西溝，七条二坊三町跡・西市跡・衣田町遺跡（17H245）では，七条坊門小路南側溝と考えられる東西溝を検出した。

④太秦地区（ＵＺ）

一ノ井遺跡，広沢古墳群，広隆寺旧境内，常盤仲之町遺跡，御所ノ内遺跡，嵯峨遺跡，嵯峨北堀町遺跡，嵯峨折戸町遺跡，史跡・名勝嵐山，臨川寺境内，史跡高山寺境内，蛇塚古墳，常盤東ノ町古墳群，村ノ内町遺跡，常盤柏ノ木古墳群，森ケ東瓦窯跡，草木町遺跡，多薮町遺跡，太秦馬塚町遺跡，大覚寺古墳群，仁和寺院家跡，円教寺跡，梅宮大社，平岡八幡宮窯跡の24遺跡で調査を行った。その大半が個人住宅建設に伴う調査である。

これまで遺物散布地として周知されてきた一ノ井遺跡では，試掘調査及び発掘調査により鎌倉・室町時代の集落が存在することが明らかとなった。このため調査地周辺では，遺構面保護の観点から施工時の立会回数を重ねている。また，嵯峨遺跡（16S519）の調査では広範囲にわたって中世の遺物包含層が確認されており，その展開が注目される。

⑤洛北地区（ＲＨ）

一条山遺跡，岩倉忠在地遺跡，ケシ山古墳群，下鴨城跡，御土居跡，室町殿跡（花の御所），上ノ庄田瓦窯跡，公家町遺跡，史跡岩倉具視幽棲旧宅，大雲寺跡，史跡御土居跡，史跡大徳寺境内，上京遺跡，寺ノ内旧域，植物園北遺跡，世尊寺跡，船山須恵器窯跡，相国寺旧境内，尊重寺跡，大深町須恵器窯跡，大徳寺旧境内，大報恩寺境内，醍醐ノ森瓦窯跡，特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金

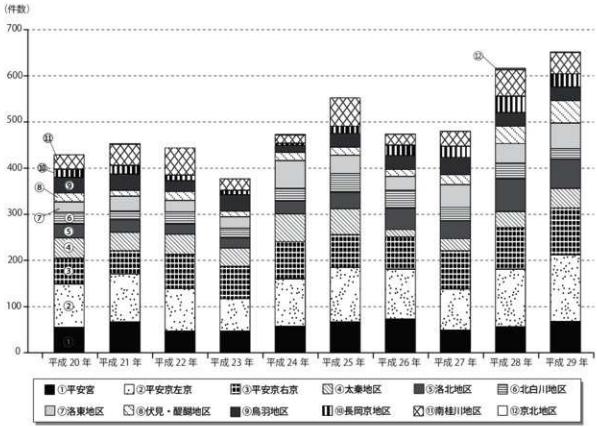


図１　詳細分布調査件数の年間推移

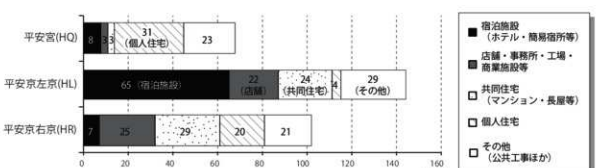


図２　都心部における詳細分布調査の内容

表２　遺物概要表

	Aランク点数（箱数）	内　　訳	Bランク点数（箱数）	Cランク点数（箱数）	出土箱数合計
点数及び箱数	２箱（55点）	土師器（26点），須恵器（２点），緑釉陶器（１点），瓦器（２点），黒色土器（１点），白磁（１点），青磁（１点），瓦類（21点）	１箱	７箱	10箱

閣寺）庭園，八瀬近衛町埋納銭出土地，八幡古墳群，北野天満宮，北野遺跡，北野廃寺，本山古墳群，妙満寺窯跡，名勝不審庵（表千家）庭園の32遺跡で調査を行った。洛北地区は昨年度以後，件数が伸びた地域である。

このうち本書では，史跡岩倉具視幽棲旧宅・大雲寺跡（16A013），八瀬近衛町埋納銭出土地（16A007），八幡古墳群（16S652）の概要を報告する。史跡岩倉具視幽棲旧宅では，庭園に設けられた池内から，大規模な木枠（木組み遺構）が確認された。その材の多くが建築材の再利用品であることから，建物造営の経過を示す事例と言える。また，八瀬近衛町埋納銭は，民家に伝えられる古銭を実見し，計測観察した内容を報告するものである。

このほか，世尊寺跡（16S416）では中世の遺物を含む東西溝と土坑２基を確認した。

⑥北白川地区(KS)

浄土寺七廻り町遺跡，円勝寺跡，得長寿院跡，名勝平安神宮神苑，岡崎遺跡，法勝寺跡，吉田泉殿町遺跡，吉田本町遺跡，吉田上大路町遺跡，史跡南禅寺境内，史跡琵琶湖疏水，白河街区跡，池田町古墳群，法成寺跡，御土居跡，北白川追分町遺跡の16遺跡で調査を行った。

このうち，浄土寺七廻り町遺跡（16A002）の概要を本書において報告する。さらに吉田泉殿町遺跡（16S416）では試掘調査で検出された室町時代の南北溝の延長を追認したため，『京都市内遺跡試掘調査報告 平成29年度』にあわせて報告する。

⑦洛東地区（ＲＴ）

安朱遺跡，牛尾須恵器窯跡，勧修寺旧境内，旧琵琶湖疏水，高台寺境内（雲居寺跡），御土居跡隣接地（舟入跡），山科本願寺跡（寺内町遺跡），山科本願寺南殿跡，史跡随心院境内，小野廃寺，四手井城跡，寺町旧域，芝町遺跡，大宅遺跡，中臣遺跡，天智天皇陵付近須恵器窯跡，鳥部（辺）野，法観寺旧境内，方広寺跡，法住寺殿跡，祥雲寺跡，法性寺跡，六波羅政庁跡，六波羅蜜寺境内の24遺跡で調査を行った。山科区内の中臣遺跡では個人住宅が，山科本願寺跡及び山科本願寺南殿付近では小規模な共同住宅の建設が増加している。

本書では，旧琵琶湖疏水（16A012）と法観寺旧境内（16S203）の調査成果について報告する。なお法観寺旧境内では，今回の調査成果により埋蔵文化財包蔵地の範囲が拡大された。

このほか，史跡随心院境内と小野廃寺（16S099）の隣接地において行われた水道管敷設工事に伴う調査では，時期不明ではあるが遺物を含んだ土坑を１基検出した。遺跡範囲の拡大（もしくは新規発見）につながる成果として注目される。

⑧伏見・醍醐地区（ＦＤ）

嘉祥寺跡，極楽寺跡，向島城跡，史跡醍醐寺境内，深草坊町遺跡，貞観寺跡，太閤堤（小倉堤，槙島堤），伏見稲荷大社境内，法性寺跡，伏見城跡，御香宮廃寺，桃山古墳群（永井久太郎古墳），桃陵遺跡の13遺跡で調査を行った。その多くが伏見城跡での調査である。昨年度より件数の増加が加速し，特に今年は店舗，共同住宅及び保育所建設に伴う調査件数が増加した。

本書では，伏見城跡の調査を２件報告する。(16F039）は発掘調査後の確認調査において，発掘調査で検出した石垣の延長部分を検出した。また（17F158）では石垣及び伏見城期の造成土を確

認した。

⑨鳥羽地区（ＴＢ）

下三栖城跡，下鳥羽遺跡，芹川城跡，御土居跡，深草遺跡，石原城跡，鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡，唐橋遺跡，淀城跡の10遺跡で調査を行った。例年通り，共同住宅と個人住宅建設に伴う調査が主体である。今回の調査では特に顕著な成果は得られなかった。

⑩長岡京地区（ＮＧ）

長岡京跡，東院跡，東土川遺跡，鶏冠井清水遺跡，羽束師菱川城跡，長黒遺跡，羽束師志水町遺跡，志水落合遺跡，水垂遺跡，淀城跡，上里遺跡の11遺跡で調査を行った。

このうち，左京三条三坊十六町跡（16NG585）では試掘調査で弥生時代の方形周溝墓となる可能性がある遺構を検出し，さらに詳細分布調査でも長岡京期の東三坊坊間東小路東側溝を確認するに至った。詳細は『京都市内遺跡試掘調査報告 平成29年度』にあわせて報告する。

⑪南桂川地区（ＭＫ）

安岡遺跡，大原野野田城跡，八幡宮古墳群，大原野南春日窯跡，革嶋館跡，穀塚古墳，下津林遺跡，樫原遺跡，樫原廃寺瓦窯跡，桂城跡，史跡・名勝嵐山，嵐山谷ヶ辻子町遺跡，巡礼塚古墳，上久世遺跡，上久世城跡，大藪遺跡，中久世遺跡，福西古墳群の18遺跡で調査を行った。今回の調査では特に顕著な成果は得られなかった。

⑫京北地区(UK)

周山城跡の１遺跡で調査を行った。周山城跡の調査はこれまでに２回行われており，（16A011）では安土桃山期の周山城縄張りや石垣の残存を現地踏査により確認した。本文ではあわせて行った赤色レーザー測量成果についても報告する。

（吉本　健吾・黒須亜希子）

Ⅱ-1　平安京左京三条三坊十三町・烏丸御池遺跡

（17H035）

1．調査の経緯と経過

本件は中京区曇華院前町448他における店舗兼事務所兼共同住宅建設に伴う詳細分布調査である。調査地は平安京左京三条三坊十三町跡・烏丸御池遺跡に該当する。当該地の南隣では，1991年度と2016年度に発掘調査を実施し，平安時代の井戸，室町時代の池・堀・建物などを確認している（以下，とくに断りのない限り，発掘調査成果はこれに拠る）[1]。この内，池に伴う滝組が移築保存されている。発掘調査成果から，当該地には中世の遺構が良好に残されていることが予想された。そこで，本調査では事業者の協力を得て，2017年6月13日から7月3日にかけて断続的に調査を実施した。このうち6地点で，東洞院大路路面・側溝・堀などを確認した。

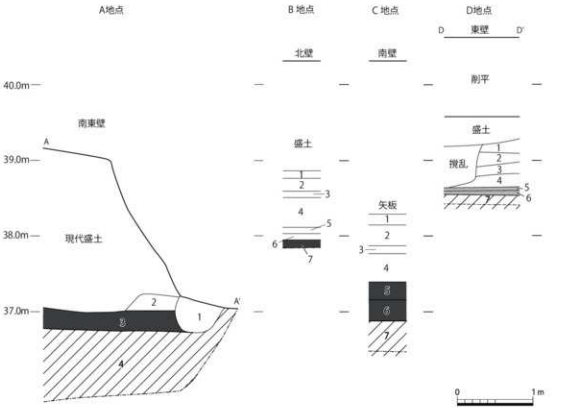
図3　調査位置図（1：5,000）

図4　調査区位置図（1：500）

2．層序と遺構（図4～6）

基本層序は，現地表面から地山までを確認したE・F地点を代表して述べる。E地点は，近現代盛土直下のGL-1.25mで灰黄褐色泥砂～明黄褐色泥砂，-1.6mで中世遺物包含層及び土坑，-1.95m（H=38.2m）で黄褐色微砂の地山となる。F地点は近現代盛土直下のGL-1.85mでオリーブ褐色泥砂（中世遺物包含層），-2.1m（H=38.1m）で緑灰色シルトの地山となる。地山の標高は堀1を検出したA～C地点を除く，D～F地点がほぼ同じである。遺構はA～C地点で堀1，D地点で東洞院大路路面2，E地点で東洞院大路西側溝3，F地点で溝4を確認した。

堀1（図4・5）　A～C地点で検出した堀である。A地点の西端は土坑状の遺構（A地点1層）によって一部削平されているが，地山の上がりを確認できたことから西肩口と推測する。堀底はA・



A地点
1）10YR4/2　灰黄褐色砂泥（礫混じる）
2）10YR4/4　褐色砂泥（礫混じる）
3）10YR3/1　黒褐色シルト【畦1埋土】
4）2.5Y5/4　黄褐色砂礫【地山】

D地点
1）2.5Y3/2　黒褐色泥砂（礫混じる）
2）2.5Y4/1　黄灰色粘質土（礫混じる）
3）2.5Y4/3　オリーブ褐色泥砂（土師器片・礫混じる）
4）2.5Y4/2　暗灰黄色泥砂（土師器・礫混じる）
5）2.5Y5/6　黄褐色泥砂【東洞院大路　路面２】
6）2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土【東洞院大路　路面２】
7）2.5Y6/6　明黄褐色砂礫【地山】

B地点
1）2.5Y4/2　暗灰黄色泥砂（礫・炭混じる）
2）2.5Y4/3　オリーブ褐色泥砂（土師器・炭混じる）
3）2.5Y4/1　黄灰色泥砂（土師器・近世擂鉢混じる）
4）2.5Y5/3　黄褐色砂礫（炭混じる）
5）10YR3/3　暗褐色泥砂（φ5～10cm大の礫混じる）
6）10YR5/6　黄褐色砂礫
7）10YR4/1　暗灰色粘質土（炭混じる）【畦1埋土】

C地点
1）10YR5/1　褐灰色泥砂（礫・土師器混じる）
2）2.5Y5/4　黄褐色泥砂（礫多量に混じる）
3）10YR4/3　にぶい黄褐色粘質土（炭混じる）
4）2.5Y5/2　暗灰黄色砂礫
5）N5/0　灰色粘質土（礫多量に混じる）【畦1埋土】
6）N3/0　暗灰色粘質土【畦1埋土】
7）2.5Y6/8　明黄褐色砂礫【地山】

図５　調査地点断面図（1：50）

C地点もほぼ同じ標高である。また，遺構成立面が検出標高の最も高いB地点だと仮定すると，深さは約1.25 m以上と推測できる。埋土が粘質土であることから，堀には水が滞留していたと考えられる。埋土には中世の土師器などが含まれていた。

東洞院大路路面２（図４・５）　D地点で検出した東洞院大路の路面である。東洞院大路築地心から約３ｍの位置で検出したこと，土層が非常に良く締まっていることから路面と推定した。地山直上に構築土を積み（D地点６層），上層を固く突き固めている（D地点５層）。

東洞院大路西側溝３（図４・６）　E地点で検出した東洞院大路西側溝である。東洞院大路西築地心の東に位置することから西側溝と考えた。東肩口を確認することが出来なかったが，検出面で幅1.5 m以上，深さ約0.5 mである。埋土には室町時代の土師器などが含まれていた。

溝４（図４・６）　F地点で検出した東西溝である。地山を掘り込んで成立している。検出面で幅１m，深さ約0.2 mである。埋土中には室町時代の土師器の小片が含まれていた。

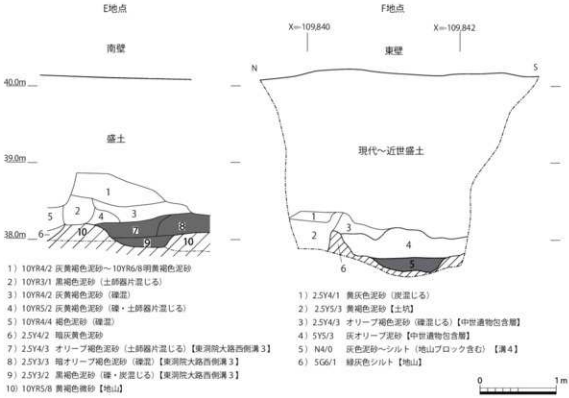


図６　調査地点断面図（1：50）

３．遺物

今回の調査で土師器・須恵器・施釉陶器・輸入陶磁器・瓦類などが出土した。遺物の大半が細片であることから図化することができなかった。出土遺物の多くが，室町時代～戦国期にかけての土器類で，僅かに平安時代の瓦類が含まれている。

４．まとめ

堀１は，発掘調査で確認した堀684と一連の遺構と考えられる。堀１から出土した遺物が，室町時代以前のものに限られていることから，16世紀のうちに埋め戻されたと推測できる。発掘調査では，堀は16世紀中頃に開削され，16世紀末頃には埋め戻されたと考えている。開削時期については不明ではあるが，埋没時期については今回の成果と矛盾しない。また，堀は発掘調査地の南端で東折していることから，約４分の１町を囲っていた可能性が想定されている。今回の調査によって東洞院大路沿いの堀が，姉小路付近まで展開していることが明らかとなり，上記の想定の妥当性が高くなったと考える。

東洞院大路路面２には遺物などが含まれておらず，確認範囲も狭小であることから成立時期を検討することができなかった。発掘調査では，室町時代の東洞院大路路面を確認しており，路面２も室町時代に属する可能性が高いが，検出位置が大路西築地心に近いことは留意しておきたい。発掘調査では，路面の検出位置が大路西築地心から東側に離れている理由として，宅地が路面を浸食したためと想定している。本調査では西築地心に近い位置で路面を確認しており，宅地の拡張が認

められない。そのため，遺構成立時期が室町時代よりも遡る可能性がある。

東洞院大路西側溝３は埋土から出土した遺物が鎌倉時代～戦国時代であることから，戦国時代には埋没したと推測できる。発掘調査地点では路面の西側で幅0.2ｍの溝を確認し，側溝と推測している。溝の規模が異なるため同一遺構とは想定し難いが，堀の内側で成立していることから，室町時代まで機能していた側溝の可能性が高い。

東西溝４は四行八門の想定位置に近接していること，出土遺物が室町時代に属していることから，堀で囲われた邸宅内をさらに区画する溝と考えられる。今回の調査では建物に関連する遺構は未確認ではあるが，敷地北東隅を区画していたと考えられる。

以上，当初の想定通り中世の遺構群を確認することができ，左京三条三坊十三町内と東洞院大路の様相を明らかにした。中世における同町の邸宅が武家屋敷とする意見[2]と商人屋敷とする意見[3]があり，未だ結論は出ていない。今後は，当該地周辺の開発行為に留意しつつ，継続的に調査を実施する必要がある。

（鈴木　久史）

註

1）辻　裕司・鈴木康司，「平安京左京三条三坊」，『平成３年度 京都市埋蔵文化財調査概要』，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1995年
松吉祐希・辻　広司，「平安京左京三条三坊十三町跡・烏丸御池遺跡」，『京都市埋蔵文化財研究所調査報告　2016－10』，（公財）京都市埋蔵文化財研究所，2017年

2）辻　裕司・鈴木康司，「平安京左京三条三坊」，『平成３年度 京都市埋蔵文化財調査概要』，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1995年

3）松吉祐希・辻広司，「平安京左京三条三坊十三町跡・烏丸御池遺跡」，『京都市埋蔵文化財研究所調査報告2016－10』，（公財）京都市埋蔵文化財研究所，2017年

Ⅱ-2　平安京左京五条四坊一町跡・烏丸綾小路遺跡（16H734）

1　調査の経緯

本件は，下京区高材木町内におけるホテル建設に伴う詳細分布調査である。調査地は平安京左京五条四坊一町跡・烏丸綾小路遺跡に該当する。同町は，平安時代中期の藤原順子の御所である「東五条院」と比定されており，その後関白藤原忠平が邸宅として伝領したとされる[1]。

周辺の調査事例として，当該地の北東で，平成17年度に行われた発掘調査[2]では，平安時代から室町時代の遺構・遺物を検出している。調査では平安から鎌倉時代にかけての完形の土師器が10点ほど出土した地鎮遺構の可能性がある土坑，室町時代の土坑や溝，石組井戸などを検出している。なお，基盤層上面では古墳時代前期の遺物を含む流路を確認しており，烏丸綾小路遺跡の様相を示唆するものと考えられている。

今回の調査は，平成29年5月12日から18日に実施した。

図7　調査位置図（1：5,000）

図8　遺構位置図（1：500）

2　調査成果（図8～11）

今回の調査で西壁（No.1地点）と南壁（No.2地点）の断面観察を行った（図8）。その結果，室町時代の包含層，ピット，土坑などの遺構を検出した。また土坑・ピットからは多量の土器が出土した。今回は検出状況が良好であったNo.1地点の土坑を中心として，No.2地点とあわせて報告する。

No.1地点西壁（図10）　基本層序は，GL-1.1mで灰黄褐色泥砂，-1.45mで褐灰色泥砂，-1.58m黄灰黄色泥砂がある。GL-1.7m

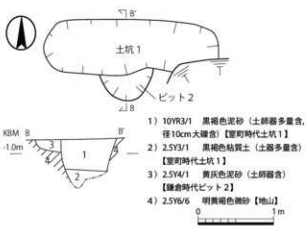


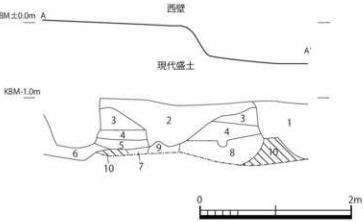
図9　土坑平面断面図（1：50）

で灰黄色砂泥の地山に至る。地山直上が遺構面となり，断面で鎌倉時代のピットや時期不明の土坑を確認した。

土坑１・ピット２（図９） 南北0.7ｍ，東西2.3ｍの楕円形の土坑１を検出した。南東隅が現代攪乱により，一部削平されているが，ほぼ良好な状態で検出できた。土坑１はピット２を切り込んだ状態で検出した。土坑１の埋土は上下２層あり，上層が黒褐色泥砂，下層が黒褐色の粘性の強い粘質土である。深さは0.64ｍ以上を測る。また，多量に土師器が出土しており，出土状況としては，完形のものが多いが，重ねて埋納された状態ではなく，土師器廃棄土坑と考えられる。土師器は上層の黒褐色泥砂から特に多く出土している。また，土坑１により，一部削平された径0.7ｍのピット２を検出した。時期は土坑１が室町時代，ピット２が鎌倉時代である。

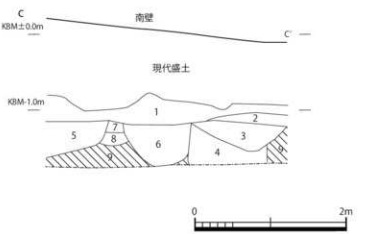
No.2地点南壁（図11） 基本層序は，GL-0.8ｍで暗褐色泥砂，-0.98ｍで黒褐色泥砂，-1.18ｍで土師器を含む灰黄褐色砂泥で，-1.3ｍで灰黄褐色砂泥，-1.5ｍで明黄褐色微砂の地山にいたる。

No.1地点の西壁と同様に地山直上で土坑３と土坑４を検出した。ともに室町時代後半と考えられる。



1）2.5Y3/2　黒褐色泥砂(土師器含)【江戸時代末期土坑】
2）10YR3/2　黒褐色泥砂(瓦・土師器含)【江戸時代末期土坑】
3）10YR4/2　灰黄褐色泥砂(炭混)
4）10YR4/1　暗灰色泥砂
5）2.5Y4/1　黄灰黄色泥砂(土師器含)
6）2.5Y4/2　暗灰黄色泥砂(土師器少量含，直径3cm大石含)【中世土坑】
7）2.5Y4/2　暗灰黄色泥砂【鎌倉時代ピット】
8）2.5Y5/2　暗灰黄色泥砂(土師器含，直径5cm大石含)【時期不明土坑】
9）2.5Y5/3　黄褐色泥砂
10）2.5Y6/2　灰黄色砂泥【地山】

図10　№1地点　西壁断面図　（１：５０）



1）10YR3/3　暗褐色泥砂(土師器含)【時期不明包含層】
2）10YR3/2　黒褐色泥砂
3）10YR3/4　暗褐色泥砂(直径5～10cm大礫含)
4）10YR3/3　暗褐色泥砂(土師器含)【時期不明土坑】
5）10YR3/2　黒褐色泥砂(土師器含)【室町時代土坑３】
6）10YR3/2　黒褐色泥砂(土師器多量含)【室町時代土坑４】
7）10YR4/2　灰黄褐色砂泥(土師器含)
8）10YR4/2　灰黄褐色砂泥(土師器含)
9）2.5Y6/6　明黄褐色微砂【地山】

図11　№2地点　南壁断面図　（１：５０）

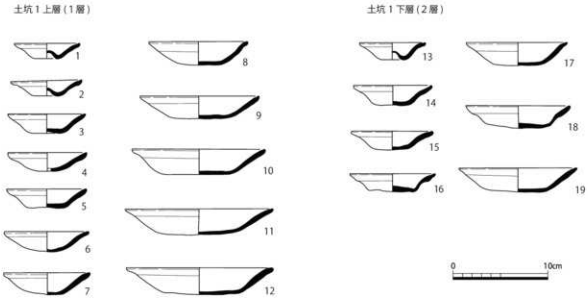


図12　土坑出土遺物実測図（１：４）

土坑以外でも遺物は確認できたが，No.1地点に比べるとNo.２地点で確認できた土器は少量であった。

3　遺物

１～19が土坑１（No.1地点）（図12），20～24が南壁土坑４（No.2地点），25が南壁土坑３（No.2地点）から出土した（図13）。１～12は土坑１の上層，13～19は下層から出土した。

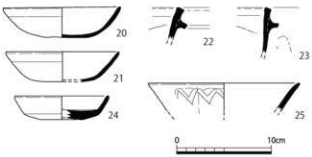


図13　出土遺物実測図（１：４）

１・２は土師器皿Sh小型，３～６は同S小型，７・８は同S中型，９～12は同S大型である。13はSh小型，14・15は同S小型，16は同N小型，17は同S小型，18は同N小型で，19が同S大型である。時期は上層がⅨ期の新が多く出土しており，下層においてはⅧ期古～Ⅸ期新である。おおよその時期は室町時代後半のものと考えられる。

20と21が土師器皿で22・23は瓦器羽釜である。24は白磁皿で25は青磁椀である。いずれも室町時代のものと考えられる。

4　まとめ

今回の調査では，烏丸綾小路遺跡に関わる弥生時代や古墳時代，及び平安時代の遺構・遺物は確認できなかった。一方，周辺の調査事例と同様，鎌倉時代や室町時代の遺構を確認した。土坑１からは室町時代後半と考えられる土師器が多量に出土しており，出土状況から廃棄土坑と考えられる。土坑１の他にも鎌倉時代と室町時代の遺構・遺物を確認した。

周辺の調査で室町時代の土坑群が確認されており，今回確認した遺構と同様の時期の遺構と考

えられる。今後も，周辺の調査及び今回の調査で確認した中世の遺構・遺物が確認される可能性が高いと考えられる。今後の周辺調査に期待したい。

（清水　早織）

註

1）　(財) 古代学協会・古代学研究所，『平安京提要』，1994年

2）　古代文化調査会，『平安京左京五条四坊一町―四条高辻マンション新築に伴う調査―』，2006年

Ⅱ-3　平安京左京七条一坊一町跡（16H466）

1　調査の経緯（図14・15）

本件は下京区西伸新屋敷下之町内におけるホテル建設に伴う詳細分布調査である。調査地は平安京左京七条一坊一町跡に該当する。

同町は『平安京提要』[1]によると，平安時代は関白藤原忠平の邸宅で，藤原順子の御所である「東五条院」と比定されている。周辺の調査事例では，当該地の南側で試掘調査が少数実施されているが，発掘調査にいたる場所はほとんどない。千本通を挟んで西側の中央卸売市場では数年にわたって発掘調査が実施され，朱雀大路に伴う西側道路側溝を確認しているなどの成果が見られる[2]。また，北側では平安時代の遺構は確認されていないものの平安時代から中世にかけての空閑地や江戸時代以降の烏原遊郭に関連する遺物も見られる[3]。

今回の調査は，平成29年10月24日から11月6日に実施した。

図14　調査位置図（1：5,000）

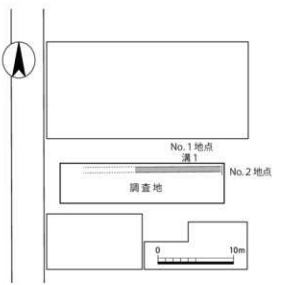


図15　遺構位置図（1：500）

2　調査成果

今回の調査はNo.1地点東壁の断面観察を行った。溝1を中心として報告する。

基本層序は，GL-0.64 mで炭が混じるオリーブ褐色泥砂，-0.84 mオリーブ褐色砂泥，- 1.1 mで明褐色シルトの地山を確認した。遺構は地山直上で検出した。

溝1　オリーブ褐色泥砂の直下で幅1.2 mを測る時期不明の土坑を検出した。その下層で地山を掘り込んで成立している溝1を検出した。No.1地点の東壁の断面で確認し，東西方向に6.25 m以上のびる。南北0.75 m，深さ0.7mの溝である。また，径0.1 mの規模の小さいピットを確認した。

溝1のNo.2地点を断ち割ったところ，埋土は上層がマンガンがたまる暗灰黄色泥砂，下層が黄灰色砂泥である。埋土からは少量であるが土師器などの遺物が含まれており，埋没時期は13世紀ごろと考えられる。

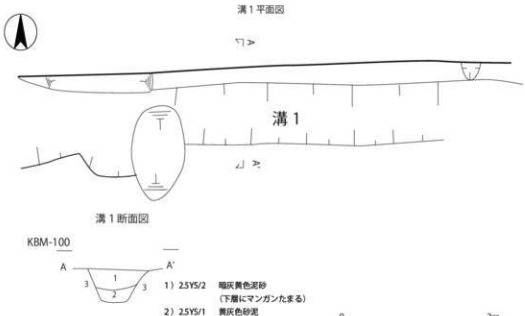


図16　No.1地点　溝１平面断面図（1：50）

また，下層からは古墳時代の遺物が出土しており，下層に遺構がある可能性も考えられる。

3　まとめ

今回の調査で，残存状況が良好の溝を確認した。平安京の四行八門の延長線上に位置しないため，平安時代の区画溝であるとは言えない。しかし，13世紀の遺物が含まれることから鎌倉時代初頭に使用された区画の溝と考えられる。また，下層から古墳時代の遺物の細片なども見つかっていることから平安時代以前の遺構がある可能性がうかがえる。今後の周辺調査成果に期待する。

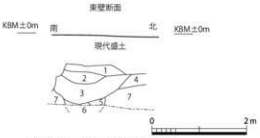


図17　No.2地点　東壁断面（1：50）

（清水　早織）

註

1）（財）古代学協会・古代学研究所『平安京提要』1994年

2）（財）京都市埋蔵文化財研究所『平成12年度京都市埋蔵文化財調査概要』 2003年

3）（財）京都市埋蔵文化財研究所『平成12年度京都市埋蔵文化財調査概要』 2003年

Ⅱ-4　平安京左京七条二坊六町跡・東市跡
名勝滴翠園・史跡本願寺境内（16A010）

1　調査の経緯

滴翠園は，西本願寺境内南東隅に所在する国宝飛雲閣とそれに面した池を中心とする庭園である（図18・19）。滴翠園の造営時期は明確な記録が残されておらず詳細は不明なものの，聚楽第から移築された伝承を持つ飛雲閣を有すること，慶長末年頃の情景を描いたとされる「洛中洛外図屏風（勝興寺本）」等に楼閣建物と園池が描かれていることから，当地に本願寺が移転した天正19年（1591）からあまり時間を経ていない慶長から元和年間には庭園として一定の整備が行われていたと考えられる。なお，『本願寺史』では，慶長15年（1610）に聚楽第跡の庭石を引いたとの記録を以て，滴翠園の始まりとしている[1]。

その後，明和5年（1778）の大規模な整備を経て，現在に続く景観が整えられている。

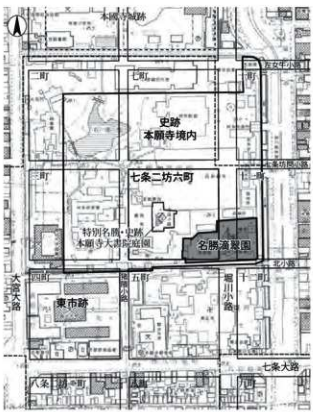


図18　調査位置図（1：5,000）

滴翠園では，平成8～20年度に実施された保存修理工事以降，滄浪池の水を西池に排水，浸透させていた。一方で，保存修理工事に先立って平成8年度に実施された確認調査（図20）では，西池が掘削された明治8・9年以降，西池と排水路の造作に少なくとも3時期の変遷が認められ，西池から滴翠園西外に続く水路に緩やかな水の流れがあった証左となる微砂と砂泥の互層堆積が認められたため，かつて水路を用いて排水されていた時期があったことも明らかとなっている[2]。

近年は滄浪池の水質浄化のために給水量を増加させており，西池に流出する水量が増え，土砂等の堆積による西池の排水不良も相まって滄浪池の排水を捌ききれなくなった結果，電動ポンプを用いて滴翠園西外側の暗渠水路へ剰余分の排水を行っていた。しかし，電動ポンプとホースの設置は名勝の景観上望ましいものではなく，適切な排水方法を探るため，西池及び排水路の浚渫が検討されることとなり，合わせて調査を実施することとなった。

調査は平成29年2月6・15日に実施した。

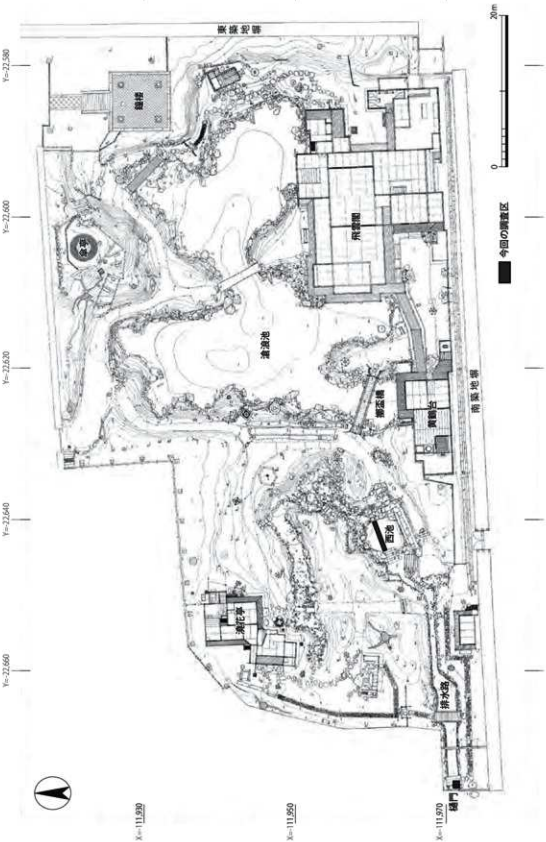


図19　名勝滴翠園と調査区配置図（1：500）　註2）図2-1を一部改変

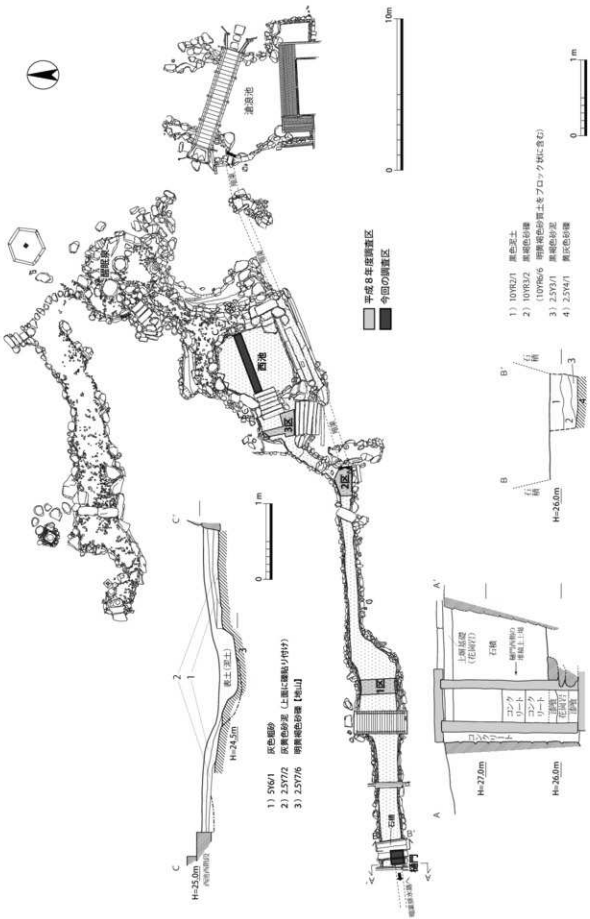


図20　調査区実測図（1：250・1：50）　註2）図2-29を一部改変

2　遺構

調査地点は，西池と滄浪池・西池から続く排水路が滴翠園の西外側に排出される地点に所在する樋門の２箇所である（図20）。樋門地点では１ｍ角で，西池では0.5×4.0ｍの調査区を設定した。いずれの調査区も，堆積土が近代以降の所産と判断されたことから，当初の排水路底まで掘り下げを行った。

樋門（図21）

樋門の門柱は高さ1.8ｍ，厚さ0.14ｍの花崗岩製で，門柱間は0.4ｍである。戸（堰）は，上から高さ0.3ｍのコンクリート，0.4ｍのコンクリート，0.25ｍの花崗岩となる。いずれも下部をゴムや漆喰で固め，漏水を防いでいる。底には，黄灰色砂礫を掘り込んで花崗岩製の板石が敷かれている。板石上面の標高は25.78ｍで，現在の排水路底から約0.4ｍ下である。樋門の北側門柱前には，東側からの排水を樋門へと導水するため，河原石が３段積まれている。

樋門前の基本層序は，現在の排水路底に堆積する黒色泥土が厚さ0.15ｍあり，以下，黒褐色砂礫と続き，GL-0.35ｍにて黄灰色砂礫の当初の水路底となる。黒褐色砂礫の上面（標高26.0ｍ）はやや固く締まっており，一時期の水路底の可能性もある。地山上面の高さは25.78ｍである。

埋土からは，瓦，土師器皿の他，銅板プリントの皿，ガラス片が出土していることから，明治時代後半以降に堆積したことがわかる。

西池（図22）

調査区は，やや凹みがある中央部を中心に設定した。西池の底は泥土が堆積しており，泥土を除去したところ，固く締まった厚さ0.1ｍ弱の灰黄色砂泥上面に小礫が中央を除く全体に敷き詰められていた。砂泥下層が明黄褐色砂礫の地山となる。地山上面の高さは24.75ｍである。

調査前から存在した中央部の凹みは地山まで達しており，凹み底での地山の高さは24.50ｍである。凹みは後世に掘削された可能性が残るものの，池底全体に締まりのある砂泥層を貼りつけており，さらに礫が敷き詰められた仕上げから，湧水を目的に掘削された泉として造られたと考えられる。

埋土からは瓦小片が出土したものの，時期を特定できるものではない。

図21　樋門調査区（東から）

図22　西池調査区（南西から）

3．まとめ

今回調査を実施した樋門は，滴翠園から続く排水路が園外の暗渠排水路に接続する箇所に設置されている。現在，暗渠排水路は園外において境内の雨水を複数の暗渠で集約しており，唐門横などから境内外側に排出されている。かつて，滄浪池の水は排水路を用いて西側に排出されており，近代以降，滄浪池の水位低下により排水路へ流れ出る水量が低下したため，逆に園外の暗渠排水路からの水が排水路に流れ込む状況が生じ，それを防ぐために樋門が設置されたものと想定される。また，昭和２年（1927）頃とされる「京都市明細図」（長谷川家所蔵）には，滴翠園からの排水路は園西側（旧仏飯所西側）に描かれている南北方向の細長い貯水池と接続しているように描かれている。明細図からは境内の雨水が貯水池に流れ込んでいる様子を読みとることができ，一定の水量があったことを物語っている[3]。したがって，滴翠園内に水が逆流することも十分想定されることから，少なくともこの時期までには樋門が設置されていた可能性が高い。樋門の戸（堰）が次第に積み重ねられたことは，既に滴翠園側から排水されることが無く，暗渠排水路内側に土砂が堆積し続けたために，逆流を防ぐためであることがわかる。

西池については，明治８・９年に掘削された理由を，保存修理工事に伴う発掘調査において，醒眠泉が枯れた後に湧水を目的に掘削されたとしており[4]，今回の調査でも，その仕上げから湧水を目的に掘削された泉の可能性が高いと判断し，前回の調査成果を裏付けるものとなった。しかし，醒眠泉の調査では，前身の井戸が確認されており，井戸底の標高が23.55ｍと西池底（24.50ｍ）よりもかなり深く，果たして湧水が得られたのかは不明である。今後の調査の進展を待ちたい。

（西森　正晃）

註

1）本願寺史料研究所　編,『本願寺史』第２巻，浄土真宗本願寺派宗務所，1968年

2）名勝滴翠園記念物保存修理委員会　編,『名勝滴翠園　記念物保存修理事業報告書』宗教法人本願寺，2009年

3）立命館大学アート・リサーチセンター内,「近代京都オーバーレイマップ」
http://www.arc.ritsumei.ac.jp/archive01/theater/html/ModernKyoto/
また，平成19年度に実施した旧仏飯所西側の配管に伴う調査（９地点）で，GL-1.4ｍ以上にわたって粘質土が堆積しており，池又は湿地堆積があったことがわかっている。
『本願寺防災施設工事・発掘調査報告書』宗教法人本願寺，2009年

4）註２に同じ

参考文献

1．名勝滴翠園記念物保存修理委員会　編,『名勝滴翠園　記念物保存修理事業報告書』宗教法人本願寺，2009年

2．『本願寺防災施設工事・発掘調査報告書』宗教法人本願寺，2009年

Ⅱ-5　平安京左京八条四坊三町跡

（15H008）

1　調査の経緯と調査事例

調査地は、下京区東洞院通七条下る東塩小路町内に位置し，平安京左京八条四坊三町跡・御土居跡に該当する。今回，この場所でホテル建設が計画され，平成27年6月17日付けで文化財保護法第93条第１項に基づく届出が提出された。これを受け文化財保護課では，平成27年7月13日から14日にかけて試掘調査を実施した。既存建物の解体によって計画敷地の大部分が削平されていたが，試掘調査で敷地北東隅地で八条坊門小路に関わる遺構を確認した（図24　B-B´）。このことから，八条坊門小路に関わる遺構の展開状況を把握するための詳細分布調査の実施を指導した。調査は平成29年5月17日から6月5日まで実施し，その結果，試掘調査と同様に八条坊門小路南側溝を確認した（図24　A-A´）。本報告では試掘調査成果と合わせて報告する。なお，以下では詳細分布調査地点をA地点、試掘調査地点をB地点と称す。調査地周辺は，平安時代後期の八条院領の成立に伴って土地利用が活性化するが，14世紀後半～15世紀頃になると水田化が進むことが明らかにされている[1]。

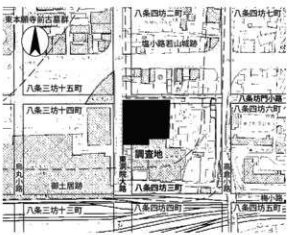


図23　調査位置図（1：5,000）

図24　調査区配置図（1：1,000）

2　遺構

基本層序は，A地点とB地点で異なり，前者が現代盛土，近世盛土直下に層厚0.4～0.5ｍの黄灰色シルトが堆積し（BM-0.62ｍ），BM-1.15ｍでオリーブ黄色砂礫の地山となる。遺構成立面は，黄灰色シルト上面（BM-0.62ｍ）である。後者は現代盛土，近世盛土直下に中・近世整地層があり，BM-0.6ｍでオリーブ色砂泥（平安時代後期～中世整地）、BM-1.0ｍで灰色砂泥となる。遺構成立面は，オリーブ色砂泥上面（平安時代後期～中世整地）である。A地点で東西溝，B地点では東西

溝・礎石を検出した。

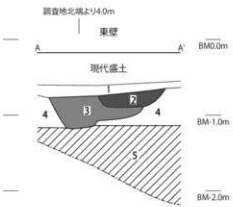
両地点で確認した東西溝は，A地点でやや南側へ振るが同一の溝と考えられ，検出位置が八条坊門小路推定南築地心の北側であることから，八条坊門小路南側溝と判断した。また，断面観察により側溝には掘り直しが確認できた。

側溝Ⅱ（図25・26） 側溝Ⅱは側溝Ⅰを掘り込んで成立する。検出幅はA地点で約0.9 m，B地点で約1.9 mと広くなる。遺構検出レベルがほぼ同じであることから，側溝は東側に向かって広くななっていた可能性がある。深さはA地点で約0.2 m，B地点で約0.3 mとなり，ほぼ同様である。埋土はA地点がオリーブ褐色泥砂層の単層に対して，B地点では三層に細分できた。埋土から遺物が出土したが細片である。

側溝Ⅰ（図25・26） 側溝Ⅰは，側溝Ⅱによって南肩が掘り込まれている。検出幅はA地点で1.4 m，B地点で約1.6 mとなる。深さはA地点で約0.42 m，B地点で約0.5 mである。埋土はA地点が単層に対し，B地点では三層に細分できた。埋土から遺物が出土したが細片である。

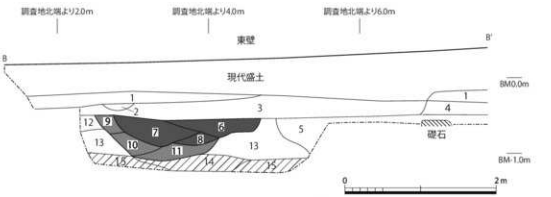
礎石3（図26） 礎石はB地点の南側で確認した。幅は約0.4 mである。中・近世整地層（図26-5層）に据えられている。1箇所のみの確認であることから，詳細は不明である。

路面4（図26-12層） 路面はB地点の北端で確認した。平安時代後期整地層の直上に成立しており，側溝Ⅰに伴う路面と推測できる。上面に礫を確認した。



1）7.5YR3/3　暗褐色泥砂（礫混）【近世盛土】
2）2.5Y4/3　オリーブ褐色泥砂（礫混，土師器含む）【側溝Ⅱ期埋土】
3）2.5Y5/4　黄褐色砂泥（礫混，土師器，瓦含む）【側溝Ⅰ期埋土】
4）2.5Y6/1　黄灰色シルト（礫混）
5）2.5Y6/3　オリーブ黄色砂礫【地山】

図25　A-A´断面図（1：50）



1）7.5YR3/3　暗褐色泥砂（礫混）【近世盛土】
2）10YR5/4　にぶい黄褐色泥砂
3）10YR4/4　褐色泥砂（礫混，土師器含）【近世盛土】
4）10YR5/2　灰黄褐色泥砂【中・近世整地層】
5）10YR4/2　灰黄褐色泥砂【中・近世整地層】
（10YR5/6 黄褐色粘土ブロック含，土師器多量含）
6）2.5Y5/3　黄褐色泥砂【側溝Ⅱ期埋土】
7）2.5Y5/4　黄褐色泥砂【側溝Ⅱ期埋土】
8）10YR3/4　暗褐色砂泥～シルト【側溝Ⅱ期埋土】
9）2.5Y6/6　明黄褐色砂泥【側溝Ⅰ期埋土】
10）2.5Y4/4　オリーブ褐色泥砂【側溝Ⅰ期埋土】
11）2.5Y4/2　暗灰黄色泥砂【側溝Ⅰ期埋土】
12）2.5Y5/2　暗灰黄色砂泥（上面礫混）【路面整地層】
13）5Y5/4　オリーブ色砂泥【平安時代後期整地層】
14）5Y5/1　灰色泥砂【地山】
15）5Y6/1　灰色粗砂【地山】

図26　B-B´断面図（1：50）

表3　八条坊門小路関連発掘調査一覧

条坊	八条坊門小路関連遺構	時期	註
左京八条二坊十四・十五町	路面・両側溝検出。平安時代後期～鎌倉時代：北側溝の幅 1.0 ～ 1.5 m，深さ 0.4 ～ 0.6 m，延長 47 m，南側溝の幅約 1.2 ～ 1.5 m，深さ 0.3 ～ 0.6 m，延長 24 m。路面の幅約 7 m，延長約 40 m。 鎌倉時代後半～室町時代：路面の幅が狭くなり，幅 0.1 ～ 0.3 mほどの側溝が設けられている。路面は 4 度改修。室町時代前半の路面のみを確認。	平安時代後期～室町時代前半	2
左京八条三坊六町	路面・北側溝を検出。北側溝は掘り直しがある。幅は 1 ～ 2 m，最も深い溝（溝 35）で約 0.5 m。	12 世紀後半～14 世紀	3
左京八条三坊二町	北側溝検出。幅 0.91 m，深さ 0.6 m。	11 世紀以前	4
左京八条三坊十町	路面・両側溝（SD 3・5）を検出。南側溝は平安時代後期から鎌倉時代に掘り直されている（SD 2）。側溝間（SD 3・5）は 6.4 mで掘り直し後は 4.2 ～ 4.7 mとなる。	平安時代後期以前，平安時代後期～鎌倉時代初頭	5

3　まとめ

本調査では，宅地内建物に関する遺構と八条坊門小路南側溝と路面を確認することができた。当該地周辺の八条坊門小路は，表 1 に示した通り，平安時代後期に路面や側溝の改修が行われて以降室町時代末期まで機能していたことが明らかにされている。本調査でも側溝は，平安時代後期整地層（図 4 -13 層）を掘込んで成立していることから，平安時代後期以降に開削もしくは掘り直されたと推測できる。また，側溝の上層には中・近世の遺物を含む土層が堆積しており，中世末期～近世初頭にかけて埋没したことが分かる。このような状況は，八条院領の成立に伴って土地利用が活発化したことに呼応しているものと考えることができ，水田化に伴って徐々に側溝が維持されなくなったと想定できる。このように，本調査でもこれまでの八条坊門小路の調査成果とほぼ同様の成果を得たと考える。なお，礎石建物は 1 箇所の確認に留まり，展開状況を明らかにすることが出来なかったが，検出位置が八条坊門小路付近であることから，なんらかの遮蔽物のようなものがあった可能性が考えられる。

（鈴木　久史）

註

1）網　伸也ほか，「9　平安京左京八条三坊２」，『平成６年度 京都市埋蔵文化財調査概要』，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1996 年など

2）鈴木廣司，「7　平安京左京八条二坊２」，『平成９年度 京都市埋蔵文化財調査概要』，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1999 年

3）山本雅和，「8　平安京左京八条三坊１」，『平成８年度京都市埋蔵文化財調査概要』，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1998 年

4）「平安京左京八条三坊二町」，『昭和51 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』，（財）京都市埋蔵文化財研究所，2008 年

5）「26　平安京左京八条三坊十・十一・十四町」，『昭和53年度 京都市埋蔵文化財研究概報集1979- Ⅰ』（財）京都市埋蔵文化財研究所，1978 年

Ⅲ-1　平安京右京三条一坊十五町跡

（16H542）

1　調査経過

本件は，会社事務所の新築工事に伴う詳細分布調査である。対象地は市立西ノ京中学校の南に位置する。平安京右京三条一坊十五町の北西隅に該当し，敷地の一部が押小路と西大宮大路の一部にかかる。土地の来歴は不明であるが，同町内及び西大宮大路の西側町域では，発掘調査が行われており，平安時代の遺構が良好に残存することが報告されている（図27）。

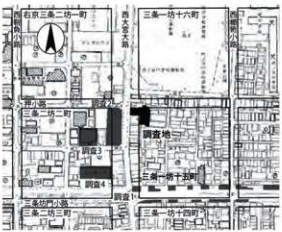


図27　調査地位置図（1：5,000）

同町域の南隅では，地下鉄東西線建設に先立つ発掘調査（調査１）において，西大宮大路の東側溝が確認されている。また，西大宮大路を隔てた西の町域では，平成22年度に試掘調査（調査２）が実施されており，地表面以下1.0ｍの深度において西大宮大路の路面と東側溝が検出されている。このため，今回の調査においても，西大宮大路に関わる遺構の発見が予想された。

2　調査成果

今回の調査では，計画建物の北半部２箇所において断面観察を行った。敷地の東辺に設定した№１地点では，盛土以下，BM-0.7ｍまで中世以後の耕作土である黒褐色粗砂混じり粘土質シルトがあり，以下，掘削底である-1.54ｍまで黄褐色粘土質シルト～オリーブ褐色砂礫を主体とする地山を確認した。地山上面では，ピットを２基検出した（ピット１・ピット２）。ピット１は径70㎝を測る大型遺構で，底面に円礫（根石）を配することから，柱穴として機能したものと推測される。

一方，敷地の中央部付近に設定した№２地点では，-0.88ｍの地山上面において，平安時代中期の溝を検出した（溝３）。

図28　遺構位置図（1：500）

溝３は，幅90㎝以上，残存深度は40㎝以上を

測る。南北方向にのびることから，町域の西辺内溝であると考えられる。埋土は，黒褐色を呈する粗砂混じり粘土質シルトで，比較的静かな堆積環境にあったことが窺える。遺構内からは，土師器皿，須恵器杯，黒色土器椀，灰釉陶器椀の細片が出土した。遺物の時期は，10世紀前半～11世紀である。

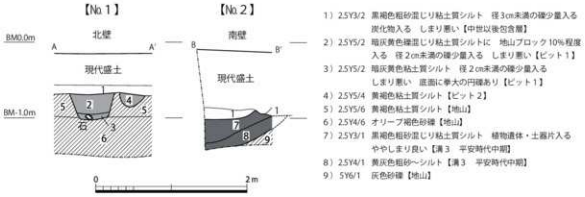


図29 調査地点断面図（1：50）

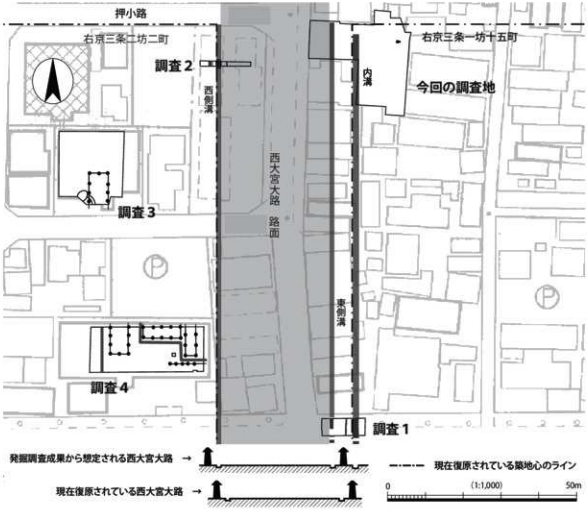


図30 西大宮大路復元図（1：1,000）

3　まとめ

『延喜式』によると，西大宮大路は路面幅が96尺（約28.8m），側溝4尺（約1.2m），犬行5尺（約1.5m），築地基底部幅6尺（約1.8m）の規模をもつとされる。図30には，この数値によって現在推定されている町域のラインと，これまでの発掘調査によって得られた情報を示した。

今回検出した溝3は，南へ延伸すると既往の調査1において検出された南北溝と連続する位置にある。調査1では，西大宮大路の東側溝と見られる小溝と石敷きの路面も検出されていることから，溝3および調査1の南北溝は町域の内溝であり，これと東側溝の間（約5m程度の幅員）が築地塀を築くためのスペースであったと推測される。

一方，西大宮大路の西端で行われた調査2では，大路の西側溝とこれに続く路面が検出されている。この西側溝と，調査1の東側溝の距離は28.8m程度を測り，『延喜式』記載の路面幅と近似値を示す。これが実際の大路であったとすると，現在の復原案よりも西大宮大路は2.5m程度西へずれた位置に存在したことになる。この推測に従うと，既往の調査4の東端で検出された掘立柱建物は西大宮大路の西側築地に近すぎることから，一般的な建物ではなく，門に付随するような施設であったと考えられる。

しかし，逆に上記の推定を疑う視点もある。調査1・2において大路側溝と解釈された溝は残りが悪く，必ずしも連続して検出されてはいない。これが側溝ではなく，築地塀を造る際に設けられた小溝などであった場合，また新たな復原が可能となる。

西大宮大路は平安宮の西側を通る大道であり，早い段階から造営に着手されたものの，やがて河川化して西大宮川となる。このため大路に関する調査成果は断片的であり，限られた抽出とならざるをえない。今後さらなるデータの蓄積により，平安時代前期における当該地域の実態が明らかにされることを期待したい。

（黒須亜希子）

註

1）財団法人京都市埋蔵文化財研究所，『平安京右京三条一坊十・十五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-2，2002

2）京都市文化市民局，『京都市内遺跡試掘調査報告』平成23年度，2012

3）『京都市内遺跡発掘調査概報　平成15年度』京都市文化市民局，2004

4）財団法人京都市埋蔵文化財研究所，『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（発掘調査編），1983

Ⅲ-2　平安京右京三条二坊十町跡・西ノ京遺跡

（16H667）

1　調査の経緯

本件は，店舗新築工事に伴う詳細分布調査である。対象地は中京区西ノ京東中合町に所在し，平安京右京三条二坊十町跡と西ノ京遺跡に該当し，敷地西側に野寺小路東築地心推定ラインが想定できる。同町の記録はなく詳細は不明であるが，昭和57年に対象地南隣地の立会調査（調査１）の際には，GL-0.62ｍで平安時代の土坑が２基，確認されている[1]。この他隣接町の調査（調査２・３）では平安時代後期の野寺小路西側溝が確認されており，鎌倉時代以降に野寺小路が野寺川となっていることも明らかとなっている[2]。

今回の調査は，敷地西側に想定される野寺小路東築地を確認する目的で行った。

図31　調査位置図（１：5,000）

図32　調査区配置図（１：500）

2　層序と遺構・遺物

基本層序（図33），は，盛土以下，GL-0.75ｍで旧耕土，-0.9ｍで炭化物や土器小片含む灰黄褐色粘質土，-1.0ｍで粘性の強い褐灰色粘質土，-1.1ｍで地山である黄橙色粘質土，-1.3ｍで灰色砂礫に至る。地山上面で調査区西側へ落ちる南北方向の溝状遺構を検出した。検出幅は1.25ｍ以上，深さ0.18ｍである。埋土は砂粒が多く含まれる黄褐色粘質土である。この溝の東肩は，敷地西端より東へ4.1ｍの位置にあたり，遺構配置から野寺小路東築地心想定ラインよりやや西に位置していることから，この溝は野寺小路東側溝と考えられる（図32）。

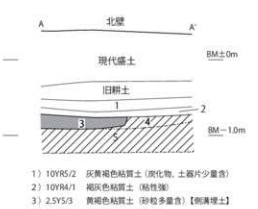


図33　A-A' 断面図（１：50）

埋土から土師器皿（図34-1）と緑釉陶器の底部（図34-2）が出土している。１は口径は8.0㎝，残存高

図34　出土遺物実測図（1：4）

図35　北壁土層断面（南から）

は1.25cmである。口縁部には一段ナデを施す。13世紀頃のものと考えられる。2の残存高は1.3cmで，内外面ともに施釉され，内面見込みにナデによる段が認められる。平安時代後期のものと考えられる。

3　まとめ

今回の調査では，平安時代から鎌倉時代の野寺小路東側溝を確認した。近隣では野寺小路西側溝は継続的に確認されているが，東側溝の検出事例は調査4[3]のみである。しかし，周辺調査の遺構配置（図36）からも齟齬はなく，野寺小路東側溝であると判断できる。

（奥井　智子）

註

1）調査1：調査一覧表内　三条二坊　HR-86『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和57年度，京都市文化観光局・財団法人京都市埋蔵文化財研究所，1983年

2）調査2：『平安京右京三条二坊十五町跡』財団法人京都市埋蔵文化財研究所，京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-8，2004年
調査3：「右京三条二坊（2）」『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1983年

3）調査4：『21 平安京右京三条二坊2』『平成元年度京都市埋蔵文化財調査概要』，（財）京都市埋蔵文化財研究所，1994年

図36　周辺調査での野寺小路検出状況（1：1,000）

Ⅲ-3　平安京右京七条一坊七町跡（16H525）

1　調査の経緯

本件は，京都市中央卸売市場第一市場施設再整備事業に伴う詳細分布調査である。対象地は，東側が平安京右京七条一坊七町の宅地内であり，西側に皇嘉門大路推定東築地心が通る敷地である。当町の居住者等については，明確な記録が知られていない。

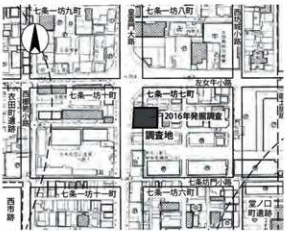


図37　調査位置図（1：5,000）

工事に先立ち，平成27年度に発掘調査[1]が実施されているが（図37），隣地との境界に近い箇所については，安全管理上調査区を設定できなかった。そのため，工事施工時に，発掘調査範囲外で掘削を伴う部分に対して補足調査を実施した。調査実施日は，平成29年2月24日である。

2　層序と遺構

調査地は，敷地中央部の北端にあたり，北壁にて断面観察を行った。検出した遺構は，発掘調査で確認された皇嘉門大路東築地内溝（溝58）の西肩北延長部である（図38）。

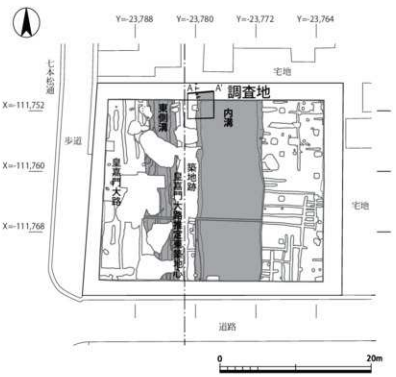


図38　調査地配置図（1：500）

層序は，GL-0.24mでオリーブ黒色粘質土（旧耕土），-0.3mでにぶい黄褐色シルト（旧耕土），-0.4mで黄褐色砂質シルトの地山である（図39）。内溝は地山上面で成立し，幅2m以上，深さ0.3mであることを確認した。内溝埋土は大きく上下2層に分かれ，上層が褐色シルト，下層が灰黄褐色粘質シルトである。上層の西肩部で，丸・平瓦が多量に出土し，西から東に向かって斜

めに落ち込んでいる状況を確認した（図40）。なお，地山は，下層に向かって粘質シルトから泥砂（礫多く含む），さらに砂礫となることを確認した。

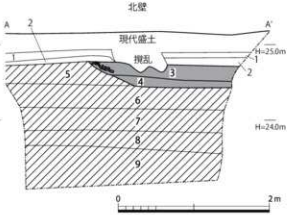
遺物は，丸・平瓦が出土したものの，軒瓦は出土していない。

3　まとめ

今回の調査では，発掘調査で確認された皇嘉門大路東築地内溝の西肩北延長部を検出し，発掘調査成果を追認することができた。

なお，発掘調査では，皇嘉門大路内溝の規模が判明しており，幅約9m，深さ約0.4mの幅広い南北溝である。今回の調査と同様，西肩部から多量の平安時代前期の瓦が出土しており，下層の堆積状況などと合わせて，築地塀に葺かれた瓦が地震で崩落した可能性が高いと考えられている。また，内溝と合わせて皇嘉門大路，皇嘉門大路東築地東側溝，築地基底部などが合わせて検出されており，当該地周辺の景観を考える上でも重要な成果を得た。一方，敷地東側の七町においては建物などの生活の痕跡が少ないことが判明しており，検討課題も残るが，周辺での今後の調査成果に期待したい。

（熊谷　舞子）



1）5Y3/1　オリーブ黒色粘質土【旧耕土】
2）10YR4/3　にぶい黄褐色シルト（土師器含）【旧耕土】
3）10YR4/4　褐色シルト（瓦含）【内溝埋土】
4）10YR4/2　灰黄褐色シルト（粘質，瓦含）【内溝埋土】
5）10YR5/6　黄褐色砂質シルト【地山】
6）10YR4/6　褐色泥砂（礫多量混）【地山】
7）10YR4/2　灰黄褐色泥砂（礫多量混）【地山】
8）10YR4/1　褐灰色砂礫【地山】
9）10YR5/6　黄褐色砂礫【地山】

図39　北壁断面図（1：50）

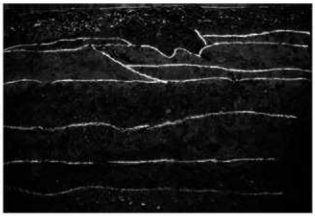


図40　北壁断面（南から）

註

1）東洋一・柏田有香『平安京右京七条一坊七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-2，（公財）京都市埋蔵文化財研究所，2016年

Ⅳ-1　八幡古墳群（16S652）

1　調査の経緯

本件は，保育所新築に伴う詳細分布調査である。調査地は周知の埋蔵文化財包蔵地である八幡古墳群に所在する。八幡古墳群は，昭和40年代に同志社大学文化史学専攻生幡枝地区遺跡研究グループによる分布調査によって発見された円墳３基からなる古墳群である[1]。２号墳は現状でも石室が一部露出しており，平成20年に２・３号墳の測量調査と２号墳の石室側壁を実測調査している[2]。今回の調査地の北西に八幡古墳群２号墳が位置し，工事計画範囲の北西隅の一部が墳丘に抵触する可能性があることから，平成29年２月17日・20日に調査を実施した。その結果，２号墳の墳丘南東部を確認したため，図化・写真撮影を行った。

図41　調査位置図（1：5,000）

図42　２号墳石室現況（西から）

2　遺構（図43・44）

調査地は八幡古墳群２号墳の南東隅を含む敷地である。基礎掘削の北壁および西壁で墳丘が確認できた。掘削前の旧地形は，２号墳の位置する北側から南に下がっており，平成20年の測量調査では，標高110.5ｍ付近を地形変換点と見なし，直径約12ｍの墳丘を復元している。今回の調査で，現代盛土以下で，褐色泥土（図43-１），暗褐色泥土（同-２），明褐色シルト（同-６），黄赤

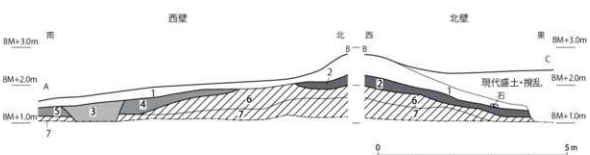


図43　遺構断面図（1：100）

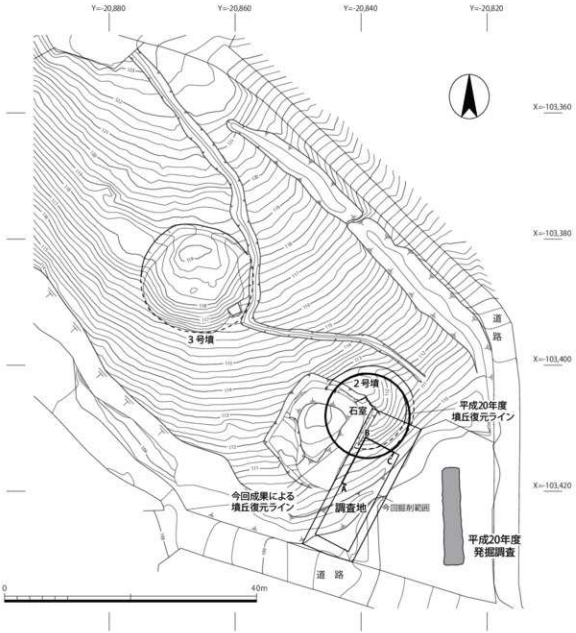


図44　周辺地形測量図と今回調査地（1：600）　註2）掲載図面を加工

褐色シルト（同-7）の4層を確認した。1層は竹の根が密に入り込む表土であり須恵器の小片が出土している。6・7層は地山，2層が墳丘盛土と考えている。西壁では2層がなく，1層と6・7層の間に南側で黒褐色泥土（同-4），褐色泥土（同-5）および両層を切る溝状の暗褐色泥土（同-3）を検出した。3層は周溝の可能性もあり，その場合には4・5層は古墳に伴う盛土となるが，いずれも遺物は出土しておらず断定はできない。

平成20年の測量調査では今回調査地の北壁断面で西から0.8m地点付近で緩やかな傾斜変換点を見出し，墳丘裾としているが，断面を見ると傾斜変換点は盛土によるものである。裾部は撹乱により確定できないが，ほぼ掘削範囲の東端までは墳丘である可能性が高い。西壁では断面上は明確な傾斜変換点を見いだせないが，こちらも地表面で見える傾斜変換点は盛土によるものであることが確実である。地山を削りだして墳丘としたとみるならば，6層の裾までが墳丘と考えることが

図45　西壁および北壁（南から）

できる。

いずれの断面でも，平成20年の測量時に見いだした傾斜変換点は，近年の盛土によるものであることが判明し，過去の想定よりも墳丘規模が大きくなることが明らかとなった。

3　まとめ

今回の調査では，墳丘規模の再検討に足る重要なデータを得ることができた。調査成果より，地山の傾斜変換点で復元した墳丘は径13.4ｍとなる。４層・５層を古墳盛土とみなした場合の裾は検出できていないため，復元値は示せない。工事の進行状況との兼ね合いで，断面記録に留まったものの，地形測量の知見を更新しうる成果を得ることができた。

（新田　和央）

註

1）同志社大学文化史学専攻生幡枝地区遺跡研究グループ，「京都市本山・幡枝地区遺跡分布調査の記録」，1971年

2）菅田　薫，「八幡古墳群」，『京都市内遺跡発掘調査報告　平成20年度』京都市文化市民局，2009年

Ⅳ-2　史跡岩倉具視幽棲旧宅・大雲寺跡（16A013）

1　調査の経緯

明治維新の元勲の一人として知られる岩倉具視は，孝明天皇の侍従として頭角を現し，将軍徳川家茂への和宮降嫁を実現させ，公武合体を推し進めた。そのため尊王攘夷派から命を狙われるようになり，文久2年（1862），辞官落飾し，洛中からの追放令により洛北岩倉村にて蟄居することとなった。元治元年（1864）には，大工藤吉の居宅を購入し，移り住んだのが当地である。具視は慶応3年（1867）に許されて洛中に戻るまでの約3年間をこの旧宅で過ごし，坂本龍馬・中岡慎太郎・大久保利通などがここを訪れ，議論を交わした場所である（図46）。

図46　調査位置図（1：5,000）

具視の死後，旧宅は大正3年（1914）に岩倉村に寄附され，大正15年に財団法人岩倉公舊蹟保存會へ所有権が移転，昭和7年（1932）には「岩倉具視幽棲旧宅」として国の史跡に指定されている。平成20～23年度に国庫補助事業による大規模修理を実施，その後，平成25年に京都市が所蔵品を含めて寄附を受け，現在は指定管理者制度を導入し保存公開を行っている。

図47　史跡岩倉具視幽棲旧宅と調査地（1：500）

今回の調査地は，敷地南端の通用門西側に所在する池である（図47）。作庭時期は判然としないが，昭和5年（1930）の敷地図には描かれている[1]。長年手入れがされていなかったようで，水が枯渇し，大量の泥土が堆積している状況であった。そのため指定管理者が池底の浚渫を行い，池の整備，再生が検討された。

平成29年3月中旬から浚渫を開始したところ，池底から木製の組物が露出したとの連絡を受けたため，調査を実施した。その結果，これまで知られていなかった木枠の構造物を確認することができた。

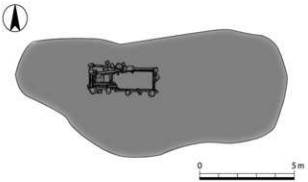


図48　遺構配置図（1：200）

2　遺　構

調査は，汲取り車による泥土の吸い上げに合わせて実施した。

泥土は深いところで約0.2m堆積していたとのことで，それを除去した池底の最も深い中央西寄りにて木枠を確認した（図48・49）。

平面形は東西に長い長方形を呈し，長辺3.5m，短辺1.25m，深さ0.8mで，底は地山の青灰色砂礫層に達している。木枠は西半と東半で構築材の様相が異なり，東半は丸太や枝打ちした自然木を多く用いていることに対し，西半は柄穴が残る転用材や横板などの加工材を多用している。また，西半は階段状になっており，下半の底面は狭くなっている。構築方法は，東半，西半ともに両側の長辺の材を先に積み，短辺の材の両端を長辺材の形状に合わせて加工し組み合わせ，長辺の3箇所に丸太を打ち込んで土留めとしている。さらに西半では，底に幅に合わせた大振りの石を入れて土留めとしている。東半は7段，西半は6段で構成される。また，木枠の縁には自然石を並べて縁取

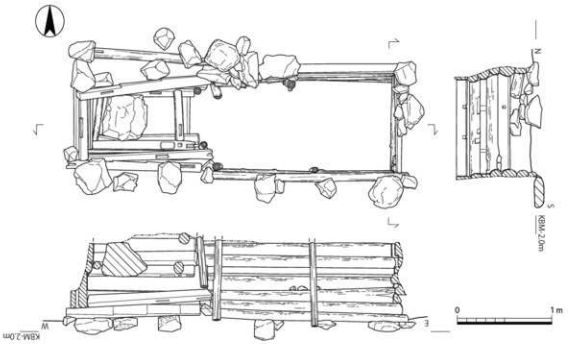


図49　遺構実測図（1：40）

図50　木枠構造物全景（南東から）

りされている。

遺物は，銅板プリントの染付等の近代以降の陶磁器片が出土しているが，図示できるもの及び時代を特定できるものは認められなかった。

3　まとめ

今回の調査では，池底でこれまで知られていなかった木枠の構造物を確認した。ここでは，木枠の性格と構築の経緯を考えてみたい。

木枠の底の青灰色砂礫は湧水層であり，浚渫後は雨量による増減があるものの，常に木枠全体が水で満たされている。したがって，木枠は取水目的で設けられたと想定できる。このような例は，下鴨神社の社家である鴨脚家庭園がある[2]。鴨脚家庭園では，池底中央が掘り窪められた泉となっている。現在は鴨川の河床掘削による地下水位低下によって露出してしまっているが，かつては豊富な水量を誇っていた。本件についても，池に水の流入口が存在しないため，水源を雨水の滞水又は湧水に頼るほかなく，泉として構築された可能性がある。しかし，木枠の長辺は3.5ｍと大きく，用途を泉のみとして構築されたとは考えにくい。泉以外で池底の構造物として捉えるのであれば，近世以降の庭園で見られる泥溜め或いは魚溜めが考えられる。本件の規模であれば，用途としては十分にその役割を果たしていることから，泉を兼ねた泥溜め或いは魚溜めと考えるのが自然であろう。

木枠の構築の経緯については，東半と西半の構築材の様相が大きく異なっている点に注目できよう。東半は丸太や自然木を多く用い丁寧に構築されていることに対し，西半の構築材の大半が転用

材で，積み方も雑然とした印象を受ける。これは，東半と西半の構築に時期差があることを示唆しており，西半が後で造られたと考えられる。当初に築いたものが崩壊し，修繕したものとも捉えられるが，西半に転用材を多く用いていることから，旧宅内の建物改変と期を同じくしている可能性が高い。

先述のとおり，旧宅の作庭時期は不明であるが，明治18年（1885）までの様相を示したと考えられる「岩倉村御別館御絵図面」が残されており，ここには既に庭園が描かれている[3]（図51）。大工藤吉の居宅であった時期に庭園が整備されたとは考えにくく，庭園は岩倉具視が購入した元治元年以降の造作と考えられる。元治元年（1864）の購入にあたって現在の主屋（鄰雲軒）を増築，没後の明治18年（1885）には具視の遺髪を埋めた瘞髪碑（えいはつひ）を築いており，その際に，主屋を2間分北側に移築するとともに減築が行われている。その後，昭和3年（1928）に対岳文庫建設に合わせて，邸内建物の大規模修理が行われている。また，平成20～23年度の修理において，主屋から昭和3年の修理に伴う棟札が見つかっており，庭園の手入れに7代目小川治兵衛（植治）が携わったことが記されている[4]。

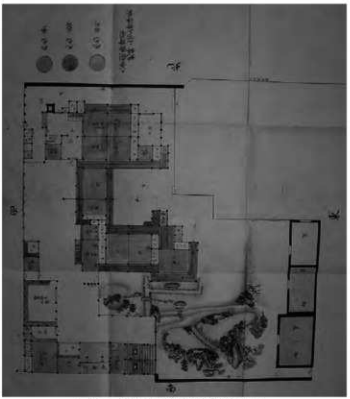


図51 「岩倉村御別館御絵図面」

上記の変遷の中で，木枠に建築部材が転用される契機となったと考えられるのは，明治18年の主屋の移築及び減築，昭和3年の大規模修理に限られよう。出土遺物からも時期の特定ができなかったため，現状では木枠の構築時期及び修繕時期を断定することは困難であり，可能性の提示に留めたい。

なお木枠については，湧水が認められたため埋め戻さず，現状のまま現地に保存している。

（西森　正晃）

註

1）『財団法人岩倉公舊蹟保存會要紙』，財団法人岩倉公舊蹟保存會，1930年

2）「鴨脚家庭園　鑑賞の手引き」，京都市文化市民局文化財保護課

3）『史跡岩倉具視幽棲旧宅　史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業報告書』，京都市，2012年
この絵図には，明治18年建立の瘞髪碑が描かれていない。

4）3）に同じ

Ⅳ-3　浄土寺七廻り町遺跡（16A002）

1　調査の経緯

調査地は，慈照寺（銀閣寺）の東方約500ｍの東山丘陵の斜面部に位置し，浄土寺七廻り町遺跡として周知されている。浄土寺七廻り町遺跡は，平安時代中期の瓦や土器が採集され，いくつもの平坦面が確認されることから，寺院跡と推定されている。これまでに発掘調査が実施されたことはなく，京都大学考古学研究会による踏査成果が知られる[1]。この調査では13箇所の平坦地を確認するとともに10～11世紀ごろの遺物を採集，報告している。西側の丘陵頂部には，戦国時代の山城である中尾城跡が所在する。

平成28年８月16日，付近一帯の山中を踏査中に，平坦面付近で遺物の散布を確認した。その後，平成28年12月９日および平成29年11月24日に，現地踏査を実施し，略測（縄張図の作成）と遺物の表面採集を実施した。今回は確認できた平坦面および採集遺物を報告する。

2　遺構と遺物

遺構（図53）　平坦地は谷部を中心に展開する。なお，京都大学考古学研究会の踏査報告では，13の平坦地を報告しているが，このうち南側の平坦地群は浄土寺七廻り町遺跡関連遺構と判断できなかったため，今回の略測図には含めていない。平坦地Ⅰは尾根道直下で，平坦面群の中では最高所に位置している。平坦地中で最大のものは，平坦地Ⅱで，「Ｖ」の字を傾けたような形態である。

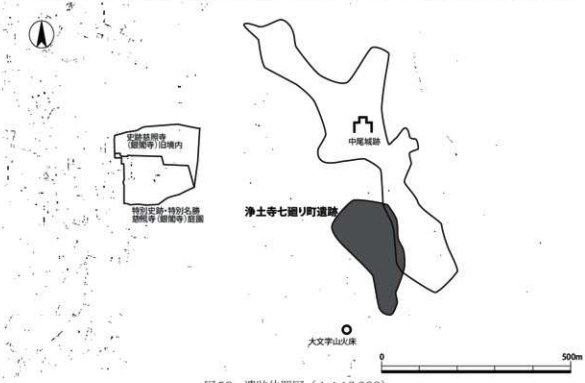


図52　遺跡位置図（１：10,000）

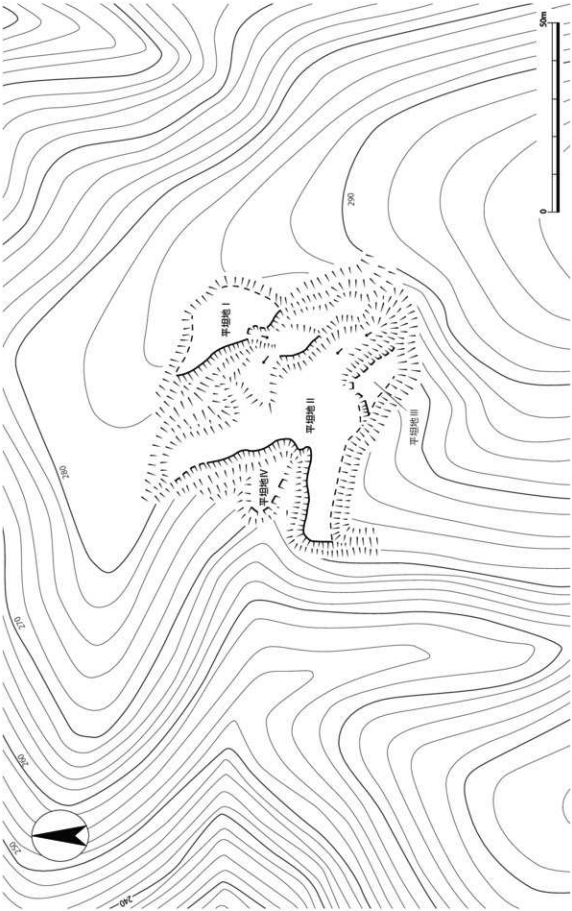


図53　遺構略測図（1：1,000）

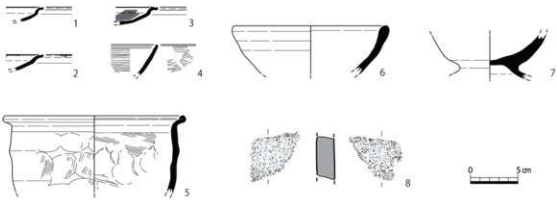


図54　出土遺物実測図（1：4）

平坦地は谷筋に沿って展開し，扇状の構成を取る。丘陵頂部を中心にして，尾根筋上に展開する山城の構造とは明確に異なり，山寺的な構造と言えよう。

遺物（図54）　土師器皿を中心に遺物を多数採集した（1～5）。また，山麓の慈照寺北側を流れる大文字川で古代の遺物を採集した（6～8）。本来は川の上流に埋まっていたものが，流されてきたものと考えられる。この採集遺物が浄土寺七廻り町遺跡に由来するかどうかは不明であるが，浄土寺七廻り町遺跡一帯で，古代に土地利用がなされたことを示すものであるため，合わせて報告する。

1～3は土師器皿Aである。3期中段階，10世紀中頃から後半に比定できる。4は黒色土器B類椀である。器面を密に磨く。5は土師器甕である。口縁端部を内側に折り返し，ハケメ・タタキで調整する。6は須恵器鉢である。口縁端部が肥厚し，丸みを帯びる。7は須恵器の体部下半から高台部で，高台付の壺か。8は平瓦で，凸面に縄叩き痕が看取できる。

3　まとめ

今回の調査では，これまで不十分であった当遺跡の略測図の作成と，遺物の採集・検討を行い，遺跡の具体相把握のためのより詳細なデータを得ることができた。今回土師器を採集したのは1か所に集中しており，この地点の遺物の時期である10世紀をもって遺跡の存続時期とみなすことはできず，今後も継続的な調査が必要となる。

同じ東山山系には，比叡山延暦寺のほか，如意寺跡という大規模山寺，安祥寺上寺などの山寺が所在している。今回の調査対象となった浄土寺七廻り町遺跡程度の規模の山寺の構造解明は，大規模山寺を相対化するためにも重要となる。山寺や山城など，開発が及ぶことが少ない山地の遺跡は発掘調査の実施が少なく，今回のように現地踏査が遺跡解明のための重要な手段となろう。本遺跡は，近年の豪雨などによる土砂流出で，一部が崩壊しかけていた。自然崩壊からの遺跡保護は，今回のように略測や遺物採集などの手段で地道に続けていくしかない。

（新田　和央）

註

1）京都大学考古学研究会，「浄土寺七廻り町遺跡調査報告」，『第50とれんち』，2001年

Ⅳ-4　法観寺旧境内（16S203）

1　調査経過と調査事例

本件は店舗建設に伴う詳細分布調査である。調査地は，東山区八坂上町内で法観寺五重塔の南側に位置する（図55）。現在の法観寺は，臨済宗建仁寺派に属し，境内には15世紀に再建された五重塔や太子堂，薬師堂などが建ち並んでいる。創建については諸説あり定説を見ないが，境内から白鳳時代の瓦が出土することから７世紀代とされている[1]。史料上の初見は，『続日本後紀』承和４年（837）の記事に「八坂寺」とあり，『延喜大膳職式』には盂蘭盆供養料を下賜される七箇寺の１つに数えられている[2]。このように，平安時代には相応の寺格を有していたと考えられる。治承３年（1179）５月に五重塔が焼失し，建久２年（1191）に源頼朝の援助によって再建されるが，その後も火災と再建を繰り返す。

図55　調査位置図（1：5,000）

法観寺旧境内では，1977年に初めて塔基壇内部と基壇周辺部の発掘・詳細分布調査が行われ（調査１），基壇版築土と推測される「黒褐色の締まった土」を検出した[3]。現在の五重塔は，創建期の基壇を修造して再建していることが明らかとなった。また，基壇周辺部で平安時代のピットや

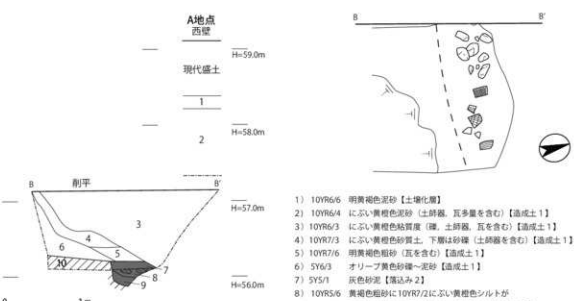


図56　調査区平面断面図（1：50）

土坑などを検出し，境内のほぼ全域に瓦を含む整地層が広がることを明らかにしている。塔南側の発掘調査（調査4）でも平安時代以前と平安時代後期整地層を確認し，後者を源頼朝の再建期として推定している[4]。平安時代後期の整地層は，調査5地点でも確認しており[5]，造成範囲が広域に及んでいることが分かる。このような中，当該地は現境内である高台から南側へと下りはじめた地点にあたり，敷地内に2m以上の高低差が認められる。この高低差は，造成によって形成されたことが予想された。そこで本調査の目的を造成土の範囲と規模の確認とした。

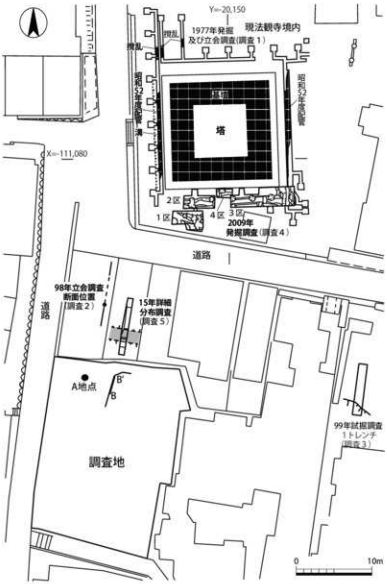


図57　法観寺旧境内の主な調査地点（1：500）

2　層序と遺構

今回は6地点で調査を実施し，この内2箇所（A地点・B-B'地点）で造成土1（図56－2～6層）と落込み2（図56－7～9層）を検出した（図56・57）。重機による基礎掘削中に断面観察を行ったが，A地点では地山を確認することが出来なかった。一方，B-B'地点では，地表面が掘削されていたものの地山及び遺構を検出することが出来た。また，断面観察の結果，A地点の造成土（図56－2層）がB-B'地点の造成土（図56－3層）と近似していることから一連の造成と判断し，掲載断面図は両調査地点の断面を合成した。そのため，2層と3層の正確な境は不明である。

層序は，現代盛土直下に土壌化層があり，以下地山まで造成土が厚く堆積する。地山直上で遺構検出を実施したところ，北側に落込む遺構を確認した。

造成土1（図56－2～6層）　土壌化層の直下で検出した造成土である。落込み2を覆うように堆積し，2～6層に細分することが出来る。堆積土は南から北に向かって傾斜する。白鳳時代～奈良時代の土師器や多量の瓦類が含まれている。

落込み２（図56‐７～９層）　B‐B′地点の北端で検出した北への落込みである。検出時に南肩口を確認することが出来なかったが，遺構埋土掘削後の断面観察によって肩口を推測した。遺構埋土７層を除去すると長径約0.2ｍの河原石と平瓦片が東西方向に並んでいることを確認した。河原石は平坦面を上にして，平瓦片は凸面を上にして据えつけている（図56‐８層）。平瓦片は凸面に格子叩きと縄叩きを残すものが混在しており，奈良時代以降に成立したものと考えられる。

３　遺物

軒丸瓦（図58）　１は輻線文縁素弁八葉蓮華文軒丸瓦である。中房は凸形で１＋５の蓮子を配し，花弁は素弁で高く盛り上がり，間弁は撥形を呈する。外縁は輻線文が展開する。瓦当成形は瓦当貼り付けで，補足粘土を加える。瓦当部凸面から丸瓦部凸面にかけてナデ，瓦当裏面接合付近は丸瓦に沿ってナデ，下端は横ナデを施す。丸瓦部凹面は布目を残す。胎土は砂粒を含み，焼成は硬質である。側縁に笵の当たりが認められる（笵Ａ）。白鳳時代（７世紀中頃～後半）に属する。２は単弁蓮華文軒丸瓦である。ほとんどが欠損しており文様構成は不明である。花弁はやや盛り上がり縁が凸型で表現されている。外区には圏線が巡る。瓦当成形は瓦当貼り付けで，補足粘土部分に指圧痕が残る。丸瓦部凹面は布目を残し，端面付近はナデを施す。胎土は少量の砂粒を含み，焼成はやや軟質である。

丸瓦　丸瓦は出土点数が３点である。調整技法は凸面ナデ，凹面細かい布目を残し，広端面はナデを施す。白鳳時代（７世紀中頃～後半）に属する。

平瓦（図59・60）　平瓦は凸面の成形・調整痕跡から大きく格子叩き（Ａ式）と縄叩き（Ｂ式），に分類でき，整形・調整工具の違いからＡ式が１～５類に，Ｂ式が１・２類に細分できる。なお，Ａ式は白鳳時代，Ｂ式は奈良時代に属する。

３（Ａ‐１式）は，凹形正方形の斜格子で，一辺が約0.7cmである。工具による叩き後，縦ナデを施す。凹面は細かい布目と模骨痕がある。胎土は砂粒を含む。３層出土。４（Ａ‐２式）は，凹形長方形の格子で，長辺が約0.7cm，短辺が約0.4cmで，凸線が0.4cmと幅が広い。凹面は細かい布目を残し，側縁付近と広端面付近はナデ，側面・広端面もナデを施す。胎土は砂粒を含む。３層出土。５（Ａ‐３式）は凹面正方形の格子で，一辺が約0.4cm，凸線が約0.4cmと幅が広い。凹面

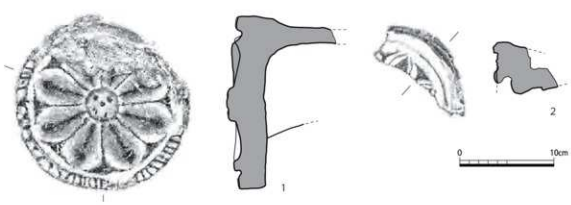


図58　軒丸瓦実測・拓影（１：４）

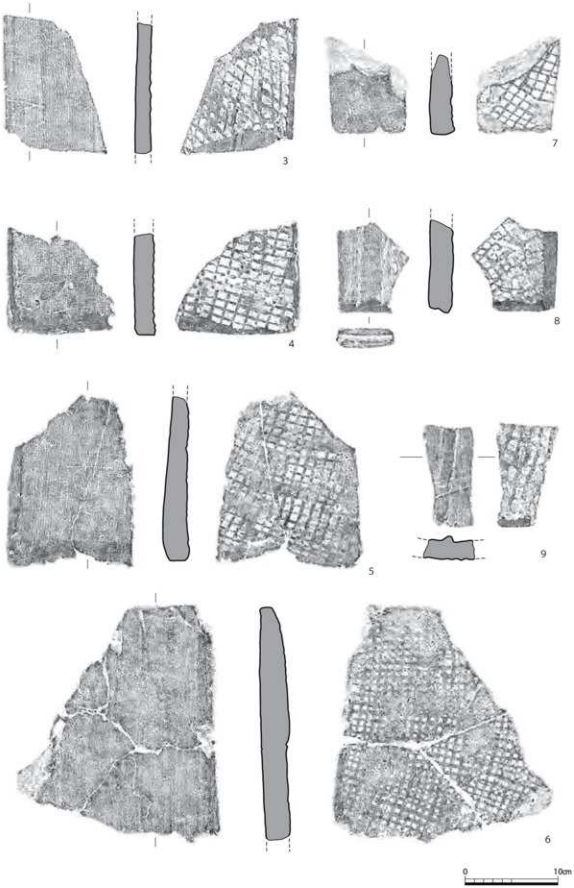


図59　平瓦実測・拓影（1：4）

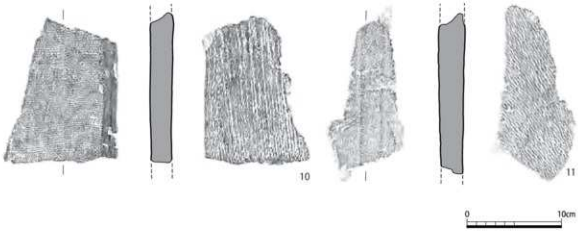


図60　平瓦実測・拓影２（１：４）

は細かい布目を残し，側縁付近と広端面付近はナデを施す。胎土は礫と砂を含む。８層出土。６（Ａ－４式）は凹面正方形の格子で一辺が約0.2～0.3cmで，凸線が約0.4と幅が広い。凹面は細かい布目を残し，模骨痕がある。側面にナデを施す。胎土は砂粒を含む。８層出土。７（Ａ－５式）は凹形長方形の格子で，長辺が約0.6cm，短辺が約0.4cmである。凹面，端面にナデを施す。胎土は少量の砂粒を含む。８層出土。８は格子叩きの様相が不明瞭であることから，分類することができなかった。端面に何らかの工具によって凹線を引いている。また，凸面の側縁付近と端面付近にケズリを施す。凹面は布目と模骨痕がある。３層出土。９（Ａ－１式）は凹面の一部が凸状を呈している。模骨の取り付け部分に粘土が入り込んだ可能性が高い。３層出土。10（Ｂ－１式）は凸面に粗い縄の叩き，凹面は細かい布目を残し，側面付近ナデ，側面ナデを施す。胎土は少量の砂粒を含む。８層出土。11（Ｂ－２式）は，凸面に細かい縄の叩き，凹面は細かい布目と模骨痕がある。３層出土。

4　まとめ

これまで当該地周辺では，五重塔発掘調査（調査１・４）と塔南側の立会調査（調査２）で地山を確認している。この内，最も標高が高いのは五重塔周辺でH=60.64ｍである。次いで調査２地点がH=58.9～59.7ｍ，本地調査地でH=56.2ｍとなり，旧地形が北から南にかけて傾斜していることが分かる。さらに，調査２地点と本調査地では約2.7ｍ以上の高低差があり，当該地の敷地境界北端から南にかけて開析谷があったことが想定できる。造成土１の検出面はH=58.2ｍで，上層が削平されている可能性を勘案すれば，調査２地点の地山検出面（H＝58.9ｍ）に近い位置まで嵩上げしていると推測できる。すなわち，寺域を拡張するために平坦面を作り出したと推測できる。造成時期については，造成土内に含まれている遺物が白鳳時代から奈良時代に限られていることから，奈良時代から平安時代前期に造成したと考える。冒頭でも述べた通り，調査４でも平安時代以前の整地層を確認しており，境内の広範囲を整備している可能性が考えられる。中世頃の法観寺周辺を描いた『八坂法観寺参詣曼荼羅』の寺観は，奈良時代から平安時代にかけて整えられた可能性

も考えることもできる。このように，造成土は法観寺の寺域の成立過程を検討する上で非常に重要な事項であるため，今後の調査で留意しなければならない。

また，落込み２は河原石や平瓦が貼り付けてあり雨落ち溝とも考えたが，調査範囲が狭小であることから断定は避けた。しかし，造成がなされる以前に，当該地に旧地形の段丘を利用した寺域の南限があり，それにともなう溝と考えることも出来る。今回の調査成果のみでは，これ以上の検討は難しく，造成土と同様に周辺の調査によって解明されることを待ちたい。

以上の通り，本調査では法観寺の変遷を検討するうえで重要な成果を得たが，調査範囲が狭小であるため，特定にはいたらなかった。しかし，当該地周辺には遺構が良好に残されている可能性が高く，遺跡の取り扱いを再検討する必要がある。

（鈴木　久史）

註

1）田中重久，「法観寺創立の建久」，『考古学』9-2，1938年

2）『続日本後紀』巻第六，承和四年二月廿七日条，『延喜式』巻第三十三，大膳下七寺盂蘭盆供養料

3）「法観寺跡」，『昭和52年度 京都市埋蔵文化財調査概要』，（財）京都市埋蔵文化財研究所，2011年

4）柏田有香ほか「史跡法観寺境内」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-11』（財）京都市埋蔵文化財研究所，2010年

5）赤松佳奈「Ⅳ-3　法観寺旧境内（14S646）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告平成27年度』京都市文化市民局，2016年

Ⅳ-5　旧琵琶湖疏水（16A012）

1　調査の経緯

本件は，東山自然緑地内，四宮付近における公衆便所新設工事に伴う詳細分布調査である。埋蔵文化財包蔵地として周知されていないものの，本市の工事担当課より，工事中に古い琵琶湖疏水が出てきたという連絡を受け，現地に赴いたところ，水路付け替え以前のコンクリート壁が確認できた。そのため，測量・図化および写真撮影を実施し，記録採取に努めた。工事の進行に伴い，断面確認もおこなった。調査は平成29年３月１日から５月２日の間に４度実施した。

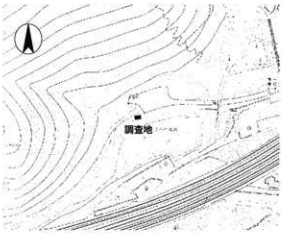


図61　調査位置図（1：5,000）

琵琶湖疏水は明治18年（1885），京都の産業興隆のための，水力発電および物資の運搬の利便性向上を目的として，計画・着工され，明治23年（1890）に完成した近代遺産である[1]。疏水の完成は，国内初の水力発電や電気鉄道の運行へとつながり，京都の近代化に大きな役割を果たした。分線を含めた総延長約30kmのうち，隧道入口・出口やインクライン，水路閣などが国史跡に指定されている。調査地付近は，完成時には山裾を囲むように弧を描く水路であった。しかし昭和42年（1967），国鉄湖西線を疏水に近接する斜面裾に開通させる計画が立てられた。これに伴い，運行に影響を及ぼさないための水害対策を講じる必要が生じ，昭和44～45年（1969～1970）にこの山を貫通する諸羽トンネルが築かれ，現在の水路となっている。この際，山際の旧水路は埋め立てられ，現在の東山自然緑地として公園整備された。

2　遺構

検出した疏水遺構は北に面を持つ旧南岸で，諸羽トンネルよりも東側，舟溜まり部分の南岸ラインの延長線とほぼ一致する。埋土は２層に分かれるが，下層（図63－２層）にもコンクリート片が含まれており，埋没は水路付け替えと大きく隔たらない時期と考えられる。護岸は石組みで築かれているが，その表面は鉄筋コンクリートで覆われている。鉄筋コンクリートは，明治時代には既にもたらされているが，国内での初例は明治23年（1890）の横浜港護岸とされる。同年に完成した，すなわち施工はそれ以前である琵琶湖疏水に用いられたとは考えにくい。昭和42年２月から４月にかけて，通水を止め，金網を張り詰め，５～７cmの厚さにモルタルを吹き付け，水路地盤の安定を図る工事を実施しており，これに対応するものと考えられる。ただし琵琶湖疏水には，明治36年（1903）に日本初の鉄筋コンクリート橋が築かれており，先進的な技術が極めて早い段階

から導入されていることは間違いない。

完成時の護岸は今回検出した石組みと考えられる。掘方は３段確認できる（図63‐３～５層，６・７層，８層）ことから，３段階に分けて石を積んだと考えられる。裏込めは薄いが，注目すべきは８層がセメントで凝固されていることである。最も荷重がかかるがゆえに，最も安定させる必要のあった下段にはセメントを用い，上段は前近代以来の石垣構築技術を用いたと推定され，近代化途上の土木技術を看取することができる。琵琶湖疏水建設時に用いたセメントは，生産が始まっ

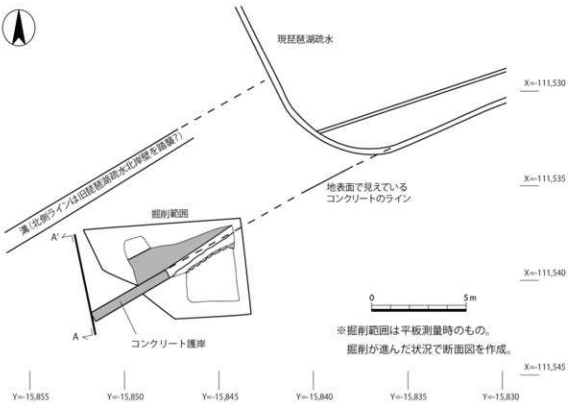


図62　平面図（１：200）

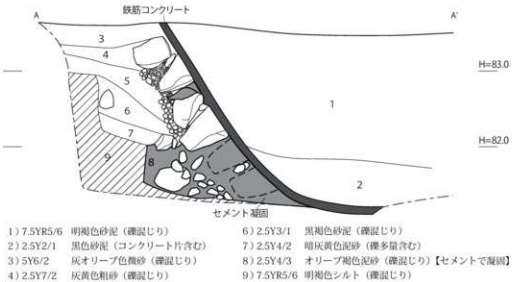


図63　西壁断面図（１：50）

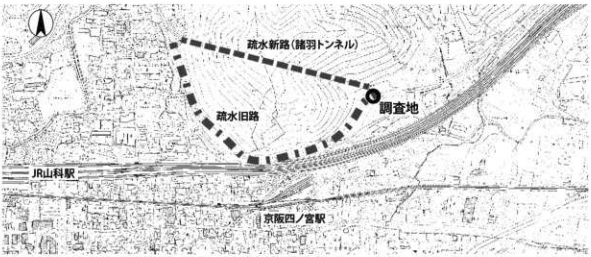


図64　疏水新旧流路（1：10,000）

図65　護岸検出状況（北東から）

図66　西壁断面（北東から）

て日の浅い国産品では供給しきれず，過半を輸入に頼っていた。このような資材調達事情から，セメント使用箇所を限定せざるをえなかったのではないかと推測する。

3　まとめ

今回の調査では，明治23年に完成した琵琶湖疏水の断面を確認するという重要な成果を得た。大部分が現役で使われているため，明治中期の土木技術水準の到達点たる琵琶湖疏水の構築を具体的に観察できる機会はごく限られている。今回のような施工が琵琶湖疏水全体を通して共通するものか，箇所によって施工法を変えているのかは，今回の調査成果だけでは判断ができないものの，土木技術史上，非常に重要な成果であることは疑いない。

（新田　和央）

註

1）本稿を通して，琵琶湖疏水の工事経過等については，以下の文献を参考とした。
京都新聞社編『琵琶湖疏水の100年』京都市水道局発行，1990年。

Ⅳ-6　伏見城跡（16F039）

1　調査の経緯

本件は，社会福祉施設建設工事に伴う詳細分布調査である。対象地は，伏見城跡に該当する。

工事に先立ち，平成28年度に関西文化財調査会によって発掘調査が実施されており（図67），敷地東側に設定した東区で，長さ14.5m以上，高さ2.8mの南北方向の石垣が良好な形で検出された。その後の協議の結果，設計変更の上，石垣が地中に保存されることになったため，工事施工時に，計画通りに行われているかを確認する目的で，補足調査を実施した。調査実施日は，平成29年5月23日である。

図67　調査位置図（1：5,000）

2　層序と遺構

調査地は，敷地南東隅にあたり，発掘調査区の南延長部にあたる（図68）。発掘調査では，調査終盤に調査区南端を一部拡張し，石垣が南に続くことを確認している。今回の調査では，発掘調査拡張区で確認された石垣のさらに南で，石垣の石材1石（石A）を確認した（図69・71・72）。

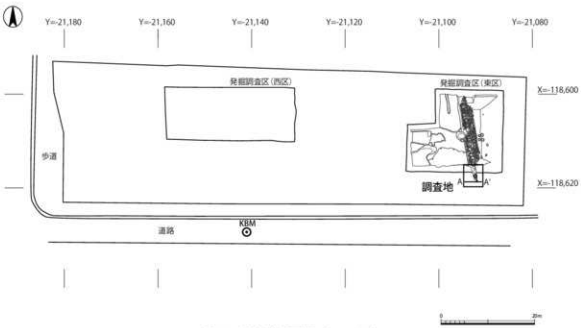


図68　調査地配置図（1：800）

石AはGL-2.6mで検出した。なお，保存を前提とした調査であり，調査は位置の把握に留めた。そのため，石Aの全容は不明だが，南北30cm以上，東西20cm以上，厚さ15cm以上の自然石である。発掘調査拡張区で確認された石B（図69）との間には，約0.8mの隙間があり，石垣構築時にはこの隙間にもう1石あった可能性もある。

調査区南壁（A-A'間）の基本層序は，GL-2.0mで褐色砂礫（造成土か），-2.5mで黄褐色砂礫（地山）である。石Aの背後（西側）で，明黄褐色粗砂，にぶい黄褐色泥砂（粗砂と小礫を多量に含む）の裏込めを確認した。裏込めは，石Aの西に約0.7mほど広がる。また，石Aは暗褐色～褐色泥砂の埋土で覆われており，この埋土中には，礫とともに土師器と瓦の細片が含まれていた。ただし，今回の調査では，裏込めや造成土と考えられる褐色砂礫層からは，遺物を確認できていない。

3　まとめ

今回の調査では，発掘調査で確認された石垣の南延長部を確認し，石垣がさらに南に続くことが明らかになった。

発掘調査では，石垣東側の堀埋土から多量の瓦や木製品などが検出されたことから，文禄4年（1596）閏7月13日に発生した慶長伏見地震の後，この石垣と堀が埋められたと想定されている。また地震後，伏見城廃城（元和9年（1623））までの間に，整地がなされ，大名屋敷の一部として土地利用が行われたと考えられている。このことから，この石垣は，指月城（初期伏見城）の石垣と考えられている[2]。

今回の敷地において，既存建物として観月

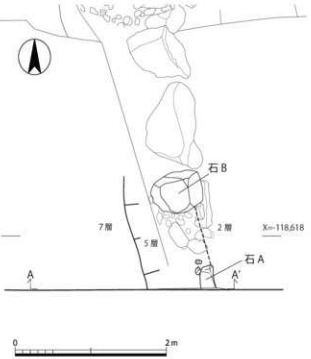


図69　調査区平面図（1：50）

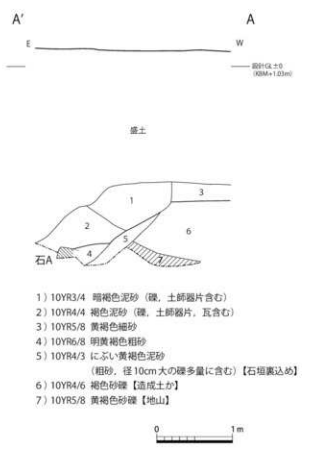


図70　A-A' 断面図（1：50）

図71　調査区全景（北から）

図72　石A検出状況（北東から）

橋団地が建っていたにも関わらず，石垣が非常に良好な状態で残存していることを確認できたことにより，今後の付近の調査でも，遺構が良好に残存している可能性が高まったと言える。そうした意味でも，今回石垣の現地保存が出来た意義は大きい。なお，調査後は，シートと土嚢で養生し，地中保存した。

（熊谷　舞子）

註

1）関西文化財調査会，近隣説明会資料，2016年（報告書執筆中）

2）馬瀬智光，『天下人の城』，京都市文化財ブックス第31集，京都市文化財保護課，2017年。

Ⅳ-7　伏見城跡・指月城跡（16F158）

1　調査の経緯

本件は，伏見区桃山町泰長老所在の桃山国有林における災害復旧工事に伴う詳細分布調査である。対象地は，伏見城跡・指月城跡に該当する。調査地は，桃山丘陵南端の，宇治川に向かって傾斜する斜面地に位置する。現地表面の標高は，丘陵南端で39.0m前後，今回調査した斜面の南端で15.0m前後であり，約25mの高低差がある。

図73　調査位置図（1：5,000）

指月城は，今回の調査地が立地する丘陵上に豊臣秀吉が築いたとされる城である。文禄５年（1596）に発生した慶長伏見地震の被害を受けたことにより，木幡山に城が移って以降，元和９年（1623）に廃城となるまでは屋敷地となっていた。なお，今回の調査地は，戦前から金箔瓦を中心とした瓦の散布地として知られており，採集瓦が紹介されている[1]。

図74　調査地配置図（1：1,000）

近隣では，平成27年度にも災害復旧工事に伴う詳細分布調査を実施しており，金箔瓦を含む土坑などを検出している[2]（図74：平成27年度調査地点）。

調査は，掘削工事に伴い，2017年8月24日から10月26日まで，計6日実施した。調査の結果，№1地点で石垣の裏込めと造成土を，№2地点で石垣を確認した。

2　№1地点の層序と遺構（図75・76）

№1地点は，月橋禅院墓地の北側に位置する。標高は19.0～21.0mである。№1で確認した北壁の層序は，調査区中央付近において，GL-0.4～1.1mが瓦や礫を多く含む暗褐色泥砂～褐色粘質土（4・5層）であり，その下層の-1.1m～2.1mが浅黄色～にぶい黄色粘質土（6・8層）と，暗褐色泥砂（7・9層）の互層となる。また，調査区東端において，GL-0.9～1.9mでにぶい黄色微砂混じり粘質土（10層）を確認した。4・5層が石垣の裏込め，6～9層が造成土，10層が地山と考えられる。

裏込めと造成土は，いずれも東から西に向かって傾斜して堆積する。裏込めは，主に調査区西側で確認し，東側では確認できていない。4層は径5cm大の礫を多く含み，5層は径5～10cm大の礫をまばらに含む。造成土の厚さは，西側で約0.6m，東側で約1.6mである。9層からは瓦が出土しており，西に向かって造成土が続くことが分かる。

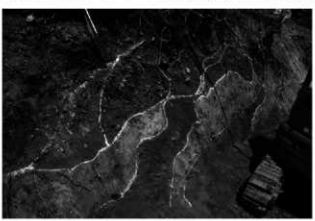
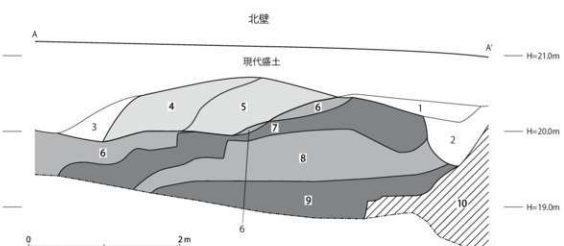


図75　№1北壁全景（南西から）



1）2.5Y4/4　オリーブ褐色泥砂礫(細礫混)
2）10YR4/4　褐色泥砂(礫混)
3）2.5Y4/3　オリーブ褐色泥砂(礫混)
4）10YR3/4　暗褐色泥砂(瓦，礫多量混)【裏込め】
5）10YR4/6　褐色粘質土(瓦，5～10cm大礫疎らに混じる)【裏込め】
6）2.5Y7/4　浅黄色粘質土【造成土】
7）10YR4/3　暗褐色泥砂(礫混)【造成土】
8）2.5Y6/4　にぶい黄色粘質土【造成土】
9）10YR3/4　暗褐色泥砂(瓦混)【造成土】
10）2.5Y6/3　にぶい黄色微砂混粘質土【地山】

図76　№1北壁断面図（1：50）

3　№２地点の層序と遺構（図77～79）

No.２で調査した結果，主に指月城に関連する石垣の石を検出した。No.２で確認した西壁を報告する。調査地は平成27年度調査金箔瓦出土地点の西側に相当する。調査地の南側は斜面地となっており，標高は17.2～21.1ｍである。

西壁の層序は現地表面下0.64ｍまで現代盛土，-1.5ｍで黄褐色泥砂，にぶい黄褐色泥砂で，-0.7ｍで礫が少量含む黄褐色泥砂が北から南に向かってななめに堆積している。

黄褐色泥砂の直下の-2.0ｍでは拳大の礫が多量に含まれた黄褐色泥砂の造成土を確認した。その層の中で石の半分は土中に埋まっている状態であるが，径63㎝・奥行60㎝・高さ65㎝の石を１基確認した。石は南に面を向いて据えられている。調査地が険しい斜面地ということで石垣の追及は控えたが，石が見えている範囲で矢穴，及び線刻などは確認できなかった。また，その石の周囲には，他

図77　№１石垣検出状況（東から）

図78　№１石垣検出状況（南から）

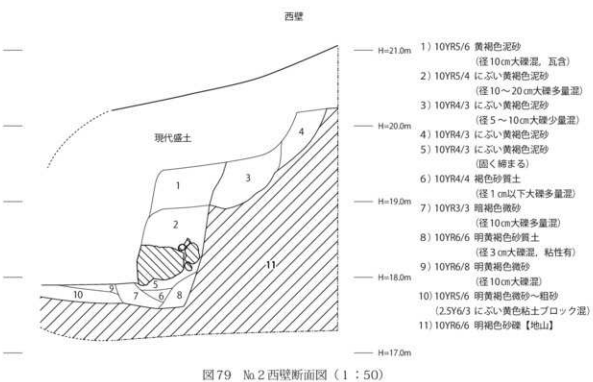


図79　№２西壁断面図（１：50）

の層位とは異なり拳大の礫が複数含まれている。-2.6ｍでかたくしまるにぶい黄褐色泥砂を確認した。-2.9ｍで径10㎝の礫を含む褐色泥砂で，-3.08ｍでかたくしまる褐色泥砂で，-3.2ｍで明褐色の非常にかたい砂礫の地山にいたる。

後日，石垣石の地形測量を行ったところ，検出した石垣と考えられる石の標高は18.42ｍであった。地山を掘り込んで石を据えており，石の周辺の拳大の礫は裏込石と考えられる。また，９層と10層は石垣前面の造成土と考えられ，石垣南側に平坦面があった可能性がある。

石垣石の上層の層位は石垣が廃絶した後の崩落の土と考えられ，確認した石垣石が積まれていた状況は確認できなかったが，石垣が原位置で据えられていることが確認できた。

調査地周辺で金箔瓦などが散在されているものの，今回は目立った遺物は出土しなかった。周辺で平瓦などが散見されたので，可能な限り採集を行った。

4　まとめ

今回の調査では，№１地点で裏込めと造成土を確認し，№２地点で石垣を確認した。今回の調査地である丘陵南斜面地では，従来より，崩落したとみられる石垣の石材が散在していることが確認されている[3]。また，平坦面と斜面が交互に存在することから，石垣による段造成が行われたことも推定されていた[4]が，原位置を保った石垣は確認されてはいなかった。

今回確認した石垣は堀方や裏込めなどの確認ができたことから原位置を保った石垣と考えられる。さらには，石垣の南側に平坦面が存在した可能性も考えられる。今回確認したのは１基にとどまるが，指月城の丘陵南端地として原位置の石垣を確認したのは大きな成果である。また，№１地点でも，石垣の存在を示唆する裏込めや造成土を確認していることから，今後，周辺でも石垣をはじめ造成の痕跡を確認できることが期待される。

（熊谷　舞子・清水　早織）

註

１）星野猷二ほか，『器瓦録想　其の二　伏見城跡』，伏見城研究会，2006年

２）熊谷舞子，「伏見城跡・指月城跡」，『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成27年度』京都市文化市民局，2016年

３）櫻井成廣，『豊臣秀吉の居城　聚楽第／伏見城編』，日本城郭資料館出版会，1971年

４）前掲１）

Ⅳ-8　周山城跡（16A011）

1　調査経過

本件は，京都市右京区京北周山町に所在する明智光秀が築城したと伝わる周山城跡の詳細分布調査である。この城は弓削川と上桂川との合流点の西側，標高509.4ｍの黒尾山に至る丘陵尾根上に展開する石垣を多用した山城である（図80）。

近年，この城の付近で林道造成が行われているとの連絡を受け，当課で平成28年に現地踏査を行ったところ，山城の西半部に接近する林道工事を確認した。遺跡の保存と当該工事の円滑な調整を図るため，詳細測量図を作成することにした。しかし，周山城の所在する丘陵部は樹木が生い茂っており，通常の測量では地形の把握が困難であることから，樹木の葉の隙間から地盤に到達して地形計測することの可能な航空レーザー測量を選択した。

計測はアジア航測株式会社に委託し，実機ヘリによる計測を行った。計測日は平成29年3月4日，飛行高度500ｍ，飛行速度20／秒，測量範囲は3.0㎢とし，計測密度を10点／㎡以上，計測コースは9コースとした。

測量成果の確認のため，現地踏査を平成29年12月28日まで随時行った。

調査の結果，周山城の各郭の正確な位置と林道の開発状況を把握することができるとともに，各郭を結ぶ「道（城道）」を把握することが可能となった。

2　周山城跡の歴史と調査成果

周山城跡についての文献記述については福島克彦氏が詳細に分析している[1]が，同時代史料は極めて限られている。『津田宗久茶湯日記』天正9年8月条に，「同八月十四日ニ丹波國周山へ越候、惟任日向守殿被成御出候、十五夜之月見、彼山ニ而終夜遊覧」とあり，少なくとも天正9年（1581）には築城されていたことがわかる。また，『兼見卿記』天正12年2月4日条に「辛亥、今朝築州、丹州シヲ山ノ城へ下向云々」，同6日条に「癸丑、朝程雨降、午刻牧庵遣使者、兵庫介（助）（鈴鹿右正）、昨朝之礼也、及暮自丹州築州上洛云々、」とあることから，豊臣秀吉が天正12年（1584）にこの城を訪れていたこともわかる。天正10年（1582）6月2日の本能寺の変から1年半が経過しており，少なくともこの頃まで周山城は存続していた。

周山城の築かれた丹波地域は，元亀4年（1573）2月に将軍義昭と織田信長が決裂した頃から，反信長勢力が伸張する。兵庫県丹波市春日に所在する黒井城に拠る赤井直正（荻野悪右衛門尉）や右京区京北に所在する宇津城[2]に拠る宇津氏などである。天正3年（1575）3月から織田信長の丹波攻略が始まり，同年9月以降，光秀は丹波攻略に参加している。反信長勢力の赤井直正の拠る黒井城の攻略が間近に迫る中，天正4年（1576）1月に波多野秀治が裏切ると，光秀は敗退し，丹波攻略は長期化してしまう。光秀は，再度の丹波攻略のため，京都府亀岡市の余部城，次いで天正5

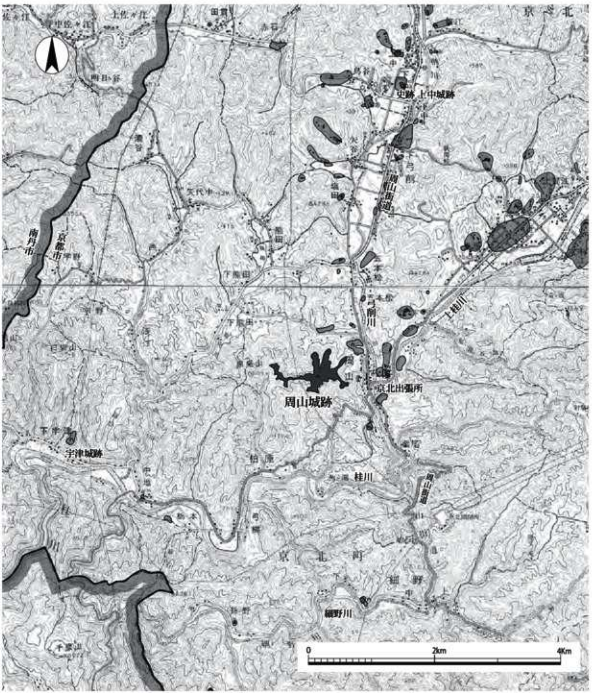


図80　周山城跡周辺遺跡分布図（1：60,000）

年（1577）に亀岡城の築城を開始する。その後，天正7年（1579）5月末に波多野秀治の拠る八上城，7月24日には宇津城，8月9日にはついに赤井氏の籠る黒井城を開城させている[3]。

『兼見卿記』天正9年4月17日条に，「自丹州宇津惟任日向守書状到来，当城堀井」とあり，かつての宇津氏の支配拠点であった宇津城に在城し，井戸を掘っている。周山城が築城中であった可能性はあるが，同時並存していた可能性も考えられている[4]。

以上，周山城跡について同時代史料からわかることは限られているが，埋蔵文化財調査に関してもほとんど実施されていない。発掘調査は一度もなく，平成24年10月のNHK中継基地撤去に伴う詳細分布調査[5]と，平成29年に実施したNHKの送電線布設に伴う詳細分布調査の2件のみであ

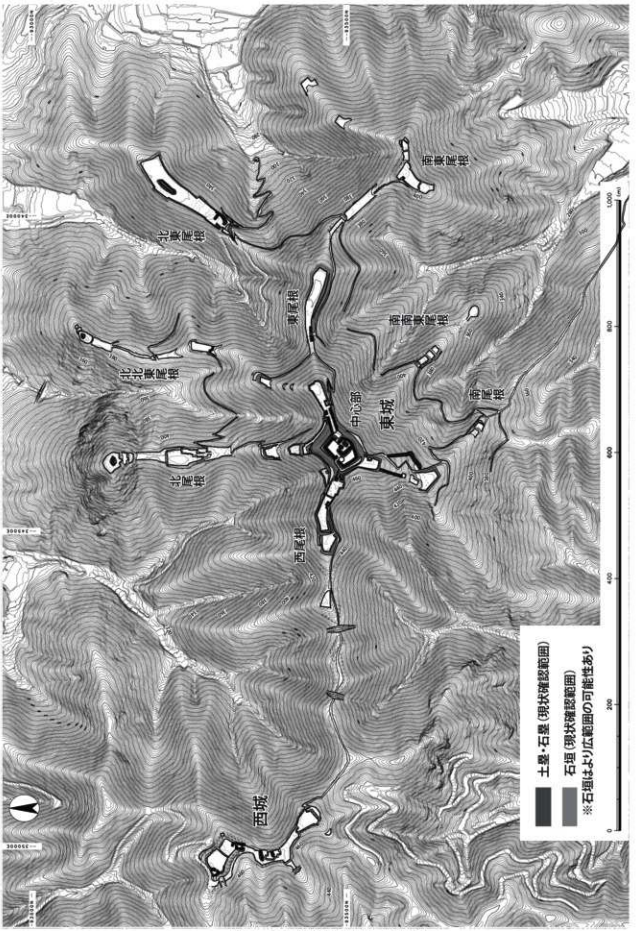


図81　周山城跡縄張図（1：6,000）

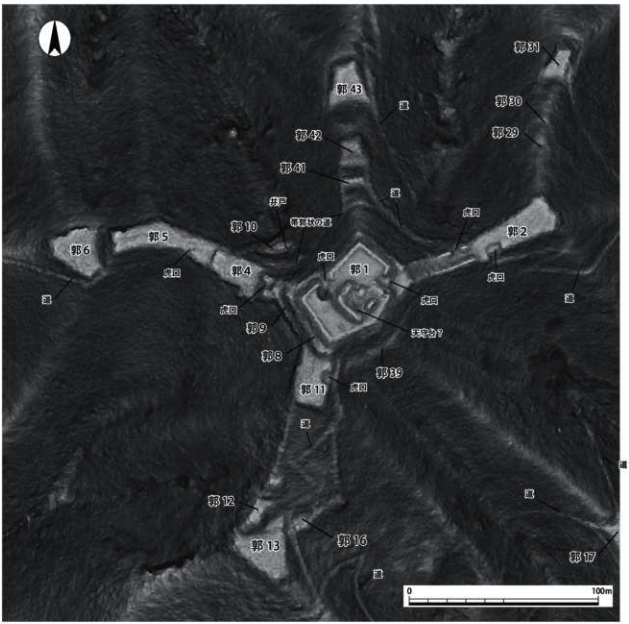


図82　周山城跡中心部（1：2,000）

る。これら以外では，京都府教育委員会が国庫補助を得て実施した中世城館調査などがある[6]ものの，今回の測量調査は本格的な実態解明の端緒となる。

（1）東城

尾根を東西に分断するように二つの大きな堀切があり，堀切の東側を「東城」，西側を「西城」とする。東城は，標高約480mをピークとする丘陵頂部を「中心部」とし，８つの支尾根に放射状に郭が構築されている。この付近は字「城山」と呼ばれ，これらをそれぞれ「北尾根」「北北東尾根」「北東尾根」「東尾根」「南東尾根」「南南東尾根」「南尾根」「西尾根」とし（図81），個々の尾根上に展開する郭の特徴を述べる。

中心部（図82）　中心部の中央に位置する郭１は，四周を石垣で囲まれた東西約50ｍ，南北約36ｍの長方形の郭である。郭端部の石垣上面に塀の基礎として機能したとみられる石塁が巡るが，南

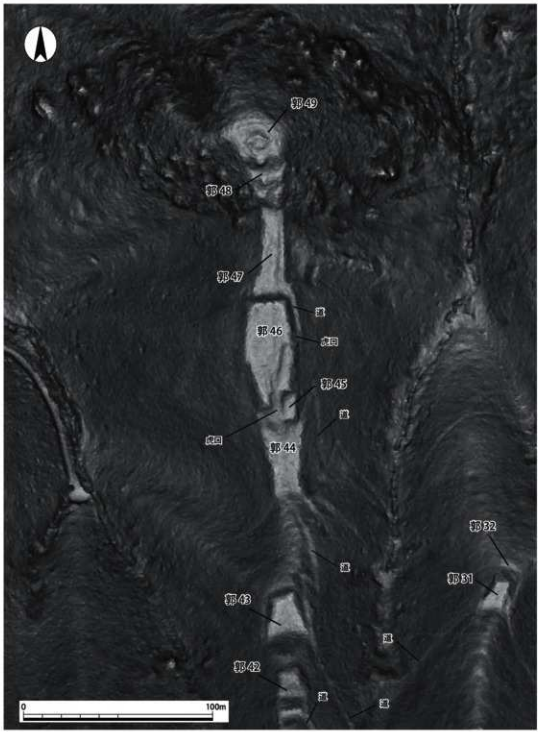


図83　周山城跡北尾根（1：2,000）

東隅が「L」字状に屈曲しており，屈曲した東側は郭２から入る虎口になる。この虎口から郭1に入るには石製階段がある。また，北側の石塁やや西側に郭４から入る虎口が存在する。また，この虎口から郭９を通って，南尾根に至ることができる。郭1中央南半に「L」字状の石塁と２条の石塁で構成される天守台の可能性のある基礎が存在する。郭２も周囲に石垣があり，西半部の南北両端には石塁が巡る。虎口は２箇所あり，南側の虎口は郭３から通じており，大規模な階段を有している。階段東側に方形の高まりがあり，櫓等の構築物があった可能性がある。北側の虎口は北尾根

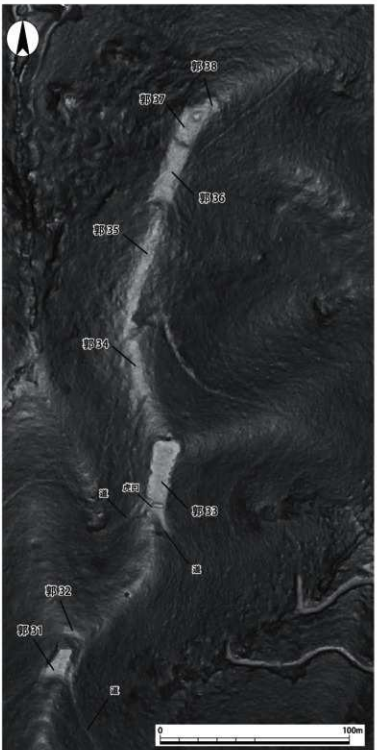


図84　周山城跡北北東尾根（1：2,000）

の郭41や42と通じており，虎口部分で石塁が東西に分かれる。この虎口から郭43に至る道が存在するはずであるが，かなり傷んでいる。西尾根に通じる郭4の東端には郭1に入るための防御として石垣で造られた虎口があり，折れを2箇所認めることができる。この郭4は石組井戸のある郭10にも通じている。

北尾根（図82・83）　郭41から少なくとも7つ以上の郭を確認することができる。主郭である郭1から北尾根に通じるルートは郭2の北側虎口もしくは，郭4から郭41の上方を通り，郭2の北側虎口に至る帯郭状の道がある。少なくとも郭43までは石垣が使用されている。北尾根の郭は標高約460mで郭41があり，標高約410mの郭44まで雛壇状に郭が並ぶ。郭46は南の郭44，北の郭47より一段高く整形され，郭44からスロープ状の通路が真っすぐ郭46に延びている。このスロープ状通路は郭45と一体となり，虎口を形成している。また，郭47から郭46の東側に通路が延び，その先端部が虎口となっている。郭49は自然の岩盤が露出する支尾根先端部に築かれており，標高は中央部が一段高い。また，郭47から郭49に至るまでに郭48を通るが，この部分は最低でも2段あり，郭として細分できる可能性がある。

北北東尾根（図84）　北尾根の東側にある南北方向の支尾根上に展開する郭群である。郭の配置は北尾根と類似し，郭29～33までは雛壇状に造られ，長方形に整形された郭36があり，支尾根先端に郭37と付随する郭38がある。北尾根の郭49と同様，郭37の中央部に一段高い部分がある。

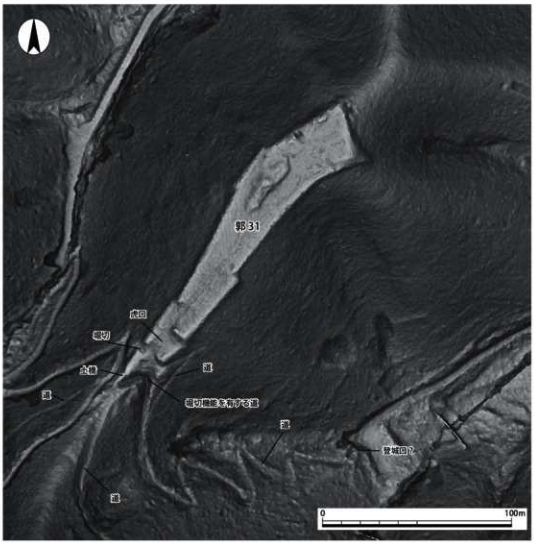


図85　周山城跡北東尾根（1：2,000）

この支尾根の主要区画であると見られる郭33は長方形に整形され，南端には虎口がある。この虎口には，東西両側から延びる道が直線的に郭に入ることができないように土塁を築いて「折れ」が造られている。郭33は北尾根の中枢である郭46と連絡可能な道が通じているが，現在は谷筋の崩落で切れている。郭34及び35はゆるやかに郭36に向かって傾斜しており，通路の可能性もある。

北東尾根（図85）　周山街道から谷筋を西に進むと登城口とみられる空間がある。この空間が明智光秀築城時から存在するのかどうか不明であるが，郭31に至る道の入口にあたり，何らかの施設があった可能性が高い。登城口からつづら折れの道を進むと，郭3のある東尾根から北東に延びる支尾根を分断するように「V」字状に掘り切られた通路がある。この堀切状区画の北側に郭31に通じる土橋があり，さらに小型の堀切により鉤型に屈曲して虎口に至る。この虎口は北，南，東の三方を土塁で囲まれ，内桝形の形状を呈している。郭31は全長約165m，最大幅約33mを測る長方形の区画であり，郭南西部分と北面中央部に「コ」字状の張り出しをもつ。北尾根，北北東尾根と同様，郭の中央に一段高い部分がある。

東尾根（図86）　中心部から東側に延びる支尾根上には郭3がある。郭3は東西約122m，南北の

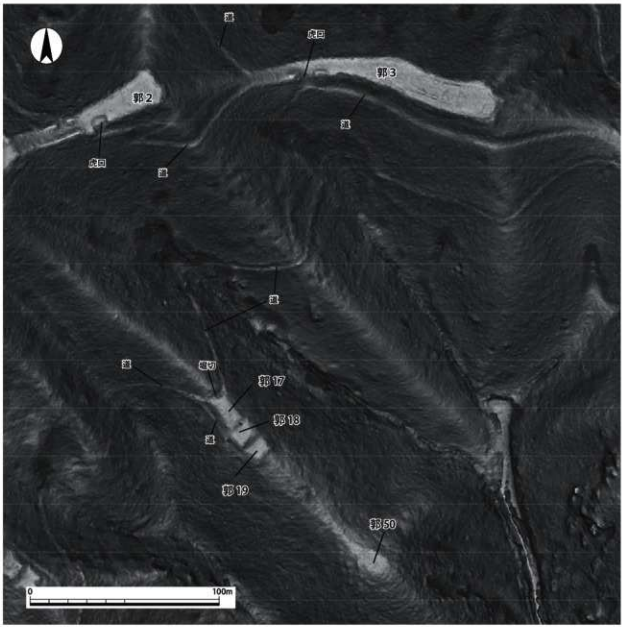


図86　周山城跡東尾根郭３及び南南東尾根（１：2,000）

最大幅約20ｍを測る長方形の区画である。郭の周囲は石垣で固められており，特に南側虎口の東西両側には櫓基壇状の高まりがあり，虎口には石製階段が認められる。周山街道から城の中心部に向かうには郭３の南側虎口を必ず通らなければならない。この虎口に入る前に南西に下る道がある。恐らく南南東尾根に至ると考えられるが，残存状況は極めて悪い。郭３の西端で道が南北に分かれる。北西方向に向かう道は北北東尾根の郭群に向かう道であり，南西に向かう道は城の中心部である郭２の南側虎口に向かう。

南東尾根（図87）　東尾根から南東方向に延びる支尾根状に展開する郭群である。さらに南東尾根端部から北東に延びる稜線上にも郭が展開する。北東尾根の郭31から延びる道は，南東尾根の郭20の東端の虎口に繋がる。この虎口は南東尾根の稜線北側を断つ堀切としても機能している。虎口南側は土橋状になっており，郭３及び南南東尾根の郭群に向かう。郭20は標高390ｍ前後の尾

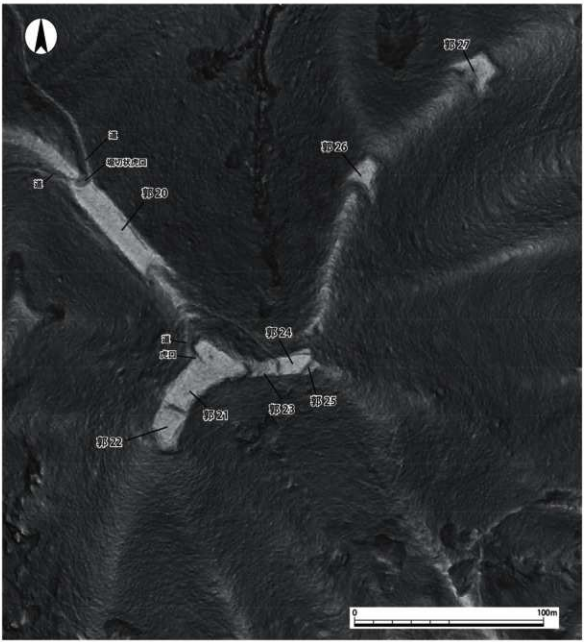


図87　周山城跡南東尾根（1：2,000）

根上を長方形に整形して造られている。郭の規模は全長約45ｍ，最大幅約16ｍを測る。この尾根の最高所である標高408ｍ部分を中心に郭21～25が展開する。最高所の郭21は東端が南北に突き出た「出隅」の形態をしており，郭20から延びる斜路は北側の出隅の西側付け根部分の方形の虎口に通じる。現在，郭24にはNHK京都・京北ＦＭ中継放送所があり，小規模だが改変を受けている。郭24・25から北東方向に延びる稜線上に築かれた郭26及び27は台形を呈し，郭南東部が「出隅」となっている。

南南東尾根（図86）　中心部から南東方向に延びる支尾根上に展開する郭群であるが，中心部から直接アクセスするには急峻過ぎる。この郭群へのアクセスは，南尾根の郭15もしくは南東尾根の郭20から道が通じているが，現在はいずれもの道も途中にある谷部の浸食により崩れている。標

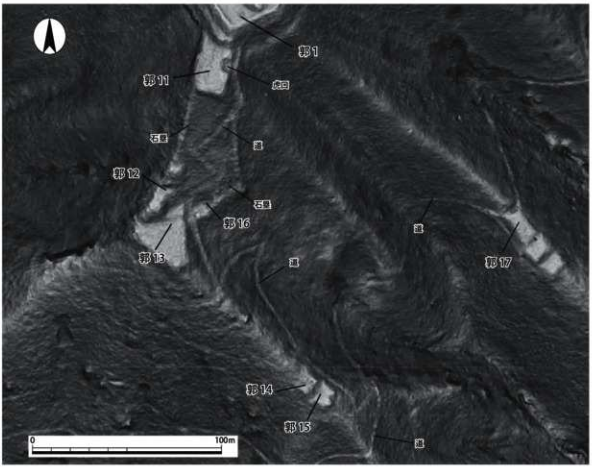


図88　周山城跡南尾根（1：2,000）

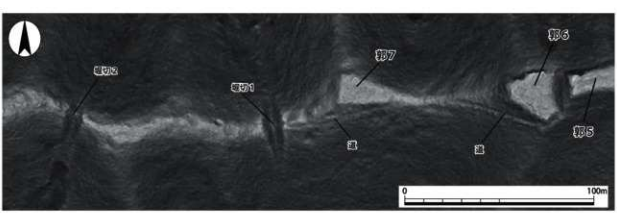


図89　周山城跡西尾根堀切部分（1：2,000）

高390m前後の尾根部分に堀切があり，この堀切を利用して左右の尾根からの道が繋がる。この堀切の南側に雛壇状に3段の郭がある。郭17は長方形，郭18及び19は台形に整形されている。各郭の南側に帯郭状の道があり，郭間のアクセスはこの帯郭を通じて行われたと考える。郭19から約70m南の標高367m付近の傾斜変換点のところに南北約15m，東西約15mの楕円形の平坦地があり，郭50とした。

南尾根（図88）　郭11から始まる郭群である。尾根を雛壇状に造成して郭を連続して築いており，郭11と郭13が大型である。郭11は標高約470mにあり，全長約33m，最大幅約20mの長方形

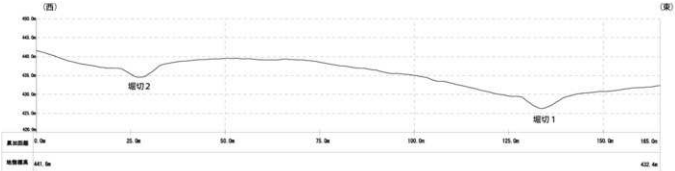


図90　周山城跡西尾根堀切部分　断面図（1：1,000）

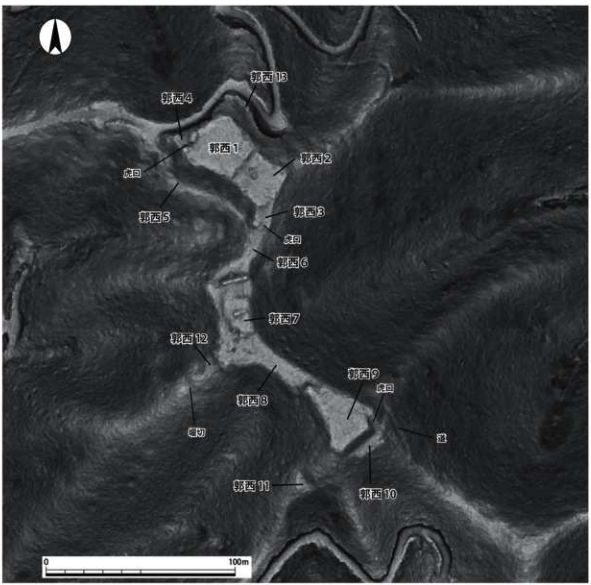


図91　周山城跡西城（1：2,000）

に整形された郭で，東辺中央部に石製階段を持つ虎口がある。この虎口から石で護岸されたつづら折れの道が郭13まで続く。郭13は標高約435mにあり，全長約32m，最大幅約30mの台形に整形された郭である。また，他の支尾根群と異なり，両郭間の尾根の東西両端に石塁が築かれてい

る。郭13から水平距離で約75ｍ南東に進むと，方形に整形された郭14・15がある。郭15から尾根上を下る道はなだらかで直線に近く，周山から宇津へ抜ける道に至る。

西尾根（図82・89・90） 郭４・５・６は石垣で護岸された一体的な郭群である。郭４は標高約465ｍに位置し，南辺で２度の出があり，「横矢」になっている。郭５の西面及び北面は高さ６ｍ近い石垣が良好に残存している。全長約65ｍ，最大幅約17ｍで弓なりの長方形に整形されている。南面東寄りに虎口があり，虎口東側に櫓基礎となる土段が残る。郭６は標高約455ｍにあり，北面に築地の基礎となる石塁が巡っている。これらの郭群の南側を通る道は石組で護岸されている。郭６から約60ｍ西側に東西約30ｍ，最大幅約15ｍの台形状に整形された郭７がある。郭７の西側の堀切１は標高約430ｍのところにあり，幅約11ｍ，深さ約３ｍある。堀切２も幅約11ｍ，深さ約３ｍあり，標高約438ｍのところにある。両堀切の心々間の距離は約106ｍである。

（２）西城（図91）

堀切２から約170ｍ西に延長200ｍに渡って広がる郭群「西城」（図91）がある。標高約480ｍ～460ｍに位置しており，西端，中央，東端に主要な郭が分布する。西端の郭西１と郭西２はその境目に段差があるが一体的な郭であり，東西約55ｍ，南北約30ｍの規模を有している。郭西１の西側に突き出た郭西４は「L」字状の土塁が西辺と南辺を，「I」字状の土塁が東辺を囲む。この郭は北から入り，「I」字状土塁の中央開口部を通って郭西１に入る桝形虎口の役割を果たしている。郭２の南東角から突き出た郭西３も「L」字状土塁（石塁？）二つが南北に少しずれて対象に配置されており，南の開口部から３度折れて郭西２に達する桝形虎口の機能を有している。西城の中央部に東西約85ｍ，南北約25ｍの弓なりに屈曲した郭西８がある。郭西８の西端は郭西６からの道を遮断しており，横矢の機能を果たしている。この郭の中央部に一段高い郭西７があり，さらに郭西７中央部に土塁がある。東端の郭西９は台形状に整形されており，北東隅と北西隅を「入隅」として，そこを虎口としている。この城は東斜面が急峻で，西斜面が比較的なだらかであることから，西側を防御する目的で堀切や帯郭の郭西５，郭西12，郭西11が配されている。

３　まとめ

赤色レーザー測量により，鬱蒼と樹木が生い茂る山城の正確な規模や道（城道）を視覚的に把握することができた。周山城の規模は，東西約1.3km，南北約0.7kmに及ぶ。中居・高橋両氏が作成した縄張り図にある郭27及び郭31東方の竪堀状遺構を加えると，東西約1.4kmに達する。なにより，中心部と支尾根との間，郭間，支尾根間相互の連絡がどのようであったのかを推定できるようになった。特に郭３は中心部の防御を考える上で極めて重要な立地をしている。東方から中心部に接近するには必ず郭３を通らなければならない。さらに，北北東尾根の中心部に近い郭群，北東尾根，南東尾根，南南東尾根の郭群との主要な通路上にあたる。

西城は従来，「石垣を多用」した東城に対して「土の城」と言われてきたが，赤色レーザーによって東城と類似した整形が行われており，石垣の有無を再確認する必要がある。具体的には，東城と同様，桝形を意識した虎口が郭西１西方及び郭西２南東角に認められる点，郭の整形段階で単純に

尾根を削平して平坦部を造るのではなく，郭西１・２や郭西９の各辺が方形～台形を意識し，隅部で直線的に交わる点である。

当初の目的であった林道が西城に接近しつつあることも分かってきた。従前から郭西４や郭西13は西城の北側に造られた林道により一部削平されていることが分かっていたが，新たな林道が郭西９～11に極めて近接して造られており，早急な対策が必要である。また，以前からの林道ではあるが，郭31の直近に迫っており，これ以上郭に影響が及ばないよう対策が必要である。

（馬瀬　智光）

註

1）福島克彦，「丹波周山城について」，『城館史料学』第５号，城館史料学会，2008年

2）中居和志，「宇津城跡」，『京都府中世城館跡調査報告書―丹波編―』第２冊，京都府教育委員会，2013年

2）山本浩樹，「明智光秀の丹波支配」，『平成28年度　京都府域の文化資源に関する共同研究会報告書（丹波編）』，京都府立京都学・歴彩館，2017年

4）註１）の118頁

5）馬瀬智光・新田和央，『天下人の城』（『京都市文化財ブックス』第31集），京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課，2017年

6）中居和志・高橋成計，「周山城跡」，『京都府中世城館跡調査報告書―丹波編―』第２冊，京都府教育委員会，2013年

Ⅳ-9　八瀬近衛町出土銭（16A007）

1　調査の経緯

本件は，不時発見された出土銭の調査である。調査地は左京区八瀬近衛町に所在する。

八瀬近衛町在住の方から，太平洋戦争中に裏山から出土した壺と古銭を見て欲しいとの連絡を受け，平成28年10月26日に現地に赴き，現地で聞き取り調査と出土地の確認をおこなった。また，当日に出土遺物を借り受けることができたため，壺および古銭に対する詳細な調査を実施した。整理に時間を要したため，今年度の報告となった。

図92　調査位置図（1：5,000）

左京区の八瀬地区は，その中央を高野川上流の八瀬川が貫流し，若狭街道に沿って散在する山間集落である。古くは山林伐採と洛中での薪の販売を生業としていた。中世には八瀬庄として青蓮院が治め，近世には禁裏御料となっている。発見地である「近衛」町の名は，禁裏御料を近衛家が管理していたことによる。この地域の人々は遅くとも後醍醐天皇の頃には「八瀬童子」と称しており，駕輿丁として朝廷に奉仕していたことは著名である。毎年秋には，市登録無形民俗文化財となっている赦免地踊りがおこなわれることでも知られる。

八瀬地区の市街地には，周知の埋蔵文化財包蔵地として登録された遺跡がなく，考古学的調査の事例もない。文献記録と考古学的成果のギャップをいかに埋めていくかは今後の課題である。

2　聞き取り調査

今回連絡をいただいた方（以下，連絡者とする）の祖父が発見者である。発見者のご息女（連絡者の母。戦中の発見時には立ち会っていない）から，発見当時の状況を聞き取りすることができた。銭貨を埋納した壺が発見されたのは，昭和19年ないし20年である。戦時中の食糧難のため，発見者が畑を開墾するための造成を行っていたところ，地中から壺が出土した。壺は半分ほど水に浸かった状態で，中には銭貨が充填されていた。出土時点では，銭貨は輝いていたが，すぐに鈍い色になってしまったとのことである。その後，発見された銭貨の一部を知人たちに分けたとのことで，現在では発見当初の銭貨が全て揃っている訳ではない。その後，長らく保管したままになっていたが，平成28年の夏に親族が集まった際に話題となり，出土した銭貨を調べてみたところ，中国宋時代のものが多数含まれていることが明らかとなったため，文化財保護課への連絡にいたった。

3　発見地点

発見地点は連絡者宅から100ｍほど西側の斜面部であり，現在は平坦面が造成されている（図92）。発見地点はこの平坦面の南西隅付近である。現況は造成された平坦地であり，旧地形がいかなる形状であったのか，発見された銭貨および埋納容器の壺が，土坑などの遺構から出土したのかどうかは検証が難しい。

4　出土遺物（図93，図96～98）

壺　埋納容器として使われた須恵器の壺で，讃岐十瓶山窯系と考えられる。口縁部は失われている。出土状況不明のため，断定できないものの，破面を観察する限りでは，埋納した時点で，既に打ち掻いていたと考えられる。頸部内側には擦痕が複数あるが，表面で観察する限りは新しい時期のものと考えられ，掘り出された後に，銭貨の出し入れに伴って付いた可能性が高い。調整は体部上半に格子目のタタキ痕が残り，下半は縦方向の板ナデである。

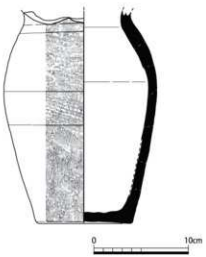


図93　埋納容器実測図（1：4）

出土銭　枚数は全部で757枚である。含まれていた銭貨の種類と枚数は表4～13に示している。江戸時代の寛永通寶および幕末の文久永寶が各1枚含まれるが，全体数量からすると極めて少量であり，発見から今日に至るまでに混入したものとみて大過ないであろう。埋納状況が分からないため，緡銭の状態であったかどうかも不明だが，97枚程度を一緡とする当時の慣習から考えれば，当初は800枚弱程度が埋納されていた可能性がある。最古のものはA.D.7年初鋳の新の貨泉（No.662）で，最も新しいものは南宋代1208年初鋳の嘉定通寶である。このため，埋納年代の上限は13世紀前半となる。埋納銭の量的主体を占めるのは11世紀の北宋銭であり，11世紀の銭貨は全体の3分の2，北宋銭は全体の80％近くを占めている。多少の散逸があるため，これが本来の組成ではないものの，この傾向が大きく変わることはないと考えられる。希少銭としては，貨泉のほかに五銖銭（No.742）が含まれている。

鈴木公雄氏による備蓄銭の時期区分[1]では，最も早い1期（13世紀第4四半期から14世紀第1四半期）の年代決定銭種として，1253年初鋳の皇宋元寶，1260年初鋳の景定元寶，1266年初鋳の咸淳元寶が挙げられているが，これらよりも古い初鋳年の銭種しか含まれていない。鈴木氏は「出土銭貨総量が数千枚以下の小規模な備蓄銭においては，年代決定銭種のなかで存在量の少ない銭種が欠落する場合がある」としており，今回の出土銭内容のみで時期区分を適用するのは危険がある。それでも，埋納容器が十瓶山窯系の須恵器であることから，埋納時期が13世紀を大きく下るとは考えがたく，構成銭種がおおよその時期を反映し，13世紀のうちには収まるものと考えたい。

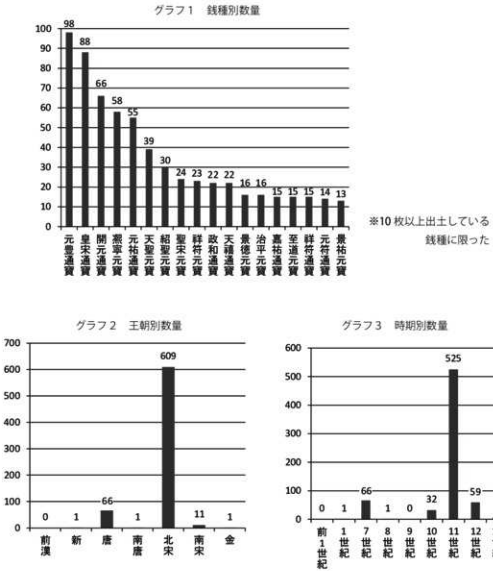


図94　数量グラフ

5　まとめ

今回の出土銭は，不時発見である上，発見から年月が経っているため，不明な点も多いが，これまで遺跡の知られていなかった地域において見つかった意義は大きい。八瀬地域は文献史料中では古くから現れるにもかかわらず，考古学的な情報は皆無に近い。今後，八瀬の歴史が，遺跡からも明らかになることが期待される。

壺の産地は讃岐である可能性が高く，平安京域では報告事例こそ少ないものの，一定量が流通していたものと考えられる。八瀬地域まで含めた流通様相は明らかではなく，注目すべき資料である。また，口縁部を欠いているとはいえ，良好な状態で出土しており，出土銭の年代から上限年代が明らかな点でも好資料といえよう。

京都市内でこれまでに発見された出土銭としては，市指定有形文化財となった38,462枚の鞍馬二ノ瀬町出土銭[2]や，７～８万枚と推定される寺町旧域出土銭[3]など数万枚規模の出土銭が知られ

る。今回の出土銭は多少の散逸があるとはいえ，1000枚以下の数量である。この数量の意味するところは全国の資料との比較検討が必要だが，今回の資料は埋納容器もそれほど大きくはなく，当初からこの数量での埋納を意図したことが確実である。京郊域における少量埋納の一例として，資料に供したい。

なお，本資料は整理作業後，連絡者へと返却している。また，発見地点は埋蔵文化財包蔵地として周知する予定である。

（新田　和央）

註

1）鈴木公雄，「第１部　出土備蓄銭」，『出土銭貨の研究』，東京大学出版会，1999年

2）梶川敏夫・近藤章子，「鞍馬二ノ瀬町埋蔵銭出土地」，『京都市内遺跡発掘調査概報』平成10年度，京都市文化市民局，1999年

近藤章子，「鞍馬二ノ瀬町埋蔵銭出土地」，『京都市埋蔵文化財調査概要』平成10年度，（財）京都市埋蔵文化財研究所，2000年

3）持田透・小池智美，『寺町旧域』イビソク京都市内遺跡調査報告　第10輯，2014年

参考文献

永井久美男，『新版　中世出土銭の分類図版』，高志書院，2002年

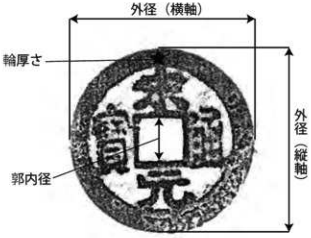


図95　計測箇所模式図

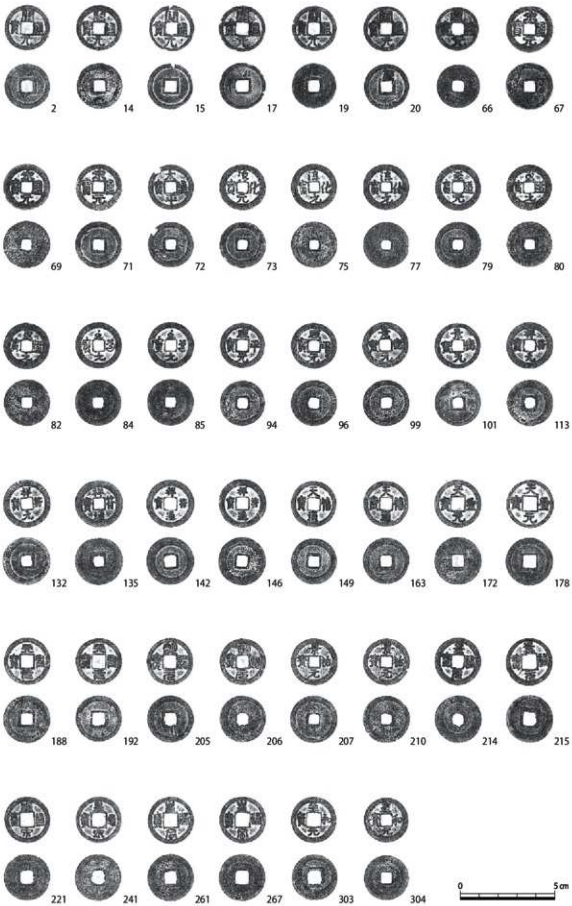


図96　出土銭拓本1（1：2）

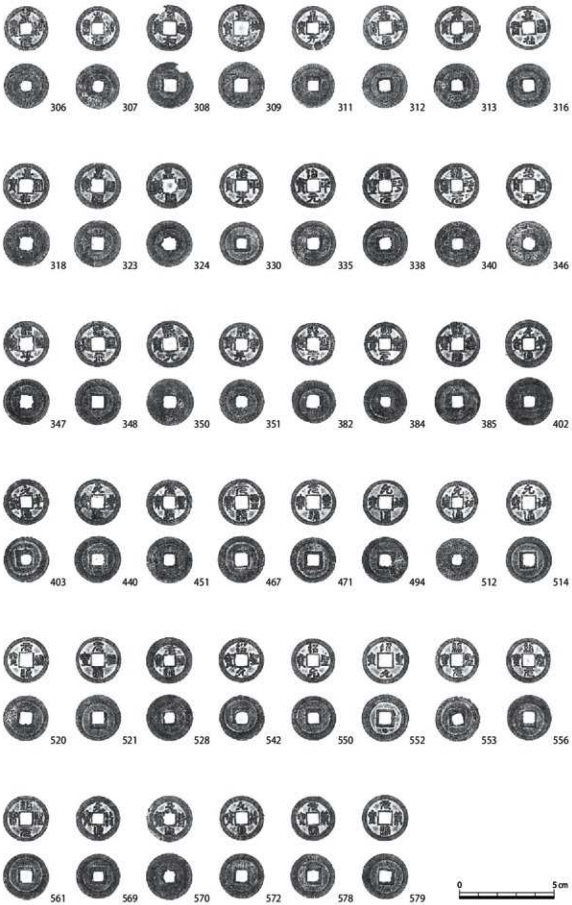


図97　出土銭拓本２（１：２）

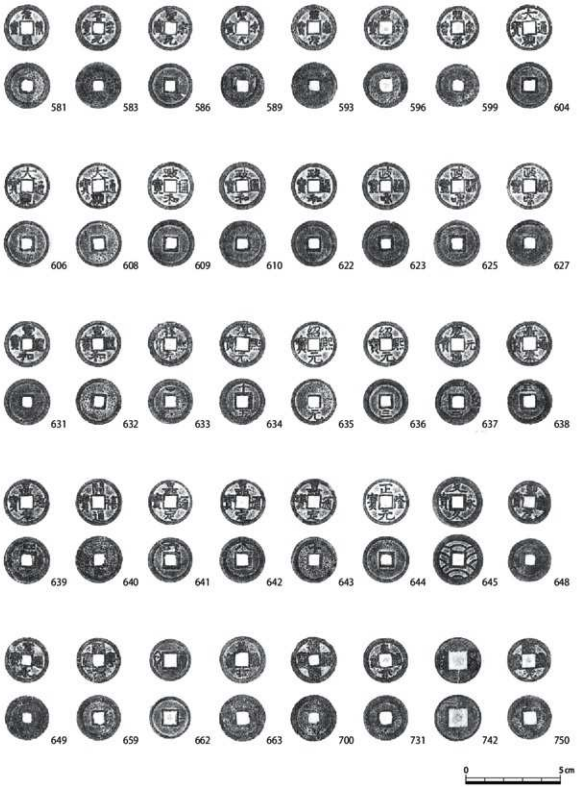


図98　出土銭拓本3（1：2）

表4　銭貨一覧表1

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	1	開元通寶	真書	良	25	25	7	0.9	3.2	背上月		621(唐)
○	2	開元通寶	真書	良	24	24	7	1.1	3.5	背上月		
	3	開元通寶	真書	良	24	24	7	0.8	2.7	背上月		
	4	開元通寶	真書	良	25	25	7	1.2	4.0	背上月		
	5	開元通寶	真書	良	24	24	7	1.0	2.9	背上月		
	6	開元通寶	真書	良	24	24	6	0.9	3.0	背上月		
	7	開元通寶	真書	可	25	25	7	1.2	3.9	背上月		
	8	開元通寶	真書	良	25	(21)	6.5	0.9	2.7	背上月	欠	
	9	開元通寶	真書	良	25	25	7	1.0	3.1	背上月		
	10	開元通寶	真書	良	24	24	7	0.9	2.9	背上月		
	11	開元通寶	真書	良	25.5	25.5	7	1.1	3.7	背上月		
	12	開元通寶	真書	可	25	25	7	1.2	3.4	背上月		
	13	開元通寶	真書	良	25	25	6.5	1.1	3.5	背上月		
○	14	開元通寶	真書	可	25	24	6	1.0	3.5	背下月		
○	15	開元通寶	真書	良	25	25	6	1.2	2.9	通下月	欠	
	16	開元通寶	真書	可	24	24	6.5	1.2	4.5	背左月		
○	17	開元通寶	真書	可	25	25	7	1.2	3.8	背左月		
	18	開元通寶	真書	良	24	24	7	1.0	2.8	背横線		
○	19	開元通寶	真書	良	24	24	7	1.0	2.9	背上月？		
○	20	開元通寶	真書	良	24	24	6	1.3	3.7	背上文字		
	21	開元通寶	真書	可	24	24	6	1.1	2.9	背上文字		
	22	開元通寶	真書	可	25	25	6	1.0	3.3			
	23	開元通寶	真書	良	25	25	7	1.2	3.4			
	24	開元通寶	真書	良	25	25	7	0.9	3.4			
	25	開元通寶	真書	可	25	25	7	0.8	3.1			
	26	開元通寶	真書	良	25	25	7	0.8	2.9			
	27	開元通寶	真書	良	25	25	7	0.9	3.2			
	28	開元通寶	真書	良	25	25	6	1.1	3.4			
	29	開元通寶	真書	良	24	23.5	6.5	0.7	2.9			
	30	開元通寶	真書	良	24	24	6	1.0	2.9			
	31	開元通寶	真書	可	25	25	7	1.1	3.0			
	32	開元通寶	真書	良	25	25	7	0.9	3.6			
	33	開元通寶	真書	良	25	25	6.5	1.2	3.7			
	34	開元通寶	真書	良	23	23	7	0.7	2.7			
	35	開元通寶	真書	良	25	25	6	0.9	3.5			
	36	開元通寶	真書	良	25	25	7	0.7	2.8			
	37	開元通寶	真書	良	24.5	24	6	1.0	3.0			
	38	開元通寶	真書	可	24	24	6	1.1	3.1			
	39	開元通寶	真書	良	25	25	7	1.0	3.3			
	40	開元通寶	真書	可	24	24	7	0.9	3.1			
	41	開元通寶	真書	可	24	24	7	0.9	3.1			
	42	開元通寶	真書	良	24	24	6.5	0.9	3.1			
	43	開元通寶	真書	可	25	25	7	1.0	3.8			
	44	開元通寶	真書	可	26	24	6	0.9	4.0		欠	
	45	開元通寶	真書	良	24	24	6.5	1.0	3.1			
	46	開元通寶	真書	可	24	24	7	1.0	3.3			
	47	開元通寶	真書	良	25	25	7	0.9	3.3			
	48	開元通寶	真書	良	25	25	7	0.7	3.0			
	49	開元通寶	真書	可	24.5	24.5	7.5	0.7	2.3			
	50	開元通寶	真書	良	25	25	7	1.0	3.2			
	51	開元通寶	真書	可	23	23	7	1.0	3.1			
	52	開元通寶	真書	良	24	24	7	0.9	2.8		欠	
	53	開元通寶	真書	良	25	25	6	1.1	3.5			
	54	開元通寶	真書	良	25	25	7	0.9	3.5			
	55	開元通寶	真書	良	24	24	7	0.9	2.8			
	56	開元通寶	真書	良	24	24	7	0.9	2.9			
	57	開元通寶	真書	良	24.5	24.5	7	0.9	3.1			
	58	開元通寶	真書	良	24	24	6	0.9	3.1			
	59	開元通寶	真書	良	24	24	7	1.1	3.5			
	60	開元通寶	真書	良	24	24	6	0.9	3.2		欠	

表5　銭貨一覧表2

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	61	開元通寶	真書	良	24	24	7	0.7	2.7			621(唐)
	62	開元通寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	3.1			
	63	開元通寶	真書	良	25	25	6	1.0	4.1			
	64	開元通寶	真書	良	23.5	23.5	6	1.2	3.4			
	65	開元通寶	真書	良	24	24	6	0.9	3.2			
○	66	乾元重寶	真書	良	23	23	6	0.7	2.7			758(唐)
○	67	宋通元寶	真書	良	25	25	6	1.1	3.7			960(北宋)
	68	宋通元寶	真書	良	25	25	6	0.9	3.8			
○	69	宋通元寶	真書	良	25	25	6	0.8	3.2			
	70	宋通元寶	真書	良	24	24	6	0.8	2.8			
○	71	宋通元寶	真書	良	25	25	6	0.9	3.7			
○	72	太平通寶	真書	良	24	24	6	0.9	3.3			976(北宋)
○	73	淳化元寶	真書	良	25	25	5	0.9	3.4			990(北宋)
	74	淳化元寶	行書	良	25	25	5	1.0	3.3			
○	75	淳化元寶	行書	良	25	25	5	1.1	4.0			
	76	淳化元寶	行書	可	25	25	5.5	0.9	3.5			
○	77	淳化元寶	行書	良	25	25	5	0.9	3.9			
	78	至道元寶	真書	良	25	25	6	0.8	3.0		割れ	995(北宋)
○	79	至道元寶	真書	良	25	25	6	.9	3.5			
○	80	至道元寶	行書	良	25	25	5	0.9	3.7			
	81	至道元寶	行書	良	25	25	6	0.9	4.0			
○	82	至道元寶	行書	良	25	25	6	0.9	3.6			
	83	至道元寶	草書	良	25	25	6	0.9	3.2		欠	
○	84	至道元寶	草書	良	25	25	6	1.0	3.8			
○	85	至道元寶	草書	良	25	25	6	0.9	3.6			
	86	至道元寶	草書	可	25	25	6	0.9	3.9			
	87	至道元寶	草書	良	25	25	6	0.9	4.0			
	88	至道元寶	草書	良	25	25	6	0.9	4.1			
	89	至道元寶	草書	可	24	25	6	1.2	3.6		欠	
	90	至道元寶	草書	良	25	25	6	1.0	3.9			
	91	至道元寶	草書	良	25	25	6	1.2	3.7			
	92	至道元寶	草書	良	25	24	6	0.8	3.6			
	93	咸平元寶	真書	可	25	25	6	0.9	4.0		欠	998(北宋)
○	94	咸平元寶	真書	良	24	24	6	0.9	3.4		欠	
	95	咸平元寶	真書	良	25	25	5	1.3	4.0		欠	
○	96	咸平元寶	真書	良	25	25	6	0.9	3.5			
	97	咸平元寶	真書	良	25	25	6	1.0	3.9			
	98	景德元寶	真書	良	25	25	6	1.3	4.3			1004(北宋)
○	99	景德元寶	真書	良	25	25	6	0.9	3.6			
	100	景德元寶	真書	良	25	25	6	1.0	4.2			
○	101	景德元寶	真書	良	25	25	6	0.9	4.1			
	102	景德元寶	真書	良	25	25	6	1.1	3.8			
	103	景德元寶	真書	良	25	25	7	1.1	3.5			
	104	景德元寶	真書	良	25	25	6	0.9	3.8			
	105	景德元寶	真書	良	24.5	25	6	0.9	3.5			
	106	景德元寶	真書	可	25.5	25.5	7	0.9	3.6			
	107	景德元寶	真書	可	25	25	6	1.2	3.6			
	108	景德元寶	真書	良	25	25	6	1.1	4.0			
	109	景德元寶	真書	良	25	25	6	0.9	3.6			
	110	景德元寶	真書	良	25	25	6	1.0	3.9			
	111	景德元寶	真書	可	25	25	6	0.9	3.6			
	112	景德元寶	真書	良	22	22.5	6	1.1	3.3			
○	113	祥符元寶	真書	良	25	25	6	0.8	3.5			1008(北宋)
	114	祥符元寶	真書	良	25	25	5	0.7	3.6			
	115	祥符元寶	真書	良	25	25	6	1.3	4.3			
	116	祥符元寶	真書	良	25	25	6	1.0	3.8			
	117	祥符元寶	真書	良	25	25	6	1.0	3.7			
	118	祥符元寶	真書	良	25.5	25.5	5.5	0.8	3.8			
	119	祥符元寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.0	2.8			
	120	祥符元寶	真書	可	26	26	5	0.9	4.0			

表6　銭貨一覧表3

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	121	絳符元寶	真書	良	25	25	6	1.3	3.9			1008(北宋)
	122	絳符元寶	真書	良	25	25	6	1.1	3.6			
	123	絳符元寶	真書	良	25	25	6	0.9	4.1			
	124	絳符元寶	真書	良	25	25	6	0.9	3.8			
	125	絳符元寶	真書	良	25	25	5.5	0.9	4.6			
	126	絳符元寶	真書	良	23	23	6	0.8	3.0			
	127	絳符元寶	真書	可	25.5	25.5	5	0.8	4.1			
	128	絳符元寶	真書	良	25	25	6	0.8	2.9			
	129	絳符元寶	真書	良	25.5	25.5	5	1.2	5.6		割れ	
	130	絳符元寶	真書	可	25	24.5	6	1.2	5.1			
	131	絳符元寶	真書	良	23	23	6	0.8	2.6			
○	132	絳符元寶	真書	良	25	25	6	0.9	3.6			
	133	絳符元寶	真書	良	25	25	6	0.8	3.7			
	134	絳符元寶	真書	良	25	25	6	0.9	4.1			
○	135	絳符通寶	真書	良	25	26	6	0.9	4.1			1008(北宋)
	136	絳符通寶	真書	良	25	25.5	6	0.9	3.6			
	137	絳符通寶	真書	良	26	25.5	6	1.1	3.3			
	138	絳符通寶	真書	良	26	26	7	1.0	4.4			
	139	絳符通寶	真書	可	23	23.5	6	0.7	1.6	背下横線	欠	
	140	絳符通寶	真書	可	25	(21)	6	0.6	3.0		欠	
	141	絳符通寶	真書	良	25	25	6.5	0.9	3.6			
○	142	絳符通寶	真書	良	26	26	0.7	1.0	3.2			
	143	絳符通寶	真書	良	26	26	0.6	1.0	4.2			
	144	絳符通寶	真書	良	25	25	6	1.1	3.2		欠	
	145	絳符通寶	真書	良	25	25	6	1.1	3.6			
○	146	絳符通寶	真書	良	26	26	6	1.1	3.8			
	147	絳符通寶	真書	良	25	25	7	1.0	3.4			
	148	絳符通寶	真書	可	25	25	6	1.2	4.4			
○	149	天禧通寶	真書	良	24	24	6	1.3	4.6			1017(北宋)
	150	天禧通寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.2	4.0			
	151	天禧通寶	真書	良	25	25	6	0.9	3.6			
	152	天禧通寶	真書	良	26	26	7	0.9	4.0			
	153	天禧通寶	真書	良	25.5	25.5	6	1.2	4.0			
	154	天禧通寶	真書	良	25	25	6	1.1	3.6			
	155	天禧通寶	真書	可	26	26	7	0.9	3.6			
	156	天禧通寶	真書	良	26	25.5	6	1.0	3.3			
	157	天禧通寶	真書	良	25	25	6	1.2	3.8			
	158	天禧通寶	真書	良	24	24	6.5	1.1	4.0			
	159	天禧通寶	真書	良	23	22.5	6.5	1.2	3.2			
	160	天禧通寶	真書	可	24	24.5	6	0.9	3.5			
	161	天禧通寶	真書	良	26	26	6.5	0.9	4.0			
	162	天禧通寶	真書	可	24.5	24.5	6	1.4	4.5			
○	163	天禧通寶	真書	良	25	25	6.5	0.9	3.4	背下一(細か)		
	164	天禧通寶	真書	良	25.5	25.5	6.5	1.1	3.9			
	165	天禧通寶	真書	良	23.5	23.5	6.5	1.0	3.6			
	166	天禧通寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.2	4.0			
	167	天禧通寶	真書	良	25	25	6.2	0.9	3.4			
	168	天禧通寶	真書	可	24	23	6.5	1.1	3.1			
	169	天聖元寶	真書	良	25	25	6.5	1.3	4.1			1023(北宋)
	170	天聖元寶	真書	良	25	25.5	6	1.2	4.2			
	171	天聖元寶	真書	良	25	25	6.5	1.2	3.9			
○	172	天聖元寶	真書	良	25.5	25.5	7	1.2	4.0			
	173	天聖元寶	真書	良	25	25	7	1.3	4.2			
	174	天聖元寶	真書	良	25	24.5	5.5	1.2	4.2		欠	
	175	天聖元寶	真書	良	25.5	25.5	7	0.9	3.6			
	176	天聖元寶	真書	良	25	25	7	1.2	4.1			
	177	天聖元寶	真書	良	25	25	7.5	0.9	3.2			
○	178	天聖元寶	真書	良	25.5	25.5	7	1.1	4.1			
	179	天聖元寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.2	3.8			
	180	天聖元寶	真書	可	24.5	24.5	6.5	1.1	3.9			

表7　銭貨一覧表4

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	181	天聖元寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.1	4.2			1023(北宋)
	182	天聖元寶	真書	良	25	25	7	0.9	3.1			
	183	天聖元寶	真書	良	25	25	6.5	0.9	3.7			
	184	天聖元寶	真書	良	24	24	6	0.9	3.4			
	185	天聖元寶	真書	良	25.5	25.5	6.5	1.3	4.3			
	186	天聖元寶	真書	良	25.5	25	7	1.1	4.1			
	187	天聖元寶	真書	良	25	25	7	0.9	3.6			
○	188	天聖元寶	篆書	良	25.5	25.5	6	1.0	3.6			
	189	天聖元寶	篆書	良	24.5	24.5	6	1.1	4.5			
	190	天聖元寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.0	3.9			
	191	天聖元寶	篆書	良	25	25	7	1.0	3.6			
○	192	天聖元寶	篆書	良	25	25	7	1.2	3.7			
	193	天聖元寶	篆書	良	25	25	7	1.1	4.1			
	194	天聖元寶	篆書	良	25	25	7	0.9	3.4			
	195	天聖元寶	篆書	良	25.5	25	7	1.0	4.1			
	196	天聖元寶	篆書	良	25	25	6	1.0	4.3			
	197	天聖元寶	篆書	良	25	(24.5)	6	1.0	3.3		欠	
	198	天聖元寶	篆書	良	25	24.5	6.5	1.2	3.5			
	199	天聖元寶	篆書	良	24.5	24.5	6	1.0	3.7			
	200	天聖元寶	篆書	良	25	25	6	1.0	4.0		欠	
	201	天聖元寶	篆書	良	25	25	6	1.0	3.9			
	202	天聖元寶	篆書	良	24.5	25	6	1.1	3.9			
	203	天聖元寶	篆書	可	25	25	7.5	1.0	4.3			
	204	天聖元寶	篆書	良	24.5	2.4	7	1.1	4.0			
○	205	明道元寶	篆書	良	25	25	7	1.0	3.7			1032(北宋)
○	206	明道元寶	篆書	良	25	25	7	0.9	3.9			
○	207	景祐元寶	真書	良	25	25	5.5	0.9	3.6			1034(北宋)
	208	景祐元寶	真書	良	25	25	7	1.4	4.2			
	209	景祐元寶	真書	良	25	25	7	1.6	4.7			
○	210	景祐元寶	真書	良	25	25	6	1.1	3.6			
	211	景祐元寶	真書	良	25.5	25.5	6	0.9	3.2			
	212	景祐元寶	真書	可	24.5	25.5	5.5	0.9	3.1			
	213	嘉祐元寶	真書	可	23.5	23.5	7	1.4	3.7			1056(北宋)
○	214	景祐元寶	篆書	良	25.5	25.5	7	1.1	4.5			1034(北宋)
○	215	景祐元寶	篆書	良	25.5	25.5	7.5	1.0	3.8			
	216	景祐元寶	篆書	良	25	25.5	6	1.2	3.9			
	217	景祐元寶	篆書	可	25	25	7	0.9	3.1			
	218	景祐元寶	篆書	良	25.5	25.5	7	1.2	3.9			
	219	景祐元寶	篆書	可	25.5	25.5	7	0.9	3.5			
	220	皇宋通寶	真書	良	25	25	7.5	1.2	4.0			1037(北宋)
○	221	皇宋通寶	真書	良	24.5	25	7.5	1.0	3.3			
	222	皇宋通寶	真書	良	25	25	7	1.3	4.5			
	223	皇宋通寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.0	3.9			
	224	皇宋通寶	真書	良	25	25.5	7	1.1	3.6			
	225	皇宋通寶	真書	良	25.5	25	7	1.1	3.2			
	226	皇宋通寶	真書	良	25	25	7	1.0	4.1			
	227	皇宋通寶	真書	良	25	25	7	1.1	4.1			
	228	皇宋通寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	1.2	3.8			
	229	皇宋通寶	真書	良	25	24.5	7.5	1.1	3.6			
	230	皇宋通寶	真書	良	24	24	6.5	0.9	3.4			
	231	皇宋通寶	真書	良	25	24.5	7	1.0	3.6			
	232	皇宋通寶	真書	良	24.5	24.5	7	1.1	3.0			
	233	皇宋通寶	真書	良	25	25	6.5	1.2	4.1			
	234	皇宋通寶	真書	良	23	23	6	1.2	3.5			
	235	皇宋通寶	真書	良	24.5	24.5	7	0.9	3.1			
	236	皇宋通寶	真書	良	25	25	8	1.1	4.2			
	237	皇宋通寶	真書	良	24	24	6.5	1.2	4.0			
	238	皇宋通寶	真書	可	24.5	24	7	1.2	3.6			
	239	皇宋通寶	真書	可	24.5	24.5	7	0.9	3.3			
	240	皇宋通寶	真書	良	25.5	25.5	7	0.9	3.6			

表8　銭貨一覧表5

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
○	241	皇宋通寶	真書	良	2.5	24.5	7.5	0.7	3.0			1037(北宋)
	242	皇宋通寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	0.8	3.8			
	243	皇宋通寶	真書	良	23	23	6	0.9	3.1			
	244	皇宋通寶	真書	良	25	25	6.5	1.0	3.4			
	245	皇宋通寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	0.7	2.7			
	246	皇宋通寶	真書	可	24.5	24.5	7.5	0.7	3.2			
	247	皇宋通寶	真書	可	24.5	24.5	7.5	1.0	3.6			
	248	皇宋通寶	真書	良	25	25	6.5	1.1	3.8			
	249	皇宋通寶	真書	可	25	25	6.5	1.2	3.8			
	250	皇宋通寶	真書	可	25	24.5	7	1.0	3.8			
	251	皇宋通寶	真書	可	24.5	24.5	7	0.9	3.5			
	252	皇宋通寶	真書	可	25	25	7	1.2	4.1			
	253	皇宋通寶	真書	可	24	24	6	0.9	4.0			
	254	皇宋通寶	真書	可	24.5	24.5	7	0.9	3.5			
	255	皇宋通寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.4	4.4			
	256	皇宋通寶	真書	可	25	25	7	1.1	3.9			
	257	皇宋通寶	真書	可	25.5	25.5	7	0.9	4.1			
	258	皇宋通寶	真書	良	25	25	7	1.3	4.0			
	259	皇宋通寶	真書	良	24.5	24.5	7	0.9	3.2			
	260	皇宋通寶	篆書	良	25	25	7.5	1.1	3.7			
○	261	皇宋通寶	篆書	良	25	25	7	0.9	3.7			
	262	皇宋通寶	篆書	良	25	25	7	0.8	3.0			
	263	皇宋通寶	篆書	良	24.5	25	7.5	0.8	3.4			
	264	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24	6.5	0.6	2.7			
	265	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	7.5	0.8	3.3		欠	
	266	皇宋通寶	篆書	良	25	24	6.5	1.0	3.3		欠	
○	267	皇宋通寶	篆書	良	25	25	7.5	0.9	3.6			
	268	皇宋通寶	篆書	良	25	25	6.5	1.0	4.1			
	269	皇宋通寶	篆書	良	25	25	7	0.9	3.5		欠	
	270	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	3.3			
	271	皇宋通寶	篆書	可	24.5	24.5	7	1.0	4.0			
	272	皇宋通寶	篆書	良	25	25	6.5	1.0	4.0			
	273	皇宋通寶	篆書	良	25	25	7	0.9	4.0			
	274	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	0.8	2.5		欠	
	275	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	3.6			
	276	皇宋通寶	篆書	可	24.5	24.5	7	1.0	4.1			
	277	皇宋通寶	篆書	可	24	24	7	1.0	4.1			
	278	皇宋通寶	篆書	可	25.5	24.5	6.5	1.2	5.5			
	279	皇宋通寶	篆書	可	24.5	24.5	6.5	1.2	3.7			
	280	皇宋通寶	篆書	可	25	25	6	1.1	4.0			
	281	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	8	0.7	2.9			
	282	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.3	4.3			
	283	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.0	3.8			
	284	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.0	3.5			
	285	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	0.9	3.7			
	286	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	6	1.0	3.8			
	287	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	3.4			
	288	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	8	0.8	2.7			
	289	皇宋通寶	篆書	良	25	25	7	1.0	3.5			
	290	皇宋通寶	篆書	良	25	25	7	1.0	3.9			
	291	皇宋通寶	篆書	良	25	25	7	0.7	3.0			
	292	皇宋通寶	篆書	良	25	25	7	1.0	3.6			
	293	皇宋通寶	篆書	良	25	24.5	7	0.9	3.4			
	294	皇宋通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.0	4.0			
	295	皇宋通寶	篆書	可	24	24	6.5	0.9	3.1			
	296	皇宋通寶	篆書	可	24.5	24.5	7.5	0.9	3.6			
	297	皇宋通寶	篆書	可	25	25	8.5	0.9	3.8			
	298	皇宋通寶	篆書	可	25	25	7.5	1.2	4.0			
	299	皇宋通寶	篆書	可	24.5	25	7.5	0.8	3.4		欠	
	300	皇宋通寶	真書	可	24.5	24.5	6.5	1.0	4.2			

表9　銭貨一覧表6

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	301	皇宋通寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	1.2	4.3			1037(北宋)
	302	皇宋通寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	3.8			
○	303	至和元寶	真書	良	24.5	24.5	7.5	1.0	3.3			1054(北宋)
○	304	至和元寶	真書	良	24	23.5	6	1.1	4.1			
	305	至和元寶	真書	良	24	24	6	1.3	4.7			
○	306	至和元寶	篆書	良	23.5	24	6.5	1.4	4.4			
○	307	至和元寶	篆書	良	24	23.5	6.5	0.9	3.7			
○	308	至和通寶	真書	良	25	24.5	7	0.8	3.1		欠	1054(北宋)
○	309	嘉祐元寶	真書	良	25	25	7.5	0.9	3.8			1056(北宋)
	310	嘉祐元寶	真書	良	23	23	6	0.9	3.0			
○	311	嘉祐元寶	真書	良	23	23	6	0.9	3.5			
○	312	嘉祐元寶	篆書	良	23.5	24	6.5	1.0	3.8			
○	313	嘉祐元寶	篆書	良	24	24.5	6	1.1	3.8			
	314	嘉祐元寶	篆書	良	23	23	6	0.8	3.3			
	315	景祐元寶	真書	良	24.5	24.5	6	0.7	3.4			
○	316	嘉祐通寶	真書	良	23.5	23.5	6.5	1.0	4.0			1056(北宋)
	317	嘉祐通寶	真書	良	24.5	24.5	7	1.0	3.4			
○	318	嘉祐通寶	真書	良	24.5	24.5	7	1.1	4.0			
	319	嘉祐通寶	真書	良	23.5	23.5	6.5	1.2	4.1			
	320	嘉祐通寶	真書	良	25	25	7.5	1.1	4.0			
	321	嘉祐通寶	真書	良	23.5	23.5	7	1.3	4.2			
	322	嘉祐通寶	真書	可	24.5	24.5	7	1.1	4.0			
○	323	嘉祐通寶	篆書	良	25	25.5	7	1.0	3.8			
○	324	嘉祐通寶	篆書	良	24.5	24.5	8	1.0	3.6		欠	
	325	嘉祐通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.0	3.8			
	326	嘉祐通寶	篆書	良	25	25	7	0.9	3.7			
	327	嘉祐通寶	篆書	良	25.5	25.5	7	0.7	3.0			
	328	嘉祐通寶	篆書	良	25	25.5	7	1.0	3.7			
	329	嘉祐元寶	篆書	良	25	25	8	1.1	3.7			1056(北宋)
○	330	治平元寶	真書	良	23.5	23.5	6	1.4	4.2			1064(北宋)
	331	治平元寶	真書	良	24	24.5	6.5	1.3	4.1			
	332	治平元寶	真書	良	23.5	23.5	6	1.0	3.7			
	333	治平元寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	1.1	3.5			
	334	治平元寶	真書	良	24	24	6	1.3	4.7			
○	335	治平元寶	真書	良	24	24	7	1.2	4.1			
	336	治平元寶	真書	良	24	24	6	1.1	4.3			
	337	治平元寶	真書	可	24.5	24.5	6	0.9	3.7			
○	338	治平元寶	篆書	良	24	24	6.5	1.0	4.3			
	339	治平元寶	篆書	良	23	23.5	6	0.9	3.4			
○	340	治平元寶	篆書	良	24	24	6	1.1	4.5			
	341	治平元寶	篆書	良	23	23	6	1.0	3.1			
	342	治平元寶	篆書	良	24.5	24	6.5	1.1	3.9			
	343	治平元寶	篆書	良	23.5	23.5	6	1.4	4.4			
	344	治平元寶	篆書	良	24.5	24.5	6	1.2	4.2			
	345	治平元寶	篆書	良	23.5	23.5	6	1.3	3.2			
○	346	治平通寶	真書	良	24	24	6.5	1.0	3.5			1056(北宋)
○	347	治平通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.3	4.0			
○	348	治平通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.1	3.7			
	349	熙寧元寶	真書	良	25	25	6.5	1.0	4.2			1068(北宋)
○	350	熙寧元寶	真書	良	25	25	7	1.0	3.8			
○	351	熙寧元寶	真書	良	23.5	24	6.5	1.0	3.4			
	352	熙寧元寶	真書	良	24.5	24.5	8	0.9	3.2			
	353	熙寧元寶	真書	良	25	25	7	0.9	3.4			
	354	熙寧元寶	真書	良	25	25	6.5	0.9	4.1			
	355	熙寧元寶	真書	良	24	23.5	5.5	1.4	4.2			
	356	熙寧元寶	真書	良	24	24	6.5	1.5	5.3			
	357	熙寧元寶	真書	良	23.5	23.5	7	1.2	3.7		欠	
	358	熙寧元寶	真書	良	24	24.5	6	1.1	4.0			
	359	熙寧元寶	真書	良	25	25	7	1.0	3.7			
	360	熙寧元寶	真書	良	24	24	7	0.9	3.9			

表10　銭貨一覧表7

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	361	熙寧元寶	真書	良	24	24.5	7	0.8	3.4			1068(北宋)
	362	熙寧元寶	真書	良	24	24	7	1.0	4.2			
	363	熙寧元寶	真書	良	24	24	6	1.2	4.0			
	364	熙寧元寶	真書	良	24	24	6.5	1.1	3.9			
	365	熙寧元寶	真書	良	24	24	6.5	1.3	4.0			
	366	熙寧元寶	真書	良	24	24	7	0.7	2.9			
	367	熙寧元寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.2	4.2			
	368	熙寧元寶	真書	良	23.5	24	7	1.2	3.7			
	369	熙寧元寶	真書	良	24	(2.2)	6.5	0.9	3.9		欠	
	370	熙寧元寶	真書	良	25	25	6.5	0.9	4.3			
	371	熙寧元寶	真書	良	23.5	23.5	7	1.0	3.3			
	372	熙寧元寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	3.7			
	373	熙寧元寶	真書	良	23.5	23.5	5.5	0.9	3.7			
	374	熙寧元寶	真書	良	23.5	24	7	0.9	3.4			
	375	熙寧元寶	真書	良	23.5	23.5	6	1.2	3.7			
	376	熙寧元寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.2	4.2			
	377	熙寧元寶	真書	良	24.5	24.5	5.5	0.9	3.3			
	378	熙寧元寶	真書	良	24	24	7	1.1	4.0		欠	
	379	熙寧元寶	真書	可	24	23.5	6	1.0	3.6			
	380	熙寧元寶	篆書	良	23.5	23.5	6.5	1.2	4.1			
	381	熙寧元寶	篆書	良	23.5	23.5	6.5	1.1	3.6			
○	382	熙寧元寶	篆書	良	23	23.5	7	1.0	3.5			
	383	熙寧元寶	篆書	良	25	25	6.5	1.1	5.0			
○	384	熙寧元寶	篆書	良	23	23	5.5	1.0	3.9			
○	385	熙寧元寶	篆書	良	24	24.5	6.5	1.2	3.6			
	386	熙寧元寶	篆書	良	24	24	7.5	1.1	3.6			
	387	熙寧元寶	篆書	良	24	24.5	6.5	1.3	4.4			
	388	熙寧元寶	篆書	良	23.5	24	7	1.2	4.1			
	389	熙寧元寶	篆書	良	25	25	6.5	0.8	3.4			
	390	熙寧元寶	篆書	良	24	23.5	6.5	0.9	3.2			
	391	熙寧元寶	篆書	良	24	24.5	7	0.9	3.7			
	392	熙寧元寶	篆書	可	24	23.5	7	1.2	3.6			
	393	熙寧元寶	篆書	可	25	25	6	0.9	3.7			
	394	熙寧元寶	篆書	良	23.5	23.5	6	1.0	3.4			
	395	熙寧元寶	篆書	良	24.5	24.5	6	0.7	2.8			
	396	熙寧元寶	篆書	良	24	24	7	0.8	3.3			
	397	熙寧元寶	篆書	可	24	24	6.5	0.9	3.5			
	398	熙寧元寶	篆書	良	24	23.5	7	0.8	3.9			
	399	熙寧元寶	篆書	良	23.5	23.5	6	0.8	3.6			
	400	熙寧元寶	篆書	良	24	24	6.5	1.0	3.9			
	401	熙寧元寶	篆書	良	23.5	23.5	6.5	0.6	3.0			
○	402	元豐通寶	行書	良	25.5	25.5	6	1.0	3.9			1078(北宋)
○	403	元豐通寶	行書	良	24	24	5.5	1.2	4.3			
	404	元豐通寶	行書	良	24	24	7	1.2	3.7			
	405	元豐通寶	行書	良	24.5	24.5	6.5	1.0	4.1			
	406	元豐通寶	行書	良	23.5	23.5	5.5	0.8	3.3			
	407	元豐通寶	行書	良	24	24	6.5	0.9	3.6			
	408	元豐通寶	行書	良	24	24	6.5	1.0	3.8			
	409	元豐通寶	行書	良	24.5	24.5	6	0.9	3.8			
	410	元豐通寶	行書	良	23.5	23.5	5.5	1.2	3.9			
	411	元豐通寶	行書	良	25	25	6.5	0.7	3.4			
	412	元豐通寶	行書	良	23.5	23.5	5.5	1.0	3.9			
	413	元豐通寶	行書	良	24	24	7	0.8	3.4			
	414	元豐通寶	行書	良	25.5	25.5	6.5	1.3	5.1			
	415	元豐通寶	行書	良	25	25	6	1.3	4.3			
	416	元豐通寶	行書	良	23.5	23.5	6	1.1	4.0			
	417	元豐通寶	行書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	3.6			
	418	元豐通寶	行書	良	25	25	6.5	1.0	3.8			
	419	元豐通寶	行書	良	(2.3)	25	7	1.1	3.3		欠	
	420	元豐通寶	行書	可	25	25	6	0.8	4.4			

表11　銭貨一覧表8

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	421	元豊通寶	行書	良	24	24.5	7	1.1	4.3			1078(北宋)
	422	元豊通寶	行書	良	25	25	6.5	1.2	4.4			
	423	元豊通寶	行書	良	24	24	5.5	1.0	4.0			
	424	元豊通寶	行書	可	24	24	6.5	1.0	3.6			
	425	元豊通寶	行書	良	25	25	6	1.0	4.6			
	426	元豊通寶	行書	良	24.5	24.5	6.5	1.1	4.2			
	427	元豊通寶	行書	良	25.5	25.5	6	0.9	3.8			
	428	元豊通寶	行書	可	23.5	24	6.5	1.0	3.7			
	429	元豊通寶	行書	良	24	24	6	1.2	4.2			
	430	元豊通寶	行書	良	25.5	25.5	6	1.0	4.1			
	431	元豊通寶	行書	良	24	24.5	6	1.0	4.3			
	432	元豊通寶	行書	良	24.5	24.5	6.5	1.0	3.8			
	433	元豊通寶	行書	良	23.5	24	5.5	1.2	3.8			
	434	元豊通寶	行書	良	24	24	7	1.3	3.9			
	435	元豊通寶	行書	良	25	25	6.5	1.3	5.1			
	436	元豊通寶	行書	良	24	24	6.5	0.9	3.9			
	437	元豊通寶	行書	良	24.5	24.5	6	1.1	3.5			
	438	元豊通寶	行書	可	24.5	24.5	7	1.0	3.5			
	439	元豊通寶	行書	可	23.5	23.5	6	0.9	3.9			
○	440	元豊通寶	行書	良	25	25	6	0.9	3.7			
	441	元豊通寶	行書	良	25	25	6	1.3	5.6			
	442	元豊通寶	行書	良	24	24	6.5	1.0	3.9			
	443	元豊通寶	行書	良	24	24	6	0.8	3.4			
	444	元豊通寶	行書	良	25	25	6.5	0.9	3.7			
	445	元豊通寶	行書	良	24	24	5.5	0.8	3.7			
	446	元豊通寶	行書	良	24	24.5	6.5	0.9	3.5			
	447	元豊通寶	行書	良	24.5	24.5	6.5	0.8	3.4			
	448	元豊通寶	行書	良	24	23.5	5.5	1.3	4.0			
	449	元豊通寶	行書	良	24	24	6	0.9	3.8			
	450	元豊通寶	篆書	良	24	24	6	1.5	4.8			
○	451	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1	4.3			
	452	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.1	4.1			
	453	元豊通寶	篆書	良	25	25	6	1.0	4.0			
	454	元豊通寶	篆書	良	24	24	6.5	1.1	4.0			
	455	元豊通寶	篆書	良	23	22.5	7	0.9	3.0			
	456	元豊通寶	篆書	良	25	25	7	1.0	4.0			
	457	元豊通寶	篆書	可	23.5	23.5	5	1.1	3.9			
	458	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.2	3.8			
	459	元豊通寶	篆書	良	25	25	6.5	0.9	3.6			
	460	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.1	4.3			
	461	元豊通寶	篆書	良	25	25	7	0.8	3.3			
	462	元豊通寶	篆書	良	24	24.5	6.5	0.9	4.1			
	463	元豊通寶	篆書	良	24	23.5	6.5	0.9	3.3			
	464	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.3	4.1			
	465	元豊通寶	篆書	良	25	25	6	0.7	3.8			
	466	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	3.5			
○	467	元豊通寶	篆書	良	25	25	7	1.0	3.8			
	468	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	0.9	3.9			
	469	元豊通寶	篆書	良	25	25	7	0.8	3.7			
	470	元豊通寶	篆書	良	24.5	25	5.5	1.0	3.7			
○	471	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.1	4.0			
	472	元豊通寶	篆書	良	24	24	6.5	0.9	3.5			
	473	元豊通寶	篆書	可	24.5	24.5	6.5	0.9	3.8			
	474	元豊通寶	篆書	可	24	24	7	1.0	3.9			
	475	元豊通寶	篆書	可	24.5	24.5	7	0.9	3.9			
	476	元豊通寶	篆書	可	25	25	6.5	1.1	3.9			
	477	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.1	4.0			
	478	元豊通寶	篆書	可	24	24	7.5	1.1	3.8			
	479	元豊通寶	篆書	良	24	24	5.5	1.0	3.7			
	480	元豊通寶	篆書	良	23	23	6.5	0.9	2.6			

表12　銭貨一覧表9

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	481	元豊通寶	篆書	良	24	24	6	1.2	4.2			1078(北宋)
	482	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.0	4.0			
	483	元豊通寶	篆書	可	25	25.5	5.5	1.0	4.5			
	484	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	3.7			
	485	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	6	0.9	3.5			
	486	元豊通寶	篆書	良	24.5	24.5	6	0.8	3.3			
	487	元豊通寶	篆書	良	24	24	6	0.9	3.5			
	488	元豊通寶	篆書	良	25	25	7	0.8	3.4			
	489	元豊通寶	篆書	良	25	25	7	1.0	4.2			
	490	元豊通寶	篆書	良	25	25	7	1.0	4.3			
	491	元豊通寶	篆書	良	25	25	7	0.8	4.0			
	492	元豊通寶	篆書	可	24	24	6	1.0	3.9			
	493	元豊通寶	篆書	良	23.5	23.5	6	1.1	3.4			
○	494	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	7	1.2	4.1			1086(北宋)
	495	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	5.5	1.3	4.5			
	496	元祐通寶	行書	良	24	24	6.5	1.1	4.1			
	497	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	6	0.9	4.1			
	498	元祐通寶	行書	良	23.5	23.5	7	1.0	3.3			
	499	元祐通寶	行書	良	25	25	7	1.1	3.7			
	500	元祐通寶	行書	良	24	24.5	6.5	0.9	3.0		欠	
	501	元祐通寶	行書	良	24	24	7	0.9	3.4			
	502	元祐通寶	行書	良	24.5	25	6	0.8	3.7			
	503	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	7	0.8	3.4			
	504	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	6.5	1.0	4.3			
	505	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	7	0.8	3.6			
	506	元祐通寶	行書	良	23	22.5	5.5	0.8	2.8			
	507	元祐通寶	行書	良	23.5	23.5	6	1.3	4.2			
	508	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	6.5	1.1	4.3			
	509	元祐通寶	行書	良	(22)	24.5	6.5	1.0	3.2		欠	
	510	元祐通寶	行書	良	24	24	6	1.0	3.9			
	511	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	4.1			
○	512	元祐通寶	行書	良	22.5	22.5	5.5	0.9	3.3			
	513	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	6	1.1	4.0		欠	
○	514	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	7	0.8	3.0			
	515	元祐通寶	行書	良	24	24.5	6	0.5	2.7			
	516	元祐通寶	行書	良	24.5	25	6	1.0	4.2			
	517	元祐通寶	行書	良	24	24.5	7	1.1	4.2			
	518	元祐通寶	行書	良	24.5	24.5	7	1.2	3.9			
	519	元祐通寶	行書	良	24	24.5	6.5	1.0	4.1			
○	520	元祐通寶	篆書	良	24	24.5	7	1.0	3.9			
○	521	元祐通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	0.9	3.7			
	522	元祐通寶	篆書	良	25	25	7	0.9	3.6			
	523	元祐通寶	篆書	良	25	25	7	0.8	3.0			
	524	元祐通寶	篆書	良	25	25	6.5	0.9	3.3			
	525	元祐通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	0.9	4.0			
	526	元祐通寶	篆書	良	25	25	6	0.9	3.7			
	527	元祐通寶	篆書	良	24	24.5	7	0.8	3.4			
○	528	元祐通寶	篆書	良	24.5	24.5	6	0.9	4.1			
	529	元祐通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.0	3.5			
	530	元祐通寶	篆書	良	24	24	6.5	1.0	3.5			
	531	元祐通寶	篆書	可	24.5	24.5	6.5	1.0	3.9			
	532	元祐通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.0	3.7			
	533	元祐通寶	篆書	良	25	25	6.5	1.1	3.7			
	534	元祐通寶	篆書	良	23.5	24	6	0.9	3.1			
	535	元祐通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.1	3.8			
	536	元祐通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.1	3.9			
	537	元祐通寶	篆書	良	23.5	23.5	6.5	1.0	3.0			
	538	元祐通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.3	3.7			
	539	元祐通寶	篆書	可	25.5	25.5	6	1.1	4.3			
	540	元祐通寶	篆書	良	25	25	6	0.9	4.2			

表13　銭貨一覧表10

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	541	元祐通寶	篆書	良	25	25	6.5	1.1	4.3			1086(北宋)
○	542	紹聖元寶	行書	良	24	24	6.5	1.1	3.8			1094(北宋)
	543	紹聖元寶	行書	良	24	24	6.5	1.2	3.8			
	544	紹聖元寶	行書	良	24.5	24.5	7	1.2	4.3			
	545	紹聖元寶	行書	良	24.5	24.5	6.5	1.0	3.4			
	546	紹聖元寶	行書	良	25	25	6.5	0.9	4.0			
	547	紹聖元寶	行書	良	24	24	6.0	1.1	3.2			
	548	紹聖元寶	行書	良	24	24	6	1.1	4.0			
	549	紹聖元寶	行書	良	24.5	24.5	8	1.1	3.5			
○	550	紹聖元寶	行書	良	23.5	24	6	1.2	3.8			
	551	紹聖元寶	行書	可	24	24	6.5	1.2	3.7			
○	552	紹聖元寶	行書	良	25	25	7	1.0	4.0	背下星	欠	
○	553	紹聖元寶	篆書	良	24	23.5	6	1.3	4.0			
	554	紹聖元寶	篆書	良	24	23.5	6	1.1	3.9			
	555	紹聖元寶	篆書	良	25	25	6.5	1.0	3.8			
○	556	紹聖元寶	篆書	良	24	24	6.5	0.9	3.1			
	557	紹聖元寶	篆書	可	24	24	6.5	1.1	3.6			
	558	紹聖元寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.0	3.5			
	559	紹聖元寶	篆書	可	24	24	5.5	1.5	4.9			
	560	紹聖元寶	篆書	良	25	25	5.5	1.2	5.1			
○	561	紹聖元寶	篆書	良	24.5	24.5	7	0.9	3.1			
	562	紹聖元寶	篆書	良	24	24	6	1.1	4.1			
	563	紹聖元寶	篆書	良	24	24	5	1.0	3.6			
	564	紹聖元寶	篆書	良	24.5	24	6.5	1.3	4.1			
	565	紹聖元寶	篆書	良	24	23.5	6	1.1	4.0			
	566	紹聖元寶	篆書	良	23.5	24	6.5	1.1	3.9			
	567	紹聖元寶	篆書	良	24	24	6	1.2	3.7			
	568	治平通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	0.9	3.8			1064(北宋)
○	569	元符通寶	行書	良	24	24	5.5	1.2	4.4			1098(北宋)
○	570	元符通寶	行書	良	25	25	7	0.9	4.0			
	571	元符通寶	行書	良	25	24.5	6	1.1	4.2			
○	572	元符通寶	行書	良	24	24	6.5	1.0	3.6			
	573	元符通寶	行書	良	24.5	24.5	6	1.0	3.4			
	574	元符通寶	行書	良	24	23.5	6	1.1	3.9			
	575	元符通寶	行書	良	24	24.5	6.5	0.9	3.4			
	576	元符通寶	行書	良	24	24	6.5	1.2	3.9			
	577	元符通寶	行書	良	24.5	24.5	7	1.0	3.9			
○	578	元符通寶	篆書	良	23.5	24	6	1.0	3.7			
○	579	元符通寶	篆書	良	24	24.5	6.5	1.1	3.6			
	580	元符通寶	篆書	良	24.5	24.5	6	1.1	4.1			
○	581	元符通寶	篆書	良	24.5	24.5	6	1.1	4.3			
	582	元符通寶	篆書	良	25	25	7	0.8	3.5			
○	583	聖宋元寶	行書	良	24.5	24.5	6	0.9	3.4			1101(北宋)
	584	聖宋元寶	行書	良	24.5	24.5	6	1.2	4.1			
	585	聖宋元寶	行書	良	24.5	24.5	6	1.0	3.9			
○	586	聖宋元寶	行書	良	24	24	6	1.0	3.0		欠	
	587	聖宋元寶	行書	良	24	24	6	1.2	4.2			
	588	聖宋元寶	行書	良	24.5	(2.1)	5.5	0.9	3.4		欠	
○	589	聖宋元寶	行書	良	23.5	23.5	6.5	1.3	4.2			
	590	聖宋元寶	行書	良	24	24	6	1.3	4.4			
	591	聖宋元寶	行書	良	23.5	23.5	6	0.9	3.5			
	592	聖宋元寶	篆書	良	25	25	5	0.9	3.5			
○	593	聖宋元寶	篆書	良	24.5	24.5	5.5	0.9	3.8			
	594	聖宋元寶	篆書	良	24.5	25	7	0.8	3.5			
	595	聖宋元寶	篆書	良	(22.5)	24.5	6	0.8	2.7		欠	
○	596	聖宋元寶	篆書	良	23.5	23.6	7	1.0	3.0			
	597	聖宋元寶	篆書	良	24	24	6.5	1.1	3.6			
	598	聖宋元寶	篆書	良	24.5	24	6.5	0.9	3.5		欠	
○	599	聖宋元寶	篆書	良	22.5	23	6	0.9	2.7			
	600	聖宋元寶	篆書	良	24	24	6	1.1	4.5			

表14　銭貨一覧表11

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	601	聖宋元寶	篆書	良	25	24.5	6.5	1.2	3.9			1101(北宋)
	602	聖宋元寶	篆書	良	25	25	6.5	1.1	3.8			
	603	聖宋元寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.0	3.5			
○	604	大観通寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.3	4.1			1107(北宋)
	605	大観通寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	1.2	3.8			
○	606	大観通寶	真書	良	24.5	24	5.5	1.3	4.3			
	607	大観通寶	真書	良	25.5	25	6.5	1.1	4.0			
○	608	大観通寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.3	4.1			
○	609	政和通寶	分楷	良	25	25	6	1.3	4.3			1111(北宋)
○	610	政和通寶	分楷	良	25.5	25.5	5.5	1.2	4.0			
	611	政和通寶	分楷	良	25	25	5.5	1.2	4.1			
	612	政和通寶	分楷	良	24.5	24	7	1.1	3.7			
	613	政和通寶	分楷	良	24.5	24.5	6	1.0	3.3			
	614	政和通寶	分楷	良	24.5	24.5	6.5	1.2	3.6			
	615	政和通寶	分楷	良	24.5	24.5	6	1.3	4.2			
	616	政和通寶	分楷	良	24.5	24.5	5.5	1.3	3.6			
	617	政和通寶	分楷	良	24	24	5.5	1.4	4.0			
	618	政和通寶	分楷	良	24	24	5.5	1.3	3.6			
	619	政和通寶	分楷	良	24	24	7	1.3	3.3			
	620	政和通寶	分楷	良	24.5	24.5	6	1.3	3.4			
	621	政和通寶	分楷	良	25	24.5	6.5	1.2	3.0			
○	622	政和通寶	分楷	良	24.5	24.5	6	1.3	3.8			
○	623	政和通寶	篆書	良	25	25.5	5.5	1.4	4.8			
	624	政和通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.3	3.2			
○	625	政和通寶	篆書	良	25	25	6.5	1.2	3.7			
	626	政和通寶	篆書	良	24.5	24.5	7	1.3	3.6			
○	627	政和通寶	篆書	良	25	25	6	1.5	4.1			
	628	政和通寶	篆書	良	25	25	6	1.2	3.6			
	629	政和通寶	篆書	良	24.5	24.5	6.5	1.4	4.2			
	630	政和通寶	篆書	良	25	25	6.5	1.3	4.0			
○	631	宣和通寶	分楷	良	24.5	25	6	1.1	3.9			1119(北宋)
○	632	宣和通寶	分楷	良	24.5	24.5	6	1.2	3.0			
○	633	淳熙元寶	真書	良	24	24	6	1.3	4.1	背月星		1174(南宋)
○	634	淳熙元寶	真書	良	25	25	6.5	1.3	4.0	背十五		
○	635	紹熙元寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.3	3.6	背元		1190(南宋)
○	636	紹熙元寶	真書	良	24	24	6	1.2	3.5	背三		
○	637	慶元通寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	1.2	4.0	背二		1195(南宋)
○	638	嘉泰通寶	真書	良	24	24.5	6.5	1.0	3.4	背三		1201(南宋)
○	639	嘉泰通寶	真書	良	25	25	6.5	1.4	4.3	背四		
○	640	開禧通寶	真書	良	25	25	6	1.4	3.9			1205(南宋)
○	641	嘉定通寶	真書	良	24	24	6	1.5	4.0			1208(南宋)
○	642	嘉定通寶	真書	良	24.5	24.5	6.5	1.0	3.2			
○	643	嘉定通寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.1	3.6			
○	644	正隆元寶	真書	良	24.5	24.5	6	1.6	3.8			1158(金)
○	645	文久永寶	真文	良	27	27	6.5	0.9	3.3			
	646	元■通寶	篆書	不良	25	25	6	1.2	3.6			
	647	■豊通寶	行書	良	23.5	23.5	8	1.1	3.0		欠	
○	648	熙寧元寶	篆書	良	23	23	5.5	1.2	3.2			1068(北宋)
○	649	寛永通寶	真書	可	24	24	5	1.0	2.5			
	650	元■通寶	篆書	不良	25	25	5.5	1.3	4.3			
	651	紹聖元寶	篆書	可	23.5	23.5	6	1.3	3.7			1094(北宋)
	652	■■元寶	篆書	不良	23.5	23.5	6	1.3	4.0			
	653	■■■寶		不良	23.5	23.5	6.5	1.5	4.2			
	654	元豊通寶	行書	可	25	25	6	1.1	3.4			1078(北宋)
	655	■■元寶	篆書	不良	25	25	6.5	1.1	4.7			
○	656	■■元寶	篆書	不良	25	25	6.5	1.2	4.3			
	657	■■元寶	篆書	不良	25	25	8	1.2	3.0			
	658	嘉■通寶		不良	23.5	23.5	6.5	1.3	3.9			
○	659	■寧元寶	篆書	不良	24	24	6	1.2	4.2			
	660	■■■寶		不良	24.5	24.5	6	0.9	3.2			

表15　銭貨一覧表12

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	661	■■元寶		不良	24	24.5	6	1.3	3.6			
○	662	寶泉		可	22.5	22.5	7	1.0	2.1			14(新)
○	663	嘉祐通寶		可	25	25	7	1.5	4.2			1056(北宋)
	664	元■通寶	篆書	不可	25.5	25	6.5	1.1	3.6		欠	
	665	詳符■寶	真書	不可	25.5	25.5	5.5	1.0	3.2			
	666	■■元寶	篆書	不可	25	25	6	0.9	3.1			
	667	■■元寶	真書	不可	22.5	21.5	6	1.1	2.6			
	668	元■通寶	行書	不可	25	25	6	1.3	4.2			
○	669	■宋通寶		不可	24.5	24.5	5.5	1.3	4.2			
	670	■■元寶	篆書	不可	24.5	24.5	7	1.2	3.7			
	671	詳符通寶	真書	可	25.5	25.5	6	1.3	3.9			1008(北宋)
	672	紹聖元寶	行書	可	25	25	5	1.0	3.6			1094(北宋)
	673	元■■寶	篆書	不可	24	24	5	1.4	5.0			
	674	熙寧元寶	篆書	可	23.5	23.5	6	1.3	4.3			1068(北宋)
	675	詳符元寶	真書	可	25.5	25.5	5.5	0.8	3.0		欠	1008(北宋)
	676	熙寧元寶	篆書	可	23.5	23.5	5.5	1.3	3.5			1068(北宋)
	677	皇宋通寶	真書	可	25	25.5	5.5	1.2	4.2			1037(北宋)
	678	元■■寶	篆書	不可	24	24	6.5	1.2	3.6			
	679	■祐元寶	真書	不可	23.5	23.5	5.5	1.3	3.6			
	680	天禧通寶	真書	可	24	24	6.5	1.8	3.5		欠	1017(北宋)
	681	元豐通寶	行書	可	23	22.5	6.5	1.1	2.4			1078(北宋)
	682	元■■寶	篆書	不可	25.5	25.5	6	1.3	4.0			
	683	聖宋元寶	篆書	可	24	24	6	1.3	4.6			1101(北宋)
	684	皇宋通寶	篆書	可	25.5	25	7	1.3	4.2			1037(北宋)
	685	元豐通寶	篆書	可	25.5	25.5	6	1.2	4.0			1078(北宋)
	686	■■元寶	篆書	不可	24.5	24.5	6.5	1.3	4.0			
	687	■■元寶		不可	24.5	24.5	6.5	1.3	4.0			
	688	■■元寶	篆書	不可	23.5	23.5	5	1.3	4.2			
	689	元■■寶	行書	不可	23	23	6	1.0	2.9			
	690	皇宋通寶	篆書	可	25	25	7.5	1.0	3.5			1037(北宋)
	691	嘉■■寶	真書	不可	23.5	23.5	6	1.3	3.9			
	692	嘉祐通寶	真書	可	23	23.5	7	1.0	2.8			1056(北宋)
	693	皇■通寶	篆書	不可	25	25.5	7.5	0.9	3.1			
	694	元祐通寶	篆書	可	24	24	7	1.1	3.1			1086(北宋)
	695	至和元寶	篆書	可	24.5	24.5	7	1.3	4.3			1054(北宋)
	696	元祐通寶	行書	可	25	25	6	1.0	3.8			1086(北宋)
	697	天聖元寶	篆書	可	24.5	24.5	6	1.2	3.9			1023(北宋)
	698	元祐通寶	篆書	可	24.5	24.5	6.5	1.3	3.3			1086(北宋)
	699	至■■寶	篆書	不可	23.5	23.5	6.5	1.2	3.4			
○	700	唐國通寶	篆書	可	25	25	5.5	1.0	3.6			959(南唐)
	701	天禧通寶	真書	可	24	24	6	1.7	4.8		欠	1017(北宋)
	702	元祐通寶	行書	可	24.5	24	7	1.2	3.2			1094(北宋)
	703	元祐通寶	篆書	可	25	25	6.5	1.2	3.2			
	704	皇宋通寶	真書	可	24.5	24.5	6.5	1.2	3.4			1037(北宋)
	705	元豐通寶	篆書	可	25.5	25.5	7.5	1.3	4.3			1078(北宋)
	706	元豐通寶	篆書	可	24.5	24.5	6.5	1.3	3.9			
	707	聖宋元寶	行書	可	24.5	24.5	6.5	1.3	4.0			1101(北宋)
	708	天聖元寶	篆書	可	25	25	6.5	1.3	4.3			1023(北宋)
	709	紹聖元寶	行書	可	24	24	7	1.3	4.1			1094(北宋)
	710	熙寧元寶	篆書	可	24	24	6.5	1.5	4.6			1068(北宋)
	711	至和元寶	篆書	可	24.5	24.5	7.5	1.2	3.5			1054(北宋)
	712	■■元寶	篆書	不可	24.5	24.5	6	1.2	3.4			
	713	■■■寶		不可	23.5	23.5	6	1.2	3.2			
	714	景德元寶	真書	可	24.5	24.5	5.5	1.3	4.1			1004(北宋)
	715	至和元寶	篆書	可	24	24	6	1.3	3.7			1054(北宋)
	716	熙寧元寶	篆書	可	24	24	6	1.3	3.2			1068(北宋)
	717	■■元寶	篆書	不可	24	24	7	1.5	3.8			
	718	■■元寶	篆書	不可	24	24	7	1.3	3.8			
	719	元祐通寶	行書	可	24.5	24.5	6.5	1.3	3.3			1086(北宋)
	720	元祐通寶	行書	可	24.5	24.5	6.5	1.3	4.2			

表16　銭貨一覧表13

拓本	番号	種類	書体	銭文鮮明度	法量(mmおよびg)					裏文字	備考	初鋳年(王朝)
					外形(縦軸)	外形(横軸)	郭内径	輪厚さ	重量			
	721	天聖元寶	篆書	可	25.5	25.5	7	1.2	3.7			1023(北宋)
	722	■■元寶	篆書	不可	24	24	7	1.3	4.1			
	723	■■元寶	篆書	不可	24	24	6.5	1.3	3.9			
	724	■宋通寶	真書	不可	25	25	7	1.2	4.3			
	725	■元■寶	真書	不可	22.5	22.5	6	0.9	2.1			
	726	元■■寶	篆書	不可	25	24.5	6.5	1.3	4.0			
	727	■■通寶		不可	25	25	6	1.2	3.8			
	728	■■■寶		不可	25	25	5.5	1.2	3.7			
	729	■■元寶	篆書	不可	23	23	6	1.1	2.9			
	730	■■■寶		不可	24.5	24.5	8.5	1.1	3.7			
○	731	■宋通寶	真書	不可	24	24	7	0.8	2.3			
	732	開元通寶	真書	可	24	24	6	1.1	3.7			621(唐)
	733	聖宋元寶	篆書	可	24.5	24	6	1.1	3.7			1101(北宋)
	734	■■■寶		不可	25	25	6.5	1.0	3.9			
	735	皇宋通寶	篆書	可	24.5	24.5	6	0.8	2.8			1037(北宋)
	736	■■■寶		不可	25.5	25.5	7	1.7	4.6			
	737	元豐通寶	行書	可	24.5	24.5	6.5	1.1	3.6			1078(北宋)
	738	元■■寶	行書	不可	25.5	25	6	1.3	4.0			
	739	■宋通寶	真書	不可	24.5	24.5	5.5	1.2	4.4			
	740	■■■寶		不可	24.5	24.5	5	0.7	2.8			
	741	■■■寶		不可	24.5	24.5	7	1.3	3.7			
○	742	五銖錢		可	25	25	9.5	1.1	2.6			
	743	■■■寶		不可	25.5	25	7.5	1.0	3.0			
	744	紹聖元寶	篆書	可	24	24	6	1.4	4.0			1094(北宋)
	745	■■■寶		不可	25.5	25.5	5.5	1.1	3.8			
	746	■■■寶		不可	24	24.5	7	1.1	3.0			
	747	■■■寶		不可	25	24.5	6	1.2	3.4			
	748	■■■寶		不可	24.5	24.5	7	1.0	3.3			
	749	■■■寶		不可	24	23.5	7	0.9	2.8			
○	750	■■■寶		不可	23.5	23.5	7	1.0	3.2			
	751	■■■寶		不可	24	24.5	5.5	1.3	3.9			
	752	元■通寶	行書	不可	24.5	24.5	6.5	1.2	3.5			
	753	■■元寶	篆書	不可	23.5	23.5	5.5	1.2	3.7			
	754	■■■寶		不可	21	21	6	0.8	2.5			
	755	元■■寶	篆書	不可	24.5	24.5	6.5	1.3	3.9			
	756	■■■寶		不可	23.5	23.5	6	0.9	2.7			
	757	元■通寶		不可	24.5	24.5	6	1.3	4.0			

Ⅴ　調査一覧表

Ⅰ　2017年1～3月期（平成28年度）

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
大蔵省跡	上京区三軒町 74-3，74-4の一部	17/3/27	GL-0.6mまで盛土。	16K626	HQ604	1
内教坊跡，聚楽第跡	上京区和泉町通上長者上る和水町 439-7，439-11	17/2/10・13	№1；GL-1.51mで純い黄褐色砂礫混粘質土，-1.61mで褐色礫砂，-1.82mで灰黄褐色粘質土，-2.07～-2.14mで純い黄褐色砂礫。 №2；GL-0.7mで純い黄色泥砂，-1.12～-1.88mで純い黄色砂泥。	16K395	HQ519	1
大蔵庁跡	上京区仁和寺街道七本松西入上る二番町 194	17/1/5・6	GL-0.3mで暗赤褐色泥砂，-0.51mで明黄褐色シルト（地山），-0.77～-1.33mで明黄褐色砂礫（地山）。	16K523	HQ474	1
右近衛府跡，鳳瑞遺跡	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 257-29	17/3/6	GL-0.3mまで盛土。	16K671	HQ569	1
図書寮跡	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町　地先	16/11/28～17/2/9	GL-0.85～-1.35mで明黄褐色砂礫（地山）。	16K516	HQ414	1
中和院跡，聚楽遺跡	上京区下立売通千本東入田中町 415-4	17/2/17	GL-0.26mまで盛土。	16K463	HQ535	1
南所・左兵衛府跡，聚楽第跡	上京区分銅町 557～560　地先	17/2/20～3/24	GL-0.85～-1.05mで褐色礫混シルト（地山）。	16K500	HQ536	1
東雅院跡	上京区菱屋町　地先	17/1/17・20	GL-0.37mまで盛土。	16K499	HQ491	1
左馬寮跡	中京区西ノ京左馬寮町 10-40	17/1/16	GL-0.25mまで盛土。	16K479	HQ488	1
豊楽院跡	中京区聚楽廻西町 186-63，186-54の一部	17/2/17	GL-0.65mまで盛土。	16K646	HQ529	1
豊楽院跡	中京区聚楽廻西町　地先	17/3/30	GL-0.65mまで盛土。	16K741	HQ613	1
豊楽院跡，聚楽遺跡	中京区聚楽廻中町 50-6，50-7	17/3/30	GL-0.2mまで盛土。	16K692	HQ612	1
朝堂院跡	中京区聚楽廻東町 32-5	17/1/19	GL-0.12mまで盛土。	16K327	HQ497	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	中京区聚楽廻東町 2-6	17/2/17	GL-0.75～-0.93mで暗褐色泥砂（時期不明包含層）。	16K680	HQ530	1
大炊寮跡，二条城北遺跡	上京区藏屋町　地先	17/2/24・28	GL-0.76mまで盛土。	16K592	HQ552	1
大炊寮跡，二条城北遺跡	上京区丸太町通黒門東入藏屋町 535-6	17/3/17	GL-0.35mまで盛土。	16K613	HQ588	1
太政官跡，聚楽遺跡	上京区丸太町通美福下る主税町　地先	17/3/13～3/31	GL-0.3mで純い黄褐色泥砂，-0.65mで黄褐色シルト。	16K709	HQ578	1
侍従厨・雅楽寮跡，左京三条二坊一町跡，史跡旧二条離宮（二条城）	中京区二条通堀川西入る二条城町 541	17/2/16・20	№1；GL-0.15mで黄灰色泥砂（旧表土），-0.2mで純い黄褐色泥砂（平安時代整地層），-0.5mで褐色泥砂（地山）。 №2；GL-0.07mで黄色砂質土（近代化粧土・本丸庭園造成時），-0.2～-0.6mで焼壁土を含む灰褐色泥砂（江戸中期整地層・天守閣火災後）。 №3；GL-0.1～-0.17mで東西方向石列（花崗岩切石列）を確認（時期不明）。	28N054	HQ550	1

平安京左京（HL）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
北辺二坊四町跡，上京遺跡	上京区堀川通，寺之内通～中立売通　地内	16/9/7～17/10/21	巡回時掘削終了。	14H521	HL276	2・17
北辺二坊六町跡	上京区豆腐町 285　地先（堀川中立売バス停 南行）	17/2/15	GL-1.2mまで盛土。	16H573	HL524	2

遺 跡 名	所 在 地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
北辺三坊四町跡，内 膳 町 遺 跡	上京区一条通室町西入東日野殿町他 地内	16/8/3 ～ 17/12/12	巡回時掘削終了。	15H462	HL211	3
北辺三坊八町，一 条 四 坊 十 六 町 跡，公 家 町 遺 跡	上京区京都御苑3	17/2/21	GL-0.31mで純い黄褐色泥砂（近世包含層），-0.54mで褐色泥砂（時期不明包含層），-0.63～0.7mで暗褐色泥砂（時期不明包含層）。	16H631	HL545	3・17
北辺三坊八町跡，公 家 町 遺 跡	上京区京都御苑3	17/3/6	GL-0.2～-0.3mで黄褐色粘質土（近世以降包含層）。	16H705	HL570	3
一条二坊六町跡	上京区下立売通堀川西入西橋詰町277	17/3/16 ～3/21	GL-0.82～-0.96mで灰黄褐色泥砂。	16H578	HL585	2
一条四坊九町跡，公 家 町 遺 跡	上京区京都御苑438	17/1/23 ～ 11/17	GL-0.21mでオリーブ褐色泥砂，-0.28mで純い黄褐色泥砂（時期不明包含層），-0.41mで灰黄褐色粗砂（時期不明洪水層），-0.47mで灰黄褐色微砂，-0.55mで赤褐色炭混泥砂（時期不明焼土層），-0.66～0.7mで灰黄褐色泥砂。	16H154	HL489	3
二条二坊十・十五町，三坊二・七・十・十一・十二町，三条三坊九町跡，二条城北遺跡，烏丸丸太町遺跡	中京区西竹屋町529 ～蛸薬師町291 地先		№2：GL-0.85m～-1.15mで灰色粘質シルト。№3：GL-0.27m～-0.92mで暗褐色焼土混砂泥（幕末大災関連層）。№6：GL-0.65m～-0.73で暗灰黄色砂泥（径2cm程の小礫含む，地山）。	16H610	HL498	2・3
二条二坊五・六町，三条二坊二・八町跡，史跡旧二条離宮（二条城）	中京区二条通堀川西入る二条城町541	17/2/9・24	GL-0.58mで灰褐色砂礫。堀川護岸石垣の裏込の可能性あり。	28N070	HL551	2
三条一坊二町跡	中京区西ノ京職町56	17/2/15	GL-0.61mで明黄褐色大礫混砂泥，-1.18～-1.32mで灰黄褐色砂礫。	16H635	HL525	2
三条二坊八町跡，史 跡 旧 二 条 離 宮（ 二 条 城 ）	中京区二条通堀川西入二条城町541	17/3/1	GL-0.5～-0.9mで黄褐色シルト(地山)を切って成立する土坑（時期不明，埋土：暗褐色シルト）を検出。	28N073	HL608	2
三条三坊六町跡，烏 丸 御 池 遺 跡	中京区新町通御池下る神明町70-1	17/2/1	GL-0.37mで暗褐色シルト（近代焼土層），-0.67～-0.71mでオリーブ褐色粘土質シルト。	16H560	HL507	3
三条四坊十町跡，烏 丸 御 池 遺 跡	中京区柳馬場通御池上る虎石町45-3 地内	16/9/12 ～ 17/12/12	GL-1.7mまでコンクリート基礎。	16H052	HL289	3
四条一坊四町跡	中京区壬生御所ノ内町18-8，20-7，20-8	17/3/1	№2：盛土以下，GL-0.97m～-1.15mでオリーブ黒色砂礫（時期不明河川堆積）。№4：GL-0.9mで灰色微砂混粘土～粘土質シルト（田圃作土），-1.05mでオリーブ黒色細砂混粘土質シルト（中世包含層），-1.2～-1.28mでオリーブ褐色細砂（時期不明河川堆積）。	16H693	HL562	4
四条二坊五町跡	中京区岩上通錦小路下る松浦町849-1	17/3/3～9	GL-0.9mで黒褐色粘土質シルト（平安時代末～鎌倉時代包含層），-1.0mで褐色シルトを切って成立する土坑2基（時期不明，埋土：黒褐色粘土質シルト）を検出。-1.15mで純い黄褐色粘土質シルトを切って成立するピット（時期不明，埋土:灰黄褐色シルト）を検出。-1.3mでオリーブ褐色シルトを切って成立するピット（時期不明，埋土：オリーブ褐色シルト）を検出，-1.55～-1.9mで純い黄褐色砂礫。	16H621	HL564	4
四条二坊十町跡	中京区壺屋町249	17/2/27 ～3/3	GL-0.46mで暗赤褐色炭混シルト（焼土層），-0.54mで黒褐色礫混シルト（時期不明包含層），-0.83mで黒色礫混粘土質シルト，-1.19～-1.63mで黄灰色砂礫（流路堆積）。	16H425	HL556	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
四条二坊十町跡	中京区越後突抜町 306、307	17/3/13 ～3/21	№1：GL-1.46 m で黄褐色泥砂、-1.63 m で暗灰黄色泥砂（中世包含層）、-1.89 ～ -2.02 m で灰黄色砂礫（地山）。 №2：GL-1.47 m でオリーブ黄色泥砂（平安時代整地層）、-1.55 ～ -2.20 m で灰オリーブ色粗砂（地山）。	16H311	HL580	4
四条二坊十二町跡	下京区四条通堀川東入槍屋町 5	17/2/16	GL-1.15m で黄褐色砂礫（地山）、-1.83 ～ -2.09m で黄褐色粗砂（地山）。	15H335	HL528	4
四条四坊七町跡	中京区六角通高倉東入堀之上町 106	17/3/31 ～4/24	GL-1.0m まで盛土。	16H620	HL614	5
四条四坊八町跡、烏丸御池遺跡	中京区朋町通三条下る道祐町 142-1、146、中京区柳馬場通三条下る穀屋町 91	17/3/6	GL-0.63 m で明赤褐色シルト（焼土層）、-0.71 ～ -1.31 m で黒褐色粘質土（漆喰片含む・近世以後堆積層）。	16H617	HL567	5
五条一坊十五町跡	下京区大宮通綾小路下る綾大宮町 62-1 他	17/3/21 ～3/24	GL-0.86m で黄褐色礫混砂泥（地山）、-1.05m で暗灰黄色礫混砂泥（地山）、-1.48 ～ -2.14m まで明黄褐色礫混砂泥～粗砂（地山）。	16H546	HL591	4
五条二坊二町跡	下京区黒門通綾小路下る塩屋町 188	17/1/30	GL-0.52 m で灰褐色泥砂、-0.66 ～ -0.92 m で純い黄橙色泥砂（地山）。	16H588	HL505	4
五条二坊十町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区早風町 566-4	17/3/14 ～3/28	GL-2.2 m まで盛土（近世）。	16H491	HL582	4
五条二坊十一町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区西高辻町 206-1、下京区太子山町 602-1、下京区荒神町 460-1	16/11/18 ～17/4/10	GL-0.3 m で黒褐色礫混シルト（近代包含層）、-0.6 m ～ -0.75 m で黒色粘土質シルト（しまり非常に良い）。	15H619	HL399	4
五条二坊十一町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区西高辻町 206-1、下京区太子山町 602-1、下京区荒神町 460-1	16/11/21 ～17/4/10	GL-1.0 m で褐色微砂（近世包含層）、-1.06 m で灰黄褐色泥砂（近世包含層）、-1.1 ～ -1.27 m で黒褐色泥砂（近世包含層）。	16H306	HL400	4
五条二坊十三町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区高辻西洞院町 810-1	17/3/1 ～3/14	№1：GL-0.81m で黒褐色礫混シルト（室町時代以後包含層）、-1.15 m で黒褐色礫混シルト（室町時代包含層）、-1.38 m で暗灰黄色砂礫～シルト（土壌化層）、-1.53 ～ -1.9 m でオリーブ褐色砂礫（地山）。 №2：GL-1.02 m で暗灰黄色粘質土、-1.39 m で黄灰色粘土（室町時代池埋土）、-1.52 m で暗灰黄色粘砂土（室町時代池埋土）、-1.64 m で固く締まる黄灰色粘質土（室町時代池構築土）、-1.67 ～ -1.79 m で明黄褐色砂礫（地山）。	16H438	HL561	4
五条三坊七町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区室町通仏光寺上る白楽天町 530-1	17/3/9	№1：GL-0.7 m で灰黄褐色粘質土（近世包含層）、-1.15 m で褐灰色粘質土（近世包含層）、-1.25 ～ -1.35 m で黒褐色粘質土（室町時代包含層）。 №2：GL-0.8 ～ -1.9 m で灰黄褐色粘質土（室町時代包含層）。	16H606	HL574	5
五条四坊七町跡、烏丸御池遺跡	下京区仏光寺通東前町 403-11	17/1/10	GL-1.0 m まで盛土。	16H432	HL479	5
五条四坊十・十五町跡	下京区魅屋町通綾小路下る俵屋町 299	16/12/19 ～17/1/5	GL-1.12m で暗灰黄色細砂～粗砂、-1.25 ～ -1.39m で黒褐色泥砂。	16H041	HL455	5
五条四坊十二町跡	下京区柳馬場通高辻下る吉文字町 432、433	17/3/21 ～4/24	GL-0.66m まで盛土。	16H616	HL590	5
六条一坊十六町跡	下京区中堂寺西寺町 8	17/3/17	GL-1.53 m でオリーブ黄色粗砂（地山）、-1.45 m で灰オリーブ色微砂（地山）、-1.7 ～ -1.85 m で黄橙色砂礫（地山）。	16H653	HL589	4
六条二坊十三町跡	下京区東中筋通六条上る天使突抜四丁目 469-1、483-1	17/1/27	GL-0.26 ～ -0.43 m で黒褐色粘土質シルト（近世包含層）。	16H537	HL502	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
六条四坊六町跡	下京区五条通堺町西入塩竈町 351	17/1/13 ～ 1/17	GL-1.11m まで盛土。	16H598	HL486	5
七条二坊六町跡，東市跡，名勝滴翠園，史跡本願寺境内	下京区花屋町下る本願寺門前町 60	17/2/6・2/15	滴翠園西池の底を確認。 **本報告 16 ページ。**	16A010	HL526	6
七条三坊十四町跡，東本願寺前古墓群	下京区不明門通下珠数屋町上る卓屋町 58，69-1，70，下京区東洞院通正面東入廿人講町 44 の一部	16/10/25 ～ 17/1/23	GL-1.18m で黒褐色粘質土（室町前期包含層・土師器皿，瓦器椀含む），-1.38m で灰黄褐色砂礫，-1.54 ～ -1.86m で明黄褐色砂礫（地山）。	16H042	HL355	7
七条四坊十三町跡	下京区七条通本屋町上る大宮町 207-1，208-1	17/3/14	GL-0.3 m まで盛土。	16H547	HL583	7
八条一坊七町跡	下京区観喜寺町 15 他	17/3/16	GL-1.6 m まで盛土。	15H109	HL586	6
八条四坊八町跡，御上居跡	下京区小稲荷町他　地内	17/1/10・12	GL-0.9 m まで盛土。	16H370	HL476	7
九条一坊十五町跡，史跡教王護国寺境内	南区九条町 1	16/11/7 ～ 17/2/2	GL-0.41m まで盛土。	28N044	HL380	6
九条一坊十五町跡，史跡教王護国寺境内	南区九条町 1	17/3/8	GL-0.35 m で灰黄褐色シルト（時期不明包含層）。	28N003	HL573	6
九条二坊四町跡	南区西九条南小路町 1	17/1/10	GL-1.0 ～ -3.2 m で黄灰色砂礫混粘質土（地山）。	16H469	HL482	6
九条三坊七町跡，烏丸町遺跡	南区東九条室町 9-4	17/3/27 ～ 4/6	№1：GL-0.62 m で黒褐色粘土（湿地状堆積），-1.09 m で灰色粗砂（河川状堆積），-1.29 m で灰色砂礫（河川状堆積），-1.52 m で灰色粘質土（湿地状堆積），-1.29 ～ -2.36 m で灰白色砂礫（河川状堆積）。 №2：GL-0.94m で灰黄色粘質土，-1.08 ～ -1.19m で明黄褐色砂礫（地山）。	16H700	HL609	7
九条四坊九町跡	南区東九条東岩本町 21 他	17/1/12・1/13	GL-0.4 m で黄色砂礫（近世後期洪水層），-0.5 ～ -0.8 m で黒褐色砂礫混粘砂土（近世包含層）。	16H219	HL485	7

平安京右京（HR）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
北辺二坊七町，三坊一・二・三・四町，一条二坊十五・十六町，三坊一町跡，御上居跡	北区大将軍一条町～中京区西ノ京中保町	17/3/27 ～ 6/6	№1：GL-0.57m で黒色粘土（湿地状堆積），-0.65m で黒褐色粘土（湿地状堆積），-0.89m で黄灰色粘土（湿地状堆積），-1.02 ～ -1.15m で灰黄色砂礫。 №2：GL-0.38m で灰黄褐色泥砂（近世包含層），-0.48 m で褐灰色炭混粘質土（時期不明包含層）。-0.72 ～ -1.4m で明黄褐色砂礫（地山）。	16H290	HR605	8・9
一条三坊五町跡	中京区西ノ京伯楽町 14-37 の一部	17/2/13 ～ 2/15	GL-0.38 ～ -0.47m で暗灰黄色泥砂（室町時代包含層）。	16H583	HR520	8
一条四坊四町跡	右京区花園木辻南町 5-4　地先（木辻南町バス停 東行）	17/2/16	GL-0.45m で暗灰黄色炭混泥砂（時期不明包含層），-0.68 ～ -0.9m で黄色シルト（地山）。	16H574	HR527	8
二条三坊九・十町跡	右京区花園春日町～中京区鹿ノ内町　地内	16/11/8 ～ 17/2/2	GL-0.5 ～ -1.70m まで明黄褐色泥砂。	16H352	HR382	8
二条四坊六町跡，安井馬塚古墳群	右京区太秦安井馬塚町 11-5，11-6	17/2/2	GL-0.4 m で暗褐色粘土質シルト，-0.7 ～ -1.0 m まで純い黄褐色粘土質シルト（地山）。	16H587	HR511	8

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
二条四坊八町跡	右京区太秦安井柳瀬町 1-4, 1-9, 1-10	17/1/10 ～ 1/11	GL-0.35 mまで盛土。	16H600	HR484	8
三条一坊十一町跡，壬生遺跡	中京区西ノ京東月光町 33-5 他	17/1/17 ～ 1/23	GL-0.32 mで黄褐色砂礫，-0.6 ～ -1.93 mでオリーブ褐色砂礫（地山）。	16H515	HR492	9
三条一坊十五町跡	中京区西ノ京船塚町 10-1	17/2/6 ～ 2/10	平安時代の西大宮大路東側築地内溝を検出。**本報告 24 ページ。**	16H542	HR515	9
三条二坊七町跡，西ノ京遺跡	中京区西ノ京原町 57	17/2/2	GL-0.34 ～ -0.66 mで褐色砂礫シルト。	16H599	HR512	9
三条二坊十町跡，西ノ京遺跡	中京区西ノ京東中合町 46	17/3/9	中世の野寺小路東側溝を検出。**本報告 27 ページ。**	16H667	HR575	9
三条三坊五町，四坊二・七・十町跡	中京区御池通，葛野大路通～西小路通　地内	16/10/28 ～ 17/3/8	GL-1.25 で灰黄色粘土，-1.5 mで浅黄色砂礫（地山），-2.2 ～ -2.6 mで黄色粘土（地山）。	16H289	HR365	8
四条一坊三町跡	中京区壬生花井町 3 の一部，3-3，3-4	17/2/20・2/23	GL-1.49 ～ 1.67m まで明黄褐色砂礫（地山）。	16H356	HR537	11
五条四坊三町跡，西京極遺跡	右京区西院日照町 75	2/1 ～ 8	GL-0.79 mで黒褐色粘土質シルト，-1.01 mで黒褐色粘土質シルト（時期不明包含層），-1.41 mでオリーブ黒色粗砂混じりシルト，-1.63 mで灰オリーブ色粘土～微砂混粘土質シルト，-1.79 mで黒褐色粗砂混じり粘土質シルト，-1.99 mで暗灰黄色細砂混じり粘土質シルト，-2.12 ～ -2.22 mで黄褐色泥砂（地山）。	16H548	HR509	10
五条四坊九・十三・十四・十五・十六町，六条四坊十・十一・十二・十三・十四・十五・十六町跡，西京極遺跡	右京区葛野大路通両側，四条通～五条通他　地内	16/4/11 ～ 17/3/21	№3；GL-0.88mで灰黄褐色粘質土（時期不明包含層），-1.4 ～ -1.47m で灰黄褐色粘質土（地山）を切る自然流路（理土：褐灰色泥砂）を確認。 №6；GL-0.6 mで灰黄色泥砂（時期不明包含層），-0.94 mで灰黄色シルトブロックが混じる純い黄色シルト，-1.2 ～ -1.35 mでマンガンを含む黄褐色シルト（地山）を切る落込（埋土：純い黄褐色シルト）を確認。	15H437	HR019	10
六条一坊一町跡	下京区中堂寺北町～中京区壬生松原町　地先	16/11/21 ～ 17/3/29	巡回時掘削終了。	16H477	HR403	11
六条一坊十三町跡	下京区中堂寺粟田町 92	2/14	GL-1.02m まで盛土。	16H656	HR523	11
七条一坊二町跡	下京区朱雀分木町 80	16/6/30 ～ 17/12/4	№2；GL-0.85m で明黄褐色シルト，-1.03mで黄灰色シルト，-1.17m で灰黄色砂礫，-1.33m で灰色砂礫（時期不明包含層），-1.86 ～ -1.94m で明褐色砂礫。 №6；GL-0.9m で黒褐色礫混砂泥，-1.15m で明黄褐色礫混砂泥の地山，-1.34 ～ -1.47m で灰色砂泥（地山）。	15H394	HR140	13
七条一坊五町跡	下京区朱雀北ノ口町 43-2　地先（七条千本バス停東行）	17/2/20	GL-0.42m で純い黄色シルトを切って成立する土坑（理土：黄褐色シルト，時期不明）を検出。-0.53m で黒褐色シルト，-0.76 ～ 1.22m でオリーブ褐色礫混泥砂（地山）。	16H576	HR531	13
七条一坊七町跡	下京区朱雀分木町 80 の一部	17/2/1	№1；GL-0.53 mで褐灰色礫混粘土質シルト（時期不明包含層），-0.68 mで暗褐色粘土質シルト（時期不明包含層），-0.81 mで暗褐色粗砂混じりシルト，-0.93 mでオリーブ褐色粗砂混じりシルト（地山），-1.2 ～ -1.53 mで黄褐色砂礫（地山）。	16H400	HR508	13
七条一坊七町跡	下京区朱雀分木町 60	17/2/24 ～ 3/13	平安時代前期の皇嘉門大路築地内溝を検出。**本報告 29 ページ。**	16H525	HR547	13
八条二坊十五町跡，衣田町遺跡の一部	下京区七条御所ノ内北町 62	17/3/29	巡回時掘削終了。	16H685	HR611	13
八条三坊七町跡	下京区七条御所ノ内西町 71-1 の一部，77-1 の一部，77-3，85-1 の一部	17/3/21 ～ 27	巡回時掘削終了。	16H024	HR595	12

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 23（5 号地）	17/1/24	GL-0.4 m まで盛土。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 29 年度』に報告。	16H109	HR500	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 23（10 号地）	17/3/3	GL-0.19 m で暗灰黄色粘土質シルト，-0.27 ～ -0.3 m で暗褐色粘土質シルト（時期不明包含層）。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 29 年度』に報告。	16H114	HR565	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 23（11 号地）	17/3/3・6	GL-0.15 m まで盛土。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 29 年度』に報告。	16H115	HR566	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 23（13 号地）	16/7/11，17/1/24	GL-0.2 m で暗褐色粘土質シルト，-0.31 ～ -0.36 m で褐色粘土質シルトを切って成立するピット群（時期不明，埋土：黒褐色粘土質シルト・鈍い黄褐色シルト）を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 29 年度』に報告。	16H117	HR171	13
九条一坊十四町跡，史跡西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町　地先	17/3/6	GL-0.65 m まで盛土。	28C131	HR571	13
九条二坊三・四町跡，唐橋遺跡	南区唐橋平垣町　地先	16/12/21 ～ 17/3/29	GL-0.3m で灰色シルト，-0.43 ～ -0.73m でオリーブ黒色泥砂。	16H557	HR462	13
九条三坊十五町跡	南区吉祥院前河原町 19，18	17/2/2	GL-0.38 ～ -0.68 m で暗オリーブ褐色砂礫（近世～近代包含層）。	16H428	HR510	12
九条四坊一町跡	南区吉祥院宮ノ東町 1，13	17/3/23 ～ 4/10	GL-0.63m でオリーブ黒色シルト，-0.92 ～ -1.15m で鈍い黄色シルトと黄褐色シルトの混合層。	16H695	HR598	12

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
御所ノ内町遺跡	右京区嵯峨野開町 29-1 の一部，29-2，15-2，15-70，15-71	17/3/31 ～ 4/5	№1：GL-0.59m で旧耕作土，-0.86m で灰色泥砂，-1.0m で固く締まる鈍い黄褐色シルト（時期不明包含層），-1.17m で地山ブロック混じり灰色シルト，-1.36 ～ -1.67m で明黄褐色シルト（地山）。 №2：GL-0.49m で旧耕作土，-0.66 ～ -1.32m で明黄褐色シルト（地山）。	16S461	UZ615	21
蛭蟻遺跡	右京区蛭蟻天龍寺北造路町地先	16/12/14 ～ 17/1/17	№1：GL-0.7 ～ -1.07m で鈍い黄褐色泥土（雛倉～室町時代前期包含層）。 №4：GL-0.28m でオリーブ褐色泥土（時期不明包含層），-0.65m で暗褐色泥土を切って成立する落込（時期不明，埋土：鈍い黄褐色泥土）を検出，-0.84m で暗褐色シルト，-1.02 ～ -1.32m で黄褐色シルト（地山）を切って成立する落込（埋土：褐色シルト）を検出。 №6：GL-0.7 ～ -0.95m で鈍い黄褐色泥土（南北朝期～室町時代整地層）。 №7：GL-0.85 ～ -1.22m で褐色シルト（地山）を切って成立するピット（南北朝期～室町時代，埋土：暗褐色泥土）を検出。 №9：GL-0.32 m で旧耕作土，-0.35 m ～ -1.05 m で黄褐色粘質土（時期不明包含層・を検出。 №11：GL-0.6 m で黒褐色砂混粘質土を切って成立する土坑（室町時代，埋土：暗灰黄色砂礫混粘質土）を検出，-1.08 m ～ -1.18 m まで明黄褐色粘質土（地山）。	16S519	UZ446	24-1
蛭蟻遺跡	右京区蛭蟻釈迦堂大門町 40-2　地先	17/2/21	GL-0.66m まで盛土。	16S566	UZ542	24-1
蛭蟻遺跡	右京区蛭蟻釈迦堂門前瀬戸川町 5-4　地先	17/2/21	GL-0.54 ～ -0.8m で暗褐色泥砂（時期不明包含層）。	16S565	UZ541	24-1
史跡・名勝嵐山，臨川寺境内，蛭蟻遺跡	右京区蛭蟻天龍寺造路町 31-16	17/2/20	GL-0.49m まで盛土。	28N067	UZ538	24-1
史跡・名勝嵐山，蛭蟻遺跡	右京区蛭蟻天龍寺芒ノ馬場町 3-16，64，51	17/3/16，5/18	掘削底まで現代盛土。	28N001	MK607	24-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
史跡高山寺境内	右京区梅ケ畑栂尾町 8，6	17/2/21	GL-0.1 m で岩盤。	28C105	UZ543	28-1
常盤東ノ町古墳群，村ノ内町遺跡	右京区常盤東ノ町 26-5　地先	17/2/20・3/29	遺構時掘削終了。	16S564	UZ539	21
常盤柏ノ木古墳群	右京区常盤下田町 2-2	17/2/24	GL-0.28 ～ 0.38m で暗褐色炭混泥砂層。	16S661	UZ553	21
森ヶ東瓦窯跡	右京区太秦森ヶ東町　地先	17/2/17	GL-1.4m まで盛土。	16S669	UZ532	21
仁和寺院家跡，円教寺跡	右京区花園天授ケ岡町　地先	17/3/13 ～ 3/21	№2：GL-0.27 m で暗灰黄色泥砂，-0.35 ～ -0.6 m で褐色粘質土（地山）。 №3：GL-0.2 m で黄褐色泥砂（土壌化層），-0.35 m で黄褐色泥砂，-0.5 ～ -0.69 m で明黄褐色シルト（地山）。	16S517	UZ581	21
梅宮大社	右京区梅津フケノ川町～梅津徳丸町　地先	16/10/7 ～ 17/6/23	GL-0.65 m で暗灰黄色泥砂，-0.85m で暗褐色礫混泥砂，-0.95 ～ -1.10m まで純い黄褐色泥土（地山）。	16S381	UZ330	28-4

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
ケシ山古墳群	北区上賀茂ケシ山 1，1-8 地内	16/11/14 ～ 17/1/4	GL-0.15 m で純い黄褐色粗砂混じり粘土質シルト，-0.25 m で純い黄褐色泥砂（地山）。	16S442	RH393	24-2
下鴨城跡	左京区御蔭通，下鴨本通～川端通　地内	17/1/10 ～ 8/21	№2：GL-0.53 ～ -0.75 m でオリーブ褐色粗砂～礫混じりシルト（時期不明包含層）。 №4：GL-0.8 ～ -1.55 m で灰黄褐色砂礫（氾濫堆積）。	16S300	RH475	28-7
御土居跡	北区今宮通～北大路通，北区室町通～加茂街道　地内	16/7/25 ～ 17/2/13	№1：GL-0.63 ～ -1.1 m で黄褐色砂礫（地山）。 №2：GL-0.2 ～ -1.4 m で暗灰褐色礫混じり砂泥（氾濫堆積）。	15S612	RH195	17
御土居跡	北区紫野北花ノ坊町 31 他	17/3/21	GL-0.07m まで盛土。	15S058	RH592	16-3
公家町遺跡	上京区京都御苑 3	17/3/13	GL-0.13 ～ -0.38 m で黒褐色泥砂（時期不明包含層）。	16S678	RH577	17
史跡岩倉具視幽棲旧宅，大雲寺跡	左京区岩倉上蔵町 100	17/3/15 ～ 3/31	近代初頭の池底色淵の枠を検出。 **本報告 34 ページ。**	16A013	RH597	28-5
史跡御土居跡	北区紫竹上長目町 5	16/9/28 ～ 17/5/26	GL-0.85 m まで盛土。	28C046	RH315	24-2
史跡大徳寺境内	北区大徳寺町 22	17/1/27 ～ 2/1	GL-0.13 ～ -1.0 m で黄褐色礫混じり粘土質シルト（地山）を切って成立する南北溝（近世，埋土：褐色礫混シルト）を検出。	28N051	RH503	16-3
上京遺跡	上京区堀川上之町 455-2，836，836-1，838，上京区徳屋町 450	17/3/22・3/24	GL-0.43m で純い黄褐色泥土，-0.76m で褐色泥土，-1.11m で黄褐色泥土（地山），-1.45 ～ -1.80m で純い黄褐色礫混じり砂泥（地山）。	16S553	RH593	17
上京遺跡，寺ノ内旧域	上京区神昌院町他　地内	16/12/2 ～ 17/2/8	GL-0.3 ～ -0.39 m で暗灰黄色砂礫。	16S489	RH427	17
上京遺跡，寺ノ内旧域	上京区大宮通寺之内上る前之町 440	17/1/30 ～ 2/1	№1：GL-0.64 m で浅黄色泥砂，-0.86 ～ -0.94 m でオリーブ黄色粗砂（時期不明包含層）。 №2：GL-0.1 m で暗褐色粘土質シルト（近代焼土層），-0.53 ～ -0.82 m で黒褐色礫混じり粘土質シルト（近世包含層）。	16S554	RH506	16-3・17
植物園北遺跡	左京区下鴨北芝町 19-7　地先	17/3/7	GL-0.6 ～ -0.75 m で暗灰黄色礫混じり粘質土。	16S567	RH572	24-2
植物園北遺跡	北区上賀茂畔勝町 94　地先	17/3/15	GL-0.75 m で盛土。	16S568	RH584	24-2
世尊寺跡	上京区智恵光院通五辻上る紋屋町 330	17/1/18 ～ 3/7	№1：GL-0.45 ～ -0.85m で明黄褐色粘土質シルト（地山）を切って成立する上坑 2 基（室町時代，埋土：暗褐色礫混粘質土・褐色粘質土）を検出。 №3：GL-0.64 ～ -0.96 m で黄褐色砂礫（地山）を切って成立する東西方向溝 1 条（中世，埋土：灰黄褐色粗砂混じり粘土質シルト）と落込（時期不明，埋土：純い黄褐色礫混じり粘土質シルト）を検出。	16S416	RH494	16-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
醍醐ノ森瓦窯跡	北区西賀茂中川上町 70-1 の一部（4 号地）	16/11/1 ～ 17/1/6	GL-0.48m で明黄褐色砂泥，-0.76 ～ -1.37m で黒褐色礫混じり砂泥。	16S364	RH372	16-2
醍醐ノ森瓦窯跡	北区西賀茂中川上町 70-6	17/2/2	GL-0.41 ～ -0.55 m まで純い黄褐色礫混じり粘土質シルト。	16S638	RH513	16-2
特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園	北区金閣寺町 1	16/9/9 ～ 17/3/13	GL-0.24 ～ -1.45m で橙色粘質土～礫混じりシルト（地山）を切って成立する土坑（埋土：橙色粘質土）を検出。 **埋文研発掘調査報告書（2014-9）『特別名勝・特別史跡鹿苑寺（金閣寺）庭園』に報告。**	27N046	RH255	16-3
八瀬近衛町埋納銭出土地	左京区八瀬近衛町	2016/10/26 ～ 2017/4/4	中世銭出土地点の検証。 **本報告 70 ページ。**	16A007	RH596	29-1
八幡古墳群	左京区岩倉幡枝町 585-6	17/2/17・20	八幡古墳群 2 号墳を検出。 **本報告 31 ページ。**	16S652	RH533	28-8
北野天満宮	上京区馬喰町 931	16/7/1 ～ 17/1/4	GL-0.6 ～ -2.0 m で黄褐色砂礫（地山）。	15S735	RH145	16-3
北野廃寺，北野遺跡	北区上白梅町　地内	16/5/23 ～ 17/10/21	GL-1.15m で明黄褐色粘質土，-1.6 ～ -2.6m で明黄褐色砂礫。	15S701	RH065	16-3
北野廃寺，北野遺跡	北区北野西白梅町 74	17/3/24・27	GL-0.14m で黒褐色粘質土（平安時代包含層），-0.42m で明黄褐色泥砂。	16S655	RH603	16-3
本山古墳群	左京区岩倉幡枝町 347	17/2/27	巡回時掘削終了。	16S677	RH557	28-8
妙満寺窯跡	左京区岩倉幡枝町 1212	17/3/23	GL-0.34m まで盛土。	16S218	RH599	28-8

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
浄土寺七廻り町遺跡	左京区浄土寺七廻り町	16/8/16 ～ 17/11/24	遺物採集と縄張り図の作成。 **本報告 38 ページ。**	16A002	KS238	29-2
得長寿院跡，岡崎遺跡	左京区岡崎徳成町 15-2，15-9	16/12/14 ～ 17/1/20	GL-0.93m でオリーブ褐色微砂混じり砂泥（時期不明包含層），-1.15m で灰黄色微砂（地山）。	16R404	KS448	22
法勝寺跡，岡崎遺跡	左京区岡崎南御所町 20-1	17/2/27	GL-0.59 ～ -0.67 m で黒褐色礫混シルト（近世包含層）。	16R642	KS558	22
法勝寺跡，岡崎遺跡	左京区岡崎法勝寺町 21　地先	17/3/21	GL-0.35 ～ -0.85m で灰オリーブ色砂泥。	16R563	KS594	22

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
勧修寺旧境内	山科区勧修寺下ノ茶屋町～勧修寺西北出町他　地内	17/2/27 ～ 8/2	№2：GL-0.3 で明黄褐色シルト（地山）。 №4：GL-0.3 m で褐色粘土質シルト（時期不明包含層），-0.8 ～ -1.0 m で純い黄褐色粘土質シルト。	16S419	RT559	30-2
旧琵琶湖疏水	山科区四ノ宮柳山町　地先	17/3/1 ～ 5/2	近代の琵琶湖疏水擁壁を検出。 **本報告 47 ページ。**	16A012	RT563	29-6
御土居跡隣接地（舟入跡）	中京区大黒町 21-3	16/8/26 ～ 17/3/6	GL-3.85 ～ -4.48 m でオリーブ褐色砂礫。	16A004	RT254	26-1
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山科区西野広見町 34-4，35-5，49 の各一部，34-6	17/2/17	GL-0.3m まで盛土。	16S604	RT534	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山科区西野広見町 34-4，34-5，49 の各一部	17/2/21・23	GL-0.14m まで盛土。	16S603	RT544	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山科区西野左義長町 6-1，6-3	17/2/22	GL-0.41m で褐色泥砂（時期不明包含層），-0.63m で暗オリーブ褐色泥砂（時期不明包含層），-0.81m でオリーブ褐色シルト，-0.98m でオリーブ褐色粘質シルト，-1.38 ～ 1.58m で暗オリーブ褐色礫混じり泥砂（地山）。	16S256	RT546	26-2

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
山　科　本　願 寺　南　殿　跡	山科区音羽西林 36	16/11/21 ～ 17/5/29	№3：GL-1.55 m で灰白色砂礫，-1.7 m で橙色砂泥（地山），-1.8 ～ -2.07 m で純い褐色泥砂（地山）。 №4：GL-0.3 m で黒色礫混シルト，-0.59 m で黒褐色シルト。	16S156	RT404	29-7
史跡随心院境内， 小　野　廃　寺	山科区小野御所ノ内町～伏見区醍醐御陵東裏町　地内	16/12/13 ～ 17/12/15	№14：GL-0.43m で黒褐色砂質土ブロックを含む褐灰色砂質土（時期不明包含層），-0.57m で純い褐色砂質土，-0.71m で褐灰色礫混砂質土，-0.95m で純い黄褐色粗砂，-1.27m で黄橙色砂礫（地山）。 №15：GL-0.68 m で暗褐色粘土質シルトを切って成立する土坑（時期不明，埋土：黒褐色粘土質シルト）を検出，-0.8 ～ -1.26 m で褐色粘土～砂礫（地山）。 №21：GL-0.2 ～ -2.0m で明褐色砂礫（地山）。	16S099	RT442	27-1
四　手　井　城　跡	山科区厨子奥矢倉町 6-2 他	17/1/10 ～ 2/6	GL-0.34 m でオリーブ黒色礫混シルト（近世以後包含層），-0.54 m で灰オリーブ色砂礫，-0.78 ～ -1.0 m までオリーブ褐色砂礫。	16S382	RT477	26-2
寺　町　旧　城	中京区新京極通三条下る桜之町 418， 松ヶ枝町 452-3，452-5，452-6	17/3/23 ～ 4/4	GL-0.21m で褐色粗砂（河川堆積），-0.38m で灰白色粗砂（河川堆積），-0.49m で黒褐色泥砂，-0.78m で灰白色粗砂（河川堆積），-0.96m で黄灰色泥砂（時期不明包含層），-1.16m で黄灰色砂礫（河川堆積），-1.24m で灰色微砂（河川堆積），-1.42m で褐色砂礫（河川堆積）。	16S687	RT601	26-1
中　臣　遺　跡	山科区勧修寺東金ヶ崎町 41	17/1/18	GL-0.3m まで盛土。	16N145	RT495	26-3
中　臣　遺　跡	山科区栗栖野打越町 33	17/2/24	GL-0.49m まで盛土。	16N662	RT554	26-3
中　臣　遺　跡	山科区勧修寺東栗栖野町 2-1 の一部	17/3/23	GL-0.38m まで盛土。	16N658	RT600	26-3
天智天皇陵付近須恵器窯跡	山科区御陵上御廟野町	17/2/2	GL-0.25 m で黄褐色粗砂混じりシルト（しまり悪い），-0.4 m で赤褐色礫混粗砂混じりシルト，-0.55 m で黄褐色礫混じりシルト，-0.95 ～ -1.8 m までオリーブ褐色粗砂混じりシルト。	16S487	RT514	29-4
法観寺旧境内	東山区八坂通下河原東入八坂上町 385 の一部，385-1 の一部	16/12/21 ～ 17/4/6	白鳳期の落込を検出。 **本報告 41 ページ。**	16S203	RT466	23
法　性　寺　跡	東山区本町十五丁目 814-4（京都第一赤十字病院内敷地）	17/2/6 ～ 3/8	GL-0.1 m で暗褐色礫混じり粘土質シルト（しまり悪い），-0.78 m で暗褐色礫混じり粘土質シルト（しまり良い，中世包含層），-1.06 m で純い黄色粘土質シルト（地山）を切って成立するピット（時期不明，埋土：暗褐色礫混じり粘土質シルト）を検出，-1.46 ～ -1.98 m で黄褐色泥砂（地山）。	16S558	RT516	23
六波羅政庁跡， 六波羅蜜寺境内	東山区轆轤町～三盛町　地内	16/6/27 ～ 17/10/17	GL-0.2 m まで黒褐色細砂混じりシルト，-0.3 m で黄褐色礫混じり細砂（近世以後包含層），-0.43 m で純い黄褐色礫混じり細砂～粗砂，-0.8 ～ -1.0 m まで灰オリーブ色粘土質シルト（地山）。	16S023	RT130	23

伏見・醍醐地区（FD）

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
極　楽　寺　跡	伏見区深草大門町 11-2 の一部	17/1/12	GL-0.79 m で明黄褐色粘質土（地山），-1.06 m で黒褐色粘質土（地山），-1.29 m で黄灰色粘質土（地山），-1.63 m で黄灰色砂礫（地山），-1.99 m で淡黄色砂礫（地山）。	16S475	FD480	30-8
向　島　城　跡	伏見区向島善阿弥町 19，18-2	17/2/13	GL-0.32 m まで盛土。	16S596	FD522	14
伏　見　稲　荷 大　社　境　内， 法　性　寺　跡	東山区本町十五丁目～深草開土町　地内	16/7/2 ～ 17/6/21	№1：GL-0.55m で純い黄褐色粘質土（時期不明包含層）。-0.75m で明赤褐色シルト（地山）。-1.2m で黄橙色シルト（地山）。 №8：GL-0.33 ～ -1.12 m で黄褐色礫混じり粘土質シルト（地山）。	16S031	FD201	26-4

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
伏　見　城　跡	伏見区桃山筒井伊賀東町 46	16/11/4 ～ 17/3/8	GL-0.85m まで盛土。	16F273	FD376	14
伏　見　城　跡	伏見区桃山町古城山	17/1/17	GL-0.15 m で黄褐色細砂（伏見城期造成土）。	16F505	FD493	15
伏　見　城　跡	伏見区京町北七丁目 14-1，15-3，15-1 の一部	17/1/23 ～ 1/25	GL-0.72 m で褐色粘土質シルト，-0.86 m で純い黄褐色粘土質シルト，-1.13 m で黄褐色粘土質シルト（地山）。	16F385	FD499	14
伏　見　城　跡	伏見区京町北七丁目 16-12，16-16，16-17	17/2/13	GL-0.19m まで盛土。	16F580	FD521	14
伏　見　城　跡	伏見区新町十一丁目 349，350	17/3/9・10	GL-0.7 m で明黄褐色細砂，-0.84 m で黒褐色粘質土（室町～伏見城期包含層），-1.5 ～ -1.57 m で純い橙色砂礫（地山）。	16F492	FD576	14
伏　見　城　跡	伏見区京町十丁目 2-2	17/2/23	GL-0.21m で純い黄橙色微砂，-0.3m で黒褐色粘質土，-0.44m で黒褐色粘質シルト，-0.61m で暗褐色粘質シルト，-0.76m で黄褐色礫混泥砂，-1.04m で黄褐色粘質土，-1.4 ～ 1.49m で純い黄橙色砂礫。	16F495	FD549	14
伏　見　城　跡	伏見区桃山町三河　地内	17/3/16 ～ 3/22	GL-0.68m で粘土ブロックを含む明黄褐色砂，-1.05 ～ -1.13m で明黄褐色粘質シルト（伏見城期造成土？）。	16F639	FD587	14 ・ 15

鳥羽地区（TB）

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
下鳥羽遺跡，芹　川　城　跡	伏見区北寝小屋町 1，69	17/2/20	GL-0.72m まで盛土。	16S409	TB540	31-1
深　草　遺　跡	伏見区深草西浦町六丁目 11	17/1/27・30	GL-0.37 ～ -0.48 m で黄褐色砂礫（地山）。盛土内より土師器出土。	16S579	TB504	30-8
深　草　遺　跡	伏見区深草鴨森町 32-1，32-5 の一部，32-7 の一部，32-2 の一部，32-9 の一部	17/3/13	GL-0.35 ～ -0.55 m で旧耕作土。	16S699	TB579	30-8
石　原　城　跡	南区吉祥院石原町	16/12/12 ～ 17/10/27	遥回時掘削終了。	16S337	TB439	30-7
鳥羽離宮跡	伏見区中島河原田町 4-33，4-46	17/1/10	GL-0.35 m まで盛土。	16T559	TB483	25-1
鳥羽離宮跡	伏見区中島前山町 134 の一部	17/3/28・29	GL-0.95m で灰黄色粘土（時期不明包含層），-1.05m で灰黄色粘土，-1.24m で灰黄褐色シルト。	16T470	TB610	25-1
鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡	伏見区中島堀端町 8	16/12/26 ～ 17/1/5	GL-0.2 m まで盛土。	16T581	TB471	25-1
鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡	伏見区竹田西小屋ノ内町 50 の一部，49 の一部，48 の一部	17/1/13・16	GL-0.25m まで盛土。	16T538	TB487	25-1
淀　城　跡	伏見区淀池上町 45 の一部	17/1/16	GL-0.82 ～ 1.04m で純い黄橙色砂質土（近世包含層）。	16S589	TB490	20

長岡京地区（NG）

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
左京三条三坊六町跡，鴨冠井清水遺跡	伏見区久我西出町 11-11	16/12/12 ～ 17/1/6	№1；GL-1.53m まで盛土，-2.04m まで灰オリーブ色粘質土。 №2；GL-0.88m まで盛土，-1.24m まで明黄褐色礫混じり粗砂。	16NG390	NG441	19
左京三条三坊十二町，四条三坊八・九町跡	伏見区羽束師菱川町　地先	16/10/20 ～ 17/2/14	GL-1.54 ～ -1.66m まで灰色粘土。	16NG430	NG352	19

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
左京三条四坊二・七町跡	伏見区久我西出町　地内	15/12/7 ～17/8/13	GL-1.0 mまで盛土。	16NG347	NG433	19
左京四条四坊五・十一・十二・十四町，五条四坊九・十六町跡，長黒道跡，羽束師志水町遺跡，志水落合城跡	伏見区久我東町～羽束師鴨川町　地内	16/5/30 ～17/2/1	№3：GL-1.06～-1.35mで灰色粘土質シルト（湿地状堆積）。 №4：GL-0.6mで灰黄褐色礫混じり泥砂，-0.76mで褐色微砂混じり砂泥，-0.9mで灰黄褐色粘質シルト，-1.16～-1.4mで灰色粘質土（湿地状堆積）。 №5：GL-1.1～-1.4mで灰色粘土（湿地状堆積）。 №6：GL-0.31～-0.9mで鈍い黄褐色泥土。 №7：GL-0.7～-0.90mで黄色粘土質シルト。	15NG351	NG075	19
左京六条四坊五町跡	伏見区淀樋爪町 122 他　地内	17/1/10 ～5/31	GL-1.13 mで鈍い黄褐色泥砂，-1.3 mで灰黄褐色泥砂，-1.49～-1.56 mで暗灰黄色粘土質シルト。	16NG443	NG481	19
左京七条三坊十三町跡，水乗遺跡	伏見区淀樋爪町　地内	16/12/7 ～17/8/15	GL-1.04 mまで盛土。	16NG369	NG435	20
左京九条三坊四・五・十二町跡，淀城跡	伏見区淀本町他　地内	16/6/27 ～17/12/4	GL-1.3 mまで盛土。工事業者がボーリング調査で採取した淀城石垣の石材を確認。	16NG055	NG132	20
右京一条二坊十三・十四町，三坊一・二・三・四・五・六・七・八・九・十・十一・十四・十五町跡，上里遺跡	西京区大原野上里男巻町～西京区大原野上里鳥見町　地内	16/6/27 ～17/1/31	GL-1.0～-1.24mまで灰色粘土。	15NG622	NG131	18-2

南桂川地区（MK）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
安岡遺跡，大原野野田城跡，八幡宮古墳群，大原野南春日町窯跡	西京区大枝西長町～大原野石作町　地内	16/6/27 ～17/6/14	№5：GL-0.52 mで褐色粘土質シルト（炭含む），-0.72～0.85 mで黄褐色泥砂（地山）。 №10：GL-0.2～1.3m で明黄褐色シルト（地山）。	16S027	MK133	27-2
革嶋館跡	西京区桂巽町 ～川島野田町　地内	16/6/7 ～17/4/25	№7：GL-0.73 mで明黄褐色シルト（地山），-0.89～-1.14 mで黄橙色粗砂（地山）。 №8：GL-0.9mで灰色粘質土（湿地状堆積），-1.0～-1.25 mでオリーブ灰色粘質土（湿地状堆積）。革嶋館に伴う堀の可能性がある。 №10：GL-0.35mで礫混じり褐灰色微砂（しまり非常に良い，近世以後路面），-0.39mで褐灰色泥砂（近世以後路面整地層），-0.43mで灰黄褐色礫混じり微砂（近世以後路面），-0.46mで黄灰色シルト（時期不明包含層）を切って成立する土坑（近世，埋土：灰黄褐色泥砂～暗灰黄色シルト）を検出。-0.6mで鈍い黄褐灰色シルト（時期不明整地層），-0.68mで灰黄色粗砂（氾濫状堆積），-0.75mで灰黄褐灰色泥砂（時期不明整地層）を切って成立する土坑（時期不明，埋土：灰白色シルト～鈍い黄色シルト）を検出。-0.8mで灰黄色シルト（地山），-1.34～-1.66 mで灰黄色砂礫（地山）。	15S749	MK093	31-3
穀塚古墳	西京区山田葉室町　地先	17/1/26	GL-0.2～-0.55 mで黄褐色砂礫（地山）。	16S615	MK501	18-1
史跡・名勝嵐山	西京区嵐山西一川町 11-2，23，嵐山東一川町 3-2	16/8/5・9，17/12/12	GL-0.33 mでオリーブ褐色礫混じりシルト，-0.49 mで灰黄褐色粘土質シルト（中世包含層），-0.63～-0.69 mで黄灰色砂礫。	27N085	MK217	31-2
史跡・名勝嵐山	西京区嵐山風呂ノ鳴町 4-5	17/2/24	GL-0.14～-0.18m で明黄褐色礫混じりシルト（地山）。	28C101	MK555	31-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西京区嵐山谷ヶ辻子町 43-1	16/7/4 ～ 17/2/7	GL-0.2m まで盛土。	28C009	MK151	31-2
史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西京区嵐山谷ヶ辻子町 43-1 の一部	17/2/7	GL-0.15 m で純い黄褐色細砂混シルト（時期不明包含層）。	28C085	MK517	31-2
史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西京区嵐山谷ヶ辻子町 43-1 の一部	17/2/7・8	GL-0.22 m まで盛土。	28C086	MK518	31-2
史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西京区嵐山谷ヶ辻子町 1-4	17/3/23	GL-0.2m まで盛土。	28C120	MK602	31-2
瑞礼塚古墳	西京区山田南町～山田平尾町	16/11/24 ～ 17/3/29	GL-0.45m で明黄褐色礫混じりシルト，-0.8m で黄灰色シルト。	16S434	MK407	18-1
上久世遺跡、上久世城跡	南区久世上久世町 405 他	17/3/6	GL-0.64 ～ -0.77 m で灰黄色粘質シルト（地山）。	16S447	MK568	18-3
中久世遺跡	南区久世中久世町五丁目 25 の一部	17/2/23	GL-0.78 ～ -0.91m で旧耕作土。	16S543	MK548	18-3
中久世遺跡	南区久世中久世町二丁目 112	17/3/27 ～ 5/31	GL-0.18m で旧耕作土，-0.28m で黄褐色シルト（マンガン沈着・地山）を切って成立する東西溝（時期不明，埋土：褐灰色シルト）。	16S629	MK606	18-3
福西古墳群	西京区福西本通，境谷本通～福西中通　地内	17/1/10 ～ 3/22	GL-1.34m で明黄褐色泥砂，-1.87 ～ -2.24m で明黄褐色粗砂。	16S420	MK478	27-3
福西古墳群	西京区大枝東新林町二丁目地先	17/1/18	GL-0.73m まで盛土。	16S423	MK496	27-3

京北地区（UK）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
周山城跡	右京区京北周山	17/2/28 ～ 12/28	安土桃山期の周山城縄張りを確認。 **本報告 57 ページ。**	16A011	UK560	25-2

Ⅱ　2017 年　4 ～ 12/ 期（平成 29 年度）

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
兵庫寮跡	上京区下ノ森通一条下る西町～上京区下ノ森通一条下る三軒町　地先	6/5 ～ 14	GL-0.42 m まで盛土。	16K733	HQ103	1
兵庫寮跡	上京区一番町 107	11/22	GL-0.4m まで盛土。	17K554	HQ439	1
大蔵省跡	上京区中立売通六軒町東入三軒町　地先	4/21	GL-0.4 ～ -0.7 m で黒褐色粘質土（時期不明包含層）。	16K727	HQ037	1
大蔵省跡	上京区西中筋町 19-63 他	12/6	GL-0.82m まで盛土。	17K553	HQ467	1
大蔵省跡	上京区上長者町通千本東入北側信濃町 477	10/10 ～ 13	GL-0.7m で黄褐色シルト（近世包含層），-1.32m で暗褐色泥砂（近世包含層）を切る落込（埋土：黒褐色泥砂）を確認。	17K348	HQ355	1
大蔵省跡、聚楽第跡	上京区東西俵屋町 144,145 地先	6/21	GL-1.1 ～ -1.4m で明黄褐色シルトの地山。	17K058	HQ133	1
大蔵省跡、聚楽第跡	上京区東西俵屋町 163-8	7/25	GL-0.3m まで盛土。	17K160	HQ222	1
大蔵省跡、聚楽第跡	上京区浄福寺通中立売下る菱丸町 181-8，182-4，182-5 の一部	10/5	GL-0.12 m まで盛土。	17K307	HQ352	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
主殿寮跡、聚楽第跡	上京区智恵光院通一条下る新白水丸町 462	5/26・29	GL-0.3 mまで盛土。	17K095	HQ088	1
内教坊跡、聚楽第跡	上京区和泉町通上長者町上る和水町 439-44	7/26	GL-0.35m まで盛土。	17K238	HQ223	1
内教坊跡、聚楽第跡	上京区和泉通上長者町上る和水町 439-7	4/4・7	GL-0.6 ～ -1.4m で黒褐色泥砂。	16K591	HQ005	1
内教坊跡、聚楽第跡	上京区大宮通中立売下る和水町　地先	4/13	GL-0.6 mまで盛土。	16K710	HQ019	1
内教坊跡、聚楽第跡	上京区和泉町通上長者町上る和水町 439-7	6/28	GL-0.52m まで盛土。	17K208	HQ150	1
内教坊跡、聚楽第跡	上京区和泉町通上長者町上る和水町 439-38	8/10	GL-0.24m まで盛土。	17K251	HQ243	1
内教坊跡、聚楽第跡	上京区和泉町通上長者町上る和水町 439-40	9/4	GL-0.62 mまで盛土。	17K322	HQ287	1
内教坊跡、聚楽第跡	上京区和泉町通上長者町上る和水町 439-39	10/12	GL-0.31m まで盛土。	17K392	HQ366	1
右近衛府跡、鳳瑞遺跡	上京区下長者町通御前東入三助町　地先	5/10 ～ 31	GL-0.24m で暗褐色泥砂（炭含む，平安時代包含層），-0.44m で純い黄褐色泥砂，-0.63 ～ 0.7m で黒褐色泥砂（時期不明包含層）。	17K021	HQ059	1
右近衛府跡、鳳瑞遺跡	上京区御前通下長者町下る東入仲之町～上京区下ノ森通下長者町下る西入三助町　地先	11/13 ～ 12/28	GL-1.35m まで盛土。	17K468	HQ414	1
図書寮跡	上京区御前通下立売上る三丁目東入三助町 281-19、281-20	6/26	GL-0.3m まで盛土。	17K040	HQ147	1
宴松原跡	上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 247-23 地内	4/5	GL-0.35m で黒褐色泥土，-0.90 ～ -1.35m で明黄褐色礫混じりシルト（地山）。	16K701	HQ008	1
宴松原跡	上京区下長者町通六軒町西入利生町 294-57	11/13	GL-0.5 mまで盛土。	17K489	HQ415	1
宴松原跡、鳳瑞遺跡	上京区下立売通七本松西入西浦町 382	8/28	GL-0.42m で純い黄褐色泥砂，-0.56 ～ 0.68m で黄褐色シルトブロック混じり褐色泥砂。	17K144	HQ273	1
縫殿寮、聚楽第跡	上京区上長者町通千本東入二丁目山王町 510-9、511-10	9/19	GL-0.28 mまで盛土。	17K295	HQ320	1
縫殿寮跡、聚楽第跡	上京区下長者町通裏之門西入坤高町 76-1	6/1	GL-0.47 mまで盛土。	17K043	HQ096	1
左近衛府跡、聚楽第跡	上京区西辰巳町 111 ～ 112-17 地先	7/28・31	GL-0.22 mで黒褐色粗砂混じりシルト（時期不明包含層），-0.44 mで黒褐色粘土質シルト，-0.66 ～ -0.9 mで褐色礫混じりシルト（地山）。	17K107	HQ224	1
左近衛府跡、聚楽第跡	上京区大宮通出水上る清元町 728	12/21	GL-0.4 mまで盛土。	17K595	HQ499	1
職御曹司跡、聚楽第跡	上京区智恵光院通出水上る天秤丸町 181-7	4/19	GL-0.25 mまで盛土。	16K726	HQ032	1
職御曹司跡、聚楽第跡	上京区智恵光院通出水上る天秤丸町 193	10/20	GL-0.44 mまで盛土。	17K351	HQ379	1
内裏跡、聚楽遺跡	上京区下立売通智恵光院西入下丸屋町 502	4/5	GL-0.2m まで盛土。 **遺構面保存のための確認調査。**	16K602	HQ007	1
内裏跡、聚楽遺跡	上京区千本通下立売下る小山町 908-95 の一部、194 の一部、上京区下立売通千本東入中務町 489-62 の一部	12/4	GL-0.45m まで盛土。	17K410	HQ463	1
内膳司跡	上京区出水通千本西入福島町　地先	6/29、7/11	GL-1.15 mまで盛土。	17K106	HQ159	1
真言院跡	上京区六軒町通下長者下る七番町 330-17	7/12	GL-0.25 mまで盛土。	16K593	HQ204	1
中和院跡、聚楽遺跡	上京区下立売通千本西入稲葉町 459	4/25・26	GL-0.26m まで盛土。	16K535	HQ044	1
中和院跡、聚楽遺跡	上京区下立売通千本西入稲葉町 456	9/28	GL-1.33 mまで盛土。	17K096	HQ336	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
東雅院跡	上京区大宮通下立売下る菱屋町 811-1，811-2	12/1	GL-0.8m まで盛土。	17K273	HQ459	1
内匠寮跡	上京区御前通丸太町上る下之町　地先	9/14	遺回時掘削終了。	17K391	HQ307	1
左馬寮跡	中京区西ノ京左馬寮町　地先	4/3	GL-0.4 ～ -0.5m で鈍い黄色砂質シルト（地山）。	16K749	HQ001	1
典薬寮跡，鳳瑞遺跡	中京区西ノ京車坂町～聚楽廻松下町　地先	4/5 ～ 5/29	№1：GL-0.25m で灰黄褐色泥砂（時期不明包含層），-0.45m で灰白色～明黄褐色シルト（地山）を切って成立する土坑 2 基（時期不明，埋土：黒褐色泥砂，暗褐色泥砂）を検出。 №3：GL-0.13m で褐色シルト，-0.22m で灰黄褐色シルト（時期不明包含層）を切って成立する土坑 2 基（時期不明，埋土：鈍い黄色砂質シルトブロック混じり暗灰黄色シルト，黒褐色シルト）を検出。-0.3m で鈍い黄色砂質シルト（地山）。 №4：GL-0.45m で黒褐色泥砂，-0.58m で暗褐色泥砂，-0.72 ～ 0.88m で暗褐色シルト（平安包含層）。	16K724	HQ009	1
典薬寮跡，鳳瑞遺跡	中京区聚楽廻松下町 3-13，3-14，3-15，3-16	6/22・26	GL-1.34 m で明黄褐色砂礫（地山）。	17K122	HQ137	1
豊楽院跡，聚楽遺跡	中京区聚楽廻中町 43-14	9/19	GL-0.26m で黄褐色泥砂，-0.39m で黄褐色泥砂（炭含む）。	17K318	HQ312	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	中京区聚楽廻東町 14-22	6/5・6	GL-0.14 m まで盛土。	17K065	HQ105	1
主水司跡	上京区西院町　地先	6/21 ～ 23	遺回時掘削終了。	17K153	HQ134	1
大炊寮跡	上京区丸太町通大宮西入藤屋町 535-81，122，123	6/22	GL-0.63 m まで盛土。	16K625	HQ136	1
大炊寮跡	上京区日暮通竹屋町上る四町目～藤屋町　地先	11/22	GL-0.62 ～ -0.74m で鈍い黄褐色シルト。	17K550	HQ438	1
太政官跡，聚楽遺跡	上京区千本通二条下る東入主税町 1019	11/17	GL-0.35m まで盛土。	17K415	HQ428	1
右馬寮跡，右京二条二坊三町跡	中京区西ノ京冷泉町 118-2	7/7	GL-0.44m で黄灰色粘質土，-0.61m で黒褐色粘質土（炭含む），-0.71m で暗灰黄色礫混じり泥砂，-0.87 ～ 1.0m で暗オリーブ褐色礫混じり泥砂。	16K745	HQ185	1
式部省跡	中京区西ノ京式部町 40-2	7/3	GL-0.4 ～ -0.49 m で暗褐色泥砂（時期不明包含層）。	16K738	HQ163	1
式部省跡，聚楽遺跡	中京区聚楽廻南町 30-22	10/13	GL-0.25m まで盛土。	17K381	HQ367	1
兵部省跡	中京区西ノ京内畑町 25-5	11/10	GL-0.3 m まで盛土。	17K494	HQ412	1
判事跡	中京区西ノ京内畑町 18-22	10/26	GL-0.37m まで盛土。	17K458	HQ389	1

平安京左京（HL）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
北辺二坊三町跡	上京区中立売通堀川西入役人町 216-2 他　15 筆	6/27 ～ 7/11	№1：GL-0.97m で黄色シルト，-1.42m で暗オリーブ褐色泥砂，-1.58m で暗褐色礫混泥砂，-2.01m で褐灰色砂礫。 №2：GL-1.45m で鈍い黄褐色礫混じり泥砂，-1.59m で灰黄色泥砂，-1.64m で灰黄色泥砂（しまり良い），-1.72m で暗灰黄色泥砂（マンガン少量含む），-1.79m で黄褐色微砂混じり泥砂（地山），-1.89m でオリーブ褐色微砂混じり砂礫（地山）。	16H358	HL151	2
北辺二坊三町跡	上京区堀川通上長者上る宝英町～上京区堀川通中立売下る役人町　地先	6/30 ～ 11/1	GL-0.81m で鈍い黄褐色泥砂（時期不明包含層），-0.97 ～ -1.15m で褐色泥砂（地山）。	17H201	HL162	2
北辺二坊四町跡	上京区堀川通中立売上る役人町～上京区堀川通一条下る堀川下之町　地先	6/1 ～ 27	GL-1.05m まで盛土。	17H110	HL098	2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
北辺二坊五町跡、上京遺跡	上京区東堀川通一条上る堅富田町 438-8	5/11 ～ 6/30	GL-0.46m でオリーブ褐色泥砂、-0.69m で黄褐色泥砂（時期不明包含層）、-0.94m で灰黄褐色砂泥、-1.09m で鈍い黄褐色泥砂、-1.26m で褐灰色泥砂（炭含む）、-1.39 ～ -1.47m で鈍い褐色砂礫（地山）。	16H696	HL062	2
北辺三坊七町跡、公家町遺跡、内裏町遺跡	上京区京都御苑 3	6/14 ～ 9/20	GL-0.34 ～ -0.54m で暗オリーブ褐色泥砂（時期不明包含層）。	17H243	HL119	3
一条二坊三町跡	上京区北蟹屋町 670、671	6/22・26	GL-2.1 m まで盛土。	17H078	HL138	2
一条二坊十五町跡	上京区油小路通出水上る大黒屋町 35-1	5/9・12	GL-1.1 m まで盛土。	16H717	HL058	2
一条二坊十五町跡	上京区西洞院通下長者下る 102	10/27 ～ 31	GL-0.67m で灰褐色砂礫（氾濫堆積）、-0.97 ～ -1.27 m で黄灰色砂礫（氾濫堆積）。	17H362	HL391	2
一条三坊一町跡	上京区中長者町通新町西入仲之町 282	10/10 ～ 12/19	GL-0.9m で黄灰色泥砂、-1.5 ～ -2.2m で黄褐色礫混じり泥砂（地山）。	16H645	HL356	3
一条四坊九町跡、公家町遺跡の一部	上京区京都御苑 2 の一部、3 の一部	12/6	GL-0.22m で大宮御所北築地基礎石を検出。-1.0 ～ 1.67m で青灰色粘質土（時期不明包含層）。	17H081	HL468	3
二条二坊八町跡、二条城北遺跡	上京区堀川通丸太町上る上堀川町 141、142	11/27・28	GL-1.84m で暗褐色砂礫（地山）。	17H511	HL451	2
二条二坊十町跡、高陽院跡、二条城北遺跡	中京区丸太町通油小路西入丸太町 23、25	4/11 ～ 5/9	№1：GL-1.34 ～ -1.92 m で灰色粘質土（湿地状堆積）。高陽院池跡の可能性あり。 №2：GL-1.73 ～ -2.0 m でオリーブ褐色礫混じり砂泥（地山）。	16H486	HL018	2
二条三坊四町跡	中京区新町通夷川下る二条新町 728-1	7/14・19	GL-0.85 ～ -1.12m で黒褐色炭混じり泥砂（時期不明包含層）。	17H080	HL208	3
二条三坊十一町跡、烏丸丸太町遺跡	中京区室町通夷川上る鍛屋町 31-1、31-2	4/28・5/22	GL-0.78m で鈍い黄褐色砂礫、-0.96m で褐色炭混じりr泥砂（時期不明整地層）。	17H025	HL050	3
二条四坊四町跡、烏丸丸太町遺跡	中京区二条通高倉西入松屋町 58、58-2	8/30・9/1	GL-1.2m で黄褐色粘質土、-1.3 ～ -1.5m で暗灰黄色砂礫（地山）。	16H582	HL278	3
二条四坊四町跡、烏丸丸太町遺跡	中京区二条通高倉西入松屋町 58、58-2	9/19	GL-1.2 m まで盛土。	17H304	HL319	3
三条一坊三町跡	中京区西ノ京職司町 13-2	4/17 ～ 21	GL-0.62 m で褐灰色砂礫（地山）、-0.99 ～ -1.29 m で橙色シルト（地山）。	16H611	HL029	2
三条一坊四町跡	中京区西ノ京南聖町 13-4	9/12・13	GL-0.52m で灰黄色泥砂。	17H343	HL306	2
三条二坊三町跡	中京区姉小路通猪熊西入倉本町 262	5/25 ～ 30	GL-1.07m で黒褐色泥砂、-1.52m で暗灰黄色泥砂、-1.76 ～ -2.83m で鈍い黄色砂泥（地山）。	16H702	HL087	2
三条二坊五町跡、堀川御池遺跡	中京区姉小路通堀川西入樽屋町 473	6/27・30	GL-0.42m で黒褐色泥砂（焼土含む）、-0.6m で黒褐色泥砂（時期不明包含層）、-1.12m で灰黄褐色粗砂（地山）、-1.37m で鈍い黄褐色砂礫（地山）、-1.64 ～ 2.34m で黄褐色砂礫（地山）。	17H005	HL152	2
三条二坊十四町跡	中京区壺屋町 450、450-1、563-1	8/8 ～ 24	GL-1.52m で黄褐色粘質シルト（地山）、-2.05m で褐灰色粘質土（地山）、-2.26m で黄褐色砂礫（地山）。	17H020	HL240	2
三条三坊一町跡	中京区釜座通二条下る上松屋町 703、703-2	6/1・2	GL-0.6 m まで盛土。	16H754	HL097	3
三条三坊一町跡	中京区釜座通二条下る上松屋町 702	8/23 ～ 9/21	GL-1.5m まで盛土。	17H228	HL267	3
三条三坊一町跡	中京区西洞院通二条下る二条西洞院町 639、639-1、639-2	9/11・14	GL-0.6m で火災処理土坑（近世以後）を検出。	17H232	HL301	3
三条三坊一町跡	中京区西洞院通二条下る二条西洞院町 646-3、中京区釜座通二条下る上松屋町 697-4 他	9/19・21	GL-0.93m で暗オリーブ色泥砂、-1.03m で灰オリーブ色泥砂（炭含む）、-1.07 ～ 1.22m で明黄褐色シルトブロック混じり黄褐色泥砂。	17H352	HL311	3
三条三坊六町跡、烏丸御池遺跡	中京区新町通御池下る神明町 70-2、72	5/26 ～ 6/2	GL-1.35m で暗灰黄色泥砂の中世包含層、-1.77 ～ -2.23m でオリーブ褐色泥土（細砂混）。	16H704	HL089	3
三条三坊十三町跡、烏丸御池遺跡	中京区東洞院通三条上る猪熊院前町 448、449、450、中京区姉小路通東洞院西入車屋町 267-2	6/13 ～ 7/3	中世の東洞院大路西側溝、路面及び南北堀を検出。**本報告 6 ページ。**	17H035	HL116	3

遺 跡 名	所 在 地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
三条四坊九町跡	中京区柳馬場通二条下る等持寺町15他	6/1，8/29	GL-0.89mでオリーブ褐色泥砂（時期不明包含層），-1.03mで純い黄褐色泥砂，-1.29mで暗オリーブ褐色泥砂（時期不明包含層）を切って成立するピット2基（時期不明，埋土：灰黄褐色泥砂，暗褐色泥砂）を検出。	17H056	HL099	3
三条四坊十五町跡，烏丸御池遺跡	中京区魁屋町通御池上る上白山町249，中京区御幸町通御池上る亀屋町386-4他	7/7	№1：GL-0.49mでオリーブ褐色砂礫，-1.01mで黄灰色砂質シルト，-1.06mで黒褐色礫混じり泥砂（近世包含層）を切って成立する土坑（室町時代，埋土：黒褐色礫混じり泥砂）を検出。 №2：GL-1.4mで黒褐色泥砂，-1.6～1.75mで純い黄褐色泥砂（時期不明包含層）を切って成立する土坑（室町時代，埋土:暗褐色泥砂）を検出。	16H549	HL183	3
四条一坊三町跡	中京区壬生御所ノ内町2-27	10/2～6	GL-0.66mで褐灰色砂礫（氾濫堆積），-1.21～-1.7mで明褐色砂礫（地山）。	17H432	HL342	4
四条一坊四町跡	中京区壬生御所ノ内町20-11,12	4/27	GL-0.4mまで盛土。	17H007	HL048	4
四条一坊十六町跡	中京区三条大宮通三条下る三条大宮町248-1の一部，248-2の一部	5/15・19	GL-1.34～1.51mで暗オリーブ灰色粘質シルト。	16H605	HL066	4
四条二坊一町跡	中京区黒門通三条下る下文字町329，338	6/20～27	№1：GL-0.7mで灰色泥砂（旧耕作土），-0.85～1.27mで明緑灰色微砂混じりシルト（湿地状堆積）。 №2：GL-0.68mで灰黄褐色泥砂（時期不明包含層），0.88mで黄褐色シルト（地山）を切って成立する土坑2基（時期不明，埋土：灰黄褐色泥砂）と，ピット1基（時期不明，埋土:褐色泥砂）を検出。-1.2～1.34mで黄褐色砂質シルト（地山）。	17H032	HL131	4
四条二坊四町跡	中京区錦小路通猪熊西入七軒町471-2，471-4	6/7～12	GL-0.25mまで盛土。	17H009	HL108	4
四条二坊四町跡	中京区新町通錦小路下る藤岡町494	8/28・30	GL-1.42mで明黄褐色礫砂（地山）。	17H258	HL274	4
四条二坊八町跡	中京区岩上通三条下る下八文字町692，694，694-1	9/6	GL-5.0mまで盛土。	17H063	HL292	4
四条二坊八町跡	中京区岩上通三条下る下八文字町696-2，698	12/11～14	GL-0.71mで黒褐色小礫混じり砂質土（近世包含層），-0.95mで褐灰色礫混泥砂（時期不明包含層），-1.12mで暗灰黄色小礫混じり泥砂（平安時代後期包含層），-1.25mで褐灰色砂泥（時期不明包含層），-1.39mで灰黄色細砂～シルト（地山），-1.76～-2.22mで暗灰黄色細砂～砂礫（地山）。	16H590	HL476	4
四条二坊十三町跡	中京区油小路通四条上る藤本町557	4/28～5/9	GL-0.55mで黒褐色炭混じり泥砂（時期不明包含層），-1.05mで黄灰色泥砂を切って成立する土坑1基（中世，埋土：黒褐色炭混泥砂）を検出。-1.3mで暗灰黄色シルト，-1.4mで黄褐色シルト（地山），-2.0～2.4mで灰黄褐色砂礫（地山）。	16H725	HL051	4
四条二坊十六町跡，本能寺城跡	中京区小川通三条下る猩々町121	4/11～13	GL-1.0mで灰黄褐色泥砂（湿地状堆積），-1.39m～-1.81mで灰色シルト～粘質土（湿地状堆積）。	16H521	HL017	4
四条三坊二町跡	中京区六角通新町西入西六角町109	11/22	GL-0.15mまで盛土。	17H046	HL440	5
四条三坊五町跡，烏丸綾小路遺跡	中京区錦小路通室町西入天神山町284-1	8/17・21	№1：GL-1.51～-2.61mで純い黄色砂質土（地山）上面で土坑1基（近世，埋土：灰黄色微砂混粘質土）を検出。 №2：GL-1.01mで暗灰黄色炭混じり泥砂（時期不明包含層），-1.34mで黒褐色炭混じり泥砂（室町時代包含層，径20cm大の礫含む），-2.1～2.28mで純い黄色細砂（地山）。	17H192	HL244	5
四条三坊八町跡，烏丸御池遺跡	中京区六角通室町西入玉蔵町120	4/20	GL-1.75mまで盛土。	16H728	HL036	5
四条三坊十町跡，烏丸御池遺跡	中京区烏丸通六角下る七観音町627-1，627-2，627-4，中京区六角通烏丸西入骨屋町156-1	12/12・15	GL-0.6mまで盛土。	17H535	HL481	5

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
四条三坊十二町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区面谷錦町91　地先	11/30	GL-1.15 mまで盛土。	16H575	HL458	5
四条四坊八町跡	中京区六角通高倉東入堀之上町108	6/12～20	GL-2.09mで暗褐色炭混じり泥砂（時期不明包含層）。	17H030	HL114	5
四条四坊八町跡、烏丸御池遺跡	中京区朋町通三条下る道祐町135-1	6/9・13	GL-1.19 mまで盛土。	16H691	HL111	5
四条四坊九町跡	中京区富小路通三条下る朝倉町530	11/30	GL-6.0 mまで旧建物基礎。	17H336	HL457	5
四条四坊十町跡	中京区柳馬場通六角下る井筒屋町424	7/20・24	GL-2.0m まで盛土。	17H099	HL216	5
四条四坊十二町跡	中京区柳馬場通錦小路下る瀬戸屋町474 他	10/25～11/24	GL-0.67m で灰黄褐色泥砂（近世包含層）、-1.08m で明黄褐色シルトブロック混じり暗褐色泥砂、-1.15m で灰黄褐色泥砂（室町時代包含層）、-1.25m でオリーブ褐色シルト（鎌倉時代包含層）、-1.35～-1.4m で鈍い黄色砂礫（地山）。	17H360	HL386	5
五条二坊四町跡	下京区黒門通高辻下る杉崎子町248	9/6	GL-0.3 mで暗褐色礫混じり粘土質シルト（近世包含層）、-0.44～-0.58 mで黒褐色粘土質シルト（室町包含層）。	16H378	HL 293	4
五条二坊六町跡	下京区岩上通仏光寺下る徳屋町437、437-2	11/1～6	GL-1.03m まで盛土。	17H438	HL398	4
五条二坊八町跡、妙満寺の構え跡	下京区岩上通四条下る佐竹町396	7/3	GL-1.9 mまで盛土。	17H159	HL164	4
五条二坊八町跡、妙満寺の構え跡	下京区岩上通四条下ル佐竹町393-2、393-3	11/29	GL-0.56m まで盛土。	17H412	HL454	4
五条二坊十三町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区松原通油小路東入天神前町349	5/19～25	GL-0.5m で灰黄褐色礫混じり泥砂（中世包含層）、-0.75m で灰黄褐色微砂混じり泥砂、-1.04m で鈍い黄褐色微砂混じり砂泥（地山）、-1.63～-1.76m で黄褐色微砂混じり砂泥（地山）。	16H740	HL074	4
五条三坊三町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区西洞院通仏光寺下る本柳水町770-1	12/1	GL-0.6～-1.3m で暗褐色砂礫と黒褐色粗砂の互層。	17H478	HL462	5
五条三坊六町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区新町通仏光寺下る岩戸山町411	8/21～10/6	GL-2.11m で黒褐色泥砂（近世包含層）、-2.24m で黄褐色砂質シルト、-2.29～-2.38m で黄褐色シルト（地山）。	16H715	HL257	5
五条三坊六町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区室町通高辻上る山王町551	9/20	GL-3.0 mまで盛土。	17H221	HL321	5
五条三坊七町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区新町通綾小路下る船鉾町393-1	10/11～13	GL-0.25～-0.47m で灰黄褐色炭混じり泥砂（近世包含層）。	16H686	HL361	5
五条四坊一町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区高倉通四条下る高材木町225、225-3	5/12～19	鎌倉～室町時代の土坑群を検出。 **本報告10ページ。**	16H734	HL063	5
五条四坊二町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区綾小路通東洞院東入神明町239-1	6/15～7/11	GL-1.39 mで灰黄褐色泥砂（時期不明包含層）を切る落込（時期不明、埋土：黄褐色炭混泥砂）を確認。-1.59m で暗灰黄色泥砂（中世包含層）を切って成立する土坑１基（中世，埋土：オリーブ褐色泥砂）を検出。-1.69～-2.49m で鈍い黄色シルト（地山）。	17H053	HL121	5
五条四坊三町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区仏光寺西町他 地内	11/15～21	GL-1.60m で灰黄褐色泥砂、GL-2.30～-3.20m で灰白色砂礫の地山。	17H371	HL423	5
五条四坊十一町跡	下京区慈屋町通仏光寺下る鍋屋町241-1 他	11/21～30	平安～室町の遺構を検出。**『京都市内遺跡試掘調査報告 平成29年度』に報告。**	17H187	HL433	5
五条四坊十一町跡	下京区富小路通仏光寺下る筋屋町152	11/24・27	GL-0.93m で黄褐色粘土ブロック混じり暗オリーブ褐色泥砂（炭含む，近世包含層）、-1.32m でオリーブ褐色礫混じり層砂（時期不明包含層）、-1.69m で黒褐色泥砂（時期不明包含層）、-1.92m で黄褐色微砂（地山）、-2.03 で黄褐色砂礫（地山）。	17H286	HL445	5
五条四坊十二町跡	下京区富小路通高辻下る恵美須屋町186	11/7～10	№1：-0.94 mで鈍い黄色細砂と灰黄褐色粘質土の互層（近世包含層）、-1.96 mで暗灰色粘質土（鎌倉時代包含層）、-2.14 mで鈍い黄色シルト（地山）。 №2：-0.89 mで灰黄褐色粘質土、-1.1 mで黒褐色炭混じり粘質土、-1.56 mで黒褐色粘質土（室町時代包含層）。	17H188	HL403	5

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
五条四坊十四町跡	下京区御幸町通仏光寺下る橘町 437-2， 下京区魁屋町通仏光寺下る鋸屋町 248-3	9/15 ～ 10/2	GL-1.9m まで盛土。	17H292	HL308	5
五条四坊十五町跡	下京区魁屋町通綾小路下る俵屋町 298	11/21・24	GL-0.97m で黄灰色礫混じり砂泥，-1.29m で黒褐色泥砂（室町時代包含層），-1.67m で鈍い黄色砂礫（地山）。-1.77 ～ -2.43m で浅黄色微砂（地山）。	17H285	HL434	5
六条一坊六町跡	下京区中堂寺壬生川町 7-14	8/22・24	№1 ：GL-0.9m で灰色砂質シルトを切って成立する東西溝（平安時代，埋土：黒褐色泥砂）を検出。 №2 :GL-0.67 ～ -0.87m で褐色泥砂～微砂(地山)。	16H672	HL263	4
六条三坊一町跡，烏丸綾小路遺跡	下京区若宮通松原下る亀屋町 38	7/7・10	GL-1.1m まで盛土。	17H217	HL184	5
六条三坊五町跡	下京区的場通新町東入銭屋町 246	7/4	GL-0.8 mまで盛土。	17H151	HL180	5
六条三坊七町跡，烏丸綾小路遺跡	下京区小田原町 240	11/27 ～ 30	GL-1.5 mで灰オリーブ色微砂混シルトを切って成立する土坑 1 基（時期不明，埋土:オリーブ褐色シルト）を検出。-1.85 mでオリーブ色粘質シルト,-2.3 mでオリーブ色シルト（地山）。 №2 :GL-1.3 mで暗灰黄色粘質土，-1.6 mで鈍い黄色粘質シルト（時期不明包含層）を切って成立する土坑 1 基（鎌倉時代，埋土：黄灰色シルト混粘質土）を検出。-1.7 mで浅黄色粘質シルト（地山）を切って成立する土坑 2 基（時期不明，埋土：黄褐色粘質シルト）（弥生時代，埋土：明黄褐色粘質シルト）。	17H440	HL450	5
六条三坊八町跡，烏丸綾小路遺跡	下京区徳万町 194	12/6	GL-0.77 ～ -1.44m で鈍い黄色粗砂と黒褐色泥砂の互層（しまり非常に良い）。	17H405	HL470	5
六条三坊九町跡，烏丸綾小路遺跡	下京区諏訪町通松原下る弁財天町 324	9/5 ～ 10/3	GL- 0.93m まで盛土。	17H300	HL291	5
六条四坊二町跡	下京区高倉通五条上る亀屋町 165-2，166-2	6/5	GL-0.97 mまで盛土。	16H545	HL104	5
六条四坊十町跡	下京区本神明町 430 他	4/19・21	GL-0.65 mまで盛土。 **遺構面保存のための確認調査。**	16H328	HL031	5
六条四坊十六町跡，御土居跡	下京区寺町通松原下る植松町 707-2	8/1 ～ 7	GL-2.4 mで褐色砂礫（近世包含層），-2.6 ～ -2.8 mで暗オリーブ褐色粘土質シルト。	17H113	HL228	5
七条一坊一町跡	下京区西新屋敷下之町 20，20-1，20-2，20-3，22-1	10/24 ～ 11/6	鎌倉時代の東西溝 2 条を検出。 **本報告 14 ページ。**	17H466	HL385	6
七条二坊一町跡，本圀寺城跡	下京区黒門通五条下る柿本町 595-123，595-124	12/12 ～ 14	№3 :GL-0.1 ～ -0.37m で鈍い黄色シルト（時期不明包含層）を切って成立する土坑 1 基（時期不明，埋土：暗灰黄色泥砂）。 №4 ：GL-0.24m でオリーブ褐色シルト（中世包含層），-0.34 ～ -0.52m で明黄褐色シルト。	17H566	HL480	6
七条二坊六町跡	下京区東中筋通六条下る学林町 302-1	9/19	GL-0.9 mまで盛土。	17H284	HL313	6
七条三坊十六町跡	下京区富田町 370，385-3， 下京区高槻町 362-3	12/7・11	№2 ：GL-1.34m で黄灰色砂礫（地山）。 №3 :GL-0.76m で暗灰黄色礫混じり微砂（時期不明包含層），-0.91m で黄灰色礫混じり細砂（炭混），-1.04 ～ -1.23m で灰色礫混じり粗砂（時期不明包含層）。	17H173	HL471	7
七条四坊三町跡	下京区東洞院通正面東入廿人調町 33	5/29・6/8	GL-1.3 ～ 1.44 mでオリーブ色粗砂（地山）。	17H033	HL092	7
七条四坊十一町跡	下京区河原町通正面下る万屋町 339 他	10/16	GL-0.95 mでオリーブ黒色粘土質シルト（近代盛土），-1.07 mで黒褐色砂礫（河川堆積）。	17H350	HL374	7

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
七条四坊十二町跡	下京区西木屋町通七条上る新日吉町 126	9/29	GL-1.02 ～ -1.49 m で浅黄色粗砂～砂礫（氾濫堆積）。	17H334	HL337	7
七条四条十四町跡	下京区木屋町通正面下る十禅師町 195，196，196-4	11/8・10	GL-0.69 m で鈍い黄色砂礫，-1.1 ～ -1.41 m で鈍い黄色砂礫～細砂。	17H465	HL408	7
八条二坊六町跡	下京区猪熊通三哲下る上魚町 157	12/19	GL-0.9 m で灰白色細砂，-1.22 m で灰黄色砂礫混じり細砂。	17H526	HL495	6
八条二坊九町跡	下京区東堀川通下魚ノ棚下る鍵屋町 39-2	9/4	GL-0.2 m まで盛土。	17H174	HL289	6
八条二坊十二町跡	南京区西九条寺ノ前町 7	9/28	GL-1.2 m で暗灰黄色礫混じり粗砂，-1.52 m ～ 1.55 m で鈍い黄色砂礫（地山）。	17H075	HL334	6
八条二坊十二町跡	南京区西九条寺ノ前町 7	9/28	GL-1.3 m で鈍い褐色泥砂（旧耕作土），-1.4 m で灰褐色泥砂（土壌化層），-1.51 ～ 1.69 m で鈍い黄色砂礫（地山）。	17H076	HL333	6
八条三坊八町跡，東本願寺前古墳群	下京区烏丸通七条下る東塩小路町 590-12，590-13	9/8 ～ 14	№2：GL-0.64 m で灰黄褐色泥砂（時期不明包含層），-0.88 m で灰黄褐色シルト（平安時代中期包含層）を切って成立する土坑 1 基（平安後期～鎌倉時代，埋土：褐灰色砂質土）を検出。GL-1.02 ～ -1.39m で灰白色砂礫（地山）。 №3：GL-0.67 m で暗灰黄色礫混砂質土，-1.02 m で灰オリーブ色細砂を切って成立する土坑 1 基（鎌倉時代，埋土：暗灰黄色炭混砂質土）を検出。GL-1.35 m で黄灰色微砂（地山）。	17H204	HL295	7
八条四坊三町跡，御上居跡	下京区東洞院通七条下る東塩小路町 847，570-1，680，941	5/17 ～ 6/5	室町の八条坊門小路南側溝を検出。 **本報告 21 ページ。**	15H008	HL068	7
八条四坊七町跡	下京区上之町 19-6，19-9 ～ 14，19-16 ～ 21，19-23 ～ 26，19-32，19-34，19-35	11/13	GL-0.4 m まで盛土。	17H531	HL416	7
八条四坊八町跡	下京区材木町他　地内	8/1 ～ 7	GL-0.3 ～ -0.93 m で石垣（近世）を検出。	17H195	HL229	7
八条四坊九・十・十一町跡	下京区下之町他　地内	5/18 ～ 6/16	GL-0.22m で灰黄褐色礫混じり粗砂，-0.42m で灰黄褐色細砂，-0.51m で褐色砂礫，-0.85 ～ 0.97m で褐色礫混じり粗砂。	17H117	HL073	7
九条一坊五町跡	南区八条内田町 2-16，2-28 の一部	8/22	GL-0.14 ～ -0.3m でオリーブ褐色礫混じりシルト。	17H126	HL264	6
九条一坊十五町跡，史跡教王護国寺境内	南区九条町 1	10/2・3	掘削時遺構終了。	29N016	HL343	6
九条一坊十六町跡，教王護国寺旧境内	南区大宮八条下る九条町 412-21，22，23，24	12/14 ～ 20	GL-0.4 m まで盛土。	17H572	HL487	6
九条二坊三町跡	南区東寺東門前町 30-1，30-2，30-3	8/22	GL-0.32 ～ -0.45m で暗オリーブ褐色泥砂。	17H320	HL265	6
九条二坊五・六町跡	南区西九条唐橋町 9,10-1,11,14,15-1 の一部	7/31 ～ 8/7	GL-0.58 m で黒褐色礫混じりシルト（中世包含層），-0.83 m で黒褐色礫混じりシルト（中世包含層），-1.14 ～ -1.8 m で暗灰黄色砂礫（氾濫堆積）。	17H061	HL226	6
九条三坊十一町跡，烏丸町遺跡	南京区東九条北烏丸町 7，7-5，7-6	4/26 ～ 6/2	GL-0.84 m で灰色粘質土（室町時代包含層）。烏丸小路西側築地の内溝埋土の可能性がある。GL-1.25 m で黄灰色粘質土（地山），-1.53 ～ -1.99 m で黄灰色細砂（地山）。	16H607	HL045	7
九条四坊九町跡	南京区東九条東岩本町 15-2	8/21・28	GL-2.06m まで盛土。	17H137	HL258	7
九条四坊十町跡，烏丸町遺跡	南京区東九条東岩本町 2 の一部，2-1 の一部，2-9，2-10，2-11 の一部，2-12 の一部	10/10・13	GL-0.41m で暗灰黄色砂礫（氾濫堆積），-0.75 ～ -1.83m で黄褐色砂礫（地山）。	16H746	HL357	7
九条四坊十三町跡	南京区東九条北松ノ木町 29-4 ～ 8，48-4 ～ 7	4/20・26	GL-1.32m で褐灰色炭混じりシルト，-1.35m で鈍い黄褐色シルト，-1.41 ～ 1.46m で鈍い黄褐色砂礫（地山）。	16H609	HL035	7

平安京右京（HR）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
北辺二坊一町跡	上京区一条通御前西入大上之町 66	5/24 ～ 31	GL-0.6 ～ -1.34 m で鈍い黄橙色粘質土（地山）を切って成立する溝（室町時代，埋土：黒色粘質土，鈍い黄橙色粘質土ブロックを含む黒色粘質土）を検出。一条大路北側築地内溝の可能性がある。	17H015	HR086	9
北辺二坊一町跡	上京区一条通御前西入大東町 93，93-1，93-2	9/1	GL-0.36 ～ -0.78m で黒色シルト（しまり非常に良い，時期不明包含層）。	17H312	HR283	9
北辺二坊八町跡	北区北野下白梅町 27-2	4/3	GL-0.5m まで盛土。	16H731	HR002	9
北辺四坊三・四・六・七・八町，一条四坊七・八・九・十・十六町跡，史跡妙心寺境内史跡・名勝妙心寺庭園	右京区花園妙心寺町 1-1 他	4/17，6/1	GL-0.4 m で明黄褐色砂礫の地山。	28C124	HR100	8
北辺四坊五・六町，一条四坊九・十町，史跡妙心寺境内，史跡・名勝妙心寺庭園	右京区花園妙心寺町～花園寺ノ前町 地内	8/2 ～ 9/14	GL-0.39m でオリーブ褐色粘質土，-0.45m 明黄褐色泥砂，-0.65m で暗灰褐色粘質土，-0.7m で浅黄色礫混じり泥砂（地山），-0.78 ～ -0.84m で黄褐色砂礫（地山）。	29C015	HR238	8
一条二坊三町跡	上京区下立売通御前西入突抜町 428，428-1	8/2	GL-0.4 m まで盛土。	17H082	HR233	9
一条二坊六町跡	上京区堀川町 526	11/20	GL-0.3m まで盛土。	17H225	HR432	9
一条二坊十一・十四町跡，御土居跡	中京区西ノ京北円町～西ノ京中保町 地先	5/29，6/6	GL-1.8 m まで盛土。	17H059	HR090	9
一条二坊十二町跡	中京区西ノ京北円町 50-5	6/22 ～ 12/5	GL-0.25m で明黄褐色シルト，-0.46m で黄褐色礫混じり泥砂，-0.76 ～ -1.03m で褐色礫混じり砂泥。	16H632	HR139	9
一条三坊八町跡	北区大将軍西鷹司町 22-1 の一部	7/10	GL-0.4 m まで盛土。	17H227	HR198	8
一条三坊八町跡	北区大将軍西鷹司町 22-1 の一部	9/8	GL-0.5 m まで盛土。	17H290	HR299	8
一条四坊十六町跡，史跡妙心寺境内	右京区花園大藪町 18	4/17	巡回時掘削跡子。	28C100	HR030	8
二条二坊三町跡	中京区西ノ京冷泉町 22，29	8/25，9/25	№1：GL-1.08 ～ -1.7m で褐灰色粘質土（湿地状堆積）。 №2：GL-0.71 m で浅黄色泥砂（土壌化層），-0.77 m で明黄褐色シルト（地山），-1.23 m で黒褐色シルト，-1.31 m で明黄褐色砂泥（地山），-1.39 m で灰色粗砂（地山），-1.67 ～ 2.03 m まで灰色粗砂（地山）。	17H231	HR271	9
二条二坊三町跡	中京区西ノ京冷泉町 34-1，33 の一部	10/27	GL-0.15m で黒褐色泥砂（鎌倉包含層），-0.59m で黒褐色シルト，-0.73 ～ -1.02m で淡黄色粘土（地山）。	17H484	HR392	9
二条二坊十町跡	中京区西ノ京中御門東町 105	12/13・18	GL-1.5m まで盛土。	17H474	HR486	8
二条二坊十一・十四町跡，西ノ京遺跡	中京区西ノ京南上合町 32-1	6/29，7/3	GL-1.9 m まで盛土。	16H074	HR155	9
二条四坊六町跡，安井馬塚古墳群	右京区太秦安井馬塚町 6-14	8/23	GL-0.35m で耕作土，-0.45m で黄橙色粘質シルト（地山）を切って成立する土坑（時期不明，埋土：暗オリーブ褐色炭混泥砂）を検出。	17H298	HR268	8
二条四坊六町跡，安井馬塚古墳群	右京区太秦安井馬塚町 6-14	9/19	GL-0.2m で鈍い黄褐色泥砂（中世包含層），GL-0.38m で明黄褐色泥砂（地山）。	17H403	HR314	8
三条一坊六町跡，壬生遺跡	中京区西ノ京小倉町 125	5/8・11	GL-1.24 ～ -1.94 m で灰色砂礫（地山）。	16H682	HR053	9
三条一坊九町跡	中京区西ノ京永本町 7-1	12/12・15	GL-0.46m で旧耕作土，-0.58 m で黄灰色礫混泥砂（時期不明包含層），-0.73 ～ -2.04m で明黄褐色砂礫（地山）。	16H711	HR485	9

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
三条一坊十町跡	中京区西ノ京永本町 21-5 の一部	6/27，7/26	巡回時掘削終了。	15H041	HR153	9
三条一坊十三町跡	中京区西ノ京西ノ光町 23-1 の一部、23-2 の一部	4/28	GL-0.27m まで盛土。	16H679	HR052	9
三条二坊五・六町跡	中京区西ノ京北小路町～西ノ京南原町　地先	6/27 ～ 8/31	GL-0.49m で暗褐色泥砂（近世包含層）、-0.59m で黒褐色粘質土、-0.64m で黄灰色礫混じり粘質土（時期不明包含層）、-0.74m で黄褐色砂礫、-0.95m で黒褐色粘質土、-1.02m でオリーブ褐色粗砂、-1.06 ～ -1.25m で黄褐色粘質土（地山）。	17H202	HR154	9
三条三坊十二町跡，西ノ京遺跡	中京区西ノ京桑原町 1	4/27・28	GL-1.8 ～ 1.9m で黄灰色粘質土。	16H279	HR047	8
四条一坊十一・十二町跡	中京区壬生森町 16-7，16-8，16-10 の各一部	5/12	GL-0.61 m まで盛土。	16H720	HR060	11
四条二坊二町跡，壬生遺跡	中京区壬生東大竹町 31	5/8	GL-0.2 ～ -0.35 m で旧耕作土。	17H066	HR054	11
四条二坊十一町跡，壬生遺跡	右京区西院東淳和院町 24-9，24-24	8/30・31	GL-0.5m まで盛土。	17H288	HR279	11
四条三坊一町跡	右京区西院上花田町 26-1 の一部、26，26-2，27	5/15・16	GL-0.38m で灰黄褐色泥砂（旧耕作土）、-0.42m で灰黄褐色砂泥（旧耕作土）、-0.48m で灰黄褐色泥砂（旧耕作土）、-0.57m で灰黄褐色砂泥（旧耕作土）、-0.6 ～ 0.68m で灰色シルト～細砂（地山）。	16H729	HR067	10
四条四坊六町跡，山ノ内遺跡	右京区山ノ内山ノ下町 6，6-2，24，24-2，27	12/20	GL-1.65 m で純い黄褐色粘質土、-1.85 ～ -2.3 m で明黄褐色粘質土（地山）。	17H062	HR498	10
五条一坊一町跡	中京区壬生高樋町 4-13，5-16，5-18	12/7 ～ 27	GL-0.47m まで盛土。	17H454	HR472	11
五条一坊四町跡	中京区壬生松原町 28-2，31-5，82	8/1	GL-0.66 m で黒褐色炭混じり粘土質シルト（近世以後包含層）、-0.85 m で黄褐色砂礫（地山）。	17H247	HR230	11
五条一坊四町跡，御上居跡	中京区壬生松原町 67-47，67-65	11/29	GL-0.45m で灰色粘質土、-0.61m で純い黄褐色粘質シルト（時期不明包含層）。	17H471	HR455	11
五条二坊九町跡	右京区西院高山寺町 13	10/24 ～ 31	GL-1.13m で黒褐色泥砂（近世包含層）、-1.37 ～ -2.94 m で灰色シルト（地山）。	15H477	HR382	11
五条二坊十一町跡，西院遺跡	右京区西院平町 9-1	6/14 ～ 21	GL-0.45m で灰黄褐色炭混じりシルト、-0.63m で純い黄褐色シルト（時期不明包含層）、-0.72m で暗褐色粘質シルト（地山）、-0.85m でオリーブ褐色粘質シルト（地山）、-1.10m で黄褐色微砂（地山）、-1.36m で灰白色粘質土（地山）、-1.72m で灰色微砂（地山）、-1.93 ～ 2.11m で灰色砂礫（地山）。	16H633	HR120	11
五条二坊十二町跡，西院遺跡	右京区西院平町 4-1，4-2，4-3 の各一部	12/20・21	GL-0.45 m まで盛土。	17H598	HR497	11
五条二坊十五町跡	右京区西院西三蔵町 9-1	7/6 ～ 20	GL-0.58m で灰黄褐色泥砂（中世包含層）、-0.66m で黒褐色泥砂、-0.72m で黒褐色粘質土（地山）、-0.85m で明黄褐色粘質土（地山）、-0.98 ～ 1.10m で灰黄褐色粘質土（地山）。	17H157	HR181	11
五条三坊八町跡，西院城跡（小泉城）	右京区西院坤町 116-1 の一部	10/23 ～ 25	GL-0.73 ～ -0.81 m で黄褐色泥砂（時期不明包含層）。	17H341	HR380	10
五条四坊四町跡，西京極遺跡	右京区西院清水町 7	4/17・18	巡回時掘削終了。	16H455	HR028	10
五条四坊十五町跡	右京区西院東貝川町 46-1 の一部	7/21	GL-0.58 m まで盛土。	17H121	HR218	10
六条一坊十三町跡	下京区中堂寺粟田町 90，91	10/26 ～ 11/6	GL-1.1 m で灰黄褐色粘質土、-1.4 m で黒褐色泥砂を切る落込（埋土：褐灰色粘質土）を確認。-1.72 m で黒色粘土（時期不明包含層）、-1.86 ～ -2.3m でオリーブ灰色シルト（地山）を切って成立する東西溝 1 条（時期不明，埋土：褐灰色シルト）を検出。楊梅小路南側溝の可能性がある。	17H314	HR346	11

遺 跡 名	所 在 地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
六条三坊十二町跡	右京区西院西溝崎町 29-5	9/25 ～ 10/3	-0.93 mで明黄褐色シルトブロックを含む灰黄褐色礫混じりシルト，-1.09 mで黄褐色シルト（地山），-1.23 mで黄褐色砂礫（地山）。	17H335	HR327	10
七条一坊二町跡	下京区中堂寺南町 130-2 他	7/3	GL-0.5 mまで盛土。	17H103	HR165	13
七条二坊三町跡，西市跡，衣田町遺跡	下京区西七条市部町 83-2	11/9	GL-0.25 mで灰色砂混じり粘土，-0.33 mで明黄褐色粘質土を切って成立する東西溝1条（時期不明，埋土：暗灰黄色砂礫混じり粘質土）を検出。七条坊門小路南側溝の可能性がある。	17H245	HR409	13
七条二坊十三町跡，衣田町遺跡	下京区西七条北衣田町 7-9，7-10，7-11	12/8・11	GL-0.4mまで盛土。	17H589	HR474	13
七条二坊十六町跡	下京区西七条八幡町 15-3	8/4	GL-0.9 ～ 1.2 mで黄色砂礫（地山）。	17H101	HR239	13
七条三坊十町跡	右京区西京極南庄境町 1	6/23・7/6	GL-1.0m で黒褐色粘質シルト（湿地状堆積），-1.12m で黒褐色粘質シルト（湿地状堆積），1.97m で黒色粘質土（湿地状堆積），-2.31 ～ 2.39m で黒褐色粗砂混シルト（湿地状堆積）。	16H663	HR140	12
七条四坊六町跡	右京区西京極北裏町 18，13-3，18-4 の各一部	4/21	GL-0.8 mまで盛土。	16H683	HR038	12
八条二坊四町跡，梅小路城跡	下京区梅小路西中町 56-2，56-3	12/27	GL-0.4m まで盛土。	17H591	HR504	13
八条二坊十町跡，衣田町遺跡	下京区七条御所ノ内北町 67 番地	5/18・19	GL-0.82m で灰色シルト，-1.36m で灰色砂泥（マンガン粒含む），-1.63 ～ 2.02m でオリーブ褐色礫混じり細砂。	17H054	HR072	13
八条二坊十一町跡，衣田町遺跡	下京区七条御所ノ内中町 50-1	8/2 ～ 9/26	GL-0.74 mで灰褐色泥砂（湿地状堆積），-1.26 mで灰褐色粗砂（河川堆積），-1.43 mで灰黄色シルト（湿地状堆積），-1.63 ～ 3.03 mで明黄褐色砂礫（地山）。	16H718	HR232	13
八条二坊十二町跡	下京区七条御所ノ内本町 89-2 の一部，89-3 の一部	8/2	GL-0.6 mまで盛土。	17H267	HR237	13
八条三坊二・七町跡，衣田町遺跡	下京区七条御所ノ内西町 14	4/20 ～ 24	№1：0.5 mで純い黄褐色粘質土（近世盛土），-0.7 mで灰黄褐色砂礫混じり粘質土（洪水砂層），-0.82 mで純い黄褐色炭混粘質土，-1.0 ～ -1.18 mで褐色粘質土（地山）を切って成立する南北溝1条（平安時代後期，埋土：褐灰色粘質シルト）を検出。 №3：GL-0.7 mで純い黄褐色粘質土（近世盛土），-1.02 mで灰黄褐色砂礫混じり粘質土（洪水砂層），-1.27 m -0.82 mで純い黄褐色炭混じり粘質土，-1.16 m灰色シルト（時期不明包含層），-1.43 ～ -1.48 mで黄灰色砂礫（地山）。	16H465	HR033	12
九条一坊六町跡	南区唐橋花園町 31，32	4/14	GL-0.33 mで灰色泥砂（旧耕作土），-0.4 mで黄灰色シルト（マンガン粒含む），-0.51 mで灰色シルト，-0.66 mで灰黄色粗砂（地山）。	16H730	HR022	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 21-8（7 号地）	8/22・9/4	GL-0.35 mまで盛土。	17H277	HR246	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 21-9（8 号地）	8/22	遺構時掘削終了。	17H278	HR247	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 21-7（6 号地）	8/21	GL-0.3m でオリーブ褐色シルト（時期不明包含層），-0.35m で純い黄褐色シルト（地山）を切って成立する東西溝1条（近世，埋土：暗灰黄色泥砂）を検出。GL-0.43 mで黒褐色粘質シルト（地山），-0.75m で黄褐色シルト（地山），-0.9 ～ -1.56m で黒褐色砂礫（地山）。	17H279	HR248	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 21-6（5 号地）	8/24	GL-0.35 mで灰褐色シルト（地山），-0.5mで黄褐色シルト（地山）。	17H280	HR249	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 21-5（4 号地）	8/18・25	遺構時掘削終了。	17H281	HR250	13

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 21-4（3 号地）	8/17	GL-0.6 m で鈍い黄橙色粘質シルト（時期不明包含層），-0.8 ～ -1.42 m で黄橙色粘質土（地山）を切る落込（時期不明，理土：灰オリーブ色粘質土）を確認。	17H282	HR251	13
九条一坊九町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 地先	10/25	巡回時掘削終了。	17H492	HR387	13
九条一坊十町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南区唐橋門脇町 29-3	9/4・5	GL-0.08 m まで盛土。	17H001	HR290	13
九条一坊十二町跡，西寺跡	南区唐橋花園町 3（3 号地）	7/12・10/17	GL-0.20m で褐灰色シルト（時期不明包含層），-0.43m で黄褐色シルト（地山）。	17H129	HR190	13
九条一坊十二町跡，西寺跡	南区唐橋花園町 3（7 号地）	7/19・12/12	GL-0.12m で灰黄褐色シルト（時期不明包含層），-0.2 ～ -0.27m で灰黄褐色微砂混シルト（上面に鉄分多量沈着）	17H133	HR194	13
九条一坊十二町跡，西寺跡	南区唐橋花園町 3（6 号地）	7/19，11/9	№1：GL-0.18 m で灰オリーブ色泥砂，-0.39 m で灰色シルト，-0.50 m で灰オリーブ色砂礫（地山）。 №2：GL-0.19 m で暗灰黄色粘質土，-0.31 m で黄灰色微砂混じり粘質土（中世包含層）。	17H132	HR193	13
九条一坊十二町跡，西寺跡	南区唐橋花園町 3（10 号地）	7/11 ～ 11/9	GL-0.24 ～ -0.36 m で鈍い黄褐色粘質土（地山）。	17H136	HR197	13
九条一坊十二町跡，西寺跡	南区唐橋花園町 3-2，3-4，3-8，3-10　地内	9/11	GL-0.1 m で灰黄褐色シルトの旧耕作土，-0.45 m で灰黄褐色微砂，-0.62 ～ -145 m で灰褐色粗砂。	17H264	HR303	13
九条一坊十三町跡，史跡西寺跡	南区大宮尻町　地先	8/25・28	GL-1.09 で黄灰色礫混じり粗砂，-1.24 ～ 1.56m で暗灰黄色砂礫。	29C044	HR272	13
九条一坊十三町跡，唐橋遺跡	南区唐橋久保町他　地内	5/23 ～ 8/10	GL-0.45m で黄褐色砂泥，-0.95 ～ -1.10m で灰白色砂礫。	16H529	HR081	13
九条二坊二町跡	南区唐橋平垣町 37-1，37-9	5/17・23	GL-0.7m で暗オリーブ褐色礫混じりシルト（時期不明包含層），-0.93m でオリーブ褐色砂質シルト，-1.12 ～ 1.57m で黄褐色砂礫（地山）。	16H540	HR069	13
九条二坊七町跡，唐橋遺跡	南区唐橋平垣町 29-1	9/1・5	GL-0.74 m で褐灰色礫混じり泥砂，-1.07m で明黄褐色礫砂（地山）を切って成立する土坑（時期不明，理土：黒褐色シルト）を検出。-1.29 m で黄灰色砂礫（地山）。	17H275	HR282	13
九条三坊十二町跡	南区吉祥院新田壱ノ段町 5	12/18	GL-0.45m まで盛土。	17H588	HR490	12
九条四坊九町跡	南区吉祥院宮ノ西町 5	11/28	GL-0.23m まで盛土。	16H135	HR452	12

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
一ノ井遺跡	右京区太秦垣内町 3-108	5/24	GL-0.25m まで盛土。	17S074	UZ084	21
一ノ井遺跡	右京区太秦垣内町 3-102	6/21	GL-0.4m まで盛土。	17S171	UZ135	21
一ノ井遺跡	右京区太秦垣内町 3-100	10/23	GL-0.23m で鈍い黄褐色泥砂，-0.31 ～ -0.49m で鈍い黄褐色泥砂（近世包含層）。	17S487	UZ383	21
広沢古墳群	右京区嵯峨広沢池下町　地先	7/3	GL-0.38 ～ -0.51 m で旧耕作土。	17S211	UZ166	24-1
広隆寺旧境内，常盤仲之町遺跡	右京区太秦西蜂岡町 9-1 他	11/6	GL-0.15m まで盛土。	17S094	UZ401	21
嵯峨遺跡	右京区嵯峨明星町 29-1，29-2，30-1，30-2 の各一部	6/26・28	GL-0.22m で暗褐色泥砂（炭含む・時期不明包含層），-0.34 ～ -0.76m で明黄褐色シルト（地山）。	17S149	UZ148	24-1
嵯峨遺跡	右京区嵯峨天龍寺若宮町 17-4	8/28・29	GL-0.45m で黒褐色泥砂，-0.6m で暗オリーブ褐色泥砂（近世包含層），-0.7m で明黄褐色粘土質シルト（地山）を切って成立する上坑 3 基（時期不明，理土：地山ブロックを含む暗褐色シルト，地山ブロックを含む灰黄褐色粘質土）を検出。	17S145	UZ275	24-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
蛭 峨 遺 跡	右京区蛭峨大覚寺門前八軒町27-1の一部，29-1の一部，29-2	9/15	GL-0.42 mで褐色泥砂，-0.52 mで鈍い黄褐色泥砂，-0.62 mで褐色泥砂（炭含む，室町時代包含層），-0.78 mで黄褐色砂泥。	17S256	UZ309	24-1
蛭 峨 遺 跡	右京区蛭峨大覚寺門前八軒町29番1の一部	9/19	GL-0.13 ～ -0.31 mで褐色泥砂。	17S255	UZ315	24-1
蛭 峨 遺 跡，蛭峨北堀町遺跡	右京区蛭峨天龍寺今堀町15-41	8/2	GL-0.04m まで盛土。 **遺構面保存のための確認調査。**	17S305	UZ234	24-1
蛭 峨 遺 跡，蛭峨北堀町遺跡	右京区蛭峨天龍寺今堀町15-41	8/2・18	GL-0.0 mまで盛土。 **遺構面保存のための確認調査。**	17S306	UZ235	24-1
蛭 峨 遺 跡，蛭峨北堀町遺跡	右京区蛭峨天龍寺今堀町15-40	9/25・26	GL-0.09 mまで盛土。 **遺構面保存のための確認調査。**	17S386	UZ328	24-1
蛭 峨 遺 跡，蛭峨北堀町遺跡	右京区蛭峨天龍寺今堀町15-38	9/25	GL-0.31 mまで盛土。 **遺構面保存のための確認調査。**	17S356	UZ329	24-1
蛭 峨 遺 跡，蛭峨北堀町遺跡	右京区蛭峨天龍寺今堀町15-40	10/16・17	GL-0.13 mでオリーブ黒色シルト（中世包含層），-0.2 ～ -0.38 mでオリーブ褐色粘土質シルト（地山）を切って成立する土坑（埋土：暗オリーブ褐色砂礫）を検出。	17S428	UZ368	24-1
蛭 峨 遺 跡，蛭峨北堀町遺跡	右京区蛭峨天龍寺今堀町15-37（A 号地）	11/14・15	GL-0.14 mまで盛土。 **遺構面保存のための確認調査。**	17S510	UZ421	24-1
蛭 峨 遺 跡，蛭峨北堀町遺跡	右京区蛭峨天龍寺今堀町15-43（G 号地）	12/12・14	GL-0.23 mで明黄褐色シルトを切って成立する土坑（時期不明，埋土：鈍い黄褐色シルト）を検出。	17S569	UZ482	24-1
蛭峨折戸町遺跡	右京区蛭峨天龍寺油掛町10-25，11-90，13-12の各一部	6/16	GL-1.02m まで盛土。	17S102	UZ122	24-1
史跡・名勝嵐山	右京区蛭峨亀山町	7/13・14	GL-0.6 mで橙色泥砂（地山），-1.05 mで明赤褐色礫混じり泥砂（地山），-1.45 mで岩盤。	29N009	UZ207	24-1
史跡・名勝嵐山，蛭 峨 遺 跡	右京区蛭峨鳥居本化野町12-33	11/9・10	GL-0.12 ～ -0.26 mで明黄褐色砂礫混粘質土（地山）。	28C098	UZ411	28-3
史跡・名勝嵐山，臨川寺境内，蛭 峨 遺 跡	右京区蛭峨天龍寺造路町	7/13 ～ 8/4	GL-1.1 ～ -1.5 mまで褐色泥砂（地山）。	29C016	UZ206	24-1
蛇 塚 古 墳	右京区太秦面影町20-21	8/23	GL-0.4m まで盛土。	17S265	UZ270	21
森ヶ東瓦窯跡	右京区太秦森ケ東町	7/6	GL-1.28 ～ -1.5mで黄褐色泥砂。	17S210	UZ182	21
草 木 町 遺 跡	右京区太秦京ノ道町27-15	10/2	遥回時掘削終了。	17S324	UZ344	21
草 木 町 遺 跡	右京区常盤草木町9の一部，9-6の一部	11/20	GL-0.5m まで盛土。	17S429	UZ429	21
多 薮 町 遺 跡	右京区太秦前ノ田町2-2，2-3，2-5	4/5	GL-0.48 ～ -0.55m で褐色シルト（地山）。	16S742	UZ010	21
多 薮 町 遺 跡	右京区太秦堀ケ内町15-5，15-6の一部	11/15	GL-0.37m で暗褐色泥砂，-0.48 ～ -0.51m で褐色シルト（時期不明包含層，炭含む）。	17S514	UZ422	21
太秦馬塚町遺跡	右京区太秦青木ヶ原町15，15-5，16の各一部	5/17	GL-0.27 ～ 0.31m で暗褐色泥砂。	17S064	UZ070	21
太秦馬塚町遺跡	右京区常盤段ノ上町11，11-1，11-3の各一部	10/31，11/1	GL-0.19 mで灰黄褐色泥砂（時期不明包含層），-0.31 mで灰黄褐色泥砂（時期不明包含層），-0.43m で黄褐色シルトを切って成立するピット（時期不明，埋土：褐灰色泥砂）を検出。-0.51 mで黄褐色シルト（地山）。	17S491	UZ395	21
太秦馬塚町遺跡	右京区太秦開日町10-1，11-1	11/27 ～ 29	GL-0.27 ～ -0.52m で黄色シルト（地山）。	17S544	UZ441	21
大覚寺古墳群	右京区蛭峨大覚寺門前堂ノ前町6-13，6-14	9/27	GL- 0.24 mまで盛土。	17S382	UZ332	24-1
平岡八幡宮窯跡	右京区梅ケ畑宮ノ口町23	12/4・6	遥回時掘削終了。	17S545	UZ464	28-2

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
一条山遺跡、妙満寺窯跡	左京区岩倉幡枝町　地内	10/4 ～ 11/20	№４：GL-0.78mで黒褐色粘質土，-1.26 ～ -1.33mで灰色細砂。 №５：GL-0.40mで灰白色粗砂，-0.85 ～ -1.90mで灰色粘土。	17S170	RH349	28-8
岩倉忠在地遺跡	左京区岩倉三笠町 156，157	7/10	GL-0.33 ～ -0.63 mで明黄褐色シルト（地山）。	16S750	RH200	28-6
御上居跡	北区紫野西上屋町 1-121 の一部（１号地）	4/21	GL-0.33 ～ -0.8 mで黄褐色砂礫混じり粘質土。	16S735	RH039	16-3
御上居跡	北区紫野西上屋町 1-121 の一部（２号地）	4/21	GL-0.23 ～ -0.71 mで黄褐色砂礫混じり粘質土。	16S736	RH040	16-3
御上居跡	北区紫野西上屋町 1-121 の一部（３号地）	4/21	GL-0.19 ～ -0.51 mで黄褐色砂礫混じり粘質土。	16S737	RH041	16-3
御上居跡	北区紫竹上堀川町 28，29	8/29	GL-0.3mまで盛土。	17S104	RH276	24-2
御上居跡	上京区御前通寺之内下る西入北町～ 北区平野鳥居前町　地先	9/4 ～ 11	№１：GL-0.28 mでオリーブ黒色粗砂混じりシルト（中近世包含層），-0.5 ～ -0.65 mでオリーブ褐色シルト（地山）。 №３：GL-0.17 mで黄褐色砂礫を切って成立する東西溝（近世，埋土：暗オリーブ褐色礫混じシルト）を検出。-0.45 ～ -0.64 mでオリーブ褐色シルト（地山）。	17S105	RH288	16-3
御上居跡	上京区出町通今出川上る青龍町 249	11/22	GL-0.63 ～ -3.27mで純い黄色砂礫。	17S490	RH442	17
寺ノ内旧域	上京区小川通寺ノ内上る二丁目禅昌院町 646-2，647-3，647-4	10/17	GL-1.13 mで明褐色砂礫（地山）。	17S450	RH375	17
寺町旧域	上京区寺町通今出川下る東側扇町 271	4/11・12	GL-0.4 mまで盛土。	16S714	RH016	17
室町殿跡（花の御所）	上京区室町通今出川上る猪山北半町　地先	7/4・5	GL-0.95 mで純い黄褐色微砂混じり泥砂，-1.02 ～ -1.12 mで黒灰色泥砂。	17S205	RH178	17
上ノ庄田瓦窯跡	北区西賀茂上ノ庄田町 135 の一部	10/12	GL-0.45mまで盛土。	17S023	RH364	16-1
上京遺跡	上京区五辻通大宮半丁東入下る慈眼庵町 751	4/10	GL-0.4 mまで盛土。	16S690	RH011	16-3・17
上京遺跡	上京区今出川通新町西入弁財天町 333-1 他	6/8・13	GL-1.37 mで灰褐色泥砂を切る落込（室町時代，埋土：灰褐色泥砂）を確認。-1.52 mで明黄褐色泥砂，-1.7 mで純い黄褐色礫混じり泥砂，-1.9 mで浅黄色粗砂（地山）。	16S239	RH110	17
上京遺跡	上京区菖蒲町通一条上る晴明町 816-1，816-2	8/17	GL-0.5 mまで盛土。	17S186	RH253	16-3・17
上京遺跡	上京区大宮通五辻下る観世町 132-1	9/15	GL-0.46 mまで盛土。	17S321	RH310	17
上京遺跡	上京区元誓願寺通大宮西入元妙蓮寺町 534，534-1，534-5	9/29	GL-0.4 まで盛土。	17S323	RH338	16
上京遺跡	上京区橘町 637-2　地先～ 上京区石薬師町 697　地先	10/25 ～ 12/5	№１：GL-0.5 mで黒褐色シルト，-0.69 ～ 0.75 mまで純い黄色砂礫（地山）。 №５：GL-0.25mで暗褐色シルト（炭含む，時期不明包含層），-0.4 ～ 0.53m で褐色シルト。	17S431	RH388	16-3・17
植物園北遺跡	北区上賀茂山本町他　地内	5/8 ～ 8/31	GL-0.06 mで暗褐色細砂混シルト（時期不明包含層），-0.5 mで黒褐色シルト，-0.62 ～ -0.82 mで黒褐色細砂混じり粘土質シルト（中世前期包含層）。	16S571	RH055	24-2
植物園北遺跡	左京区下鴨梁田町 11-2	5/12	GL-0.27 mまで盛土。	16S721	RH064	24-2
植物園北遺跡	北区上賀茂蝉ヶ垣内町 32-1	6/19	GL-0.2m まで盛土。	17S156	RH125	24-2
植物園北遺跡	左京区下鴨茶ノ木町 42 の一部	6/29	GL-0.32m まで盛土。	17S215	RH160	24-2
植物園北遺跡	北区上賀茂荒草町～ 北区上賀茂烏帽子ヶ垣内町　地先	7/10 ～ 8/31	№４：GL-0.48 mで純い黄褐色粘土質シルト（時期不明包含層），-0.62 mで褐色粘土質シルト，-0.82 mで純い黄褐色シルト，-1.2 ～ -1.5 mで灰黄褐色礫混じりシルト。 №６：GL-0.25m で黒褐色砂泥，-0.55 ～ -1.30m で純い黄褐色砂礫。	17S189	RH199	24-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
植物園北遺跡	北区上賀茂北大路町 23-11	8/8	GL-0.4mまで盛土。	17S263	RH241	24-2
植物園北遺跡	北区上賀茂北大路町 34-2	10/16	GL-0.23mで暗褐色シルト（近世包含層，しまり悪い），-0.37～-0.42mで黒褐色礫混シルト。	17S406	RH369	24-2
植物園北遺跡	北区上賀茂石計町～北区上賀茂榊田町　地先	10/24～12/1	GL-0.42mで黄褐色シルト，-0.60mで純い黄褐色泥砂，-0.73mで純い黄褐色砂礫，-0.93～0.97mで褐色粗砂（地山）。	17S485	RH384	24-2
植物園北遺跡	北区上賀茂桜井町 106	11/6・9	GL-0.47mで黄褐色シルト，GL-1.07mでオリーブ褐色微砂混じり泥砂（時期不明包含層），-1.63mで暗オリーブ色細砂（地山），-1.94mで黄褐色砂礫の（地山）。	17S358	RH402	17・24-2
植物園北遺跡	左京区下鴨萩ヶ垣内町 1-1	11/24～12/5	GL-0.69mで暗褐色礫混じりシルト，-0.85mで褐色シルト，-1.28～1.87mで暗褐色礫混じり泥砂。	17S416	RH446	17・24-2
船山須恵器窯跡	北区西賀茂今原町 76-1	11/20	GL-0.5mまで盛土。	17S495	RH430	16-2
相国寺旧境内，上京遺跡	上京区古木町 410-9～上京区下柳原南半町 240-1 地先	4/14～7/4	GL-0.86mで褐色泥砂（炭含む，中世包含層），-1.2mで黒褐色礫混じり粘土質泥砂（中世包含層），-1.5～1.57mで灰褐色砂礫。	17S006	RH021	17
尊重寺跡	上京区上立売通浄福寺西入蛭子町 663-1，664	6/22	GL-0.44mまで盛土。	17S077	RH141	16-3
大深町須恵器窯跡	北区西賀茂坊ノ後町 1	9/26	GL-0.4mまで盛土。	17S262	RH330	16-2
大徳寺旧境内	北区紫野大徳寺町 21-2，21-8	6/26・28	GL-0.25mで明褐色微砂混じり泥砂（地山），-0.43mで明黄褐色礫混じり泥砂（地山），-0.62mで明黄褐色礫混じり粘質土（地山），-1.09～1.2mで黄褐色礫混じり粘質土(地山)。	17S207	RH149	16-3
大徳寺旧境内	北区紫野大徳寺町 21-2	9/11	GL-0.11～-0.43mで明黄褐色シルト（地山）。	17S252	RH304	16-3
大徳寺旧境内	北区紫野大徳寺町 21-3	10/27	GL-1.23～-1.88mで明褐色シルト（地山）。	17S257	RH393	16-3
大徳寺旧境内	北区紫野大徳寺町 21-2　地内	11/10	-0.7～-1.0mで明黄褐色粘土（地山）。	17S439	RH413	16-3
大報恩寺境内	北区～上京区七本松通，寺之内通～今出川通他　地内	4/17～10/27	GL-0.6～-1.05mで明黄褐色泥砂（地山）。	16S619	RH026	16-3
醍醐ノ森瓦窯跡	北区西賀茂中川上町 35，36-1	5/22	GL-0.43mで暗褐色粘土質シルト，-0.5mで純い黄褐色粘土質シルト，-0.55～-0.6mで黒褐色粘土質シルト。	16S614	RH076	16-2
北野廃寺，北野遺跡	北区北野白梅町 41	12/8	GL-0.62mで黒色泥土，-0.75mで黒褐色シルト，-0.88～-1.07mで明黄褐色シルト（地山）。	17S536	RH475	16-3
名勝不審庵（表千家）庭園，上京遺跡，寺ノ内旧城	上京区小川通寺之内上る本法寺前町 597	7/19	GL-0.12mで赤色焼土（明治 39 年火災後整地層）。	29N019	RH220	17

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
白河街区跡，岡崎遺跡	左京区岡崎円勝寺町 124（岡崎公園）	11/20	GL-1.7mまで盛土。	13R450	KS431	22
岡崎遺跡，得長寿院跡	左京区聖護院蓮華蔵町　地先	6/7	GL-2.05mまで盛土。	17R085	KS109	22
岡崎遺跡，得長寿院跡	左京区岡崎徳成町 4	11/29	GL-0.25mで黒褐色泥砂（時期不明包含層），-0.38～-0.8mで純い黄褐色泥砂。	17R433	KS456	22
岡崎遺跡，白河街区跡，名勝平安神宮神苑	左京区岡崎西天王町 97	7/19	GL-0.11mまで盛土。	28N026	KS214	22
法勝寺跡，岡崎遺跡	左京区岡崎天王町 62-9，62-10	11/1	GL-0.5mまで盛土。	17R399	KS399	22
法勝寺跡，岡崎遺跡	左京区岡崎法勝寺町 73 地先（市道）	6/13	GL-0.58mでオリーブ褐色粗砂，-0.8～-1.16mで黒褐色微砂混じり泥砂。	17R016	KS117	22

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
法勝寺跡・岡崎遺跡	左京区岡崎法勝寺町	8/30	GL-0.48～-0.73 mで暗褐色礫混じり泥砂。	17R083	KS280	22
法勝寺跡・岡崎遺跡	左京区岡崎南御所町 18-1 地先（市道）	9/19	GL-0.98mまで盛土。	17R266	KS316	22
法勝寺跡・岡崎遺跡	左京区岡崎南御所町 18-1 地先（市道）	9/19	遥回時掘削終了。	17R287	KS317	22
法勝寺跡・岡崎遺跡	左京区岡崎法勝寺町　地先	11/1～7	GL-0.75 mまで盛土。	17R430	KS400	22
吉田泉殿町遺跡	左京区吉田泉殿町 34	11/21～30	室町時代の南北溝を検出。**『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 29 年度』に報告。**	17S241	KS435	22
吉田本町遺跡・吉田上大路町遺跡	左京区吉田本町 5-72	12/18	GL-0.4m まで盛土。	17S623	KS491	22
史跡南禅寺境内，史跡琵琶湖疏水，白河街区跡	左京区南禅寺草川町　地内	7/3，12/19	遥回時掘削終了。	17S148	KS167	22
池田町古墳群	左京区北白川下池田町 27-2，27-3，162，27 の一部	9/11	GL-0.4～-0.83m で純い黄褐色砂質土（時期不明包含層）。	16S584	KS305	22
白河街区跡	左京区北門前町 469-2，469-6，474-1，474-2，474-3，507	6/9	GL-0.65 mまで盛土。	17S123	KS112	22
法成寺跡	上京区寺町通荒神口上る東入宮垣町 96	12/11・14	GL-0.85m で暗灰黄色砂礫（氾濫堆積）。	17S380	KS477	29-3
法成寺跡・御土居跡	上京区河原町通荒神口下る上生洲町 211-16，221-24，221-25	9/22	GL-0.76m で黒褐色泥砂（炭含む），-0.80m で明褐色泥砂（近世包含層），-0.92m でオリーブ褐色砂泥（近世包含層），-1.0～-1.19m で純い黄褐色砂礫（河川堆積）。	17S420	KS326	29-3
北白川追分町遺跡	左京区北白川西町 28	9/8・11	GL-0.16 mで灰黄褐色砂泥，-0.5 mで暗褐色泥砂，-0.61 mで灰黄褐色粗砂混じり泥砂，-0.9 mで純い黄褐色シルト（地山），-1.06 m～-1.36 mで黒褐色泥砂（地山）。	17S199	KS296	22

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
安朱遺跡	山科区御陵烏ノ向町 6	10/10	GL-0.69 mまで盛土。	17S417	RT359	29-5
牛尾須恵器窯跡	山科区御陵大谷町	9/8	GL-1.2 mまで盛土。	17S248	RT300	29-4
高台寺境内（雲居寺跡）隣接地	東山区高台寺南門通下河原町東入圓屋町 358，359-1，360-1	4/20，8/10	GL-0.49～-1.88m で明黄褐色粘質土混じり砂礫（地山）。	16S483	RT034	23
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山科区西野広見町 4-1 の一部	9/28	GL-0.25～0.37 mで暗灰黄色泥砂。	17S310	RT335	26-2
山科本願寺南殿跡	山科区音羽乙出町 6-2	4/18	GL-0.55 mで純い黄褐色砂礫～泥砂，-0.72～-0.85 mで灰黄色砂礫（地山）。	17S031	RT027	29-7
山科本願寺南殿跡	山科区音羽乙出町 6-29	5/8	GL-0.25 mまで盛土。	17S039	RT056	29-7
山科本願寺南殿跡	山科区音羽伊勢宿町 20-1	5/12	GL-0.18 mまで盛土。	17S037	RT065	29-7
山科本願寺南殿跡	山科区音羽伊勢宿町 33-52	8/29～11/2	GL-0.49m で暗褐色泥砂の中世包含層，-0.58m で暗褐色泥砂。**試掘調査後の施工時立会。**	16S497	RT277	29-7
史跡随心院境内	山科区小野御霊町 49-7	10/11	GL-0.03m で褐色泥砂（炭含む，近世包含層），-0.27～-0.34m で褐色泥砂。	29N045	RT362	27-1
寺町旧域	下京区河原町通四条下る二丁目櫛笥町 318-6，下京区寺町通四条下る真安前之町 614-54 他	4/3	GL-0.57m でオリーブ褐色泥砂，-0.75m で暗灰黄色泥砂，-1.03m で暗灰黄色泥砂，-1.17m で黄灰色泥砂（時期不明包含層），-1.30m で黒褐色礫混じり砂泥，-1.50～-1.55m で暗灰黄色砂礫。	16S637	RT003	26-1
寺町旧域	中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488	7/31	GL-0.65 mまで盛土。	17S235	RT227	26-1
芝町遺跡	山科区音羽珍事町　地内	4/7～5/9	GL-0.3 mで明黄褐色泥砂（地山），-0.7 m～-1.2 mで明黄褐色砂礫（地山）。	16S544	RT012	29-8

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
大宅遺跡	山科区大宅中小路 38-5 の一部	6/22・23	GL-0.83 m で明黄褐色砂礫（地山）。	17S091	RT142	30-1
大宅遺跡	山科区大宅山田 3 他 53 筆	8/2	GL-0.27 m で旧耕作土，-0.54 ～ -0.7 m でオリーブ灰色砂礫（地山）。	16S753	RT236	30-1
中臣遺跡	山科区勧修寺西栗栖野町 113	5/10・6/9	GL-0.42 m で灰褐色泥砂，-0.67 m ～ 1.07 m で純い黄色砂礫（地山）。	16N335	RT061	26-3
中臣遺跡	山科区栗栖野打越町 33，34-1，34-6，35-1，山科区勧修寺東栗栖野 1-3	5/22・24	GL-0.47 m で黄褐色粘土質シルト，-0.76 m で灰オリーブ色粗砂礫混じり粘土質シルト，-1.26 ～ -1.41 m で灰オリーブ色粘土質シルト（地山）。	16N722	RT077	26-3
中臣遺跡	山科区勧修寺西栗栖野町地先	6/9	GL-0.49 m で灰黄褐色泥砂（旧耕作土），-0.67 m で純い黄褐色泥砂（旧耕作土），-0.74 m で黄褐色シルト，-1.0 m で黄灰色シルト，-1.07 ～ 1.42 m で浅黄色粗砂（地山）。	17N143	RT113	26-3
中臣遺跡	山科区西野山中臣町 189	6/16	GL-0.49m まで盛土。	17N139	RT123	26-3
中臣遺跡	山科区東野舞台町 75-4	6/19・20	GL-0.4m まで盛土。	17N079	RT126	26-3
中臣遺跡	山科区東野舞台町 56-9	7/7	GL-0.7m まで盛土。	17N172	RT186	26-3
中臣遺跡	山科区勧修寺西栗栖野町 56-7，56-24	8/22	GL-0.28m まで盛土。	17N291	RT266	26-3
中臣遺跡	山科区勧修寺西栗栖野町 248-2	8/30	GL-0.12 ～ -0.24m で黄褐色シルト（地山）を切って成立するピット 2 基（時期不明，埋土：地山ブロック混じり暗褐色シルト）を検出。	17N257	RT281	26-3
中臣遺跡	山科区栗栖野打越町 18-11	9/4	GL-0.15 m で黒褐色泥砂，-0.25 ～ -0.45 m でオリーブ褐色泥砂（地山）を切って成立する土坑 1 基（時期不明，埋土：灰黄褐色泥砂）を検出。	17N271	RT285	26-3
中臣遺跡	山科区東野舞台町 97-74（B 号地）	9/20 ～ 25	GL-0.18m で褐色泥砂，-0.38m で暗褐色泥砂（時期不明包含層），-0.59m で黄褐色泥砂，-0.85 ～ -0.98m で灰オリーブ色礫混じり泥砂（地山）。	17N181	RT322	26-3
中臣遺跡	山科区東野舞台町 97-74（A 号地）	9/20 ～ 10/5	GL-0.68 m で地山ブロック混じり黄褐色シルト，-0.88 ～ -0.99m で黄褐色シルト（地山）。	17N182	RT323	26-3
中臣遺跡	山科区東野森野町 23-59	10/16・17	GL-0.45 m まで盛土。	17N339	RT371	26-3
中臣遺跡	山科区勧修寺東金ケ崎町 30	10/10 ～ 11/15	GL-0.6m で黒褐色粗砂混じりシルト，-0.87m で黒褐色粘土質シルト。	17N387	RT378	26-3
中臣遺跡	山科区勧修寺西栗栖野町 113-3	10/24	GL-0.27m まで盛土。	17N414	RT381	26-3
中臣遺跡	山科区勧修寺西栗栖野町 113-7	11/13・15	GL-0.24m まで盛土。	17N455	RT417	26-3
中臣遺跡	山科区勧修寺西栗栖野町 113（4 号地）	11/22・24	GL-0.35m まで盛土。	17N190	RT443	26-3
中臣遺跡	山科区西野山中臣町	12/7	GL-1.5m まで盛土。	17N498	RT473	26-3
中臣遺跡	山科区勧修寺西栗栖野町 271-4	12/15・18	№1：GL-0.21 ～ -0.3m で明黄褐色砂質土（地山）。№2：GL-0.17 m で黒褐色粘質シルト，-0.37 m で黄褐色粘質シルト。	17N507	RT488	26-3
鳥部（辺）野	東山区清閑寺山ノ内町 25	6/13	GL-0.55m まで盛土。	16S723	RT118	23
方広寺跡，六波羅政庁跡	東山区大和大路渋谷下る茶屋町 地先	8/1 ～ 10/6	GL-0.49 ～ -0.68m で黄褐色砂泥。	17S259	RT231	23
法住寺殿跡	東山区本瓦町 662	6/12・13	GL-0.28m で明黄褐色シルト，-0.43m で純い黄褐色シルト，-0.87m で黄褐色細砂（地山），-1.17 ～ 1.40m で黄灰色シルト（地山）。	17S072	RT115	23
法住寺殿跡	東山区本町八丁目 86	10/10	GL-0.8m まで盛土。	17S400	RT358	23
法住寺殿跡，祥雲寺跡	東山区東瓦町 964 地先（東山七条バス停 南行）	12/6・8	GL-0.92m で淡黄色細砂～シルト，-1.09 ～ -1.16m で黒褐色細砂～シルト。	17S473	RT469	23

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
六波羅政庁跡	東山区大黒町通松原下る一丁目北御門町 276	10/16 ～ 11/17	GL-0.23 m で黄灰色砂礫（近世氾濫堆積）、-0.62 m で鈍い黄褐色砂質土（漆喰含む）、-0.84 m で褐色礫混じり泥砂（時期不明包含層）、-0.99 m で褐色泥砂（炭含む，時期不明包含層）、-1.12 ～ -1.46 m で灰黄褐色泥砂（中世包含層）。	16S063	RT370	23
六波羅政庁跡，法住寺殿跡	東山区正面通本町東入茶屋町 514，514-1	4/12 ～ 14	GL-0.14 m で暗灰色泥砂、-0.18 ～ -0.47 m で明黄褐色シルト（地山）を切って成立する溝 1 条（埋土：灰褐色泥砂）を検出。	16S665	RT014	23

伏見・醍醐地区（FD）

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
嘉祥寺跡	伏見区深草東伊達町 7	6/22 ～ 8/30	GL-0.65m で黒褐色泥砂（しまり悪い）、-0.87m で黄色シルトブロックを含むオリーブ褐色泥砂（時期不明包含層）、-0.92 ～ 1.01m で暗灰黄色泥砂。	17S200	FD143	30-3
向島城跡	伏見区向島本丸町 33 の一部，34 の一部	5/29・30	GL-0.4 m まで盛土。	16S743	FD093	14
史跡醍醐寺境内	伏見区醍醐新町裏町	5/22・24	GL-1.04 ～ -1.19 m で暗褐色礫混じり粘土質シルト。	29C011	FD079	27-1
史跡醍醐寺境内	伏見区醍醐東大路町 6	8/21・22	GL-0.3 m で灰黄褐色礫混じり砂泥（時期不明包含層）、-0.5m で黒褐色砂泥（地山）、-0.8 ～ -0.9 m で鈍い黄褐色砂礫（地山）。	29N003	FD262	27-1
史跡醍醐寺境内	伏見区醍醐赤間南裏町他地先	12/4 ～ 15	GL-0.15m で黄褐色礫混じりシルト（地山）、-0.75 ～ -0.95m で明赤褐色礫混じりシルト（地山）。	29C061	FD465	27-1
深草坊町遺跡	伏見区深草真宗院山町 27	7/3 ～ 7	GL-0.43m で鈍い黄褐色砂泥（時期不明包含層）、-0.72m で褐色泥砂（時期不明包含層）、-0.86 ～ 0.96m で明褐色泥砂（地山）。	16S504	FD156	30-3
深草坊町遺跡，良観寺跡	伏見区深草瓦町～伏見区深草大亀谷西久宝寺町　地内	11/7・8	GL-0.85 ～ -1.12 m で黄灰色粘質シルト（湿地状堆積）。	17S325	FD407	30-3
太閤堤（小倉堤，桃島堤）	伏見区向島西堤町 52-1，51-2，51-4	7/18	GL-0.47 m で灰黄褐色粗砂、-0.72 m ～ -0.88 m で明黄褐色粗砂。	17S050	FD210	14
良観寺跡	伏見区深草瓦町 24，24-2，24-10	4/13・14	GL-0.3 ～ -0.5 m で黒褐色泥砂（近世包含層）。	16S706	FD020	30-3
伏見稲荷大社境内	伏見区深草藪之内町 68	6/19 ～ 12/15	№1；GL-0.47 ～ -0.84m で浅黄色シルト（地山）。	16S088	FD127	26-4
伏見城跡	伏見区東町 199 の一部，201-2 の一部	4/10 ～ 5/12	GL-1.68 ～ -2.52 m で明黄褐色泥砂（地山）。	16F527	FD015	14
伏見城跡	伏見区常盤町 40-3	4/24 ～ 28	GL-1.05m で灰黄褐色礫混じり泥砂（時期不明包含層）を切って成立する土坑（埋土：褐色泥砂）を検出。-1.15m で明黄褐色微砂（地山）、-1.3m で明黄褐色砂礫（しまり良い，地山）。	16F038	FD043	14
伏見城跡	伏見区桃山町泰長老 176-5	5/19・23	伏見城の石垣を検出。**本報告 50 ページ。**	16F039	FD075	14
伏見城跡	伏見区新町三丁目 478-2	5/24・26	GL-0.6 ～ -0.67m で灰オリーブ色泥砂の時期不明包含層。	17F090	FD085	14
伏見城跡	伏見区桃山町丹後 30-5	5/26・29	GL-1.0m まで盛土。	16F744	FD091	15
伏見城跡	伏見区桃山町正宗 11，11-11	6/1	GL-0.86 m で橙色礫混じり粘質土（時期不明包含層）、-1.17 ～ -1.25 m で鈍い橙色礫混じり粘質土。	16F628	FD102	14・15
伏見城跡	伏見区東大手町 776，伏見区御堂前町 613-2	6/19 ～ 28	GL-1.01m で黒褐色粘土質シルト、-1.12m で褐色シルト（しまり悪い）、-1.5 ～ 1.63m で黄褐色礫混じり泥砂。	16F703	FD128	14
伏見城跡	伏見区小栗栖中山田町～伏見区桃山町遠山　地内	6/28 ～ 10/5	GL-0.32m で鈍い黄褐色泥砂、-0.4 ～ -0.52m で明黄褐色泥砂。	16F668	FD157	15
伏見城跡	伏見区銀座町三丁目 304-1，305-1	7/28	GL-0.3 m で赤褐色粘土質シルト、-0.45 ～ -0.5 m で赤褐色粘土質シルト。	17F150	FD225	14
伏見城跡，指月城跡	伏見区桃山町泰長老（桃山国有林）	8/18 ～ 10/26	石垣と造成土を検出。**本報告 53 ページ。**	17F158	FD256	14・15

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏見区銀座町四丁目 298，299，300-2	9/7～25	GL-0.21 mで橙色泥砂（炭含む），-0.42～0.68 mで明褐色泥砂（伏見城期造成土）。	17F146	FD294	14
伏見城跡	伏見区鍋島町 7-3 の一部	9/29	GL-0.32 mで純い黄褐色泥砂（時期不明包含層），-0.71 で黄橙色シルト（時期不明造成土），-0.86～1.24 まで明黄褐色礫混じり泥砂（時期不明造成土）。	17F236	FD339	14
伏見城跡	伏見区両替町十三丁目 197	10/3	GL-0.9 mまで盛土。	17F069	FD347	14
伏見城跡	伏見区京町二丁目 206-1 の一部，208 の一部，210-1	10/5	GL-0.89mまで盛土。	17F434	FD353	14
伏見城跡	伏見区鷹匠町 4 の一部，2-2 の一部，伏見区御駕籠町 127-2	10/16	GL-0.9 mで黒褐色粗砂混じりシルト（近世造成土），-1.8 mで黒褐色粗砂混じり粘土質シルト（炭含む），-1.89～-2.03 mでオリーブ褐色泥砂（地山）。	17F301	FD372	14
伏見城跡	伏見区桃山町泰長老 179	10/26	GL-0.48 mまで盛土。	17F293	FD390	14
伏見城跡	伏見区桃山町西町 1	10/31～11/2	GL-0.81mで橙色礫混じり砂質土，-1.0 mで褐灰色砂礫，-1.23～-1.53mで明褐色礫混じりシルト。	17F448	FD397	15
伏見城跡	伏見区観音寺町 214-1，215-1	11/7	GL-1.55 mで橙色砂礫（地山）。	17F427	FD404	14
伏見城跡	伏見区桃山町下野 35-1	11/16・17	GL-0.27mで明褐色砂質土，-0.46 mで明黄褐色シルト（浅黄橙色と黄橙色シルトブロック含む），-0.59 mで黄橙色微砂を切る落込（埋土：明黄褐色微砂），土坑2基（埋土：褐色細砂混じりシルト，黄橙色～灰白色シルトブロックを含む純い黄褐色細砂混じりシルト（炭含む）を検出。	17F363	FD426	14・15
伏見城跡	伏見区銀座町二丁目 325，325-1，325-3 の一部，326-1 の一部	11/16	GL-0.4mまで盛土。	17F470	FD427	14
伏見城跡	伏見区大亀谷万帖敷町 893-1，892，891	11/22	GL-0.4 mまで盛土。	17F533	FD444	14・15
伏見城跡，御香宮廃寺	伏見区御香宮門前町 174	10/10～13	GL-0.2～-0.5m で明褐色泥砂（近世造成土）。	17F398	FD360	14
伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏見区桃山町島津 60-1 の一部	7/11・12	GL-0.45m で橙色粗砂（伏見城期造成土），-1.44m で明赤褐色泥砂（炭含む，伏見城期造成土），-1.54～-1.9m で明黄褐色粗砂（地山）。	17F014	FD203	14・15
伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏見区桃山町永井久太郎 69-1	9/19～28	GL-0.36m で明褐色微砂混じり泥砂，-0.5m で黄褐色礫混じり泥砂，-0.56m で黒色炭層，-0.7m で明赤褐色泥砂を切って成立する土坑（時期不明，埋土：明褐色泥砂と橙色泥砂の混合層）を検出。-0.76m で黒褐色泥砂（炭多く含む），-0.82m で明褐色泥砂（明褐色泥砂ブロック混じる），-0.86m で黄色シルト，GL-1.17～-1.54m で黄橙色礫混じり粗砂（地山）。**試掘調査後の施工時立会。**	17F067	FD318	14・15
伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏見区桃山町正宗　地先	10/4～18	GL-0.6～-0.77m で褐色礫混じりシルト。	17F443	FD351	14・15
伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏見区桃山町正宗　地先	11/13～12/15	GL-0.3～-1.18 mで明黄褐色礫混じり砂質土，褐灰色砂礫，灰白色礫混じり粗砂，明黄褐色礫混じり粘質土等（伏見城期造成土）。	17F534	FD418	14・15
伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏見区桃山町正宗 37-2	11/15	GL-0.5m まで盛土。	17F476	FD424	14・15
伏見城跡，桃陵遺跡	伏見区京町一丁目 256-1，256-2	6/19～29	№1：GL-0.8～-1.19m で暗褐色泥砂（近世以後包含層）。 №2：GL-1.18m で暗褐色泥砂（近世以後包含層，-1.44m で黄褐色礫混じり泥砂，-1.61m で明黄褐色砂礫の（地山）。-1.75～-2.08m で純い黄橙色粗砂と灰黄褐色粗砂の互層（地山），GL-2.08～-2.4m で黄褐色粗砂（地山）。	17F089	FD129	14

鳥羽地区（TB）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
下三栖城跡	伏見区横大路三栖池田屋敷 18-2, 伏見区下三栖城ノ前町 13	9/8・11	GL-0.25 ～ -0.5 mで鈍い黄褐色粗砂。	17S206	TB297	30-4
下鳥羽遺跡, 芹川城跡	伏見区北寝小屋町 5, 6, 7	6/19 ～ 7/10	GL-0.8m まで盛土。	17S088	TB130	31-1
御土居跡	南区西九条比永城町 119, 119-1	7/3 ～ 10	№1 ：GL-0.42 mで暗灰黄色泥砂，GL-0.68 ～ 1.16 mで褐色泥砂（しまり良い）。 №2 ：GL-0.64 ～ -1.14m で褐灰色砂礫。	17S114	TB168	30-6
深草遺跡	伏見区深草西浦町四丁目 36-1, 36-2	10/16	GL-0.65 mまで盛土。	17S483	TB376	30-8
鳥羽離宮跡	伏見区竹田西浦ノ井町 79	4/24	GL-0.38m まで盛土。	16T643	TB042	25-1
鳥羽離宮跡	伏見区竹田真幡木町 106	5/22	GL-0.7 mまで盛土。	17T012	TB078	25-1
鳥羽離宮跡	伏見区竹田真幡木町　地先	8/9	GL-0.6 ～ -1.3m で暗青灰色粘土（湿地状堆積）。	17T311	TB242	25-1
鳥羽離宮跡	伏見区竹田西浦ノ井町 50	9/1	GL-0.6 mまで盛土。	17T274	TB284	25-1
鳥羽離宮跡	伏見区竹田中内畑町　地先	10/31	GL-1.4m まで盛土。	17T493	TB396	25-1
鳥羽離宮跡	伏見区中島秋ノ山町 8 の一部, 13-1 の一部, 14-1, 15, 16, 17-1, 17-2, 17-3, 18, 19-1	11/7・9	GL-1.9 mまで盛土。	17T093	TB405	25-1
鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡	伏見区中島堀端町 24-2	6/5	GL-0.32 mまで盛土。	16T732	TB107	25-1
鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡	伏見区中島秋ノ山町 52	7/10	GL-0.8m まで盛土。	17T220	TB201	25-1
鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡	伏見区竹田東小屋ノ内町 84-1	10/4	GL-0.99m で褐灰色粘土，-1.37m で褐灰色シルト～細砂。	17T218	TB350	25-1
唐橋遺跡	南区吉祥院九条町 45, 45-2	7/14・19	GL-0.89m で灰白色泥砂（旧耕作土），-1.03m で黄灰色シルト（旧耕作土），-1.39m で明黄褐色砂礫（氾濫堆積），-1.66 ～ -1.88m で灰色粗砂（氾濫堆積）。	17S047	TB209	30-5
唐橋遺跡	南区吉祥院九条町 59-4	11/16	GL-0.36m まで盛土。	17S408	TB425	30-5
淀城跡	伏見区淀木津町 208 他	4/7・14	GL-0.28 mまで盛土。	16S586	TB013	20
淀城跡	伏見区淀池上町 83	4/17	GL-0.5 mまで盛土。	16S755	TB025	20
淀城跡	伏見区淀木津町 612-3, 612-18, 612-20, 612-21, 612-22, 612-23, 612-25, 612-26, 612-30	6/29 ～ 7/10	GL-1.6m まで盛土。	16S752	TB161	20
淀城跡	伏見区淀木津町 247, 247-1, 249-1, 249-3	9/20	GL-0.42 mまで盛土。	17S357	TB324	20
淀城跡	伏見区淀下津町 167, 168 (分筆後予定地番：167-2)	11/21	GL-0.45m まで盛土。	17S422	TB437	20
淀城跡	伏見区淀下津町 167, 168 (分筆後予定地番：167-1)	11/21	GL-0.35m まで盛土。	17S421	TB436	20

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
左京北辺三坊三・六町跡, 東院跡	南区久世殿城町 332	11/24	GL-2.48m まで盛土。	17NG175	NG447	18-3
左京一条四坊八町跡	南区久世大藪町 540-3	10/12	GL-0.46m まで盛土。	17NG346	NG365	18-3
左京一条四坊十一町跡	伏見区久我本町 11-257 の一部	4/14, 5/8	GL-0.41 mまで盛土。	16NG649	NG024	18-3
左京一条四坊十一町跡	伏見区久我本町 11-257 の一部	5/8・9	GL-0.53 mまで盛土。	16NG650	NG023	18-3
左京一条四坊十三町跡	伏見区久我本町 11-6	7/18	GL-0.67 mまで盛土。	17NG176	NG211	18-3

遺 跡 名	所 在 地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
左京二条三坊十四・十五町跡、東上川遺跡	伏見区久我西出町 2-15、2-16、2-108、2-143	10/11、11/6	GL-0.7m まで盛土。	17NG003	NG363	19
左京二条四坊五・六町跡	伏見区久我西出町 2-2	5/22・24	GL-0.08 m で黄褐色粘土質シルト、-0.16 ～ -0.32 m で黄褐色シルト（しまりやや良い）。	16NG597	NG080	19
左京三条三坊十六町跡	伏見区久我西出町 4-10	4/4 ～ 19	長岡京東三坊切間東小路東側溝を検出。**『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 29 年度』に報告。**	16NG585	NG006	19
左京四条三坊十二町跡	伏見区羽束師菱川町 80 の一部	6/22 ～ 26	№1 ；GL-0.36 m で純い黄色砂礫（地山）。№2：GL-1.15 ～ 1.23m でオリーブ黒色粘土。	17NG049	NG144	19
左京四条三坊十三町跡、羽束師菱川城跡	伏見区羽束師菱川町 43-9	7/21	GL-0.3 m まで盛土。	17NG270	NG219	19
左京四条三坊十四町跡、羽束師菱川城跡	伏見区羽束師菱川町 532-1 の一部他	9/26 ～ 11/6	GL-0.83 ～ -1.07m で旧耕作土。	17NG223 (16NG708)	NG331	19
左京四条三坊十四町跡	伏見区羽束師菱川町 537-20	11/24	GL-0.28m まで盛土。	17NG479	NG448	19
左京四条三坊十五町跡	伏見区羽束師菱川町 537-53	9/29	遺回時掘削終了。	17NG388	NG341	19
左京五条三坊九町跡	伏見区羽束師菱川町 268-1、268-3、269-3、269-17	10/27	GL-0.4 ～ -1.6m で暗灰黄色泥砂。	17NG419	NG394	19
左京五条四坊十一・十二町跡	伏見区羽束師古川町 41 の一部	10/2・3	GL-0.35 m まで盛土。	17NG326	NG345	19
左京五条四坊十三町跡	伏見区羽束師古川町 843 の一部	8/21・23	GL-0.4m で褐色泥砂（しまり悪い）、-0.65m で褐色粘質シルトに食い込む径 0.5 m の石を検出。-0.75 ～ 0.85m で褐灰色細砂～粗砂。	16NG748	NG259	19
左京六条三坊十三町跡	伏見区羽束師古川町 578-3	10/6	GL-1.4 m まで盛土。	17NG342	NG354	19
左京九条四坊三町跡	伏見区納所町 133、536-3	9/4	GL-0.27 m まで盛土。	17NG309	NG286	20
左京九条四坊三町跡	伏見区納所町 130 他	9/8	GL-0.27 m ～ -0.36 m まで暗灰黄色砂泥。	17NG297	NG298	20
右京北辺二坊十三町，三坊四町跡	西区大原野東野町　地先	4/3 ～ 28	GL-0.25 ～ -1.09m で明黄褐色粘質土（地山）。	16NG636	NG004	18-2

南桂川地区（MK）

遺 跡 名	所 在 地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
下津林遺跡	西京区川島藤田町 44-4	6/1	GL-0.25 m まで盛土。	17S044	MK101	31-3
樫原遺跡、樫原廃寺瓦窯跡	西京区樫原里ノ垣外町 18-1 他	5/23 ～ 8/31	GL-0.58 m で黄色褐色粘質土（地山）、-1.39 m ～ -1.5 m で明黄褐色シルト（地山）。	14S350	MK083	31-4
桂城跡	西京区桂久方町 57、57-1、59-2、59-1 の一部	10/3	GL-0.33 m まで盛土。	17S337	MK348	27-4
史跡・名勝嵐山	西京区嵐山山ノ下町 27-2	6/5	GL-0.42 ～ -0.56 m で明黄褐色砂泥（地山）。	28C148	MK106	31-2
史跡・名勝嵐山	西京区嵐山中尾下町 20-51	7/12	GL-0.9 m まで盛土。	29N006	MK205	31-2
史跡・名勝嵐山	西京区嵐山風呂ノ橋町 8-6	8/18	GL-0.15 m まで盛土。	29N004	MK255	31-2
史跡・名勝嵐山	西京区嵐山中尾下町 2 の一部	9/29	GL-0.56 まで盛土。	29N040	MK340	31-2
史跡・名勝嵐山	西京区嵐山中尾下町 2-7（2 号地）	12/1・4	遺回時掘削終了。	29N052	MK460	31-2
史跡・名勝嵐山	西京区嵐山中尾下町 2-7（3 号地）	12/1	GL-0.6m まで盛土。	29N053	MK461	31-2
史跡・名勝嵐山	西京区嵐山山田町 5-31 の一部	12/11	GL-0.2 m まで盛土。	29N015	MK478	31-2

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山，嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西京区嵐山東海道町 51-4，34-1，34-18	7/20	GL-0.23 mまで盛土。	29C023	MK217	31-2
上久世遺跡	南京区久世上久世町 435	6/20 ～ 25	GL-0.19 mで橙色砂泥（地山），-0.85 ～ -1.52 mで黄橙色泥砂（地山）。	17S138	MK132	18-3
大藪遺跡	南京区久世殿城町 537 の一部，381-1 の一部	10/17	GL-0.25 mまで盛土。	17S461	MK373	18-3
中久世遺跡	南京区久世大藪町 49-1	4/26	GL-0.1m で明黄褐色シルト，-0.3 ～ -0.55m で黄褐色シルト（地山）を切って成立するピット（時期不明）を検出。	16S657	MK046	18-3
中久世遺跡	南京区久世殿城町 21-1	5/31，6/2	-0.51 mで灰色粘質土，-0.7 mでオリーブ灰色粗砂混じり粘質土，-1.02 mで暗灰色粗砂混じり粘土（炭含む・時期不明包含層），-1.41 ～ -1.8 mでオリーブ灰色粘土（地山）。	16S354	MK095	18-3
中久世遺跡	南京区久世大藪町 49-1 の一部	6/22・26	GL-0.38m まで盛土。	17S071	MK146	18-3
中久世遺跡	南京区久世大藪町 49-1 の一部	6/22・26	GL-0.3m まで盛土。	17S070	MK145	18-3
中久世遺跡	南京区久世中久世町二丁目 112（1 号地）	7/11	GL-0.52 ～ -1.03 mで灰色粘土（地山）。	17S161	MK169	18-3
中久世遺跡	南京区久世中久世町二丁目 112（2 号地）	7/11	GL-0.6 ～ -1.09 mで灰色粘土（地山）。	17S162	MK170	18-3
中久世遺跡	南京区久世中久世町二丁目 112（3 号地）	7/11，11/24	GL-0.26mで鈍い黄橙色シルト（地山）。-0.55 ～ -1.1mで鈍い黄橙色細砂（地山）。	17S163	MK171	18-3
中久世遺跡	南京区久世殿城町 115-1 の一部，114-5 の一部（西棟）	8/18	GL-0.65 mまで盛土。	17S196	MK254	18-3
中久世遺跡	南京区久世殿城町 115-1 の一部，114-5 の一部	8/21	GL-0.62 ～ 0.77m でオリーブ褐色細砂。	17S197	MK260	18-3
中久世遺跡	南京区久世中久世町五丁目 32-8	11/13	GL-0.25 mまで盛土。	17S409	MK419	18-3
福西古墳群	西京区大枝東長町 1-610	4/27	GL-0.88 mまで盛土。	16S595	MK049	27-3
福西古墳群	西京区大枝北福西町 1-1	7/5	GL-2.6 ～ -3.5 mで浅黄色細砂（地山）。	15S020	MK179	27-3
福西古墳群	西京区大枝東長町　地内	7/18	GL-0.85 ～ -1.5 mで明黄褐色砂泥（地山）。	17S112	MK212	27-3
福西古墳群	西京区大枝東長町　地内	7/18	GL-0.9 mまで盛土。	17S253	MK213	27-3
福西古墳群	西京区大枝中山町	11/8 ～ 15	GL-1.45 mまで盛土。	17S402	MK410	27-3
福西古墳群	西京区大枝中山町 7-202（3 号地）	12/18	遠回時掘削終了。	17S425	MK492	27-3
福西古墳群	西京区大枝中山町 7-202（1 号地）	12/18	GL-0.4m まで盛土。	17S426	MK493	27-3

京北地区（UK）

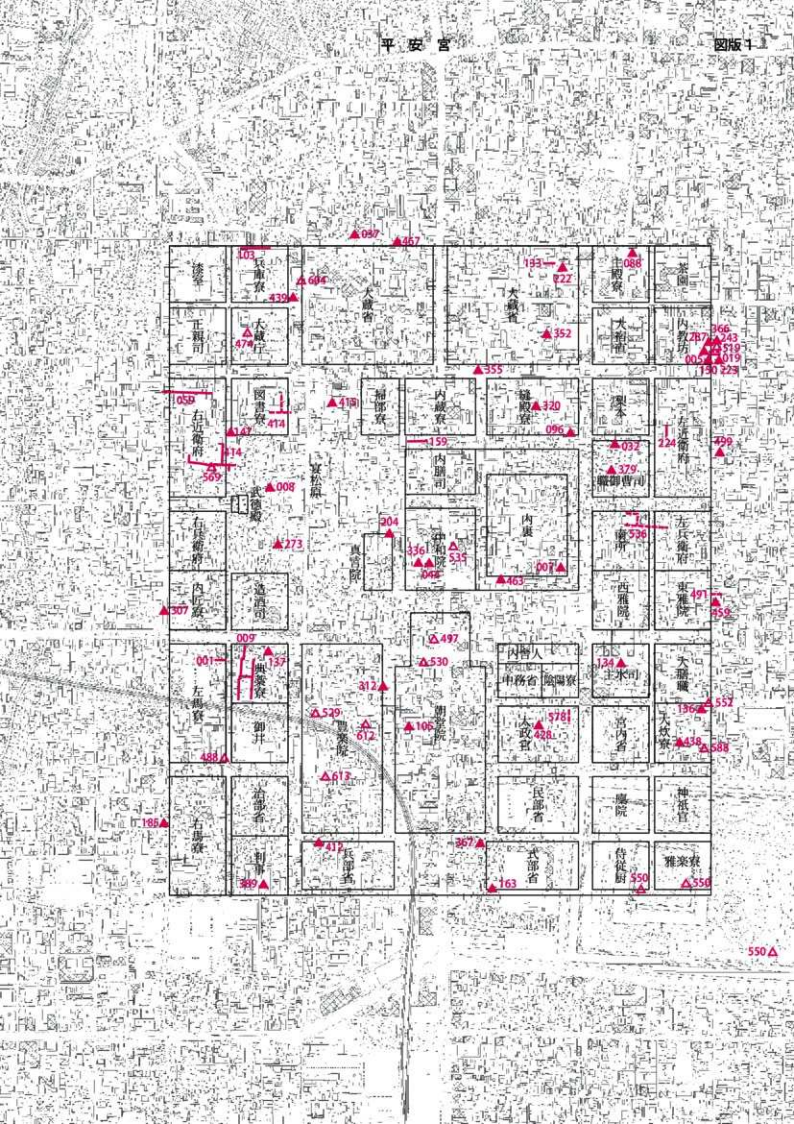
遺　跡　名	所　在　地	調査日	調査概要	京都市番号	調査No.	図版
周山城跡	右京区京北周山町城山 44-1，55，56	6/29 ～ 7/21	工事内容確認。	17S194	UK158	25-2

図　　版

凡　例

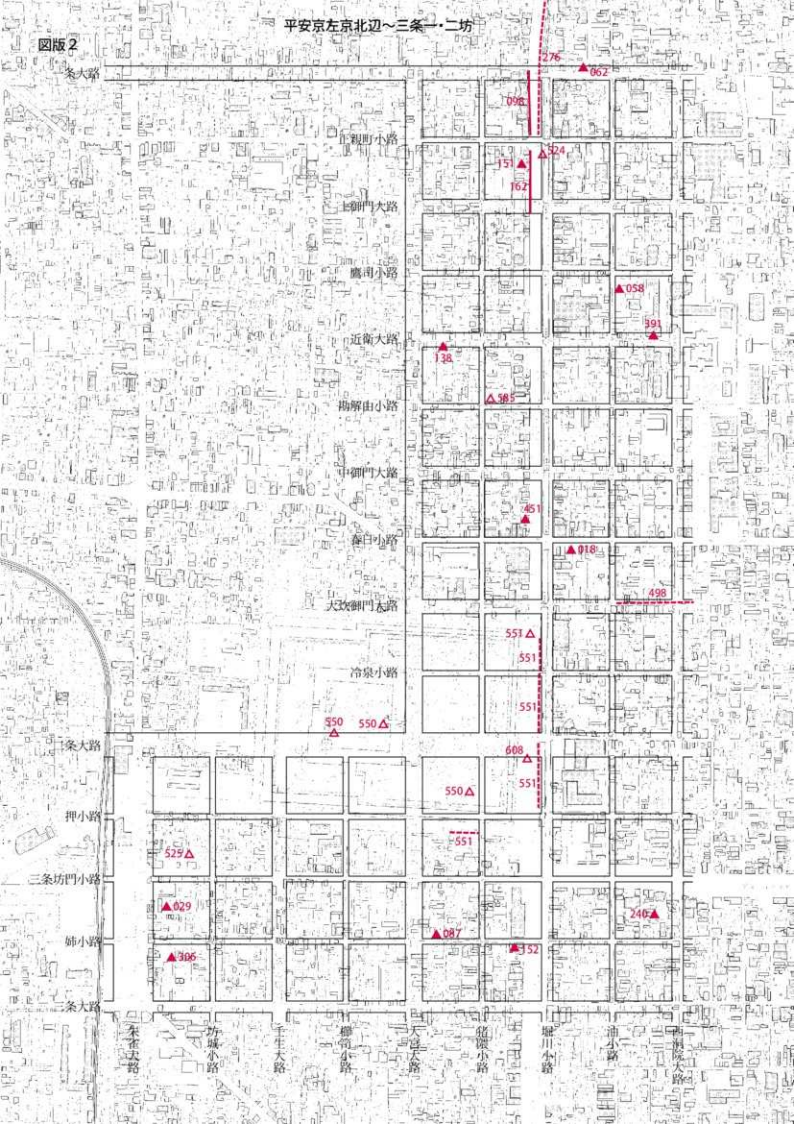
△ ------- 2017年１～３月期(平成28年度)詳細分布調査地点

▲ ——— 2017年４～12月期(平成29年度)詳細分布調査地点


漆室
兵庫寮
大蔵省
大蔵省
殿寮
茶園
正親司
大蔵寮
大膳職
内匠寮
図書寮
帰部寮
内蔵寮
縫殿寮
宮本
左近衛府
右近衛府
内膳司
内豎
左兵衛府
内豎所
右兵衛府
内裏
内竪寮
造酒司
中和院
真言院
西雅院
東雅院
左馬寮
典薬寮
内匠寮
中務省
陰陽寮
大炊寮
宮内省
神祇官
兵部寮
朝堂院
豊楽院
大政官
民部省
式部省
雅楽寮
侍従厨
右馬寮
兵部省
刑部省
式部省

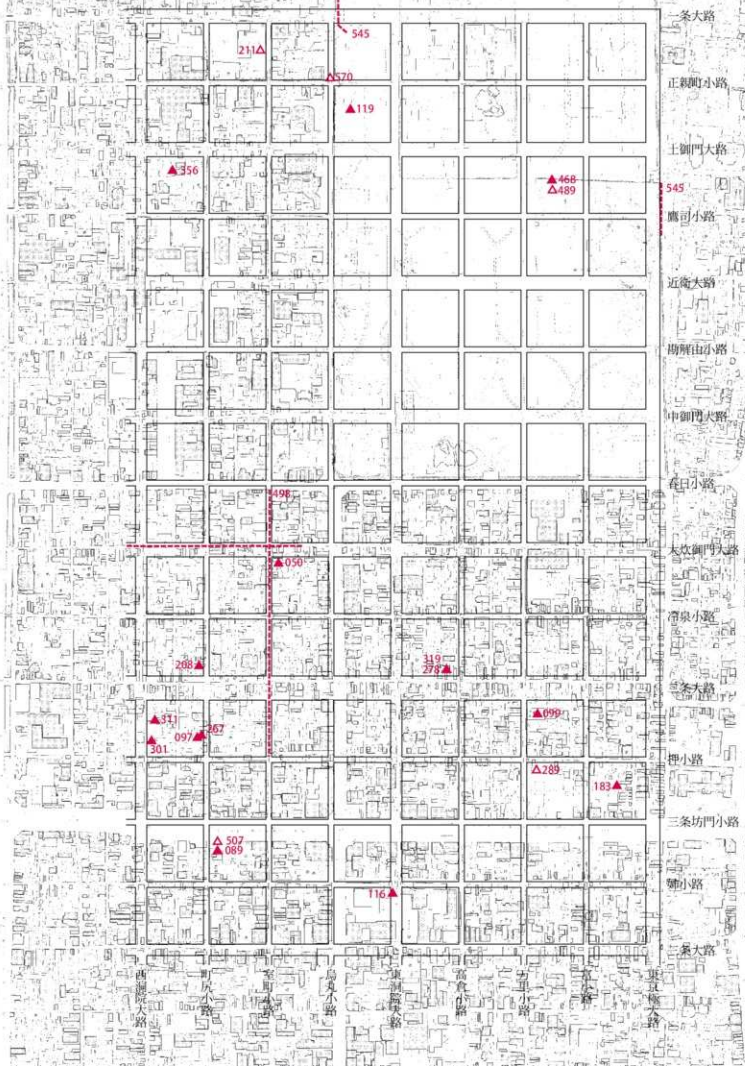
図版2

平安京左京北辺～三条一・二坊



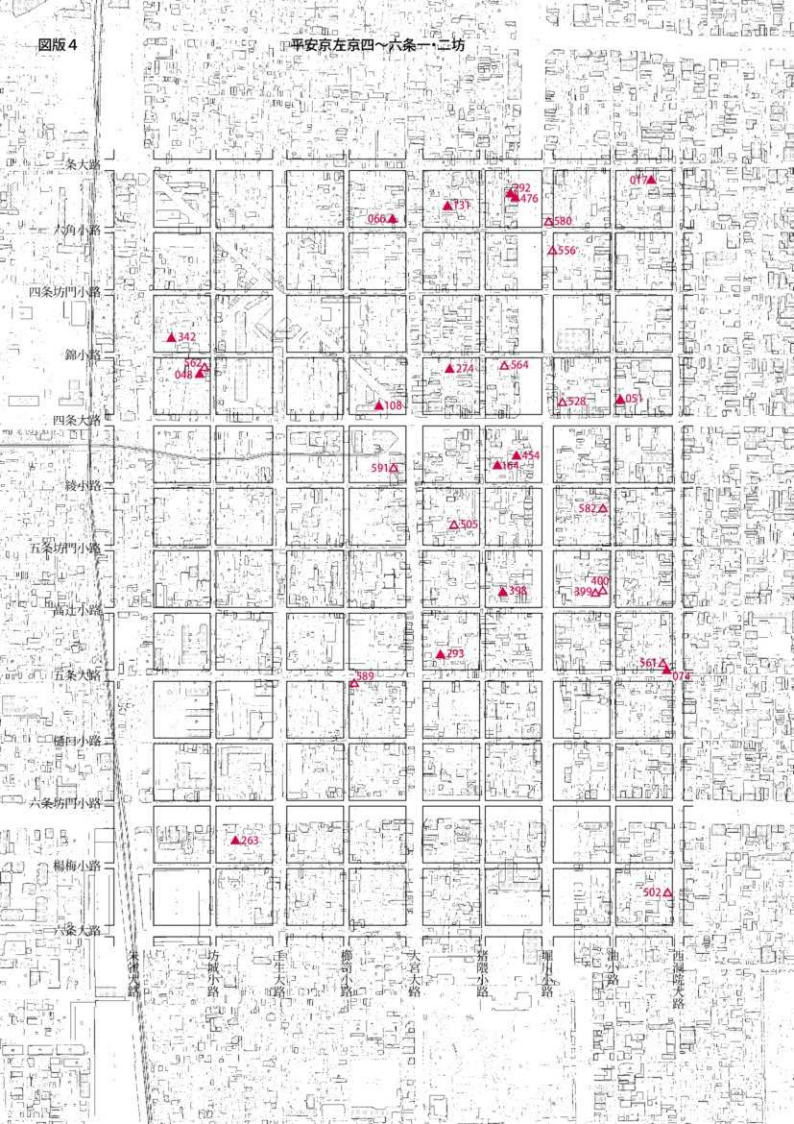
平安京左京北辺～三条三・四坊

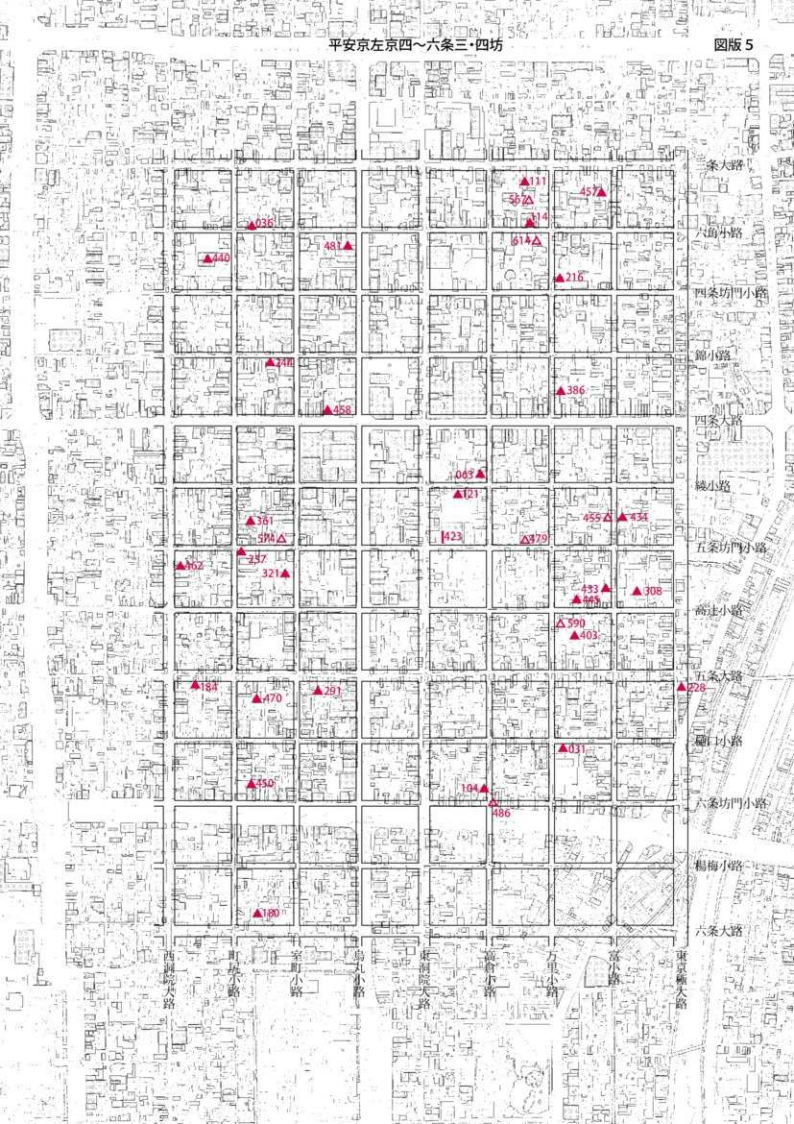
図版3



図版4

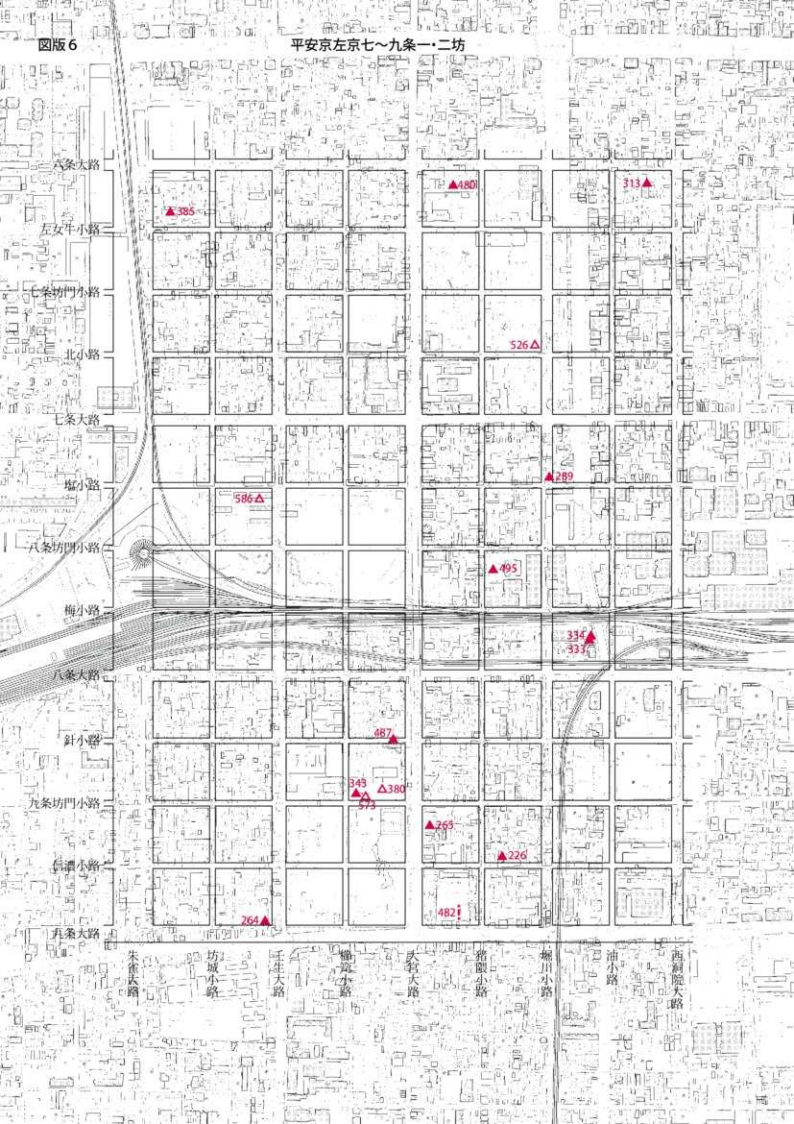
平安京左京四～六条一・二坊

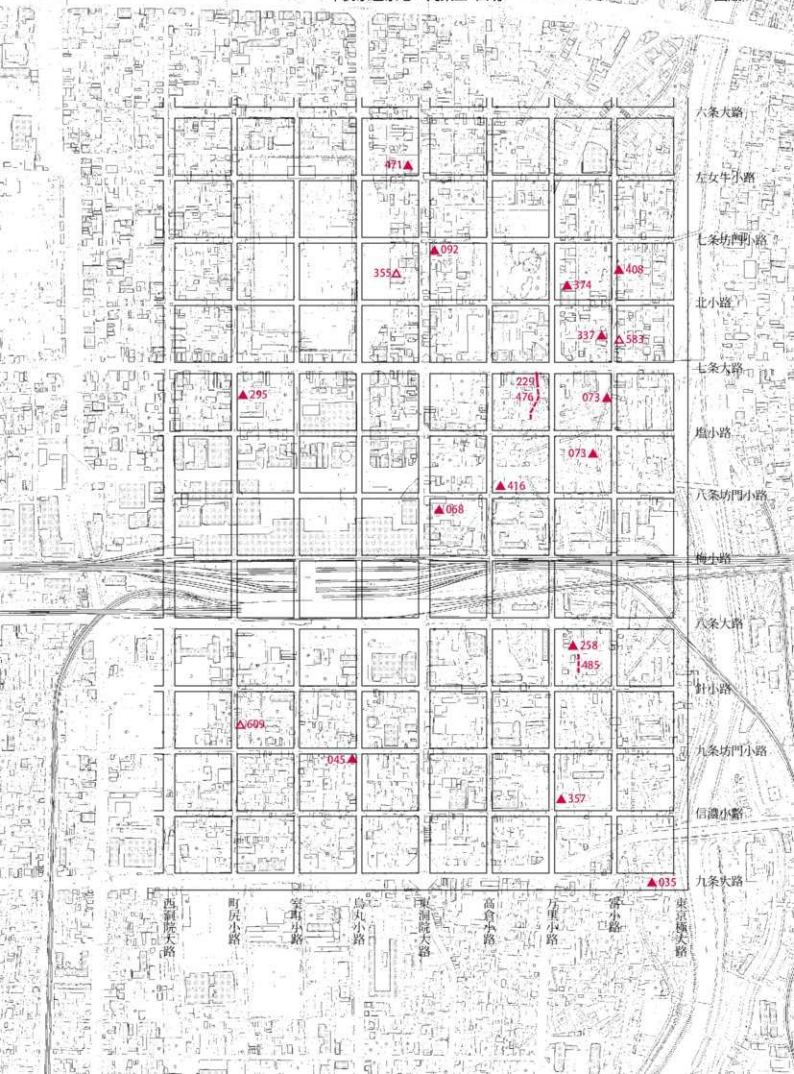



一条大路
八条小路
四条坊門小路
錦小路
四条大路
綾小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
烏丸小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
西洞院大路
町尻小路
室町小路
烏丸小路
東洞院大路
高倉小路
万里小路
富小路
東京極大路
036
440
481
131
56
457
214
614
216
246
458
386
063
121
361
455
434
423
379
162
257
321
433
308
390
403
184
470
291
228
031
450
104
486
180

図版6

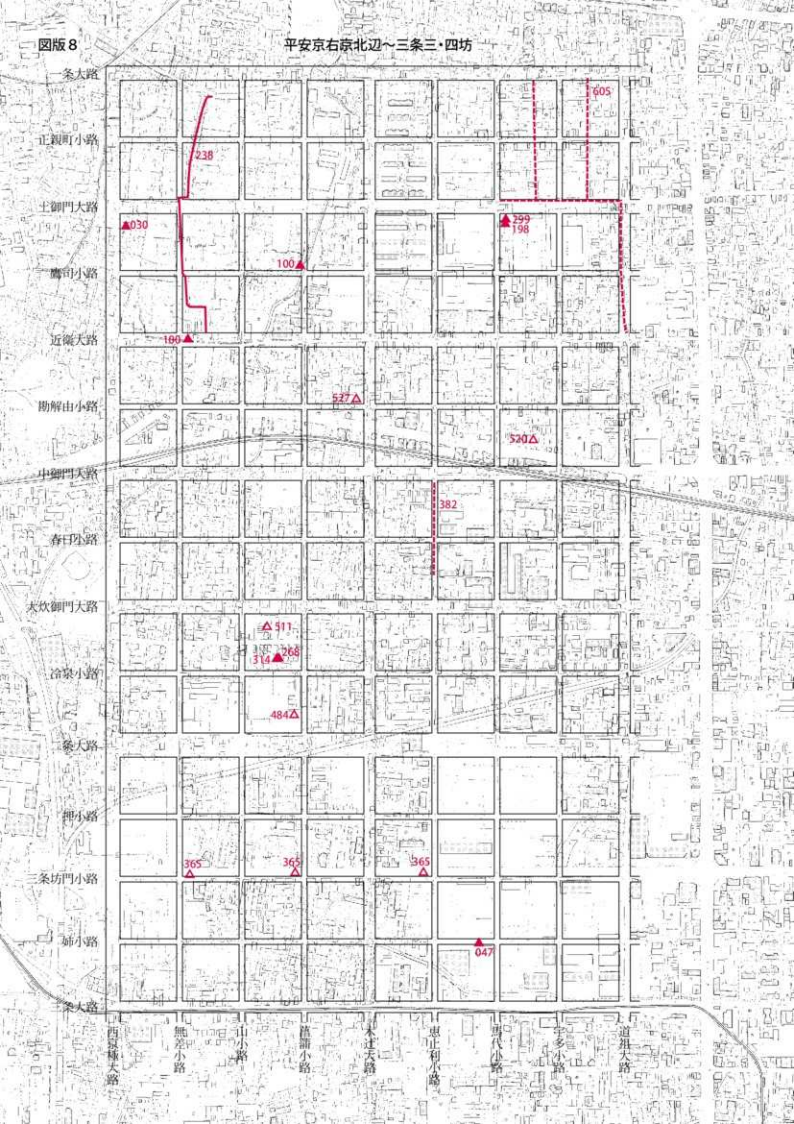
平安京左京七～九条一・二坊



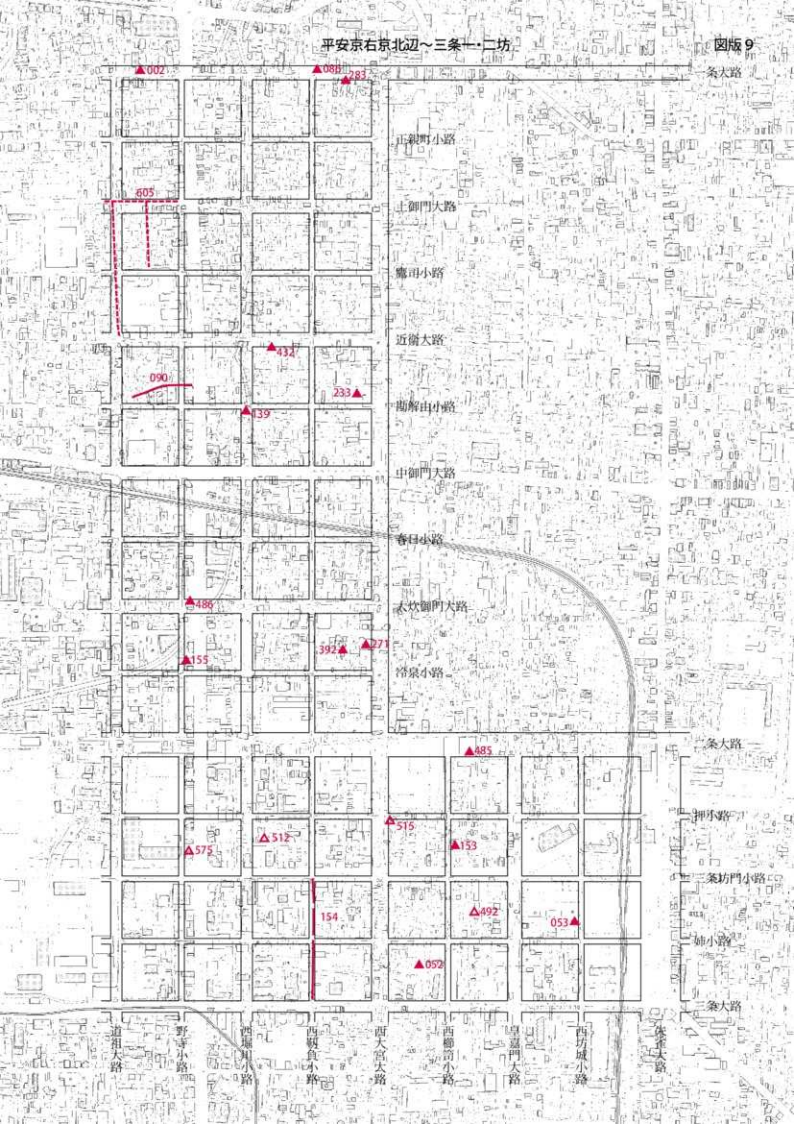

六条大路
左女牛小路
七条坊門小路
北小路
七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
西洞院大路
町尻小路
室町小路
烏丸小路
東洞院大路
高倉小路
万里小路
富小路
東京極大路
471
092
355
408
374
337
583
229
476
073
295
073
416
068
258
485
609
045
357
035

図版 8

平安京右京北辺～三条三・四坊

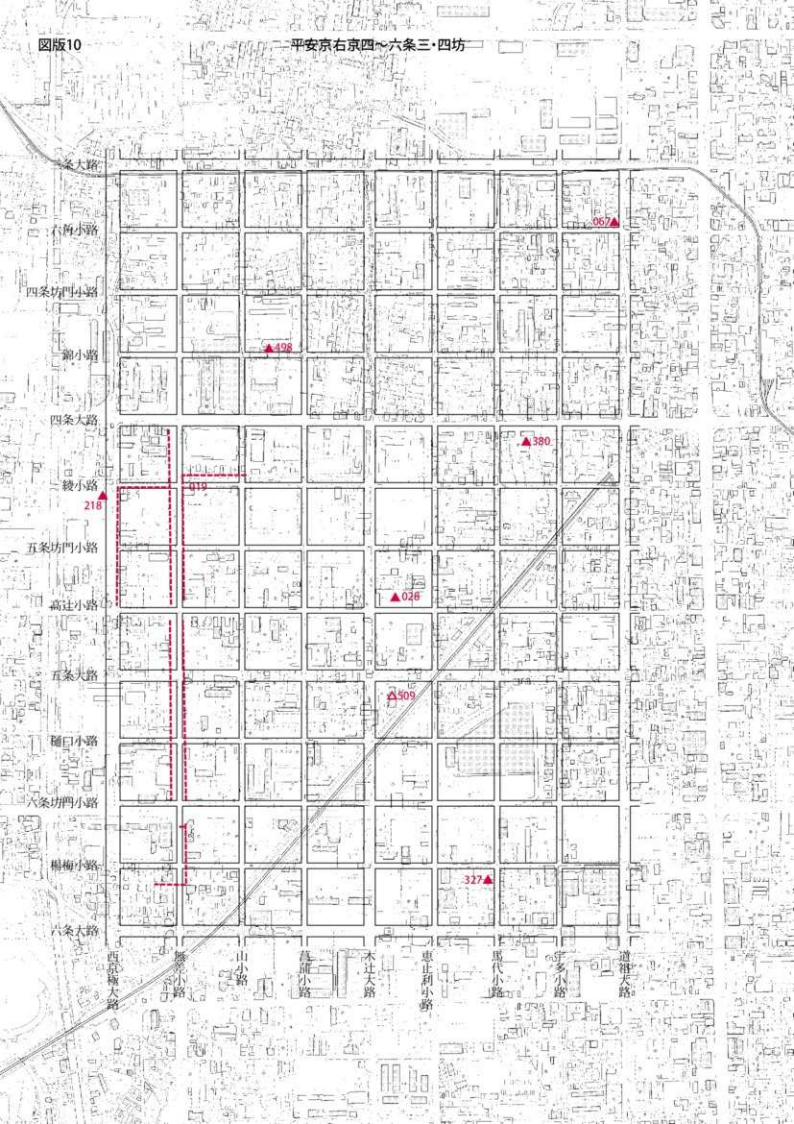


平安京右京北辺～三条一・二坊　図版9

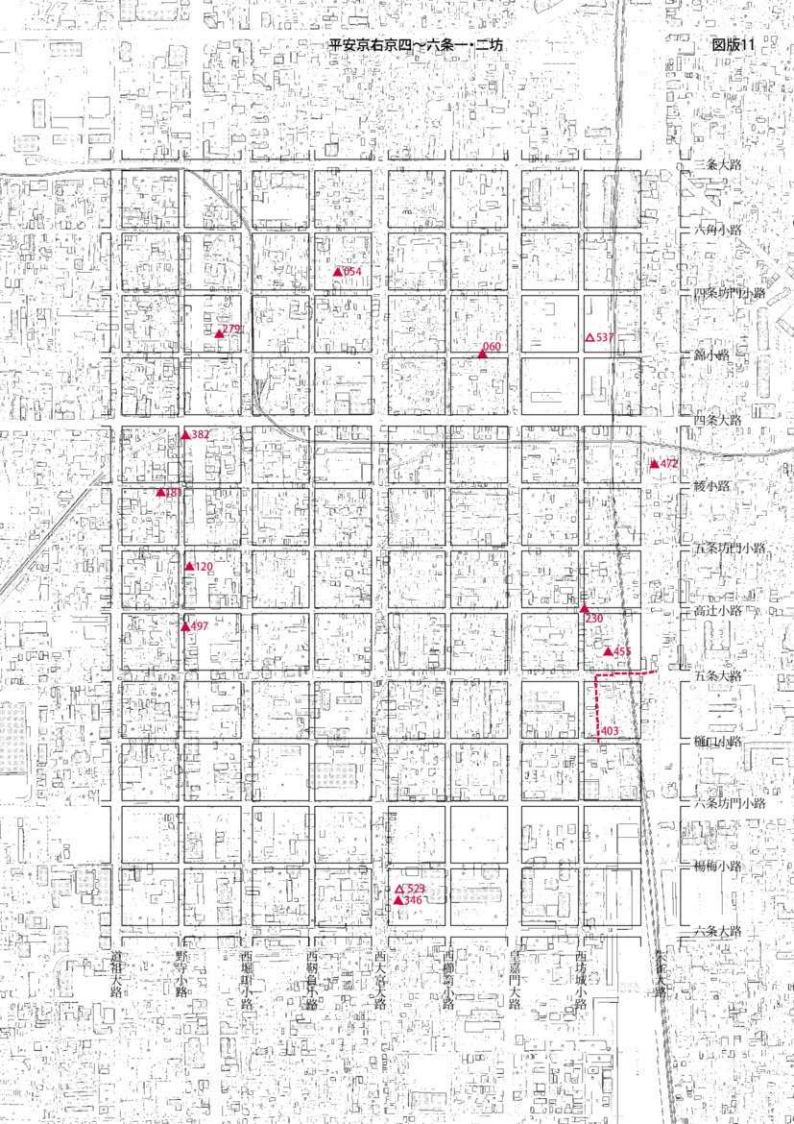


図版10

平安京右京四～六条三・四坊



平安京右京四～六条一・二坊

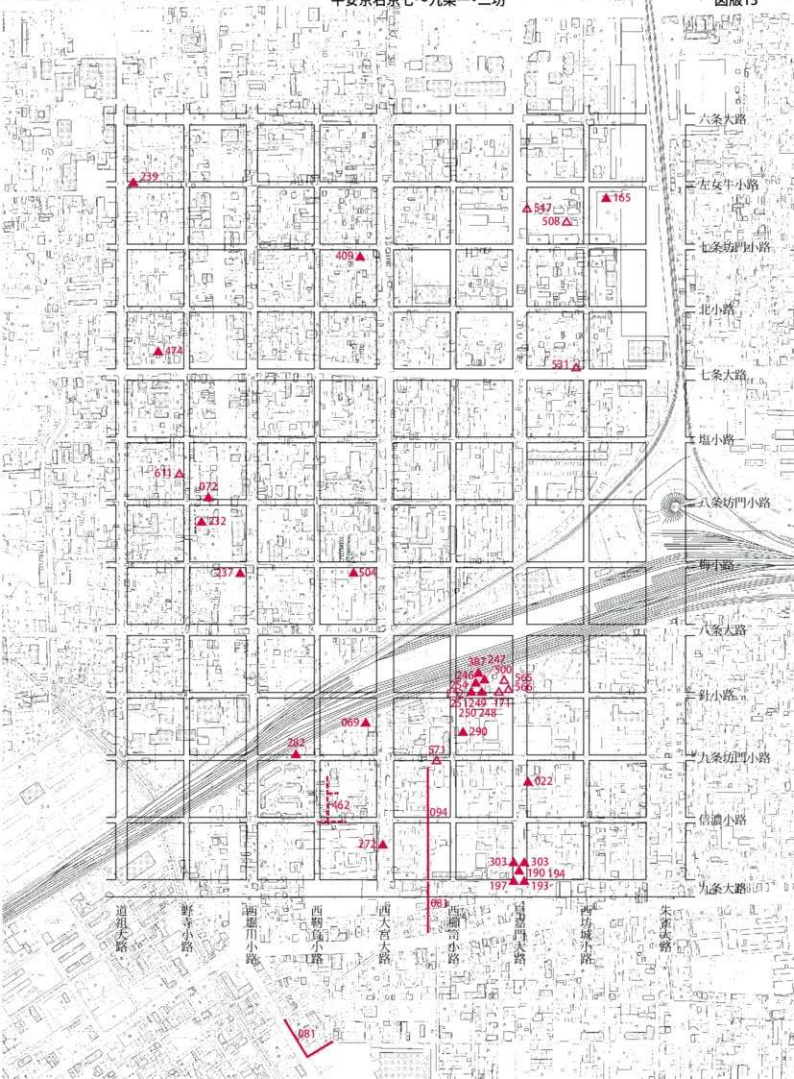


図版12

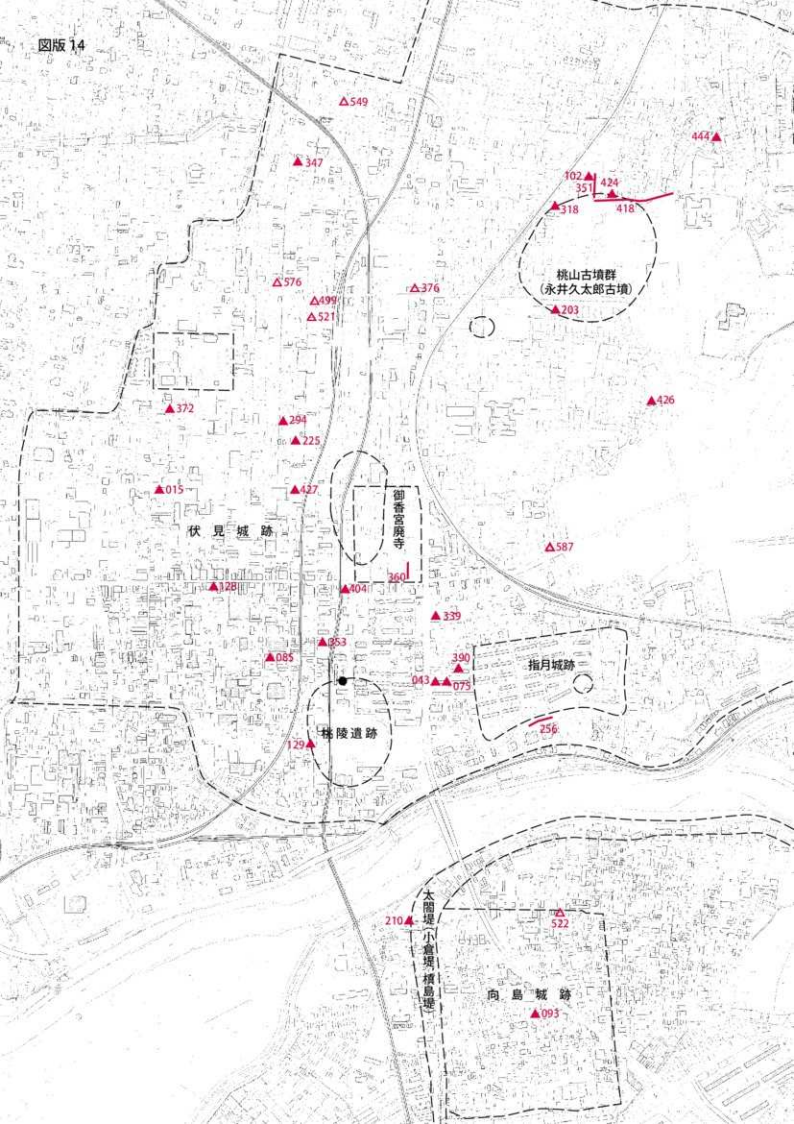
平安京右京七～九条三・四坊

平安京右京七～九条一・二坊

図版13



図版 14

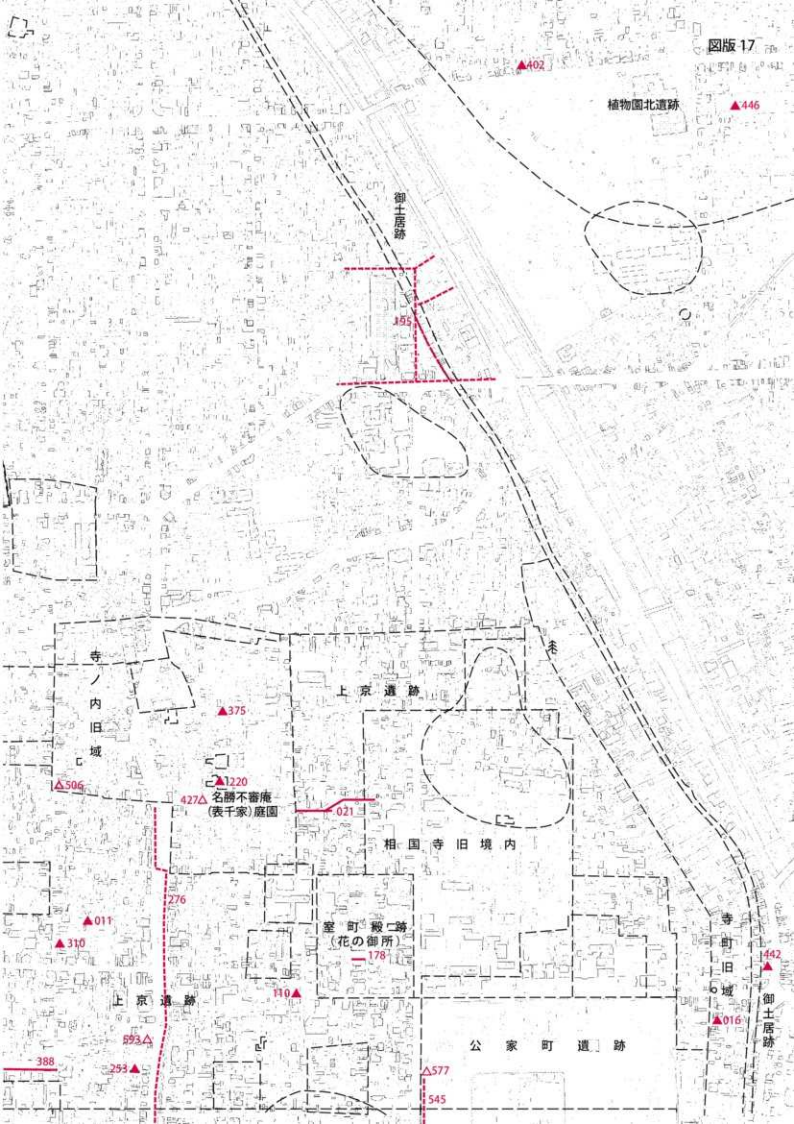

549
347
444
102
351
424
318
418
桃山古墳群
（永井久太郎古墳）
203
576
499
521
376
426
372
294
225
015
437
御香宮廃寺
伏見城跡
587
128
404
260
339
053
085
390
043
075
指月城跡
256
林陵遺跡
129
太閤堤
小倉堤
槙島堤
210
522
向島城跡
093

444
102
351
424
318
418
桃山古墳群
(永井久太郎古墳)
203
426
伏見城跡
493
157
157
587
897
091
256
522
093
向島城跡

図版 16

大徳寺旧境内
503
史跡大徳寺境内
383
384
504
413
592
255
特別史跡・特別名勝
鹿苑寺（金閣寺）庭園
御土居跡
039
040
041
寺ノ内旧域
506
大報恩寺境内
288
026
尊重寺跡
431
494
世尊寺跡
上京遺跡
011
310
145
北野天満宮境内
北野遺跡
北野廃寺跡
065
603
475
338
388
3

図版 17


402
植物園北遺跡
446
御土居跡
155
寺ノ内旧域
上京遺跡
375
506
1220
427
名勝不審庵
(表千家)庭園
021
相国寺旧境内
276
011
310
室町殿二跡
(花の御所)
178
寺町旧域
442
御土居跡
016
上京遺跡
110
593
388
253
公家町遺跡
577
545

図版 18

501
鼓塚古墳

巡礼塚古墳

407

1

004

長岡京跡

131

上里遺跡

131

2

132

568△

上久世遺跡

568

568△

上久世城跡

146 145
046

169 170
171
606

△548

419

中久世遺跡

095

大藪遺跡

254 260

373

447

東院跡

365

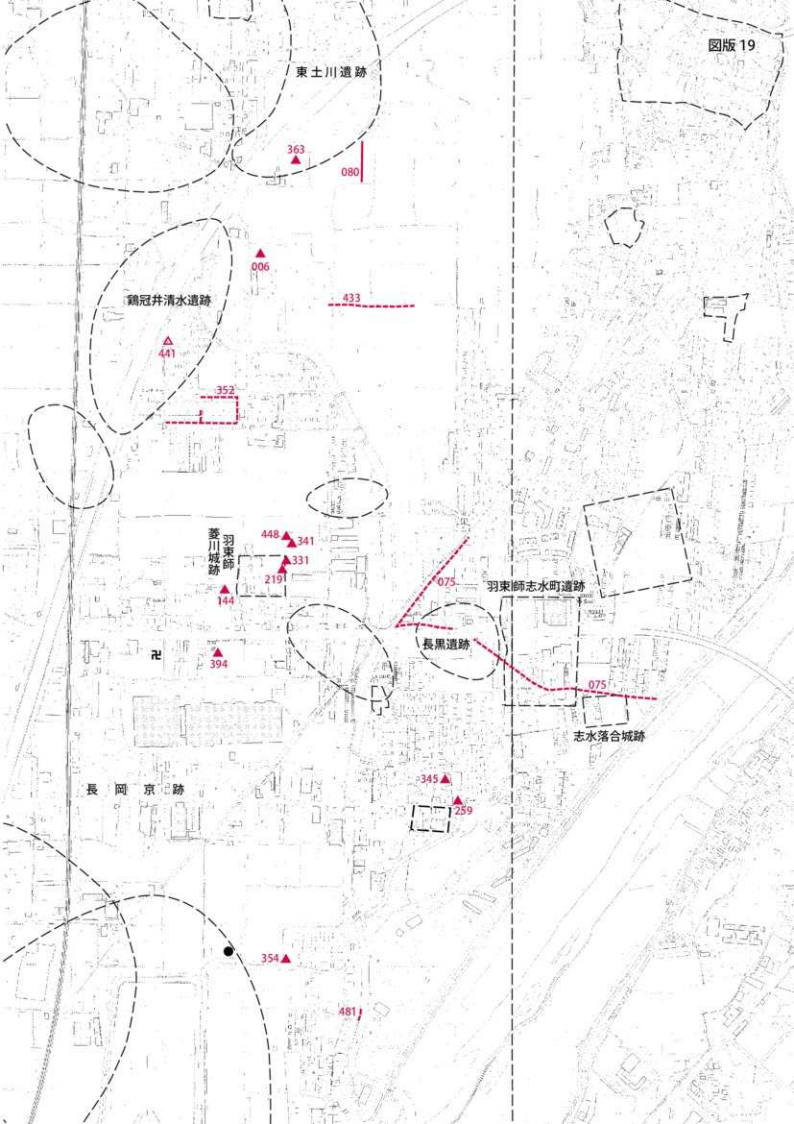
長岡京跡

024
023

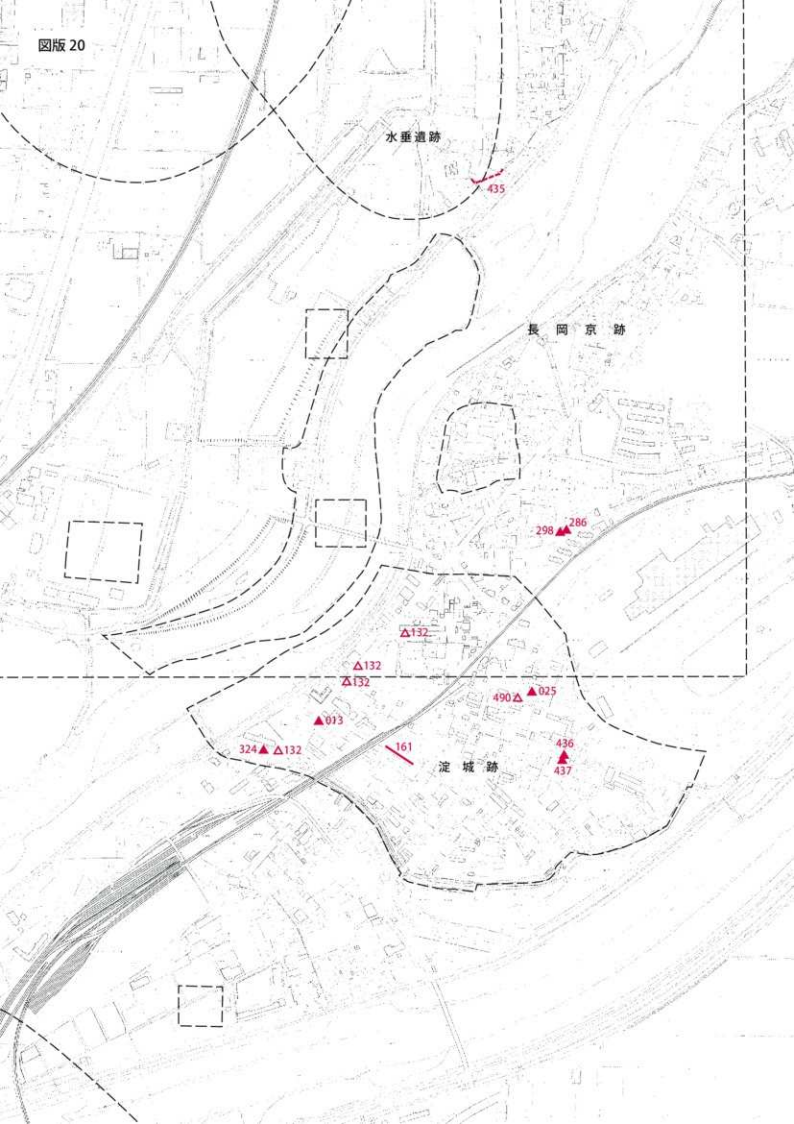
211

3

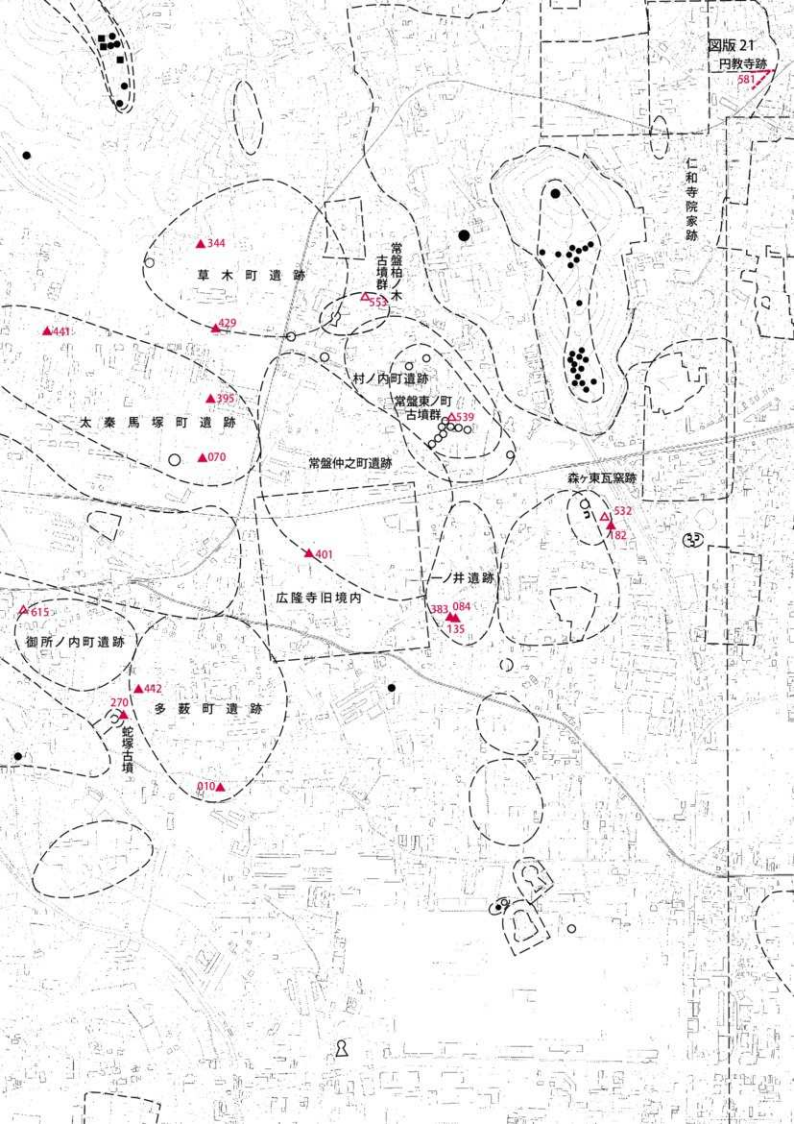
図版 19


東土川遺跡
363
080
006
鶏冠井清水遺跡
433
441
352
448
341
331
219
144
羽束師菱川城跡
075
羽束師志水町遺跡
長黒遺跡
394
075
志水落合城跡
長岡京跡
345
259
354
481

図版 20


水垂遺跡
435
長岡京跡
298
286
△132
△132
△132
490△
▲025
▲013
324▲
△132
161
淀城跡
436
437

図版 21


円教寺跡
581
仁和寺院家跡
344
草木町遺跡
常盤柏ノ木古墳群
553
441
429
村ノ内町遺跡
常盤東ノ町古墳群
539
395
太秦馬塚町遺跡
070
常盤仲之町遺跡
森ヶ東瓦窯跡
532
182
401
一ノ井遺跡
広隆寺旧境内
383
084
135
615
御所ノ内町遺跡
442
270
多薮町遺跡
蛇塚古墳
010

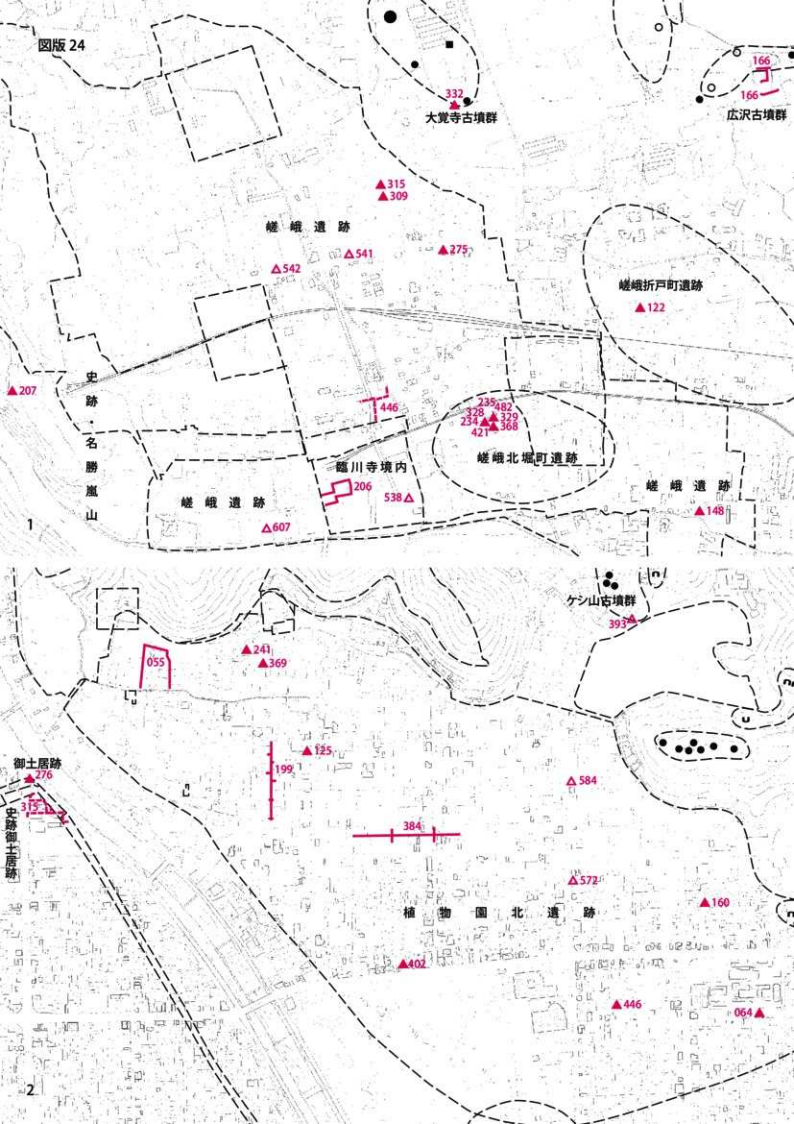
図版 22

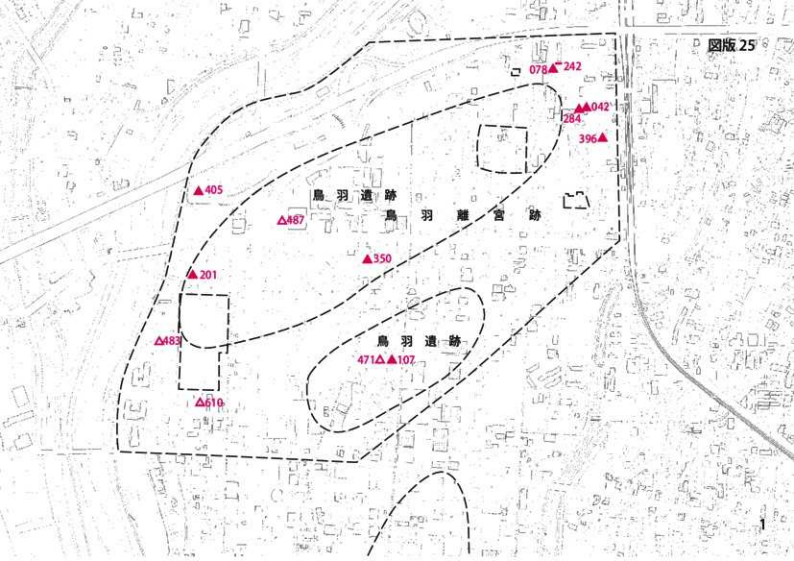
296
北白川追分町遺跡
北白川追分町縄文遺跡
305
池田町古墳群
吉田泉殿町遺跡
435
吉田本町遺跡
491
吉田上大路町遺跡
白河街区跡
名勝平安神宮神苑
399
109
得長寿院跡
214
317
280
400
法勝寺跡
117
448
456
316
558
594
431
岡崎遺跡
112
167
史跡南禅寺境内
167
167
史跡琵琶湖疏水

図版 23

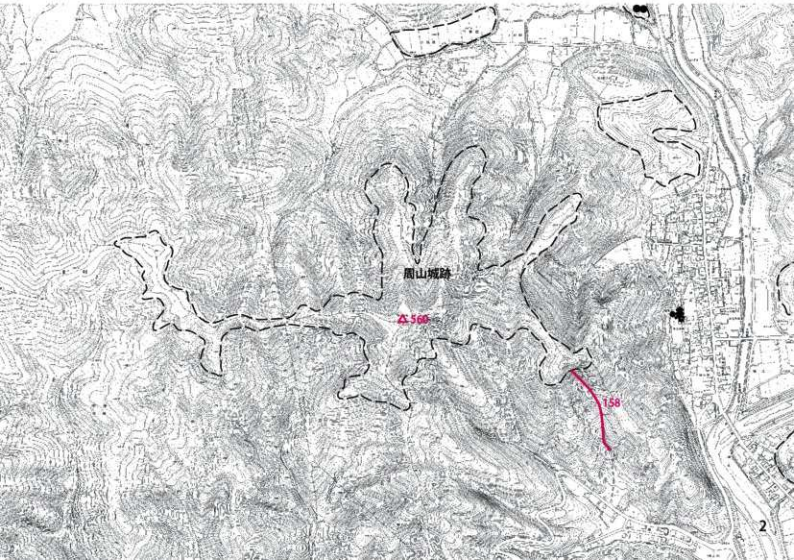
高台寺境内
(雲居寺跡)
034
法輪寺旧境内
466
370
六波羅蜜寺境内
130
六 波 羅 政 庁 跡
131
014
方広寺跡
鳥 部(辺)野
118
469
祥雲寺跡
法 住 寺 殿 跡
358
115
516
法 性 寺 跡

図版 24


332
大覚寺古墳群
166
166
広沢古墳群
315
309
嵯峨遺跡
541
275
542
嵯峨折戸町遺跡
122
207
史跡・名勝嵐山
446
235
482
328
329
234
368
421
嵯峨北堀町遺跡
臨川寺境内
206
538
嵯峨遺跡
607
嵯峨遺跡
148
1
ケシ山古墳群
393
055
241
369
125
199
御土居跡
276
315
史跡御土居跡
584
384
572
植物園北遺跡
160
402
446
064
2


078▲ 242
▲042
284
396▲
▲405
鳥羽遺跡
鳥羽離宮跡
△487
▲350
▲201
△483
鳥羽遺跡
471△▲107
△610

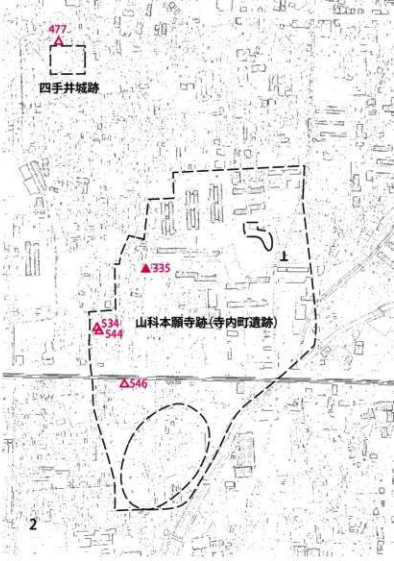
1

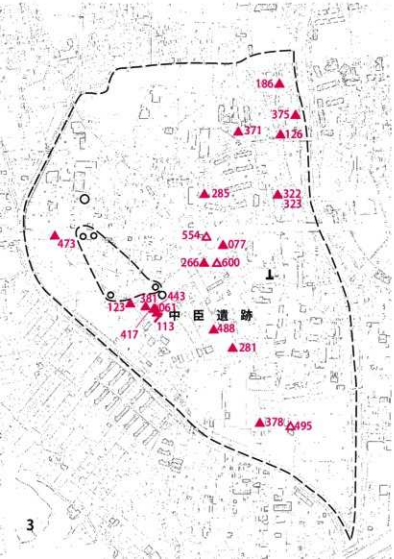

周山城跡
△560
158

2

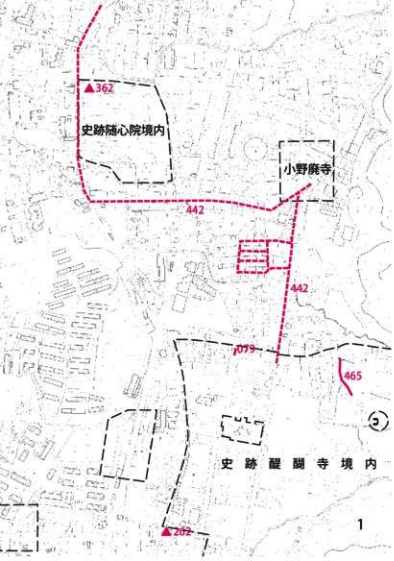
図版 26

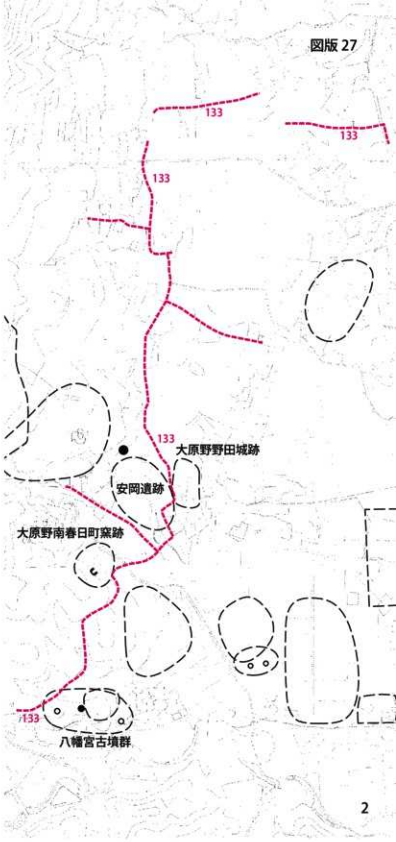
227
寺町旧城
601
254
御土居跡
隣接地(舟入跡)
003
1

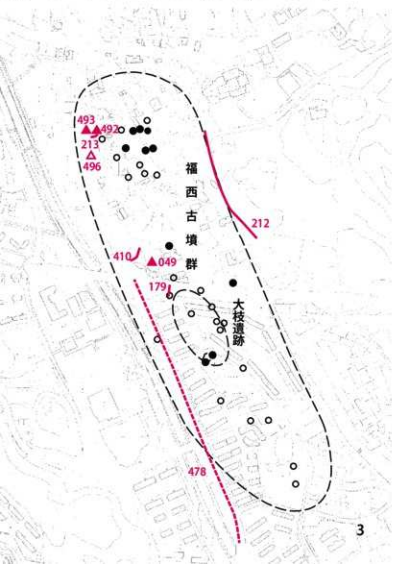

477
四手井城跡
335
534
544
山科本願寺跡(寺内町遺跡)
546
2

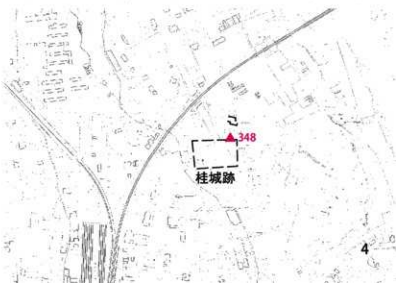

186
375
126
371
285
322
323
473
554
077
266
600
443
123
367
406
113
417
中臣遺跡
488
281
378
495
3

法性寺跡
201
469
伏見稲荷大社境内
稲荷山古墳群
127
549
4


▲362
史跡随心院境内
小野廃寺
442
442
079
465
史跡醍醐寺境内
▲202
1


133
133
133
133
大原野野田城跡
安岡遺跡
大原野南春日町窯跡
133
八幡宮古墳群
2


493
▲492
213
496
福西古墳群
212
410
▲049
179
大枝遺跡
478
3


▲348
桂城跡
4

図版 28

史跡高山寺境内
543
1

平岡八幡宮窯跡
464
2

411
史 跡 ・ 名 勝 嵐 山
3

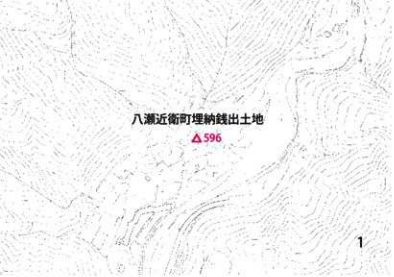
330
330
330
梅宮大社
4

597
史跡岩倉具視幽棲旧宅
大雲院跡
5

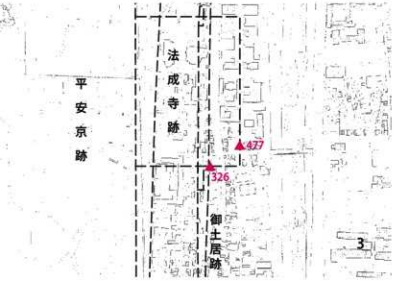
200
岩倉忠在地遺跡
6

475
下鴨城跡
7

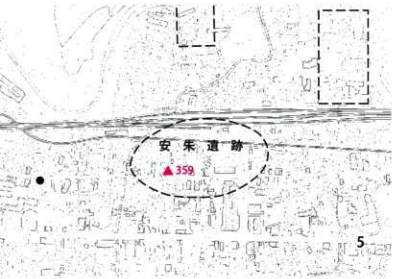
八幡古墳群
一条山遺跡
349
533
妙満寺窯跡
599
本山古墳群
557
8


八瀬近衛町埋納銭出土地
△596
1

浄土寺七廻り町遺跡
△238
2

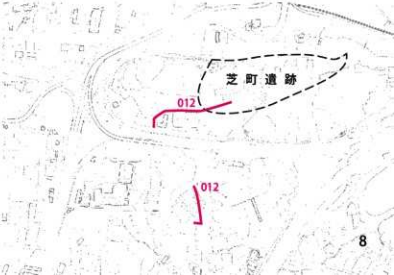

平安京跡
法成寺跡
▲427
▲326
御土居跡
3

天智天皇陵付近
須恵器窯跡
514△
▲300
牛尾須恵器窯跡
4

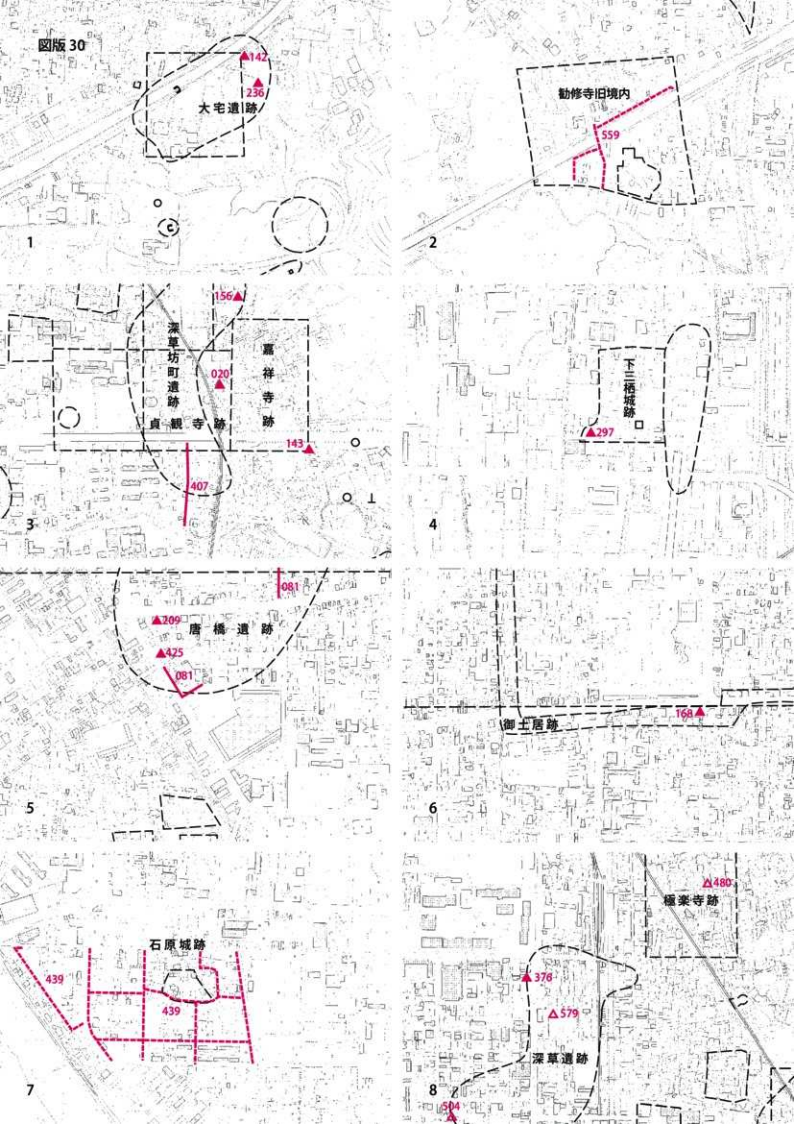

安朱遺跡
▲359
5

△563
旧琵琶湖疏水
6

山科本願寺南殿跡
▲027
▲277
056
▲065
△404
7

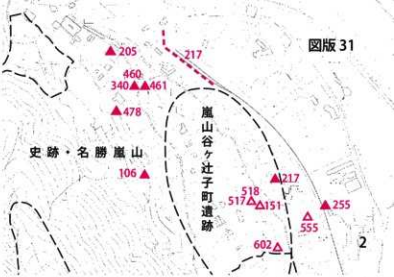

芝町遺跡
012
012
8

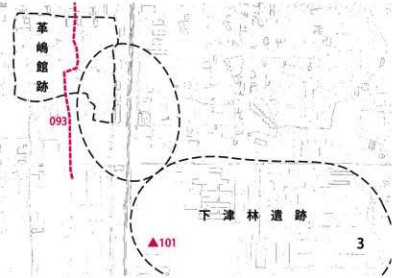
図版 30


142
236
大宅遺跡
1
勧修寺旧境内
559
2
156
深草坊町遺跡
020
貞観寺跡
嘉祥寺跡
143
407
3
下三栖城跡
297
4
081
209
唐橋遺跡
425
081
5
御土居跡
168
6
石原城跡
439
439
7
480
極楽寺跡
376
579
深草遺跡
504
8

図版 31

下鳥羽遺跡
540
130
芹川城跡
1


205
217
460
340
461
478
嵐山谷ヶ辻子町遺跡
史跡・名勝嵐山
106
217
518
517
151
255
555
602
2


革嶋館跡
093
下津林遺跡
101
3

樫原遺跡
樫原廃寺瓦窯跡
083
083
083
4

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷぶこく　へいせいにじゅうくねんど
書名	京都市内遺跡詳細分布報告　平成 29 年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・熊谷舞子・新田和央・黒須亜希子・清水早織
編集機関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所在地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町 394　Y・J・K ビル 2 階
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地
発行年月日	西暦 2018 年（平成 30 年）3 月 30 日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安京左京三条三坊十三町跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区東洞院通三条上る蛤御門前町 448,449,450, 姉小路通東洞院西入車屋町 267-2	26100	1464	35 度 00 分 34 秒	135 度 54 分 39 秒	2017/6/13 ～7/3		店舗付き共同住宅兼事務所建設
平安京左京五条四坊一町跡・烏丸綾小路遺跡	京都市中京区高倉通四条下る高材木町 225,225-3	26100	1712	35 度 00 分 09 秒	135 度 45 分 44 秒	2017/5/12 ～5/19		ホテル建設
平安京左京七条一坊一町跡	京都市下京区西新屋敷下之町 20,20-1,20-2,20-3,22-1	26100	1	34 度 59 分 35 秒	135 度 44 分 36 秒	2017/10/24 ～11/6		ホテル建設
平安京左京七条一坊六町跡・東市跡・名勝滴翠園・史跡本願寺境内	京都市下京区花屋町下る本願寺門前町 60	26100	1718 A702 A705	34 度 59 分 25 秒	135 度 45 分 07 秒	2017/2/06 ～2/15		水路浚渫

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京三条三坊十三町跡・烏丸御池遺跡	都城跡 集落跡	室町時代	堀 路面 側溝	土師器，輸入陶磁器，瓦	東洞院大路路面と西側溝を確認。
平安京左京五条四坊一町跡・烏丸綾小路遺跡	都城跡 集落跡	鎌倉時代 室町時代	土坑	土師器，瓦器，輸入青磁，白磁，焼締陶器，銅製煙管	完形の土師器皿等を含む土坑を複数基確認。
平安京左京七条一坊一町跡	都城跡	鎌倉時代	溝	土師器	区画溝を検出。
平安京左京七条二坊六町跡・東市跡・名勝滴翠園・史跡本願寺境内	都城跡 市場跡 名勝 史跡	江戸時代	池，溝	土師器，陶磁器	樋門及び西池を調査。

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷほうこく　へいせいにじゅうくねんど
書名	京都市内遺跡詳細分布報告　平成29年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・熊谷舞子・新田和央・黒須亜希子・清水早織
編集機関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所在地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394　Y・J・Kビル2階
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2018年（平成30年）3月30日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安京左京八条四坊三町跡・御土居跡	京都市下京区東洞院通七条下る東塩小路町 847,570-1,680,941	26100	1 149	34度 59分 12秒	135度 45分 42秒	2017/5/17 ～6/05		ホテル建設
平安京右京三条一坊十五町跡	京都市中京区西ノ京船塚町10-1	26100	1	35度 00分 42秒	135度 44分 10秒	2017/2/6 ～2/10		事務所建設
平安京右京三条二坊十町跡・西ノ京遺跡	京都市中京区西ノ京東中合町46	26100	1 461	35度 00分 40秒	135度 43分 53秒	2017/3/9		店舗建設
平安京右京七条一坊七町跡	京都市下京区朱雀分木町60	26100	1	34度 59分 32秒	135度 44分 22秒	2017/2/24 ～3/13		市場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京八条四坊三町跡・御土居跡	都城跡 土塁跡	平安時代	溝	土師器，瓦	八条坊門小路南側溝（内溝？）を確認。
平安京右京三条一坊十五町跡	都城跡	平安時代	溝，ピット	土師器，須恵器，黒色土器，灰釉陶器	西大宮大路東側内溝を確認。
平安京右京三条二坊十町跡・西ノ京遺跡	都城跡 散布地	中世	溝	土師器，緑釉陶器	野寺小路東側溝を確認。
平安京右京七条一坊七町跡	都城跡	平安時代	溝	瓦	皇嘉門大路東築地内溝を確認。

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷほうこく　へいせいにじゅうくねんど
書名	京都市内遺跡詳細分布報告　平成29年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・熊谷舞子・新田和央・黒須亜希子・清水早織
編集機関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所在地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394　Y・J・Kビル2階
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2018年（平成30年）3月30日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
八幡古墳群	京都市左京区岩倉幡枝町585-6	26100	367	35度04分03秒	135度46分17秒	2017/2/17～2/20		保育所建設
史跡岩倉具視幽棲旧宅・大雲寺跡	京都市左京区岩倉上蔵町100	26100	A306	35度04分41秒	135度46分58秒	2017/3/15～3/31		苑池浚渫
浄土寺七廻り町遺跡	京都市左京区浄土寺七廻り町	26100	421	35度01分32秒	135 語48分18秒	2016/8/16～2017/11/24		不時発見

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八幡古墳群	古墳群	古墳時代	古墳（墳丘）	須恵器	墳丘を確認。
史跡岩倉具視幽棲旧宅・大雲寺跡	史跡 寺院跡	近世・近代	泥留め	陶磁器	苑池内より泥溜めとみられる木枠の構造物を発見。
浄土寺七廻り町遺跡	寺院跡	平安時代	平坦地	土師器，須恵器，瓦	遺物を採集し，縄張図を作成。

報 告 書 抄 録

ふ り が な	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷほうこく　へいせいにじゅうくねんど
書　　名	京都市内遺跡詳細分布報告　平成29年度
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	馬瀬智光・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・熊谷舞子・新田和央・黒須亜希子・清水早織
編 集 機 関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所　在　地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394　Y・J・Kビル2階
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発 行 年 月 日	西暦2018年（平成30年）3月30日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
法観寺旧境内	東山区八坂通下河原東入八坂上町385の一部，385-1の一部	26100	532	34度59分53秒	135度46分44秒	2016/12/21～2017/4/16		店舗建設
旧琵琶湖疏水	京都市山科区四ノ宮柳山町地先	26100		34度59分40秒	135度49分34秒	2017/3/1～5/2		公衆便所建設
伏見城跡	京都市伏見区桃山町泰長老176-5	26100	1174	34度55分50秒	135度46分08秒	2017/5/19～5/23		特別養護老人ホーム建設
伏見城跡・指月城跡	京都市伏見区桃山町泰長老（桃山国有林）	26100	1174	34度55分46秒	135度46分16秒	2017/8/18～10/26		災害復旧工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
法観寺旧境内	寺院跡	奈良時代～平安時代	造成土，落込み	土師器，須恵器，緑釉陶器，黒色土器，瓦	
旧琵琶湖疏水		近代	疏水		付け替えに伴い，埋められた疏水旧路を確認。
伏見城跡	城跡	安土桃山時代	石垣，裏込め	瓦	
伏見城跡・指月城跡	城跡	安土桃山時代	石垣，造成土，裏込め		

報 告 書 抄 録

ふ り が な	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷほうこく　へいせいにじゅうくねんど
書　　名	京都市内遺跡詳細分布報告　平成 29 年度
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	馬瀬智光・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・熊井亮介・熊谷舞子・新田和央・黒須亜希子・清水早織
編 集 機 関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所　在　地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町 394　Y・J・K ビル 2 階
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地
発 行 年 月 日	西暦 2018 年（平成 30 年）3 月 30 日

所収遺跡名（しゅうだいいせきめい）	所在地（ところざいち）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
周山城跡（しゅうざんじょうあと）	京都市右京区京北周山（きょうとしうきょうくけいほくしゅうざん）	26100	2088	35 度 09 分 24 秒	135 度 37 分 22 秒	2017/2/28 ～12/28		林道造成
八瀬近衛町出土銭（やせこのえちょうしゅつどせん）	京都市左京区八瀬近衛町（きょうとしさきょうくやせこのえちょう）	26100		35 度 04 分 28 秒	135 度 48 分 45 秒	2016/10/26 ～ 2017/4/4		不時発見

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
周山城跡	城跡	安土桃山時代	天守台，石垣，郭，堀切，虎口	瓦	明智光秀築城の山城（石垣多用）を踏査。赤色レーザー測量を実施。
八瀬近衛町出土銭	中世			陶器，古銭	戦時中に発見された中世前期埋納銭を調査。

京都市内遺跡詳細分布調査報告
平成２９年度

発行日　２０１８年3月３０日
発　行　京都市文化市民局
編　集　京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
住　所　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町３９４
Y・J・Kビル２階
TEL.（０７５）３６６－１４９８
印　刷　株式会社　ダイ
京都市中京区三条通新町西入釜座町 22
ストークビル三条烏丸４階
TEL.（０７５）２５４－０６４６